

岐阜市民病院年報

第44号



2024



岐阜市民病院

Annual of Gifu
Municipal Hospital
No.44

2024

Gifu Municipal Hospital
7-1 Kashimacho, Gifu 500-8513, Japan

岐阜市民病院の理念

心にひびく医療の実践

基本方針

- 1 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
- 1 安全で信頼されるチーム医療を行います。
- 1 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
- 1 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
- 1 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。
- 1 病院の理念を理解し、専門性を持った人材を育成します。

序 文

岐阜市民病院長 山 田 誠



令和6年度は、医療を取り巻く環境が大きく変わり、全国的に病院の経営状態が急速に悪化した年でありました。全国自治体病院協議会の調査によれば、公立病院の86%、特に400床以上の病院では94%が経常赤字という極めて厳しい状況にあり、当院においても例外なく大変厳しい決算結果となりました。

こうした中、ようやく「岐阜市民病院年報 第44号」を皆様にお届けする運びとなりました。諸般の事情により1年遅れの発刊となりましたこと、深くお詫び申し上げます。厳しい経営状況下ではございますが、令和6年の当院の足跡を皆様のご高覧に供することができますのは、ひとえに平素からの温かいご支援とご高配の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

令和6年を振り返りますと、4月には5年間の猶予期間を経て、医師の時間外労働上限規制が開始されました。当院では3年前より、勤怠管理システムの整備、タスクシフト・シェアの推進、ICT導入などの準備を進めてまいりました。その結果、大きな混乱なく運用を開始することができ、現在も医師のみならず全職員が一体となって「働き方改革」の継続的な取り組みを推進しております。

また、6月には診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の3つが同時に改定される、6年に1度の「トリプル改定」が行われました。

しかしながら、物価高騰等に対する病院への支援は十分とは言えず、経営をさらに圧迫する要因となりました。加えて、令和6年12月には健康保険証の新規発行が停止され、「マイナ保険証」への移行が本格化するなど、医療を取り巻く社会システムも大きな転換期を迎えています。院内においては、4月に「患者総合案内」を立ち上げ、外来受診される方や来院者の方々へのサービス向上を図っております。さらに、英語や中国語に対応可能なスタッフを配置し、日本語によるコミュニケーションに不安をお持ちの外国人患者さんにも安心して受診いただける体制を整えました。

設備面では、10月に「320列マルチスライスCT」を更新いたしました。従来機に比べ撮影時間が大幅に短縮され、被曝（ひばく）量や造影剤の使用量を低減できる、患者さんに優しい検査が可能となりました。また、AI技術を用いた画像再構成により、診断性能も格段に向上しております。

今後も地域に根ざした高度急性期病院として、社会情勢や医療環境の変化に柔軟に対応し、持続可能な医療を提供できるよう経営改善に努めてまいります。同時に、医療の質の向上を目指し、職員一丸となって邁進（まいしん）する所存です。

最後になりましたが、本年報をご高覧いただき、忌憚なきご意見やご批評を賜れば幸甚に存じます。引き続き、皆様方のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目 次

活動報告

糖尿病・内分泌内科	1
血液内科	2
外科	5
整形外科	8
小児科	8
リハビリテーション科	9
眼科	10
麻酔科・集中治療部	10
看護部	10
臨床工学部	12
認知症疾患医療センター	13
地域連携部	15

学会発表抄録

臨床工学部	22
-------	----

活動記録（講演・学会発表等）

糖尿病・内分泌内科	23
消化器内科・血液内科	23
呼吸器内科	43
腎臓内科	44
乳腺外科	47
整形外科	47
形成外科	49
リハビリテーション科	50
小児科	50
眼科	53
皮膚科	53
麻酔科・集中治療部	55
病理診断科	55
看護部	55

薬剤部	56
中央検査部	57
中央放射線部	57
臨床工学部	58
地域連携部	58

活動記録(誌上)

腎臓内科／腎臓病・血液浄化センター	59
乳腺外科	59
小児科	59
皮膚科	60
病理診断科	61
薬剤部	65

病院統計

腎臓内科	67
消化器病センター	69
リハビリテーション科	70
中央検査部	75
病理診断科	78
ゲノム医療センター	89
看護部	90
健康管理センター	91
中央放射線部	92
臨床工学部	101
薬剤部	105
地域連携部	112
患者総合支援センター	119
看護専門学校	122
医療安全推進室	125
診療情報管理室	128

投稿規定	132
------	-----

活動報告

糖尿病・内分泌内科

ご挨拶

2022年4月に岐阜市民病院 糖尿病・内分泌内科に赴任させて頂き、2年が過ぎました。目まぐるしい環境変化に変わらず戸惑い続けていますが、所属の諸先生方のお力添えとともに、少しずつ歩を進めています。

糖尿病診療については、当院の糖尿病療養指導委員会の皆様の御協力の下、各部署、病棟で共通して使用できるマニュアルを作成しました。各医療スタッフ等に使用して頂き、改良を重ねていきたいと考えています。院内糖尿病教室については、各部署の御協力の下に段階的に再開をするとともに、11月の世界糖尿病デーに合わせて当院サルビアホールに於いて岐阜市民病院公開講座として開催することができ、丸山貴子先生より「糖尿病が治る？治らない？」の御演題でお話頂き、院内外より多くの方に足を運んで頂きました。今後は聴講だけでなく実際に参加、実践頂ける企画も考えて参ります。また、診療に携わって下さる各医療職だけでなく、広く病院職員に糖尿病・内分泌疾患や当科について知って頂くために院内ネットワーク上で“糖尿病（ダイアベティス）通信”を月1回のペースで配信を始めました。諸事、端緒についたばかりですが、より良い診療環境、初期研修医、専攻医の先生方に有意義な研修環境を構築、提供できるよう尽力して参ります。私事になりますが、2024年度より当院研修センター後期臨床研修室長、栄養管理室長、地域連携室長を拝命いたしました。併せて皆様のお役に立ちたいと存じます。

尾関咲耶子先生は、矢部大介教授が会長を務められました第23回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会において、演題発表をして頂きました。また、内科専攻医を修了され、内科専門医試験に合格をされました。新たな一步を踏み出し、縦横無尽に活躍されることを期待します。

2023年4月1日より野田かおる先生が松波総合病院より赴任されました。適切、適確に日々、診療をされています。後に続く専攻医の先生方の良きロールモデルになって頂きたく存じます。

昨年度、内分泌代謝・糖尿病領域専門医試験に合格をされました安田愛先生は、これまでより一

段階ステップアップした視点から当科で研修をされる初期研修医の先生方に指導をされており、内分泌代謝・糖尿病領域に関心を持ってもらえるよう尽力されています。

山川顕吾先生を中心に毎週火曜日、金曜日に全体カンファレンスを行っています。それぞれ主科、併診科で担当をしている症例を供覧、情報共有と検討、討議を通して担当医個人のみならず、診療科全体としての水準の向上を図っています。当科で研修をされる初期研修医の先生方においては指導医の先生方と共に担当された症例をプレゼンテーションすることを通して、多様な糖尿病・内分泌代謝疾患を診療する視点を養って頂けるよう配慮をしています。今後もこのような雰囲気の下、初期研修医、専攻医の先生方からより多く、第3内科の一員となって頂けるように環境整備を引き続き行っていきたいと考えております。

2023年度の当科診療実績ですが、外来患者数、紹介患者数に若干減少がみられましたが、入院患者数は昨年同様で多種多様な疾患患者さんを担当させて頂くことができました。外来、入院患者さんを問わず、データベースを作成、供覧することで日々の診療の水準向上に資させて頂いております。当科を信頼して診療を受けて下さる患者さん、御紹介頂きました各医療機関の諸先生方、平素より御指導を頂きました矢部大介教授を始め大学医局の先生方、同門会の諸先生方、関係各位様に重ねて御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御指導を賜りたく存じます。

2024年2月末日まで、矢部大介教授におかれましては、毎週火曜日の外来診療にお越し頂き、診療後に初期研修医、専攻医の先生方へレクチャーを行って頂きました。これまでの御高配に感謝申し上げます。

3月からは丸山貴子先生と私でレクチャーを担当しております。昨年度の年報報告の末尾と重なりますが、矢部大介教授をはじめ皆様の御尽力、御高配による大変恵まれた環境を損なうことなく、より充実、発展させ、初期研修医、専攻医の先生方を始め、当科に在籍をされた方々が勉学、働き甲斐のある診療科、学生の方々に魅力を感じてもらえる診療科を丸山貴子先生、所属の先生方とともに形作っていく所存です。大学医局、関連病院、同門会の諸先生方におかれましては、今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

岐阜市民病院 糖尿病・内分泌内科

部長 黒田英嗣

スタッフ、専攻医の一覧 (2023年度)

総合内科部長/健康管理センター長
丸山 貴子 [1993年卒]

糖尿病・内分泌内科
部長 黒田 英嗣 [1998年卒]
医長 山川 顕吾 [2013年卒]
医員 安田 愛 [2016年卒]

2023年4月1日 松波総合病院から異動
野田かおる [2018年卒]
尾関咲耶子 [2019年卒]

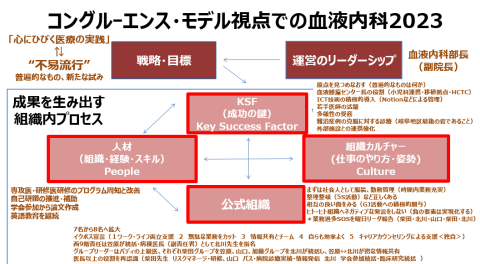
対象疾患の入院患者数・外来症例数 (2023年度)

	外来 (延べ人数)	入院 (実人数)	紹介患者数	1型糖尿病
患者数	12,222	238	199	12
	2型糖尿病	その他の糖尿病・ 低血糖	その他の 代謝異常	視床下部・ 下垂体
患者数	119	4	10	5
	甲状腺	副甲状腺・ カルシウム代謝	副腎	性腺・ その他
患者数	5	2	4	0
	電解質異常	関節リウマチ・ 類縁疾患	全身性 膠原病疾患	腎・尿路 感染症
患者数	19	1	0	1
	呼吸器 感染症	その他		
患者数	30	26		

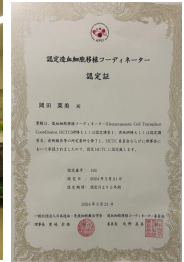
血液内科

2023年度初め、新たな仲間として専攻医として渡部大輝先生（当院初期研修から）、岡本大典先生（中濃厚生病院初期研修から）、また藤田医科大学から専攻医として加藤駿晴先生に加わっていただきました。

2023年は、血液内科としてめざす姿を「不易流行」とし、これまでと変わらず患者さんのために心にひびく医療を続けながら、変化する時代に合わせて自分達をアップデートしていくことを確かめました。



西9階病棟はクリーン室が16床フル稼働し、移植医療を含め難治血液疾患に対応してきましたが、認定HCTCを取得された看護師が退職となったため、新たな認定HCTC育成・確保が急務となりました。事務職として西9階に勤務されている岡田菜美さんにHCTC研修など受講いただいていたが、2023年度に認定HCTC試験を受験いただき見事に合格されたことは、我々にとって大きな朗報でした。



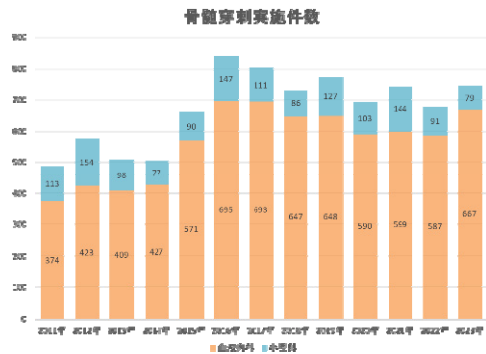
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
移植後フォローアップ 外来受診患者数	65	57	35	33	54	26

血液内科移植後フォローアップ外来受診患者数推移

一方、アフレーシスナースが不在となっておりその養成が課題となっています。しかし、臨床工学室スタッフのご協力により、術前訪問など含めた質の高い末梢血幹細胞採取業務を継続できています。検査部門では、2023年は667件（血液内科）の骨髄穿刺業務補助をいただき、フローサイトメーターによる迅速な幹細胞数測定にご対応いただいております。



血液内科医師チーム



当院における骨髄穿刺件数推移

輸血部門では、造血幹細胞管理に加え、移植当日の幹細胞出庫及び搬送まで実務をお願いしており、安全な移植実施体制に大きく貢献いただいております。

その他、栄養士さんには定期NSTカンファ、放射線部門では移植前処置時全身放射線照射調整および実施、緩和ケア部門による患者・家族支援、口腔外科部門による感染制御のための口腔粘膜障害予防介入、地域連携部には定期カンファ、退院調整会議開催などを実施いただいております。さらに事務部門含めた様々な方々と連携しつつ、難治疾患に対する造血幹細胞移植症例に対して移植カンファレンス開催しながら個々の患者さん治療を綿密に計画していますが、システムティックになった分、担当医療者が個々の患者全体像の把握が難しくなっていることなど新たな課題はあり、アップデートが必要と感じています。

当科診療の特徴は、研究費による専任病棟クラス確保のうえ、先進的な遺伝子解析を京都大学腫瘍生物学小川誠司先生、東京大学医科学研究所付属病院血液腫瘍内科南谷泰仁先生により実施いただいております、その流れで本邦MDSコホートの一部として国際的MDS研究グループと共同研究を実施し、2020年にはその結果がNature Medicine紙に発表され (Bernard E et al. Nat Med. 2020 ; 26:1549-1556), 2022年にはNew England Journal of Medicine Evidence紙に遺伝子解析に基づく骨髄異

形成症候群の予後因子IPSS-M (Molecular International Prognostic Scoring System) の報告がなされ (Bernard E et al. NEJM Evid. 2022 Jul;1(7)), 血液内科領域に大きなインパクトを残しました。さらに、これから発展していく血液疾患領域での遺伝子解析について警鐘となる、骨髄性腫瘍における生殖細胞におけるDDX41変異についての報告 (Makishima H, et al. Blood. 2023 Feb 2;141(5):534-549.) がなされました。今後もこの分野の発展に当科も微力ながら貢献できればと考えております。

診療実績も順調に増加しており、2022年血液疾患症例登録数348例 (全国5位)、2023年造血幹細胞移植症例数44例 (同種28例, 自家16例) と過去最多となりました。当院は小児血液部門もあるため2022年MDC13 (血液疾患) DPCデータ月平均患者数72.9人 (全国18位) と全国トップレベルの実績となっております。外来での輸血医療を自己血細胞療法センター (腎センター内にて併設) で実施するといった体制および外来患者さん動線の変化がありました。輸血部長の北川順一先生のリーダーシップのもと、院内施設有効利用WGを推進いただいた消化器内科杉山昭彦先生、腎臓内科の先生方、腎センター及び内科外来のスタッフの皆さまの多大なるご尽力の賜物です。内科外来では皮下注化学療法などの実施、外来化学療法センターでは安全で質の高い外来化学療法実施を継続いただいております。

Regular Article

MYELOID NEOPLASIA
Germ line DDX41 mutations define a unique subtype of myeloid neoplasms

Hideki Makishima,^{1,4} Ryunosuke Saki,^{1,4} Yasuhiro Nannya,^{1,4} Sophia Kontsev,^{1,4} Carmelo Gurno,^{1,4} June Takeda,¹ Yukihiko Momozawa,¹ Steve Best,¹ Pramila Krishnamurthy,¹ Tetsuchi Yoshizato,¹ Yoshiko Atsuta,¹ Yusuke Shiozawa,^{1,4} Yuka Iijima-Yamashita,¹ Kenichi Yoshida,¹ Yuichi Shirashi,¹ Yasunobu Nagata,¹ Nobuyuki Kakuchi,¹ Makoto Onizuka,¹ Kenichi Chiba,¹⁰ Hiroko Tanaka,¹⁰ Ayana Kon,¹⁰ Yotaro Ochi,¹⁰ Masahiro M. Nakagawa,¹⁰ Runa Okuda,¹⁰ Takuro Mori,¹⁰ Akimori Yoda,¹⁰ Hidehiro Honaga,¹⁰ Yasuo Miyazaki,¹⁰ Masashi Sanada,¹⁰ Takayuki Ishikawa,¹⁰ Shigeto Chiba,¹⁰ Hisashi Tsunuma,¹⁰ Sanyu Kasahara,¹⁰ Carsten Mülken-Tadlow,¹⁰ Akifumi Takao-Kondo,¹⁰ Kazuma Ohyama,¹⁰ Toru Kiguchi,¹⁰ Fumihiko Matsuura,¹⁰ Joop H. Jansen,¹⁰ Chantana Polprasit,¹⁰ Pieter Blomberg,¹⁰ Yoichiro Kamatani,¹⁰ Satou Miyano,^{10,12,17} Luca Malcovati,¹⁰ Michiaki Kubo,¹⁰ Mario Cazzola,¹⁰ Austin G. Kulasekararaj,¹¹ Lucy A. Godley,¹¹ Jaroslav P. Maciejewski,¹¹ and Seishi Ogawa,^{13,14,15,16}

¹Department of Pathology and Tumor Biology, Kyoto University, Kyoto, Japan; ²Departments of Medicine and Human Genetics, Section of Hematology/Oncology, The University of Chicago, Chicago, IL; ³Department of Translational Hematology and Oncology Research, Taussig Cancer Institute, Cleveland Clinic, Cleveland, OH; ⁴Department of Biomedicine and Prevention, Molecular Medicine and Applied Biotechnology, University of Rome Tor Vergata, Rome, Italy; ⁵Laboratory for Genotyping Development, Center for Integrative Medical Sciences (IMS), RIKEN, Yokohama, Japan; ⁶Kyoto College Hospital NIS Foundation Unit, and ⁷King's College London, London, United Kingdom; ⁸Japanese Division of Genotype Analysis Platform Development, Tokyo, Japan; ⁹Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nagoya Medical School, Tokyo, Japan; ¹⁰Department of Advanced Diagnostic, Clinical Research Center, Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan; ¹¹National Cancer Center Research Institute, Division of Genotype Analysis Platform Development, Tokyo, Japan; ¹²Department of Hematology and Oncology, Tohoku University School of Medicine, Isehara, Japan; ¹³Laboratory of Sequence Analysis, Human Genome Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan; ¹⁴Department of Hematology, Atomic Bomb Disease and Hiakuhaku Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute, Nagasaki University, Nagasaki, Japan; ¹⁵Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan; ¹⁶Department of Hematology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan; ¹⁷Department of Hematology, Gifu University, Gifu, Japan; ¹⁸Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan; ¹⁹Department of Medicine V, University Hospital Heidelberg, Heidelberg, Germany; ²⁰Department of Hematology, Kyoto University, Kyoto, Japan; ²¹Department of Hematology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan; ²²Chugoku Central Hospital, Fukuoka, Japan; ²³Center for Genomic Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan; ²⁴Department of Laboratory Medicine, Laboratory of Hematology, Radboud University Medical Center, Nijmegen, The Netherlands; ²⁵Department of Medicine, Faculty of Medicine, Chulalongkorn University, King Chulalongkorn Memorial Hospital, Bangkok, Thailand; ²⁶Fairfield MacCallum Cancer Centre, Melbourne, VIC, Australia; ²⁷Laboratory for Statistical and Translational Genomics, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, Japan; ²⁸Medical and Dental, Data Science Center, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan; ²⁹Department of Molecular Medicine, University of Pavia, Pavia, Italy; ³⁰MEL, Munich Leukemia Laboratory, Munich, Germany; ³¹Laboratory for Statistical Analysis, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, Japan; ³²Institute for the Advanced Study of Human Biology (OPIASHIB), Kyoto University, Kyoto, Japan; and ³³Karolinska Institutet, Karolinska University Hospital, Stockholm, Sweden

KEY POINTS
Germ line DDX41 variants have been implicated in late-onset myeloid neoplasms (MN). Despite an increasing number of publications, many important features of DDX41-mutated MNs remain to be elucidated. Here we performed a comprehensive characterization of DDX41-mutated MNs, enrolling a total of 346 patients with DDX41 pathogenic/likely-pathogenic (P/LP) germ line variants and/or somatic mutations from 9082 MN patients, together with 525 first-degree relatives of DDX41-mutated and wild-type (WT) patients. P/LP DDX41 germ line variants explained ~80% of known germ line predisposition to MNs in adults, and the life-long risk was ~50%. DDX41-mutated MDS patients rapidly progressed to AML, which was however, confined to those having truncating variants. Somatic DDX41 mutations were substantially different between DDX41-mutated and WT cases, in which none of the mutations affected clinical outcomes. Even TP53 mutations made no exceptions and their dismal effect, including multithr allelic status, on survival was almost completely mitigated by the presence of DDX41 mutations. Finally, outcomes were not affected by the conventional risk stratifications including the revised/molecular International Prognostic Scoring System. Our findings establish that MDS with DDX41-mutation defines a unique subtype of MNs that is distinct from other MNs.

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
急性骨髄性白血病	36	35	20	32	23	20
急性リンパ性白血病	6	2	14	7	11	13
骨髄異形成症候群	44	38	40	42	44	40
非ホジキンリンパ腫 B細胞性	56	52	70	76	89	57
非ホジキンリンパ腫 T細胞性	7	14	12	8	14	10
非ホジキンリンパ腫 他病型	2	0	0	2	1	1
ホジキンリンパ腫	5	1	2	3	2	2
多発性骨髄腫	36	34	27	35	38	35
慢性リンパ性白血病	3	3	3	0	2	3
慢性骨髄性白血病	7	7	8	1	7	7
合計	202	186	196	206	231	188

造血器腫瘍性疾患初診患者数推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
再生不良性貧血	18	9	9	7	12	5
溶血性貧血	6	5	2	6	8	8
巨赤芽球性貧血	13	9	10	14	18	21
その他の貧血	45	70	42	67	71	86
特発性血小板減少性紫斑病	22	16	13	12	25	28
血栓性血小板減少性紫斑病	1	0	1	0	1	0
血友病	2	3	0	2	0	1
後天性血友病	3	0	3	2	1	0
その他凝固性異常	10	9	2	4	2	12
骨髄増殖性疾患	17	20	22	24	28	22
二次性赤血球増加症	4	18	12	15	9	2
非特異的リンパ節腫大	23	37	37	26	15	35
合計	164	196	153	179	190	220

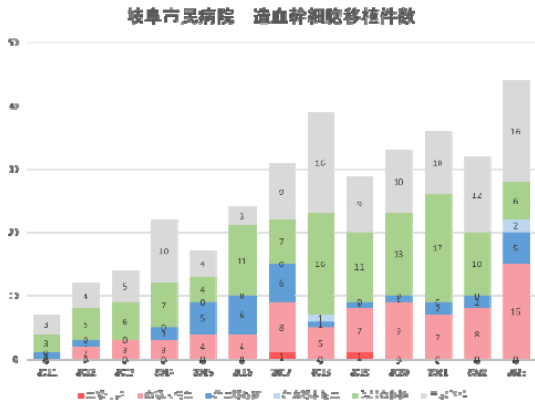
造血器非腫瘍性疾患初診患者数推移

遺伝子変異解析による骨髄性腫瘍におけるDDX41変異についての報告

造血幹細胞移植については、北川副部長が超ハイリスク患者に対するHLA半合致移植術、特にステロイド-ハプロ移植を主導し、患者さん、ご家族にとって希望の光となっており、研究面においても間葉系幹細胞を用いたGVHD治療におけるインドールアミン-2,3-ジオキシゲナーゼ(IDO)関連物質の動態解析を進めており、また輸血部長として岐阜県合同輸血療法委員会委員として院内・岐阜県血液医療の発展に貢献しております。

2023年8月以降、念願であった、CAR-T療法導入検討を本格的に開始しました。ギリアド社のイエスカルタ®治療を導入すべく、各部署のご尽力のおかげをもちまして、イエスカルタ®治療施設として施設認定に合格し、次年度、治療を開始していく予定です。

これら高度な医療を提供するため柴田副部長、山口医長をはじめとした中堅血液内科医が病棟スタッフと医師の連携、またAYA世代血液疾患患者に対する小児科との連携に大きな役割を果たしています。

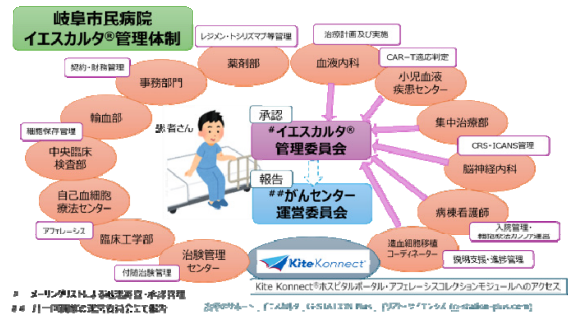
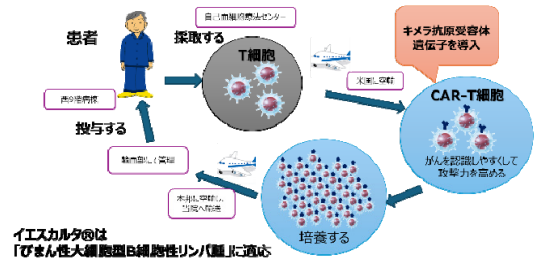


当科造血幹細胞移植件数推移

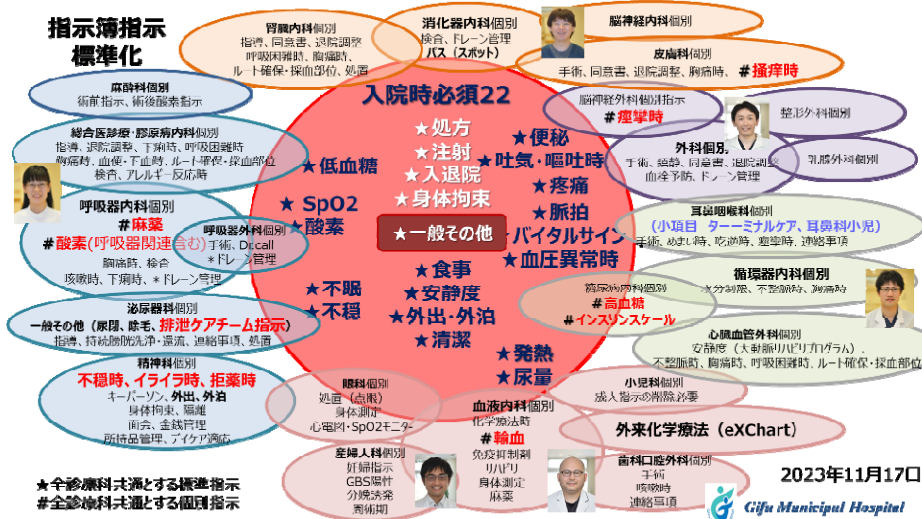
		2018	2019	2020	2021	2022	2023	
同種移植	非血縁者間	骨髄	0	1	0	2	0	4
		未梢血	1	0	1	0	2	1
	同種移植	骨髄	10	3	5	7	3	1
		未梢血	6	8	8	10	7	5
	血縁者間	骨髄	0	1	0	0	0	0
		未梢血	4(0)	2(1)	1(1)	2(2)	2(1)	6(3)
	合計		23	20	23	26	20	26
	自家移植		16	9	10	10	12	16
	合計		39	29	33	36	32	44

当科造血幹細胞移植詳細

CAR-T (キメラ抗原受容体-T) 細胞療法の仕組み



院内活動として、特に柴田副部長は電子カルテによる指示簿指示の標準化WGを牽引していただき、山口医長には血液内科診療の基盤となるクリニカルパスの再構築をお願いしています。



2023年11月17日



院外活動としては、2023年度も岐阜県内の血液疾患医療及び移植医療の質向上を目指しGHSG移植カンファレンスを主催しました。2020年4月に厚生労働省主導の造血細胞移植推進拠点病院事業において当院が地域拠点病院（岐阜地区）認定を受けおており、2023年11月30日には第3回岐阜地区移植拠点病院セミナーを開催し、「造血幹細胞移植に関わる岐阜地区の絆（きずな）」をテーマとして、本邦初の非血縁者間移植ドナーである岐阜骨髓献血希望者を募る会の田中重勝様にもご講演いただき、医療職を中心に100名以上の方に参加いただきました。笠原が引き続き日本血液学会東海地方会幹事、拠点病院事業推進母体である名古屋BMTグループ執行部として岐阜及び東海地区の血液診療・造血幹細胞移植医療の支援活動を継続しております。

格的に開始となる医師働き方改革に対応してきましたが、より良い教育体制、働き方改革の波に乗り遅れることなくさらに改善していく必要性を感じております。

このようにほぼ関係なくフル活動の状況でありますので、支えるスタッフの負担は計り知れませんが、血液内科一同「不易流行」の精神を念頭にこれからも研鑽を続けてまいります。今後とも何卒ご指導の程よろしく願い申し上げます。

文責：血液内科長 笠原千嗣

外科

外科は、消化器癌のみならず、良性疾患や腹部救急疾患の手術加療を数多く行っています。安全で患者さんにやさしい手術を目指しています。

2023年の当科が主科となる手術は923例でした。昨今の働き方改革を鑑み、無理のない範囲での手術数の増加、手術の質の向上を目指します。

現在、院長を含めた11名の常勤医、1名の非常勤医にて診療を行っています。常勤医には9名の消化器外科専門医、5名の内視鏡外科技術認定医、1名の肝胆膵高度技能医を有し、隙の無い専門的医療を行っています。理想的には1チーム数名からなるチーム医療が理想ですが、現在では休日の回診をチームで行っている状況です。これにより週に1日の完全休日を可能としております。また、後期研修医には指導医が付き、一緒にそれぞれの患者の回診を行っています。また、直接の指導医だけでなく上級医や別の専門分野の医師同士で気軽に患者さんの相談を随時行うことでチーム制に準じた医療を提供できていると考えています。月曜日の朝には前週の手術症例の検討、水曜日朝には若手医師による治療方針の検討会、水曜日夕からは消化器内科肝胆膵チーム・放射線科医との合同カンファレンス、隔週水曜日夕からは外来化学療法患者の検討、金曜日朝からは消化管内科医、放射線科医、病理診断医との合同カンファレンス、金曜日午後には次週の手術症例の検討を行い、チーム医療の促進に努めています。また、これらの会議において適宜、重症患者の検討を外科全体でも行っております。

取り扱う疾患の主軸は消化器癌です。食道外科に関しては、今井医師を中心に、山田病院長・奥村医師・棚橋医師による層の厚い上部チームによる質の高い集学的治療がおこなえております。胃外科に関しては棚橋医師が中心となり、ロボット手術を積極的に手掛けるようになっており、今井

**第3回
岐阜地区造血細胞移植地域拠点病院セミナー
web開催のご案内**

「造血幹細胞移植に関わる岐阜地区の絆（きずな）」

総司会・オープニング
岐阜大学医学部附属病院 血液感染症内科 准教授 兼村信宏 先生

人材育成事業パート
座長：岐阜大学医学部附属病院 小児科 臨床准教授 小間道夫 先生

講演①「小児造血細胞移植研修を通して」
岐阜市民病院 小児科 下澤諒大 先生

コーディネイト・地域連携事業パート
座長：岐阜市民病院 副院長・血液内科部長 笠原千嗣 先生

講演②「ドナー登録の現状と課題」
岐阜骨髓献血希望者を募る会 代表 田中重勝 先生

講演③「東濃地区における造血幹細胞移植の現状と今後の展望」
岐阜県立多治見病院 血液内科部長 小澤幸泰 先生

クローージング
岐阜市民病院 医療推進局長・小児科部長 篠田邦大 先生

【日時】
令和5年11月30日(木)17時30分～18時30分

【開催方法】
Web配信＋岐阜市民病院サリアホール会場参加・視聴（ハイブリッド）
※岐阜市民病院サリアホール会場参加者は、岐阜市民病院職員、運営関係者となります
【参加費】 無料
【お問合わせ先】
岐阜市民病院 血液内科 TEL 058-251-1101
担当：柴田 (e-mail: yshibata@hematology.ichinaika.gifu.jp)

主催：岐阜市民病院（造血幹細胞移植推進地域拠点病院、地域がん診療連携拠点病院）

外部医療機関から一定数のセカンドオピニオンも受け入れており、岐阜医療圏のみで無く、岐阜県全域、また周辺地域の難治性血液疾患患者さんの「最後の砦」となるべく今後も邁進していく所存です。また第一相試験を含めた薬剤開発治験にも積極的に参画しており、岐阜市民病院の臨床研究活動の推進力として寄与できればと考えております。

2019年より開始した医師働き方改革に関わる富士通フィールド・イノベーション活動として業務可視化を通じた業務改善活動を経て、2024年に本

医師も資格を取得し、ロボット手術の向上に努めております。肝胆膵手術に関しては佐々木医師が中心となり、膵全摘手術やHPD（肝葉切除+膵頭十二指腸切除）といった拡大手術も安全に施行できるようになっております。さらに腹腔鏡による膵体尾脾切除・肝部分切除を田中医師とともに積極的に施行しております。また、下部消化管に関しては八幡医師を中心に現在積極的に腹腔鏡手術を行っており、直腸癌に関してはほぼ全例をダビンチにて、2024年度から結腸癌に対してもダビンチ手術の導入を開始しております。また、良性疾患も数多く施行しており、若手医師を中心に鼠径ヘルニア手術・胆嚢摘出術などを年間数百例施行しております。さらにこれら定期手術の合間を縫うようにして、休日夜間を問わず緊急手術も数多く施行しております。

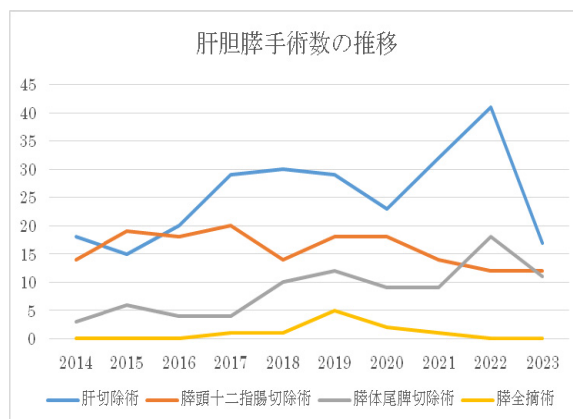
また、各科との合同手術も、可能な限り施行しております。婦人科とは、播種病巣や癒着に対する腸管の処理や人工肛門の造設。腎臓内科とは腹膜透析チューブの留置。脳神経外科とはVPシャントの留置のお手伝いなどをさせていただいております。

外来部門では、消化器癌術後患者に関しては、がん地域連携バスを中心に、診療所と十分連携を図りながら、フォローアップを行っています。

術後の補助化学療法や再発時の癌化学療法・免疫療法に関しても、非常に多くの症例を外来化学療法センターと協力して治療させていただいております。

肝胆膵外科

肝臓癌・胆道癌・膵臓癌の手術は難易度の高いものが多く、これらの手術を安全・確実に施行できるよう日本肝胆膵外科学会は高度技能専門医制度を設けております。当科は、高度技能専門医の佐々木外科長が肝切除や膵頭十二指腸切除といった肝胆膵高難易度手術を積極的に行っております。また、田中医師が高度技能専門医をめざし修練を行っております。消化器内科胆膵および肝チーム、放射線科医と週に1回のカンファランスを行い、患者さんの治療方針について十分に討議を行い、決定しております。特に膵臓癌に関しては、現在は術前化学療法を行うことがスタンダードとなっており、治療効果や患者さんの状態を見極めつつ、十分な検討を行ったうえで手術を施行しております。

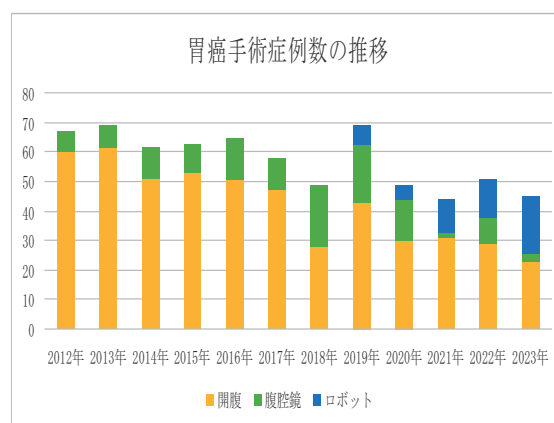


また、最近では患者様の状態に応じて、腹腔鏡手術もご提案させていただくこともあります。悪性を含めた膵体尾部切除術、脾臓摘出術、肝臓の部分切除術についても、安全に施行できる際には腹腔鏡手術をご提案しております。

胃外科

① 患者さんにとってやさしい低侵襲手術(腹腔鏡/ロボット手術)

近年胃がんの罹患患者数は超高齢化社会を反映して、増加傾向にあります。早期胃がんで見つかることも増えており、内視鏡治療が増加し、手術症例数は減少傾向にあります。適応となる症例に対しては、ロボット(ダビンチ)手術を積極的に行っています。以下に当科での胃癌手術症例数の推移を示します。



腹腔鏡手術は

- ・傷が小さい、痛みが軽い、術後早期の回復が早い→患者さんにやさしい
- ・術野を拡大視できる→精緻な手術が可能(出血量が少ない)

ロボット手術は上記の腹腔鏡手術の利点に加え

- ・ロボットの多関節機能，手振れ防止機能，3Dハイビジョン画像→腹腔鏡手術より精緻な手術が可能→合併症が少ない

術後早期の回復は開腹手術に比べ早く，約10日から14日で退院となり，早期の社会復帰も可能と考えております。しかし，高齢者や併存疾患の多い患者さんに対しては，早期退院にこだわらず，開業医の先生方との密接な連携を行い，ベストな体制を作ることを目指しています。

当科では，日本内視鏡外科学会が認定している内視鏡外科技術認定医は胃がん領域では3名(山田病院長，奥村がんセンター長，棚橋外科部長)在籍しており，岐阜県内トップクラスの質の高かつ安全な内視鏡手術を提供できると自負しております。またロボット手術に関しては，非常に良好な手術成績で，重篤な合併症は起こっておりません。また，奥村がんセンター長，棚橋外科部長はプロクター(手術指導医)にも認定されており，若手外科医の育成にも努めています。

GISTなどの胃の粘膜下腫瘍など疾患の治療も行っており，消化器内科と連携して腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS；Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery)を行い，過不足ない胃の切除にて治癒を得ています。

② 新たなエビデンスの確立に向けての取り組み

JCOG(Japan Clinical Oncology Group;日本臨床腫瘍研究グループ)胃がんグループのactive memberとして，ガイドライン通りの治療を行うだけでなく，新たなエビデンスの確立と進歩に向けて，多くの研究活動(多施設共同臨床試験)も行っています。

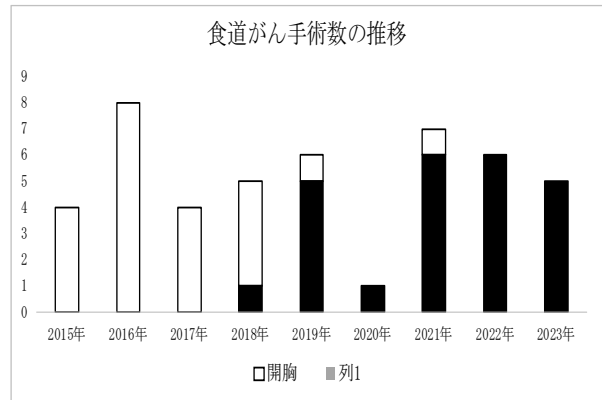
また，日本胃癌学会で新設された施設認定制度において，施設認定A(岐阜県内では岐阜大学病院と当院のみ)を取得しており，地域がん診療連携拠点病院としての責務を果たすべく，質の高い専門的な胃がん診療を提供しています。

食道外科

① 食道がん治療

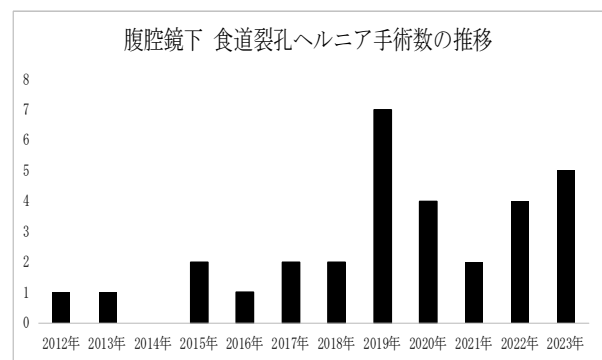
悪性疾患である食道癌の手術は，以前は右開胸+開腹による手術が一般的でしたが，現在は患者さんへの侵襲を軽減すべく，2018年から胸腔鏡下+腹腔鏡下による食道切除を導入しております。頸部での食道-挙上胃管の吻合の際にはICGを用いた血流評価を行い，縫合不全を予防できています。現在，手術後の重篤な合併症を来すことなく，良好な周術期の経過となっております。また，当科では日本食道学会が認定する食道科認定医を，山田院長，棚橋外科部長，八幡外科部長，今井医

師の4人が有しており，岐阜県内でもトップレベルの治療が提供できると自負しております。



② 食道裂孔ヘルニア手術

良性疾患である食道裂孔ヘルニアの手術にも力を入れています。近年の高齢者人口の増加に伴って同ヘルニアの患者数が増加しており，逆流性食道炎による胸やけなどの症状に悩まれている患者様も多くおられます。手術件数は年間数例ではありますが当科では10年以上前から腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術を積極的に行ってきました。そのため手術件数は全国的にも多く，それ故に重篤な合併症がなく再発の少ない手術のコツを見出しています。その治療成果を2023年には日本食道学会学術集会のワークショップで，2024年には日本ヘルニア学会学術集会のシンポジウムで報告し反響がありました。今後も安全で確実な手術を追究し，多くの患者様に技術提供できるよう努めています。

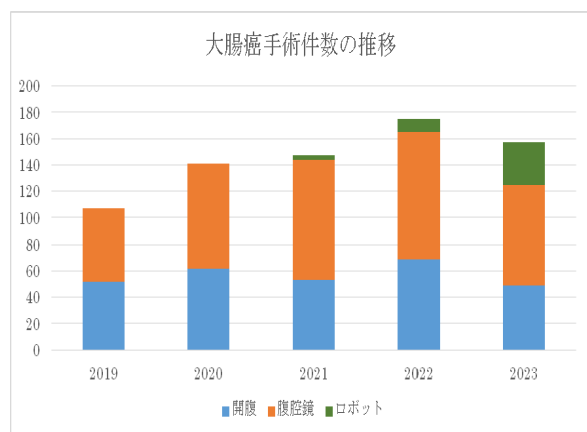


大腸・直腸外科

当科では進行大腸癌・直腸癌においても低侵襲でより精緻な手術が可能な腹腔鏡下での手術を第1選択としております。内視鏡外科技術認定医(大腸)を取得している八幡消化器外科部長を中心に，高難度とされる直腸癌での側方リンパ節郭

清や進行横行結腸癌に対する根治術も微細解剖に基づいて腹腔鏡下に行っております。下部進行直腸癌については治癒率向上を目指して積極的に術前化学放射線療法を行っており、その後に超低位前方切除術などの肛門を温存した手術を行うよう努めております。最近では狭い視野でもより精緻で安定した手術が可能なダビンチでの手術を積極的に行なっております。直腸癌において2021年よりダビンチ手術を導入し、現在は側方リンパ節郭清や究極の肛門温存手術である内肛門括約筋切除を含めてほぼ全例でダビンチにて手術を行なっております。合併症率も低く早期退院が可能であり、安全で良好な手術成績が得られており、現在では結腸癌においてもダビンチ手術を開始しております。

合併症予防の取り組みとして縫合不全予防目的にICGによる腸管血流評価、腫瘍が尿管近傍に存在している際は尿管損傷予防目的に蛍光尿管ステント留置など様々な取り組みを行っており、早期退院を実現しています。また直腸癌術後の便漏に対しては仙骨神経刺激療法を導入し、患者様のQOL改善に努めています。



良性疾患・緊急手術

胆嚢炎は現在のガイドライン上、早期手術が推奨されており、当院にご紹介いただいた胆嚢炎症例は全身状態が許す限り、ほぼ24時間以内に緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行させていただいております。また、虫垂炎に関しては、抗生剤による保存的加療が可能なものは、待機的に、不可能なものは緊急ではほぼ全例腹腔鏡下での虫垂切除術を施行しています。鼠径ヘルニアに関しましては、腹腔鏡下もしくは従来の前方手術のどちらでも患者さんの希望に応じて選択可能としております。

肛門疾患についても患者様個々の状態に合わせた治療を行っており、内痔核に対する四段階注射法など、切らずに治す治療も積極的に行っております。

研修医指導

当院は臨床研修病院であり、当科にも毎月初期研修医がローテートしています。積極的な手術参加はもちろんですが、術後管理や抗がん剤などの薬物治療、がん患者さんの緩和ケアなど、病棟回診を通じて指導医とともに知識や技術を身に付けています。このような研修参加に、最近ではさらに研修医の早期から外科チームに加わって手術の執刀を目指すオペレーションコースと、指導医の直接指導のもとでケースプレゼンテーションを作成し発表するアカデミックコースに分け、個々の研修医がコースを選択しニーズに合った外科研修を行っています。オペレーションコースでは限られた期間の中で厳しい条件をクリアして、指導医とともに手術を行い良好な治療成績となっています。アカデミックコースでは、良く練られたプレゼンテーションが作成され、外科の全国学会での発表を予定している研修医もいます。

外科は低難度から高難度手術まで幅広い手術があり、手術の力や全身管理によって患者さんの生命を直接救うことができる大変やり甲斐がある分野です。当科での研修を通じて、研修医のスキルアップとともに外科の魅力も伝わるような研修指導を心がけています。

整形外科

ラグビー男子高校日本代表 アイルランド遠征帯同
岐阜市民病院 整形外科
白井之尋

アイルランド・ダブリン 2023/3/15-28

小児科

認定医、専門医資格

篠田邦大：日本小児科学会小児科

専門医・指導医

日本血液学会 専門医・指導医

日本小児血液がん学会

専門医・指導医

日本造血細胞移植学会 認定医

日本小児救急医学会 SIメンバー

神田香織：日本小児科学会小児科

専門医・指導医

日本血液学会 専門医

森 真理：日本小児科学会小児科

専門医・指導医

子どもの心相談医

山下達也：日本小児科学会小児科 専門医

思春期保健相談士・性教育認定講師
子どもの心相談医

somatic experiencing practitioner

自我状態療法国際認定

TFT診断セラピスト

横山能文：日本小児科学会小児科

専門医・指導医

日本血液学会 専門医

日本小児血液がん学会 専門医

日本造血細胞移植学会 認定医

日本DMAT隊員

福富 久：日本小児科学会小児科 専門医

災害時小児周産期リエゾン

平手友章：日本小児科学会小児科 専門医

日本血液学会 専門医

日本小児感染症学会 認定医

ICD

大島有美：日本小児科学会小児科 専門医

日本血液学会 専門医

下澤諒大：日本小児科学会小児科 専門医

リハビリテーション科

2023年度は教育面では、新人教育体制を再構築し、講義、実技研修の充実を図りました。訓練体制では、引き続き病棟訓練室を使用させていただいたため、送迎時間の削減などにより入院患者の訓練が効率よく実施でき、訓練単位数の確保ができました。マンパワーの面では、昨年と同様に育児休暇を取得する職員がおり、年間を通して減少したままの人員で治療にあたりました。引き続き365日訓練体制を目指して段階的な療法士増員の予定となっております。訓練の質向上の面では、引き続き抄読会、チームカンファレンス、医師と療法士の連絡を密にするなどし、早期に問題解決、治療方針決定ができる体制づくりをすすめています。地域医療への貢献としては、療法士が計3回の講演を行いました。

医師の体制としては2023年7月以降、愛知医科大学リハビリテーション医学講座から月2,3回医師が派遣していただいております。当科は同講座の専攻医研修病院でもあり、専攻医研修を行うつつ診療の援助をしていただき、当科医師の負担軽減になりました。学会活動としては、第54回日本リハビリテーション医学会中部東海地方会を当番幹事として主催し、一般演題、講演を無事に終えました。COVID-19のためここ数年オンライン開催でしたが、久しぶりの現地開催となり、現地開催の良さをあらためて感じました。当院からは理学療法士3名が当日の運営補助として参加し、運営事務局からその活躍に対して感謝されました。今後も、治療の質向上のためにさらなる知識・技術の向上、体制作りをすすめてきます。

【臨床】

2023年1月～12月入院リハ新患患者数は4,988人で、年々増加傾向です。

リハスタッフ数は、理学療法士25名、作業療法士9名、言語聴覚士4名。そのうち2023年度採用はPT2名。

【医師・療法士 学会発表・講演・講義】

学会発表抄録、活動記録を参照。

【教育】

研修医：2年目の7名がそれぞれ1～2週間研修
療法士学生：理学療法学科20名、作業療法学科1名

学会活動

篠田邦大：日本小児科学会東海地方会幹事

社会活動

- 1) 篠田邦大：社会保険診療報酬支払基金岐阜支部委員
- 2) 篠田邦大：岐阜県入院児童生徒等学習充実事業運営協議会委員
- 3) 篠田邦大：岐阜県小児慢性特定疾病審査委員
- 4) 篠田邦大：岐阜市小児慢性特定疾病審査委員
- 5) 篠田邦大：岐阜県がん対策推進協議会委員
- 6) 篠田邦大：岐阜県先天性代謝異常検査等事業検討会委員
- 7) 篠田邦大：岐阜県周産期協議会委員
- 8) 篠田邦大：岐阜県小児医療協議会委員
- 9) 篠田邦大：岐阜県小児救急医療協議会委員
- 10) 篠田邦大：岐阜県中央子ども相談センター処遇専門部会委員
- 11) 森 真理：岐阜市教育委員会特別支援審査委員

【医師役職】

- ・日本リハビリテーション医学会代議員，中部東海地方会幹事
- ・第60回日本リハビリテーション医学会学術集会プログラム委員
- ・第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 プログラム委員
- ・第54回日本リハビリテーション医学会中部東海地方会 当番幹事

【医師地域貢献】

- ・岐阜県多“食”種連携研究会：世話人
多職種が連携することで、「食」におけるプロフェッショナルな人材を育成し，岐阜県下に幅広く高度な摂食嚥下医療を普及させることを目的とする。
- ・第60回日本リハビリテーション医学会学術集会，高齢患者の造血幹細胞移植後に身体活動量を維持できた症例，中永達朗
- ・第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会，胃癌患者に対し周術期の運動後分岐鎖アミノ酸摂取における長期的な骨格筋への影響，榊原浩次
- ・日本心臓リハビリテーション学会 第9回東海支部地方会，当院の心臓リハビリテーションにおける入院から外来への参加率の調査，後藤直哉
- ・令和5年度岐阜県理学療法士協会 教育部主催研修会②，高校女子バレーおよび東京オリンピックでの活動，佐藤文則
- ・クアオルト・タラポイト養成講座，CPXを用いた運動量決定の実際，後藤直哉
- ・JACLS勉強会，子どもたちの体を動かし心を満たすリハビリを目指して，横地裕也

文責：佐々木裕介

眼 科

2023年は，5月にコロナ感染症に対する体制が変わり，昨年10月より2人診療体制になったことにより，昨年に比べ白内障手術件数はいくらか増加（116→158件）した。また，犬塚医師により緑内障手術が当院では久しぶりに実施された。一方，犬塚医師は年度末で大学へ異動となってしまった。当院在任期間は1年半であった。

麻酔科・集中治療部

2023年の麻酔科は，9名のスタッフ（うち日本専門医機構認定機構専門医が7名，日本集中治療医学会認定集中治療専門医1名在籍）によって，中央手術部の手術室9室と中央放射線部アンギオ室において安全な手術麻酔管理，および集中治療室，HCUでの重症患者管理に携わらせていただいた。さらに院内で発生する救急症例への対応にも積極的に携わることができていると評価している。

2023年の手術件数は4,383件であり，そのうち2,616件を麻酔科管理で行なっている。ここ数年は全手術件数が横ばいの中，麻酔科管理件数を年々増加させることができていることは麻酔科スタッフの頑張り，そして各診療科の麻酔科医による安全な麻酔管理への要望が定着してきている証拠だと思われる。

また近年推奨されてきている超音波ガイド下での様々な手技を積極的に取り入れ，自ら安全な手技の遂行を進めるとともに，同様の手技に対する院内のスタッフ全体への伝道者として活躍してくれており，今後益々中央診療部門の運営に貢献するとともに，院内の医療安全体制の獲得のために貢献していける診療科として成長していきたいと考えている。

文責：大島博人

看 護 部

令和5年度 院外研修実績

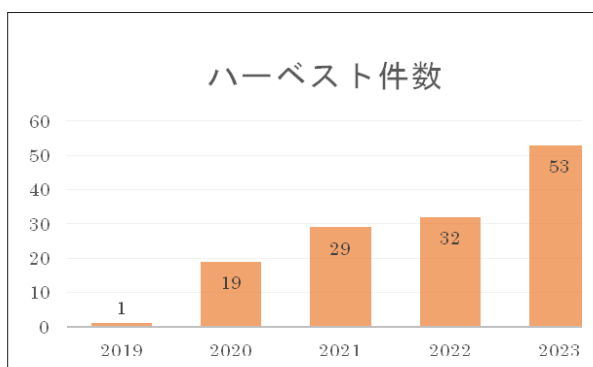
- ・第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会 1名
幕張メッセ 2023年5月10日～13日
- ・23年「重症度，医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修 4名
WEB参加 2023年6月1日～8月31日
- ・新人看護職員教育事業研修責任者研修 2名
県民ふれあい会館
2023年6月10日・7月19日・8月23日・
9月15日・10月21日
- ・新人看護職員教育事業教育担当者研修 2名
県民ふれあい会館
2023年6月16日・8月29日・
9月21日・9月30日・10月16日
- ・2023年度全国自治体病院協議会 看護部会研修会 2名

- 東京「全国都市会館」 2023年6月27日
- ・2023年度クリニカルパス教育セミナー 1名
WEB参加 2023年7月1日
 - ・令和5年度新卒採用者研修「専門職としての第一歩」 37名
県民ふれあい会館 2023年7月7日・13日・14日・20日・8月7日・28日
 - ・第20回摂食障害治療研修 1名
WEB参加 2023年7月12日～14日
 - ・令和5年度感染対策担当者のためのセミナー 2名
WEB参加
2003年7月29日・11月25日・2024年1月20日
 - ・第27回日本看護管理学会学術集会 1名
東京国際フォーラム 2023年8月25日・26日
 - ・ELNEC-J看護師教育プログラム 2名
岐阜大学医学部附属病院
2023年8月26日・27日
 - ・第61回全国自治体病院学会in北海道 2名
札幌コンベンションセンター
2023年8月31日・9月1日
 - ・予期しない妊娠への相談対応研修（基礎編・アドバンス編） 1名
岐阜市文化センター 2023年9月1日・2日
 - ・第14回中部MIST研究会ハンズオンセミナー 5名
愛知県産業労働センターウインクあいち
2023年9月2日
 - ・第25回災害看護学会 1名
アクリエひめじ 2023年9月2日・3日
 - ・第12回岐阜ストーリーナビリテーション
WEB講習会 6名
WEB参加
2023年9月6日～10月3日（オンデマンド配信）
2023年10月8日（オンラインミーティング）
 - ・管理者向けメンタルヘルス研修 2名
セラトピア土岐 2023年9月8日
 - ・一般組合員向けメンタルヘルス研修 3名
OKBふれあい会館 2023年9月12日
 - ・第21回日本小児がん看護学会学術集会 2名
ロイトン札幌 2023年9月29日～10月1日
 - ・第50回日本脳神経看護研究学会 2名
金沢市文化ホール 2023年9月30日
 - ・第61回日本癌治療学会学術集会 3名
パシフィコ横浜 2023年10月19日～21日
 - ・救急業務体験研修 6名
岐阜消防署及び指令課 2023年11月9日～30日
 - ・医療従事者のための話し方講座 1名
WEB参加 2023年11月10日
 - ・「利用の達人」ハイブリッド事例共有会
看護よろずお打ち合わせ 2名
JR川崎タワー 2023年11月18日
 - ・第26回日本腎臓不全看護学会 3名
仙台市中小企業活性化センター
TKPガーデンシティ仙台
2023年11月18日・19日
 - ・日本リハビリテーション看護学会第35回学術大会 1名
WEB参加 2023年11月20日～12月20日
 - ・第25回日本救急看護学会学術集会 4名
出島メッセ長崎 2023年11月24日・25日
 - ・第44回日本死の臨床研究会 年次大会 1名
愛媛県民文化会館 2023年11月25日・26日
 - ・第15回下部尿路症状の排尿ケア講習会 2名
WEB参加 2023年11月25日・26日
 - ・日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会 1名
びわ湖大津プリンスホテル 立命館大学びわこ・くさつキャンパス 2023年11月25日・26日
 - ・RadioligandTherapyNationalsSymposium2023 2名
東京ミッドタウン 2023年11月26日
 - ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習 1名
ワークプラザ岐阜 2023年11月27日・28日
 - ・看護補助者の活用推進のための看護管理者研修
DVD研修 8名
WEB参加 2023年11月29日
 - ・第1回岐阜骨折手術看護セミナー 4名
岐阜大学医学部棟 大会議室 2023年12月2日
 - ・第12回岐阜看護学会 16名
県民ふれあい会館 +WEB参加 2023年12月2日
 - ・令和5年度肝炎医療コーディネーター養成講習会 3名
WEB参加 2024年2月5日～3月1日
 - ・令和5年度本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会in東海 2名
WEB参加 2023年2月17日
 - ・第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会 1名
東京国際フォーラム 2024年3月21日～23日
 - ・第51回日本集中治療医学会学術集会 2名
カナモトホール, ロイトン札幌, 札幌グランドホテル, ANA クラウンプラザホテル札幌, ニューオータニイン札幌, 北海道経済センター
2024年3月14日～16日
以上

臨床工学部

臨床工学部では、部全体を呼吸治療部門、人工心肺部門、血液浄化部門、集中治療部門、循環器部門、手術関連部門、中央機器管理部門、手術機器管理部門の8つに分け、それぞれに専門性の高い技術を提供しています。中央機器管理部門で行っている院内の医療機器の保守点検・修理をはじめ、臨床業務では中央手術室や心臓カテーテル室、腎臓病・血液浄化センター、自己血・細胞療法センター、一般（重症）病棟等幅広い分野で医療機器の操作や設定に従事し、病院の安全に貢献してきました。

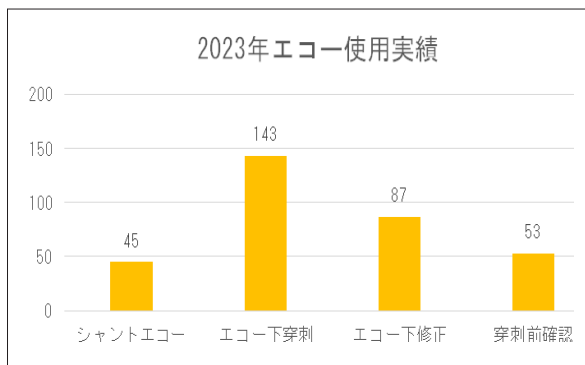
血液浄化部門においては、2019年より本格的に行っている末梢血幹細胞採取が年々増加しており、更に2022半ばより施行場所を病棟から自己血・細胞療法センターに移行したことで、翌年は飛躍的に件数が増加しました。また、これまでTERUMO BCT社製Spectra Optiaを使用したハーベスト業務では末梢血幹細胞採取のみを行っていましたが、2023年からは血漿交換や白血球除去、骨髄採取等も行っております。この年は更に、血液内科や腎臓病・血液浄化センターのスタッフと連携してCAR-T療法の準備にも取り組んできました。今後は血液内科部門においても重要な役割を担っていることを認識し、他職種の方々と協力して治療に取り組んで参ります。



また、透析業務では2021年から取り組んできた水質の清浄化が認められ、これまでoff lineでの施行だったHDFを2023年より完全にon-line HDFとすることが出来ました。これにより大量補液が可能となり、より効果の高い治療を提供できるようになりました。

現在腎臓病・血液浄化センターでは維持透析を積極的に周辺クリニックへ紹介し、原則として導入期・急性期における血液浄化のみを行っているため、前年に比べると件数自体は減少しています。しかし、その分重症度が増しており、また状態が

悪いが故に穿刺困難である患者が多いことを鑑み、エコーガイド下での穿刺が増加しました。細い血管や、深部を走行する血管に対して確認しながら穿刺が出来るため、これまで避けられなかった再穿刺の発生を抑えることが出来ています。また、常にUS下穿刺が行える体制を目指し、現在透析室Nsと協力し、日々スタッフの育成にも取り組んでいます。



呼吸治療部門では、5月に人工呼吸器を装着した患者の転院立ち会いを行いました。病棟から介護タクシーに乗って施設へ転院されるに当たり、移動用に加温加湿器から人工鼻へとセッティングを変更したり、移動後の管理依頼を施設に向けて行ったり等、CEとして貢献出来る部分が多数ありました。

中央機器管理部門においては、2023年より中央手術部におけるR-SUD事業（シングルコースの医療機器を医療機器製造販売業者がその責任のもとで適切に収集し、分解、洗浄、部品交換、再組み立て、滅菌等の処理を行い、再び販売する事業）に参加しています。これは欧米で先駆けている事業ですが、再製品は新品と比べると安価であるため、国全体での医療費抑制、病院単位での材料費削減、医療廃棄物の抑制による環境保護に加え、患者の医療費負担軽減にもつながると考えられています。現段階では、まずは使用物品の回収からですが、貴重な一歩を踏み出すことが出来ました。また、その他手術室光源ランプのコストカットや、電気メスの調整を院内で行うことによるコスト削減等、経営面にも貢献出来たのではないかと思います。

循環器部門では、2023年はアブレーション業務に特化した年となりました。これまで看護師に力を借りていたA圧作成、シース管理等をほぼタスクシフトし、またアブレーション3Dマッピング装置のアップデート及び機器配置の見直しを行いました。これにより、カテ室内の限られた広さの中で、効率的な動線を確認出来たと考えています。今後も医師と協力し、アブレーションの最新治療を実施していきたいと思っております。

以上のように、臨床工学部では各個人が多数の分野で、専門性の高い医療技術支援や安全を提供出来ると自負しております。今後はタスクシェア、タスクシフトを踏まえ、更に活動出来る場を増やしていきたいと考えています。

認知症疾患医療センター

① 医療・福祉関係機関との連絡調整（協議会、検討会、研究会等への参加）

<方針>

- ・県内特に岐阜・西濃の認知症疾患医療センターとの連携を深める
- ・市・県行政、地域包括支援センター、医師会等の当センターへの理解を深めると共に関係構築に務める
- ・全国の認知症疾患医療センター研修会、認知症関係学会等での研修を通して、県内唯一の総合病院に設置された認知症疾患医療センターとしての見識と役割を学ぶ

<参加会議と期日>

- ・令和4年度愛知県 認知症ピアサポート活動研修会（岐阜・愛知・静岡合同） 1月25日
- ・第10回認知症疾患医療センター全国研修会高知大会 1月28日
- ・若年性認知症就労支援に関する研修 2月27日
- ・名古屋大学医学部附属病院 認知症ケアチームとの意見交換会 3月28日
- ・名古屋大学医学部附属病院の医師と認定看護師が当院に来院。当院の認知症疾患医療センターの紹介と各病院の認知症ケアチームの活動内容について意見交換を行った。
- ・岐阜県認知症疾患医療センターの運営に係る事務者協議
2月7日、5月9日、8月1日、11月7日
(すべてZOOMによるオンライン会議)
- ・岐阜市認知症地域支援体制構築推進会議（事例検討会） 7月31日、11月22日
- ・第17回全国認知症疾患医療センター連絡協議会 8月4日
- ・岐阜市認知症地域支援体制構築推進会議（全体会） 1月30日、8月30日
- ・「認知症講演会」及び「岐阜県認知症希望大使依嘱式」（岐阜県高齢福祉課主催） 9月30日
- ・岐阜県若年性認知症就労支援ネットワーク会議 3月17日、11月7日
- ・岐阜地域認知症疾患医療連携協議 11月29日
- ・岐阜県認知症施策推進会議 2月28日、10月17日

(その他)

- 若年性認知症当事者ミーティング「わらっとこぐみ」への参加、支援

川北地区の岐阜市包括支援センターが協力して、若年性認知症の当事者が自主的な活動を行うミーティングを運営。令和2年3月まで活動を行っていたが、それ以降コロナ事情で場所確保ができず活動を中止。その後、令和3年3月から岐阜市内で活動を再開。コロナ対応の緩和により6月10日に犬塚センター長、村瀬相談員が参加。

② 認知症に関する医療・福祉関係者の研修

<研修会の開催>

当院および一般病院等を対象に当センターが実施した認知症に関する講演

- ・「COVID-19と認知症」 2月16日
岐阜大学大学院医学系研究科 脳神経内科学分野
教授 下畑 享良 先生
参加人数 来場者数 30名
オンライン参加者 26名
合計 56名
- ・ヤングケアラー講演会「ヤングケアラーについて学ぶ」 7月13日
岐阜聖徳学園大学 教育学部
教授 安田 和夫 先生
岐阜聖徳学園大学 看護学部
教授 古澤 洋子 先生
「エールぎふ」との共同開催。
参加人数 来場者数 21名
オンライン参加者 29名
合計 50名
- <講師派遣協力（医療者向け認知症関連講演）>
 - ・令和4年度岐阜県医師会自動車安全部会研修会「認知症・てんかん患者等の運転に伴う危険性と対処」 3月18日
犬塚 貴
 - ・院内新人職員向け研修 4月11日
長屋千鶴子
 - ・岐阜市民病院 院内認定看護師教育 認知症看護コース 6月～11月 全6回 17:30～19:00
長屋千鶴子
 - ・「認知症とせん妄」（薬大実習生等対象：岐阜市民病院 薬剤部主催）
6月16日 9月22日 12月22日
犬塚 貴
 - ・「認知症」（岐阜大学医学部3年生対象）
10月2日
犬塚 貴

＜実習協力＞

学生現場実習（岐阜薬科大学）

令和5年1月23日, 5月1日, 6月12日, 26日,
7月3日, 10日, 9月25日, 10月30日, 11月27

日, 12月18日 延べ18名(実習担当の先生含む)

学生現場実習（名城大学） 9月4日 1名

学生現場実習（愛知学院大学） 12月18日 1名

③ 市民への認知症理解への啓発活動

・難病医療テレフォン・メールサービス（県福祉
会館） 5月12日

犬塚 貴

・岐阜市民病院 市民公開講座

「認知症の治療と支援」 9月30日

演題「治療の実情と新薬への期待」犬塚 貴

演題「利用できる社会制度など」村瀬 智明

・ラジオ放送での当院認知症専門相談窓口の案内
岐阜市で確保しているラジオでの放送枠を利用し、ホームページ上で認知症に関する基礎知識を学べるミニ講座に関する情報提供を行った。

・シティFMぎふ緊急割り込み放送

9月15日(岐阜支庁 庁内放送)

FMわっち 9月5日放送

岐阜チャン 9月1日放送

・岐阜市アルツハイマー月間への協力 9月中

・岐阜市高齢福祉課主催で本庁1階ロビーにて認知症に関する掲示イベントを開催。

掲示物の協力依頼あり上記ラジオ放送と同様のミニ講座広報チラシを作成し掲示。

・健康まつりでの広報活動 11月19日

上記の同様のミニ講座広報チラシの掲示と、市民公開講座のyoutube紹介。

岐阜市高齢福祉課、介護保険課に了解を得て認知症に関するチラシと介護保険の手引きを持ち帰り自由で設置した。

・認知症ミニ講座

ホームページ上で認知症に関する基礎知識を学べるミニ講座を病院ホームページの認知症疾患医療センターのページに令和3年度作成。当時作成した12件を令和5年も継続して掲載。

●認知症に関する基礎知識等

・「認知症疾患医療センターについて」(11:09)

認知症疾患医療センター

センター長 犬塚 貴

・「認知症の基礎知識」(18:05)

認知症疾患医療センター

センター長 犬塚 貴

・「暮らしの中での認知症の気づき」(12:36)

認知症疾患医療センター

センター長 犬塚 貴

・「家庭でできる認知症予防」(19:58)

認知症疾患医療センター

センター長 犬塚 貴

・「高齢者の睡眠」(07:23)

認知症疾患医療センター

元 公認心理師 神戸 誠

・「認知症ポジティブと予防」(07:52)

認知症疾患医療センター

認知症看護認定看護師 長屋千鶴子

・「認知症介護を少しでも軽くするために」

(06:08)

認知症疾患医療センター

認知症看護認定看護師 長屋千鶴子

●もの忘れ外来について

・「もの忘れ外来の神経心理検査」(06:20)

認知症疾患医療センター

元 公認心理師 神戸 誠

・「岐阜市民病院「もの忘れ外来」について」

(06:58)

認知症疾患医療センター

相談員 村瀬 智明

●制度・相談関連

・「岐阜市民病院認知症疾患医療センター

相談室に寄せられる相談について」(10:31)

認知症疾患医療センター

相談員 村瀬 智明

・「介護保険制度について」(6:07)

認知症疾患医療センター

相談員 村瀬 智明

・「認知症サポーターになろう」(6:25)

認知症疾患医療センター

相談員 村瀬 智明

④ 認知症に関係する調査・研究

該当なし

その他

委嘱 犬塚 貴

岐阜県認知症施策推進会議 委員

岐阜市認知症地域支援体制構築推進会議 委員

岐阜市医師会認知症サポート委員会 委員

岐阜県医師会 医療・介護・福祉連携委員会委員

岐阜認知症多職種ネットワーク研究会 代表世話人
 岐阜大学非常勤講師
 岐阜県警察本部「銃砲刀剣所持等取締法」に基づく指定医師

委嘱 村瀬 智明
 岐阜県認知症施策推進会議 委員
 岐阜市認知症地域支援体制構築推進会議 委員

地域連携部

令和5年（1～12月）岐阜市民病院研修実績（全体）

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
1月5日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season8～第9回「不眠」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ 膠原病センター派遣医師)	1	20	0	0
1月12日	医療技術	医療者	看護部	第8回院内認定看護師教育 褥瘡・創傷コース 陰圧閉鎖療法 (NPWT)について *自由参加 講師：武田 広美	1	1	0	0
1月13日	医療技術	医療者	AYA サポートチーム	第3回AYAさぼセミナー 講師：服部 佳朗 北川 順一 他	1	15	10	0
1月18日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー 「中枢神経感染症の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宣行 先生	1	23	1	0
1月21日	地域研修	一般 市民	岐阜市民病院	第10回岐阜市民病院公開講座 「胃がん外科治療の最前線」 ～ロボット支援下胃切除術～ 講師：内視鏡外科部長 棚橋 利行	1	0	0	37
1月27日	医療技術	医療者	NST 部 会	第3回NST勉強会 「侵襲期・周術期の栄養管理について」 アイドウ株式会社 吉村 和則氏	1	27	0	2
1月25日 2月8日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 研修医向け末梢挿入中心静脈カテーテル レクチャー 講師：岐阜市民病院 血液内科 後藤 貴之 先生	1	32	0	0
2月2日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season8～第10回「抗菌薬」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ 膠原病センター派遣医師)	1	20	0	0
2月16日	全医療職	医療者	認知症疾患 医療センター	研修セミナー「COVID-19と認知症」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 脳神経内科学分野 教授 下畑 亨良 先生	1	31	25	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
2月18日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第11回岐阜市民病院公開講座 「STOP!!CKD（慢性腎臓病）」 ～あなたの腎臓を守るために～ 講師：愛知医科大学 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授 石本 卓嗣 先生	1	0	0	50
2月21日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	整形外科WEB講座 「腰が曲がる病気に対する最新の治療」 講師：整形外科 主任部長 宮本 敬	1	0	0	22
2月24日	医療技術	医療者	がん診療局	医療者のためのがんセミナー 講師：中田 琢己 奥川 喜永	1	24	14	0
3月2日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season8～第11回「+α」 講師：医療法人社団藤和会 あんどろ内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	20	0	0
3月15日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー「予防接種の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宜行 先生	1	17	2	0
3月18日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第12回岐阜市民病院公開講座 「がん診療連携拠点病院としての当院の 役割と活動」 講師：副院長 がん診療局長 笠原 千嗣	1	0	0	57
3月22日	医療知識	医療者	医事課	DPC機能評価係数Ⅱ・実績要件分析報告会 講師：秋山 智明 様 (株式会社ソラスト)	1	38	0	0
3月24日	医療技術	医療者	NST 部 会	第4回NST勉強会 「がんと栄養」 ネスレ株式会社 古屋 隼人氏	1	27	0	0
4月22日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第1回岐阜市民病院公開講座 「膵がんを克服するために」 講師：消化器病センター長 岩田 圭介	1	0	0	61
5月11日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season9～第1回「発熱」 講師：医療法人社団藤和会 あんどろ内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	20	0	0
5月16日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー 「呼吸器感染症の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宜行 先生	1	20	0	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
5月16日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	整形外科WEB講座 「新時代の整形外科の地域医療」 ～腰痛の例とした病診連携の実際～ 講師：整形外科 主任部長 宮本 敬	1	0	0	10
5月18日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	患者のミカタ ～患者さんの正しい “ミカタ”考えたことありますか？～ 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	22	0	0
5月20日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第2回岐阜市民病院公開講座 「手と足の病気とその治療」 講師：形成外科部長 大野 義幸	1	0	0	27
5月29日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 「CVカテーテル」座学 講師：岐阜市民病院 麻酔科副部長 杉本 純子 先生	1	15	0	0
5月30日	医療技術	医療者	看護部	小児救急看護 講師：新津美智代 今枝 保江	1	17	0	0
5月30日 6月5日 6月6日 6月12日 6月13日 6月19日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 「CVカテーテル」実技 講師：岐阜市民病院 麻酔科副部長 杉本 純子 先生	1	21	0	0
6月1日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第2回「夜」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	23	0	0
6月16日	医療技術	医療者	看護部	がん化学療法看護(1) 講師：小瀬木裕美	1	12	0	0
6月17日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第3回岐阜市民病院公開講座 「薬剤性顎骨壊死」 ～どういった薬剤でなるの？～ 講師：歯科口腔外科部長 兵東 巖	1	0	0	36
6月22日	医療技術	医療者	看護部	手術看護 講師：石原 奈々	1	19	0	0
6月22日 6月28日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 研修医向けエコー実践講座 講師：岐阜市民病院 中央放射線部 河口 大介 技師	1	16	0	0
6月27日	医療知識	医療者	医事課	DPC機能評価係数Ⅱ・実績要件分析報告会 講師：秋山 智明 様 (株式会社ソラスト)	1	48	0	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
6月29日 ～7月27日	医療知識	全職員	医療安全 推進室	R5年度医療安全講演会（法令研修） ・『インシデントレポート』について ・『Safety I. Safety II』の考え方	1	1,336	0	0
7月6日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第3回「夏」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	19	0	0
7月7日 7月12日 7月18日 7月25日 7月26日	全医療職	医療者	感染対策 チーム	医療関連感染対策講演会（法令研修） 「今振り返る感染制御の基本」～対応すべき変化と変わらないもの～ 講師：岐阜大学医学部付属病院 感染制御室 室長 生体支援センター教授 センター長 馬場 尚志 先生	1	1,622	0	0
7月13日	医療技術	医療者	看護部	透析看護 講師：長野 清美 森 群子	1	8	0	0
7月13日	全医療職	医療者	認知症疾患 医療センター	ヤングケアラー講演会「ヤングケアラーについて学ぶ」（エールぎふと共同開催） 講演：岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 安田 和夫 先生 講演：岐阜聖徳学園大学 看護学部 教授 古澤 洋子 先生	1	22	28	0
7月18日	医療技術	医療者	看護部	救急看護 講師：北村 鮎美 中野 克哉 川久保嘉文	1	34	0	0
7月18日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー「尿路感染症の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宜行 先生	1	14	0	0
7月22日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第4回岐阜市民病院公開講座 「胆のうの病気について」 ～胆石から胆のう癌まで～ 講師：外科部長 肝胆膵外科部長 佐々木 義之	1	0	0	40
7月28日	医療技術	医療者	NST 部会	ミニ勉強会 「経腸栄養について」 栄養管理室 下村 美香	1	28	0	2
7月31日	医療技術	医療者	看護部	摂食・嚥下障害看護 講師：宮田 智子	1	15	0	0
8月3日	医療技術	医療者	看護部	脳卒中リハビリテーション看護&集中ケア －急性期のリハビリテーション－ 講師：坂井 久恵 長谷川直美	1	34	0	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
8月3日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第4回「めまい」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	15	0	0
8月19日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第5回岐阜市民病院公開講座 「血液検査で知っておくべきこと」 講師：中央検査部長 内木 隆文 (消化器内科医)	1	0	0	57
8月21日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー「RST」 講師：岐阜市民病院 看護師 梶本 聡	1	15	0	0
8月22日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	整形外科WEB講座 「知っておきたい危険な腰痛について」 講師：整形外科 主任部長 宮本 敬	1	0	0	13
9月4日	医療技術	医療者	看護部	緩和ケア 講師：野浦 綾乃	1	14	0	0
9月7日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第5回「頭痛」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	18	0	0
9月15日	医療知識	医療者	リハビリテーション シ ョ ン	岐阜地域連携研修会 「シーティングの理論と実践」 講師：一般社団法人オンラインプレゼンテーション協会 代表理事 車椅子エンバジェンリスト 宇佐見 将太 先生 参加医療機関：山田病院、山内ホスピタル、岐阜清流病院、近石病院、安江病院、河村病院、岩砂病院、愛生病院 の8病院	1	9	110	0
9月19日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー「上気道感染症の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宜行 先生	1	18	0	0
9月27日	医療知識	医療者	医事課	DPC機能評価係数Ⅱ・実績要件分析報告会 講師：秋山 智明 様 (株式会社ソラスト)	1	41	0	0
9月30日	医療技術 各科臨床医	医療者	がん診療 支援部	緩和ケア研修会 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	1	10	13	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
9月30日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第6回岐阜市民病院公開講座 「認知症の治療と支援」 治療の実情と新薬への期待 講師：認知症疾患医療センター長 犬塚 貴（脳神経内科医） 利用できる社会制度など 講師：認知症疾患医療センター相談員 村瀬 智明（精神保健福祉士）	1	0	0	58
10月5日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第6回「腹痛」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	23	0	0
10月21日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第7回岐阜市民病院公開講座 「がん診療連携拠点病院の役割と取り組み」 講師：乳腺外科部長 中田 琢巳 「岐阜市がん検診のお知らせ」 講師：岐阜市健康増進課 小澤 実香 がん相談 がん検診パネル展	1	0	0	57
10月27日	医療技術	医療者	看護部	慢性疾患看護 講師：三浦 加衣	1	7	0	0
10月27日	医療技術	医療者	NST 部会	第1回NST勉強会 「褥瘡・スキンケアの栄養管理」 ニュートリー（株） 川東 美穂氏	1	23	0	0
11月2日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第7回「風邪①」 講師：医療法人社団藤和会 あんどう内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	17	0	0
11月5日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第8回岐阜市民病院公開講座 「糖尿病は治る？治らない？」 講師：総合内科部長 丸山 貴子 (糖尿病内分泌内科)	1	0	0	43
11月9日	医療技術	医療者	看護部	がん放射線療法の基礎知識 講師：竹中 三奈子	1	4	0	0
11月10日	医療技術	医療者	看護部	がん化学療法看護の基礎知識 講師：齊藤美智子	1	10	0	0
11月14日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	整形外科WEB講座 「腰椎椎間板ヘルニアの治療」 講師：整形外科 主任部長 宮本 敬	1	0	0	15
11月15日 11月30日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 「研修医向け末梢挿入中心静脈カテーテルレクチャー」 講師：岐阜市民病院 血液内科 相崎 友宏 先生	1	18	1	0
11月21日	医療技術	医療者	看護部	糖尿病看護2 講師：安田 幸司	1	7	0	0

月 日	研修種別	対象者	主催	研修会名称	開催回数	院内医療者数	院外医療者数	一般
11月21日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修セミナー「皮膚軟部組織感染症の考え方」 講師：岐阜大学大学院医学系研究科 感染症寄附講座 特任教授 手塚 宜行 先生	1	20	0	0
11月21日	医療技術	医療者	災害医療部	衛星通信サービスに関する研修会	1	6	6	0
11月24日	医療技術	医療者	NST 部 会	第2回NST勉強会 「サルコペニアと栄養管理」 ネスレヘルスサイエンスカンパニー 稗田 涼氏	1	25	0	0
11月28日	医療技術	医療者	看護部	心不全患者の病態生理と教育指導 講師：鈴木 厚子	1	27	0	0
11月30日	医療知識 各科臨床医	医療者	岐阜市民病院 血液内科	第3回岐阜地区造血細胞移植地域拠点 病院セミナー 造血幹細胞移植に関わる岐阜地区の絆 (きずな) 「小児造血幹細胞医療研修を通じて」 講師：岐阜市民病院 小児科 下澤 諒太 「ドナー登録の現状と課題」 講師：岐阜骨髓献血希望者を募る会 代表 田中 重勝 先生 「東濃地区における造血幹細胞移植の現状と今後の展望」 講師：岐阜県多治見病院 血液内科部長 小澤 幸泰 先生	1	26	70	0
12月7日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	戦う！研修医のためのプライマリ・ケア道場 ～Season 9～第8回「風邪②」 講師：医療法人社団藤和会 あんどろ内科クリニック 院長 安藤 大樹 先生 (岐阜市民病院 総合診療・リウマチ膠原病センター派遣医師)	1	18	0	0
12月12日 12月19日	全研修医 各科臨床医	医療者	研修センター	研修医レクチャー 「研修医向けエコー実践講座」 講師：岐阜市民病院 中央放射線部 河口 大介 技師	1	16	0	0
12月23日	地域研修	一般市民	岐阜市民病院	第9回岐阜市民病院公開講座 「人生100年時代！目から行うからだの健康対策」 講師：眼科部長 川上 秀昭	1	0	0	41
合 計					73	4,050	281	628

学会発表抄録

を行う事で、安全・確実に苦痛の少ないPBSCCを目指したい。

臨床工学部

末梢血幹細胞採取時における中間値採血の有用性

岐阜市民病院 臨床工学室

小関 優子 祐成振一郎 有賀 健二
村井 琢哉 塚原 勝克

【はじめに】

当院ではTERUMO BCT社製Spectra Optiaを使用し、年間25症例程度の末梢血幹細胞採取（以下PBSCC）を施行している。

中央検査部にBD FACS Lyricフローサイトメーターが設置されているため、院内でのCD34陽性細胞数の迅速測定ができ、PBSCC全例で採取中CD34陽性細胞数採血（以下中間値採血）を行っている。

中間値採血を行うことによりPBSCCのエンドポイントが予想でき、それによって得られる患者への有用性をPBSCC施行時間、PBSCC回数、処理量、血球損失等の患者負担の面から考察したので報告する。

【方法】

過去3年（2020年1月～2022年12月）のCMNC施行患者の予想治療時間と実施時間を比較し、PBSCC施行時間、採取量、処理量が予想より増減したかを判定する。

【結果・考察】

自家移植・同種移植ともに予想治療時間より実施時間が短くなった。また治療時間短縮に伴いクエン酸投与量も削減でき、採取量が減ることで血球損失が抑えられた。

自家移植では採取時間延長による確実な採取や、採取方法変更など治療計画を見直しやすくなった。

効率的な採取が可能になった事で、患者にとって多方面での負担軽減につながり、非常に有用であると考ええる。

【おわりに】

PBSCC時に中間値採血を採用し、約99%の患者が2回目のPBSCC施行までに目標値を採取できている。

今後は中間値採血時間等を再考し更なる治療時間短縮や、CD34陽性細胞数のみならず白血球分画等の中間値結果も活用しPBSCC手技の見直し

活動記録 講演・学会発表等

糖尿病・内分泌内科

インスリンノーマに対するジアゾキシドの至適用量決定にFGMが有効であった一例

尾関咲耶子 山川 顕吾 安田 愛
野田かおる 黒田 英嗣 丸山 貴子
第23回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会
2023年8月19～20日 岐阜

脾臓低形成と肝硬変を背景とした劇症大腸菌敗血症の1剖検例

小澤 直人 安田 愛 尾関咲耶子
野田かおる 山川 顕吾 黒田 英嗣
丸山 貴子
麻酔科・集中治療部
大島 博人
病理診断科部
小野木朱音 田中 卓二
第252回日本内科学会東海地方会
2024年2月18日 岐阜

短期間でサルコペニアが治癒し、その前後の経過を追跡し得たACTH単独欠損症の一例

中島 翔太 尾関咲耶子 野田かおる
安田 愛 山川 顕吾 黒田 英嗣
丸山 貴子
第5回糖尿病・内分泌代謝疾患・膠原病臨床フォーラム
2023年10月5日 岐阜

消化器内科・血液内科

講演(3) 肝臓の早期診断と治療

岐阜市民病院
肝臓内科部長 林 秀樹
令和4年度 岐阜県医師会 県民健康セミナー
ウイルス性肝炎の撲滅をめざして
2023年1月21日 岐阜

基調講演

NAFLD/NASH診療におけるNITと治療の実際

岐阜市民病院
肝臓内科部長 林 秀樹
第2回東海 糖・脂質代謝と肝疾患研究会
2023年1月27日 Web

一般公募演題3：画像による発癌予測、肝機能との関連

FibroScanのLSMおよびCAPを用いたNAFLD患者の肝関連イベント予測～多施設共同研究

岐阜市民病院 消化器内科
林 秀樹
大阪大大学院医学系研究科 生体物理工学
鎌田 佳宏
大阪公立大大学院 肝胆膵病態内科学
藤井 英樹
第29回肝血流動態・機能イメージ研究会
2023年1月29日 WEB

研究報告

当院におけるB型慢性肝疾患の治療成績と長期予後

岐阜市民病院
中央検査部長 内木 隆文
ウイルス肝炎講習会
2023年2月4日 Web

第2部 ハンズオントレーニング

EUSファントムによる抽出トレーニング(コンベックス)

EUSファントムによる抽出トレーニング(ラジアル)

胆管モデルによるERCPトレーニング(EST他)

三重大学
山田 玲子
岐阜市民病院
岩田 圭介
岐阜大学
岩下 拓司
第4回岐阜EUS倶楽部～EUSハンズオントレーニングコース～
2023年2月4日 岐阜

**一般口演8 移植成績 悪性リンパ腫Ⅰ
O8-2 末梢性 T 細胞リンパ腫における初
回治療後の自家末梢血幹細胞移植施行例
の後方視的検討**

A retrospective study of up-front
autologous peripheral blood stem cell
transplantation for PTCLs

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 血液・感染症内科

²⁾岐阜市民病院 血液内科

³⁾岐阜県総合医療センター 血液内科

⁴⁾岐阜赤十字病院 血液内科

⁵⁾高山赤十字病院 血液内科

⁶⁾岐北厚生病院 血液内科

⁷⁾中濃厚生病院 血液内科

⁸⁾松波総合病院 血液・腫瘍内科

金田 裕人¹⁾ 中村 信彦¹⁾ 兼村 信宏¹⁾

松本 拓郎¹⁾ 中村 博¹⁾ 生駒 良和¹⁾

柴田 悠平²⁾ 北川 順一²⁾ 笠原 千嗣²⁾

山田 俊樹³⁾ 澤田 道夫⁴⁾ 福野 賢二⁵⁾

高田 英里⁶⁾ 後藤 英子⁷⁾ 原 武志⁸⁾

鶴見 寿¹⁾ 清水 雅仁¹⁾

第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
2023年2月10日～12日 愛知

ポスター発表9 支持療法

**P9-1 同種造血幹細胞移植患者における
Posaconazole の有効性と安全性の検討**

Efficacy and safety of posaconazole with
allogenic hematopoietic stem cell
transplantation.

岐阜市民病院 血液内科

後藤 貴之 北川 順一 相崎 友宏

鷺崎 知美 山口 公大 柴田 悠平

笠原 千嗣

第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
2023年2月10日～12日 愛知

ポスター発表12 移植成績

急性白血病Ⅱ

**P12-1 PTCY を用いた haplo-PBSCT 後
にドナー細胞白血病を発症し、臍帯血移
植を実施した 1例**

A case of CBT for donor cell leukemia
developed after PTCY haplo-PBSCT

岐阜市民病院 血液内科

柴田 悠平 相崎 友宏 後藤 貴之

鷺崎 知美 山口 公大 北川 順一

笠原 千嗣

第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会
2023年2月10日～12日 愛知

**特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を発
症した腹膜透析患者の1例**

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 血液内科

³⁾医療法人社団大誠会

沼口 宜史¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 相崎 友宏²⁾

河村 涼花¹⁾ 山口 公大²⁾ 柴田 悠平²⁾

北川 順一²⁾ 笠原 千嗣²⁾ 高橋 浩毅¹⁾

山田 佳輝³⁾ 松岡 哲平³⁾

第31回東海腹膜透析研究会
2023年2月12日 愛知

一般講演②「移植関連の話題提供」

岐阜市民病院

血液内科副部長 北川 順一

血液移植カンファレンス
2023年2月17日 Web

第二部 ハンズオンセミナー

**ERCPファントムを用いたESTからステ
ント留置まで**

岐阜市民病院

岩田 圭介

第2回岐阜三重EUS・ERCPハンズオンセミナー
2023年2月18日 愛知

**第二部 これまでの本研究会の歴史と振
り返し**

**②座談会「研究会の思い出と振り返り、
今後に託すこと」**

岐阜市民病院

消化器内視鏡部長 小木曾富生

第115回岐阜県消化器疾患研究会
2023年2月18日 岐阜

血液3

**169. 診断に苦慮した、濾胞性リンパ腫
と末梢性T細胞性リンパ腫を合併した1例**

岐阜市民病院 血液内科

越路 崇玄 後藤 貴之 相崎 友宏

鷺崎 知美 山口 公大 柴田 悠平
北川 順一 笠原 千嗣
第249回日本内科学会東海地方会
2023年2月19日 愛知

腫瘍

186. G-CSF産生小腸腫瘍による好中球・好酸球増多症の1例

岐阜市民病院 血液内科
後藤 貴之 相崎 友宏 鷺崎 知美
山口 公大 柴田 悠平 北川 順一
笠原 千嗣
第249回日本内科学会東海地方会
2023年2月19日 愛知

基調講演

『最新のがん事情～がん検診・治療，ゲノム医療，働き盛り世代のがん～』

岐阜市民病院
副院長 笠原 千嗣
企業にできるがん対策セミナー
2023年2月21日 岐阜

Session1 「AMLの高リスク遺伝子サブセットに対するアプローチ」

岐阜市民病院
副院長・血液内科部長 笠原 千嗣
AML Symposium in Gifu
2023年2月22日 Web

講演1 「Posaconazoleによる同種造血幹細胞移植における真菌予防」

岐阜市民病院
血液内科副部長 北川 順一
血液・感染症領域 Up-to-date
2023年2月28日 Web 大阪

講演① 『内科専攻医としての経験から学ぶ～研修医，専攻医に伝えたいこと』

岐阜市民病院 血液内科
後藤 貴之
第一内科若手医師勉強会
2023年2月28日 岐阜

講演② 『膵腫瘍に対するAI診療への第一歩』

岐阜市民病院 消化器内科
岩佐 悠平
第一内科若手医師勉強会
2023年2月28日 岐阜

講演3 「結石治療におけるデバイス選択と工夫」

岐阜市民病院
岩田 圭介
第2回東海ERCP・EUSセミナー
2023年3月4日 愛知

逆流性食道炎の最近の話題とタケキャブ錠の位置づけ

岐阜市民病院
消化器内科部長 杉山 昭彦
タケキャブWeb seminar
2023年3月8日 岐阜

一般講演「移植非適応骨髄腫治療の課題」

岐阜市民病院
血液内科副部長 北川 順一
多発性骨髄腫 Web Seminar in Gifu－移植非適応患者さんにおける治療－
2023年3月9日 岐阜

急性骨髄性白血病 UP TO DATE

岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室
特任教授
岐阜市民病院
副院長・血液腫瘍センター長 笠原 千嗣
第1回岐阜薬科大学・岐阜市民病院合同薬剤師生涯学習講座
2023年3月16日 Web

Mini Oral Session 61

Hepatobiliary / Pancreatic Cancer5 (Pancreatic cancer)

肝胆膵5 (膵癌)

MO61-5 Phase I study of second-line S-IROX for unresectable pancreatic cancer after first-line gemcitabine plus nab-paclitaxel

nab-Paclitaxel+Gemcitabine 不応切除不能進行膵癌に対する 2nd-line S-IROX 投与に関する臨床第Ⅰ相試験

岐阜市民病院 消化器内科

奥野 充

第20回日本臨床腫瘍学会学術集会

2023年3月16日～18日 福岡

Mini Oral Session 61

**Hepatobiliary / Pancreatic Cancer5
(Pancreatic cancer)**

肝胆膵5 (膵癌)

MO61-5 Phase I study of second-line S-IROX for unresectable pancreatic cancer after first-line gemcitabine plus nab-paclitaxel nab-Paclitaxel+Gemcitabine 不応切除不能進行膵癌に対する 2nd-line S-IROX 投与に関する臨床第Ⅰ相試験

岐阜市民病院 消化器内科

奥野 充

第20回日本臨床腫瘍学会学術集会

2023年3月16日～18日 福岡

一般演題・ディスカッション

岐阜市民病院

第二内科部長 西垣 洋一

肝細胞癌治療講演会 in GIFU ～薬物治療のパラダイムシフト～

2023年3月17日 Web

がん診療連携拠点病院としての当院の役割と活動

岐阜市民病院

副院長・がん診療局長 笠原 千嗣

第12回岐阜市民病院公開講座

2023年3月18日 岐阜

骨病変を有する新規多発性骨髄腫に対する抗CD38抗体併用治療

岐阜市民病院

血液内科副部長 北川 順一

造血器腫瘍Webセミナー

2023年3月24日 Web

**一般演題 (口演) 膵 EUS
O-053 深層学習を用いた造影超音波内視鏡画像に対する膵腫瘍良悪性鑑別の検討**

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科

²⁾岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科

岩佐 悠平¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 原 武史²⁾

手塚 隆一¹⁾ 千住 明彦¹⁾ 上村 真也¹⁾

清水 雅仁¹⁾ 杉下 友麻²⁾

第109回日本消化器病学会総会

2023年4月6日～8日 長崎

**一般演題 (ミニオーラル) 胆道4
MO-048. DIC合併の重症総胆管結石性胆管炎に対するリコンビナントトロンボモジュリンの有用性**

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科

²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科

³⁾岐阜市民病院 消化器内科

丸田 明範¹⁾ 吉田 健作¹⁾ 岩下 拓司²⁾

岩田 圭介³⁾ 清水 省吾¹⁾ 清水 雅仁²⁾

第109回日本消化器病学会総会

2023年4月6日～8日 長崎

**一般演題 (ミニオーラル) 膵癌1
MO-094. 高齢者切除不能進行膵癌に対するmodified FOLFIRINOXの治療成績**

¹⁾岐阜大学医学部附属病院

²⁾岐阜市民病院

³⁾岐阜県総合医療センター

手塚 隆一¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 岩田 圭介²⁾

丸田 明範³⁾ 千住 明彦¹⁾ 上村 真也¹⁾

清水 雅仁¹⁾

第109回日本消化器病学会総会

2023年4月6日～8日 長崎

**一般演題 (ミニオーラル) 膵 内視鏡2
MO-135 膵癌早期診断における病理診断能改善を目的とした膵液セルブロック法の検討**

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科

²⁾岐阜市民病院 病理診断科

奥野 充¹⁾ 田中 卓二²⁾ 岩田 圭介¹⁾

第109回日本消化器病学会総会

2023年4月6日～8日 長崎

Session②：特別講演

『血液疾患患者における新型コロナ診療
の実際と対策』

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原千嗣

エバシエルド Infection Control Web Conference
in Gifu

2023年4月12日 Web

特別講演『血液疾患患者における新型コロナ
診療の実際と対策』

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原 千嗣

エバシエルド Infection Control Web Conference

2023年5月10日 Web

講演②『AML治療における移植周辺での
ベネクレスタの役割について』

岐阜市民病院

血液内科副部長・輸血部長 北川 順一

岐阜県AML研究会

2023年4月21日 岐阜

パネルディスカッション4 インシデント
事例から学ぶ輸血看護の取り組み
PD4-4 医療安全推進室から輸血療法の安全
を守る・高める・考える¹⁾岐阜市民病院 医療安全推進部²⁾岐阜市民病院 看護部³⁾岐阜市民病院 輸血部林 昌代¹⁾²⁾ 中永 徳子²⁾ 松浦 知子²⁾下村 真由²⁾ 国枝 桃子²⁾ 中村 玲奈²⁾白田 直美³⁾ 南谷 美朱¹⁾ 北川 順一³⁾

第71回日本輸血・細胞治療学会総会

2023年5月10日～13日 千葉

膵がんを克服するために

岐阜市民病院

消化器病センター長 岩田 圭介

第1回岐阜市民病院公開講座

2023年4月22日 岐阜

特別講演②

『同種移植におけるベネクレスタの役
割』

岐阜市民病院

副院長 笠原 千嗣

Abbvie Oncology seminar

2023年4月26日 Web

一般演題（ポスター）11 輸血に関する
地域・調査活動P-66 岐阜県中小規模病院における血液
製剤使用実態についての検討¹⁾大垣市民病院 血液内科²⁾岐阜県合同輸血療法委員会・専門部会³⁾松波総合病院⁴⁾岐阜市民病院 血液内科⁵⁾岐阜県赤十字血液センター⁶⁾岐阜県医師会⁷⁾岐阜県合同輸血療法委員会高木 雄介¹⁾²⁾ 森本 剛史³⁾⁷⁾ 北川 順一⁴⁾⁷⁾鶴見 寿³⁾⁷⁾ 高橋 健⁵⁾⁷⁾ 西野 好則⁶⁾⁷⁾小杉 浩史¹⁾⁷⁾

第71回日本輸血・細胞治療学会総会

2023年5月10日～13日 千葉（11日）

ポスター発表

MANAGEMENT OF BENIGN HEPATICOJEJUNOSTOMY
ANASTOMOTIC STENOSIS USING BALLOON
ENDOSCOPY-ASSISTED ERCP: RETROSPECTIVE
COHORT STUDY¹⁾Department of gastroenterology, Gifu municipal
hospital²⁾First department of internal medicine, Gifu
university hospitalYuhei Iwasa¹⁾ Takuji Iwashita²⁾Keisuke Iwata¹⁾ Mitsuru Okuno¹⁾Eiichi Tomita¹⁾ Shinya Uemura²⁾Ryuichi Tezuka²⁾ Akihiko Senju²⁾Masahito Shimizu²⁾

DDW 2023

2023年5月6日～9日 Chicago

一般講演

「実臨床における消化管疾患を考える」

岐阜市民病院 消化器内科

小林 立樹

第2回消化管疾患を考える若手医師の会 in 岐阜

2023年5月11日 岐阜

一般演題セッションA-II

A-II-1 ATO投与中に心嚢液貯留を認めたAPLの一例

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 血液・感染症内科²⁾岐阜市民病院 血液内科後藤 貴之^{1,2)} 中村 信彦¹⁾ 鷺崎 知美²⁾島津 諒磨¹⁾ 金田 裕人¹⁾ 生駒 良和¹⁾松本 拓郎¹⁾ 中村 博¹⁾ 兼村 信宏¹⁾清水 雅仁¹⁾

第12回日本血液学会東海地方会

2023年5月21日 愛知

シンポジウム5 Innovative Therapeutic Endoscopy : 良性胆管狭窄に対する内視鏡治療

S05-2. 術後良性胆管空腸吻合部狭窄に対する治療の検討

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科岩佐 悠平¹⁾ 岩田 圭介¹⁾ 岩下拓 司²⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

シンポジウム7 IgG4 関連疾患 : 内視鏡の役割 (胆膵/全体)

S07-8. 自己免疫性膵炎における EUS-FNB の組織診断能の比較検討 : 19G FNB 針 versus 22G FNB 針

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科²⁾岐阜市民病院 消化器内科岩田 翔太¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 岩田 圭介²⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

パネルディスカッション4 胆管結石 : 治療困難例への対処 (胆膵)

PD04-10.術後再建腸管症例の総胆管結石治療における EUS ガイド下順行性治療と balloon endoscopy-assisted ERCP の比較検討

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科岩佐 悠平¹⁾ 岩田 圭介¹⁾岩下 拓司²⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

ワークショップ6 慢性膵炎に対する内視鏡治療の現状と今後

WS06-8.膵石治療における膵管鏡下直接破砕術と ESWL の比較

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜大学 第一内科岩田 圭介¹⁾ 岩下 拓司²⁾清水 雅仁²⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演30 肝胆膵 : 膵 IPMN O30-2. IPMN 内の壁在結節の評価に対する造影ハーモニック EUS の有用性に関する検討

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科³⁾岐阜市民病院 消化器内科吉田 健作¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介³⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演35 肝胆膵 : FNA O35-6. EUS-FNA でのリンパ節生検における有害事象軽減と病理診断能を考慮した穿刺針選択

岐阜市民病院 消化器内科

奥野 充 岩佐 悠平 岩田 圭介

第105回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演 36 肝胆膵 : EUS-CD O36-2. 3次元画像解析を用いて測定した被包化膵壊死の体積と内視鏡治療成績との関係

¹⁾東京大学大学院 医学系研究科 消化器内科²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科³⁾兵庫医科大学 消化器内科学 肝胆膵内科⁴⁾近畿大学医学部 消化器内科⁵⁾岐阜市民病院 消化器内科⁶⁾神戸大学大学院 医学研究科内科学講座 消化器内科学分野⁷⁾埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科⁸⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科

⁹⁾順天堂大学 医学部附属順天堂医院 消化器内科

¹⁰⁾富山大学 学術研究部医学系内科学第三講座
佐藤 達也¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 塩見 英之³⁾
竹中 完⁴⁾ 岩田 圭介⁵⁾ 増田 充弘⁶⁾
松原 三郎⁷⁾ 丸田 明範⁸⁾ 齋藤 友隆¹⁾
濱田 毅¹⁾ 伊佐山浩通⁹⁾ 安田 一郎¹⁰⁾
中井 陽介¹⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会
2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演 58 肝胆膵：高齢 2 O58-6. 高齢者の総胆管結石性胆管炎に対する一期的内視鏡治療の有用性と課題

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
³⁾岐阜市民病院 消化器内科
丸田 明範¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介³⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会
2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演59 肝胆膵：胆管ステント O59-6. 傾向スコアマッチングを用いた切除不能悪性肝門部領域胆管閉塞に対する両葉SEMS・インサイドステント留置の比較

岐阜市民病院 消化器内科
奥野 充 岩佐 悠平 岩田 圭介

第105回日本消化器内視鏡学会総会
2023年5月25日～27日 東京

一般演題 口演65 肝胆膵：ERCP ドレナージ O65-3. 肝門部領域胆管癌水平方向進展度評価におけるマッピングバイオプシーの有用性と問題点

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾金沢医科大学 消化器内視鏡科
³⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
⁴⁾岐阜大学病院 第一内科
下城 宏太¹⁾ 奥野 充¹⁾ 岩田 圭介¹⁾
向井 強¹⁾²⁾ 岩佐 悠平¹⁾ 杉山 昭彦¹⁾
西垣 洋一¹⁾ 丸田 明範³⁾ 岩下 拓司⁴⁾
富田 栄一¹⁾

第105回日本消化器内視鏡学会総会
2023年5月25日～27日 東京

パネルディスカッション3 エラストグラフィ (肝・膵領域) 96-PD-消化-16 日本人における Agile score の有用性の検討

¹⁾佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
²⁾佐賀大学医学部附属病院 検査部
³⁾岐阜市民病院 消化器内科
⁴⁾横浜市立大学 肝胆膵消化器病学
⁵⁾済生会吹田病院 消化器内科
⁶⁾大垣市民病院 消化器内科
⁷⁾大阪大学生体物理工学講座病態超音波医学研究室
大枝 敏¹⁾²⁾ 林 秀樹³⁾ 米田 正人⁴⁾
島 俊英⁵⁾ 豊田 秀徳⁶⁾ 鎌田 佳宏⁷⁾
高橋 宏和¹⁾ 中島 淳⁴⁾

日本超音波医学会第96回学術集会
2023年5月27日～29日 埼玉

ワークショップ4 肝疾患における画像診断の進歩

WS4-2 FibroScanのLSM およびCAPを用いたNAFLD患者の肝関連イベント予測～多施設共同研究

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾大阪大大学院 医学系研究科・生体物理工学
³⁾大阪公立大学大学院 医学研究科・肝胆膵病態内科学
林 秀樹¹⁾ 鎌田 佳宏²⁾ 藤井 英樹³⁾

第59回日本肝臓学会総会
2023年6月15日～16日 奈良

シンポジウム2 『肝胆膵疾患の診断と治療における挑戦と課題』

S2-9 切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対する片葉と両葉インサイドプラスチックステント留置選択

岐阜市民病院 消化器内科
奥野 充 岩佐 悠平 岩田 圭介

日本消化器病学会東海支部第138回例会
2023年6月17日 愛知

一般演題 膵1

1 Walled-off necrosis (WON) に対する内視鏡的ネクロセクトミー (EN) 中の出血に対してコアグラスパーが有効であった 2 例

岐阜市民病院 消化器内科

伊藤 有紀 奥野 充 川出 真史
 岩佐 悠平 岩田 圭介 大西 拓海
 小林 立樹 日野 孝彬 高木 暁広
 小居 幹太 河内 隆宏 小木曾富生
 林 秀樹 杉山 昭彦 西垣 洋一
 富田 栄一

日本消化器病学会東海支部第138回例会

2023年6月17日 愛知

肝2

64門脈圧亢進症状を呈した腸間膜動静脈奇形の一例

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜市民病院 外科³⁾岐阜市民病院 病理診断科

小居 幹太¹⁾ 林 秀樹¹⁾ 大西 拓海¹⁾
 川出 真史¹⁾ 小林 立樹¹⁾ 日野 孝彬¹⁾
 伊藤 有紀¹⁾ 高木 暁広¹⁾ 岩佐 悠平¹⁾
 奥野 充¹⁾ 河内 隆宏¹⁾ 小木曾富生¹⁾
 岩田 圭介¹⁾ 杉山 昭彦¹⁾ 西垣 洋一¹⁾
 富田 栄一¹⁾ 今井 健晴²⁾ 渡部 直樹³⁾

日本消化器病学会東海支部第138回例会

2023年6月17日 愛知

一般演題 (口演) 40 病院運営5 (組織運営)

1-I-08 コングルーエンス・モデルを視点においた看護部支援プログラム (NSP) 活動

岐阜市民病院

笠原 千嗣 葛谷 命 服部 佳朗
 柴田 悠平 篠田 邦大 山田 誠
 太田宗一郎 富田 栄一

第25回日本医療マネジメント学会学術総会

2023年6月23日～24日 神奈川

一般演題 (口演) 83 病院運営 11 (組織運営)

2-H-01 当院における委員会・会議機能の明確化・効率化と働き方改革への対応

岐阜市民病院

山田 誠 篠田 幸江 笠原 千嗣
 篠田 邦大 太田宗一郎 富田 栄一

第25回日本医療マネジメント学会学術総会

2023年6月23日～24日 神奈川

一般演題 (口演) 90

医療情報 5 (電子カルテ、IT関連)

2-I-24 AI問診導入と医師事務作業補助者による代行入力の中央化による業務効率化の取り組み

¹⁾岐阜市民病院 医事課²⁾岐阜市民病院 外科³⁾岐阜市民病院 診療情報管理室⁴⁾岐阜市民病院 血液内科⁵⁾岐阜市民病院 医療推進局服部 佳朗¹⁾ 山田 誠²⁾ 小森 美幸³⁾柴田 悠平⁴⁾ 篠田 邦大⁵⁾ 笠原 千嗣⁴⁾

第25回日本医療マネジメント学会学術総会

2023年6月23日～24日 神奈川

ポスターセッション6 アテゾリズマブ + ベバシズマブ併用療法 2

P6-1 当科における高齢の進行肝細胞癌患者に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法の有用性と安全性についての検討

岐阜市民病院 消化器内科

林 秀樹 大西 拓海 川出 真史
 小林 立樹 日野 孝彬 伊藤 有紀
 高木 暁広 小居 幹太 岩佐 悠平
 奥野 充 河内 隆宏 小木曾富生
 岩田 圭介 杉山 昭彦 西垣 洋一
 富田 栄一

第28回日本肝がん分子標的治療研究会

2023年6月23日～24日 北海道

Development of bile cell block (CB) specimens of biliary tract cancer (BTC) for cancer genomic profiling (CGP)

Mitsuru Okuno¹⁾ Takuji Tanaka²⁾Hiroyuki Tomita³⁾ Tomohiro Kanayama³⁾Keisuke Iwata¹⁾ Yohei Shirakami⁴⁾Eiichi Tomita¹⁾ Masahito Shimizu⁴⁾

2nd JAC-AACR Precision Cancer Medicine International Conference

2023年6月28日～30日 京都

Discussion2

『LPL第一再発期の治療を考える』

岐阜市民病院 血液内科

岡本 大典

第4回Tokai Young Hematologist Conference
2023年6月30日 愛知

一般演題 『移植関連血栓性微小血管症 (TA-TMA) に対する血漿交換療法』

岐阜市民病院
輸血部長 北川 順一
血液DICオンラインセミナー
2023年7月7日 Web

一般講演 「岐阜市民病院における Sequential 治療の工夫とレンバチニブの位置づけ」

岐阜市民病院
消化器内科副部長 河内 隆宏
薬物Sequence Seminar in GIFU
2023年7月14日 岐阜

第一部 肝門部症例検討会&ディスカッション

**「悪性肝門部胆道狭窄のドレナージ
～metal stenting using stent in stent technique～」**
岐阜市民病院

消化器病センター長・胆膵内科部長
岩田 圭介

第2回中日本胆膵内視鏡カンファレンス
2023年7月15日 富山

ディスカッション

『DLBCLの治療選択～安全性を中心に～』

松波総合病院
血液・腫瘍内科部長 原 武志
高山赤十字病院
血液内科部長 福野 賢二
中濃厚生病院
血液内科部長 後藤 英子
岐阜市民病院
副院長・血液内科部長 笠原 千嗣
岐阜大学医学部附属病院
血液・感染症内科准教授 兼村 信宏
Chugai Lymphoma Seminar in Gifu ポライビー適
正使用講演会
2023年7月21日 岐阜

シンポジウム4 「急性膵炎の致命率改

善への集学的治療」

SY4-3 ERCP 後膵炎重症化のリスク因子

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
²⁾岐阜市民病院 消化器内科
上村 真也¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 千住 明彦¹⁾
手塚 隆一¹⁾ 奥野 充²⁾ 岩田 圭介²⁾
清水 雅仁¹⁾

第54回日本膵臓学会大会
2023年7月21日～22日 福岡

パネルディスカッション4

**「膵 interventional endoscopy の最前線」
PD4-8 膵石治療における膵管鏡下直接
破碎術と ESWL の比較**

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
³⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
岩田 圭介¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 清水 雅仁²⁾
岩佐 悠平¹⁾ 奥野 充²⁾ 千住 明彦²⁾
手塚 隆一²⁾ 上村 真也²⁾ 吉田 健作³⁾
丸田 明範³⁾ 富田 栄一¹⁾

第54回日本膵臓学会大会
2023年7月21日～22日 福岡

**ミニシンポジウム1 「膵神経内分泌腫瘍」
MWS1-3 高齢者切除不能膵癌における
modified FOLFIRINOX の治療成績**

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
²⁾岐阜市民病院
手塚 隆一¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 岩田 圭介²⁾

第54回日本膵臓学会大会
2023年7月21日～22日 福岡

**一般演題 (口演) 12 慢性膵炎 (治療)
O12-3 難治性膵石・膵管狭窄に対する
膵管ステント留置後の膵炎再燃のリスク
因子に関する検討**

¹⁾岐阜県総合医療センター
²⁾岐阜市民病院
³⁾岐阜大学医学部附属病院
吉田 健作¹⁾ 丸田 明範¹⁾ 清水 省吾¹⁾
岩田 圭介²⁾ 上村 真也³⁾ 岩下 拓司³⁾
清水 雅仁³⁾

第54回日本膵臓学会大会
2023年7月21日～22日 福岡

一般演題 (口演) 19 健診・啓発活動**O19-3 当院での膵ドックの現状**

岐阜市民病院 消化器内科

岩佐 悠平 奥野 充 岩田 圭介

富田 栄一

第54回日本膵臓学会大会

2023年7月21日～22日 福岡

一般演題 (口演) 52 臨床と病理の連携**O52-1 市中病院での膵癌 CGP 検査を考慮した EUS-FNA 検体採取法・タイミングの検討**¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜市民病院 病理診断科奥野 充¹⁾ 田中 卓二²⁾ 岩田 圭介¹⁾

第54回日本膵臓学会大会

2023年7月21日～22日 福岡

一般演題**1. 「原発性骨髄繊維症に対するABO血液型メジャーミスマッチ非血縁者間骨髄移植後のpoor graft function」**

岐阜市民病院 血液内科

渡部 大輝

第12回岐阜造血幹細胞移植研究会

2023年7月26日 岐阜

ポスター9 化学療法3**P9-3 当科における高齢者の進行肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法の治療成績**

Outcome of Atezolizumab plus Bevacizumab therapy in elderly patients with advanced Hepatocellular Carcinoma

岐阜市民病院 消化器内科

林 秀樹 大西 拓海 川出 真史

小林 立樹 日野 孝彬 伊藤 有紀

高木 暁広 小居 幹太 岩佐 悠平

奥野 充 河内 隆宏 小木曾富生

岩田 圭介 杉山 昭彦 西垣 洋一

富田 栄一

第59回日本肝臓学会

2023年7月27日～28日 大阪

「血液検査で知っておくべきこと」

岐阜市民病院

中央検査部長 内木 隆文

令和5年度第5回岐阜市民病院公開講座

2023年8月19日 岐阜

基調講演「RFA 私の流儀」

岐阜市民病院 消化器内科

西垣 洋一

第1回岐阜肝癌局所治療研究会

2023年8月24日 Web

症例提示2「心臓直下の肝細胞癌の一例」

岐阜市民病院 消化器内科

河内 隆宏

第1回岐阜肝癌局所治療研究会

2023年8月24日 Web

未治療のFLT3-ITD陽性AMLの治療戦略

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原 千嗣

AML Webセミナー

2023年8月24日 Web

ディスカッション『移植非適応ALLの治療ストラテジーを再考する』

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原 千嗣

Acute Lymphoblastic Leukemia Symposium in 2023

2023年8月28日 愛知

講演1**「未治療FLT3-ITD陽性AMLのマネジメント」**

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原 千嗣

QuANTUM-First Web講演会

2023年9月1日 Web

一般演題1「難治性PTCL治療経験からの考察」

岐阜市民病院

血液腫瘍センター長・輸血部長 北川 順一

Tリンパ腫治療 Web seminar in GIFU

2023年9月7日 岐阜

消化器2 (肝臓)

14. FibroScan[®]630 expert の使用経験

¹⁾ 岐阜市民病院 中央放射線部

²⁾ 同 消化器内科

橋本 駿介¹⁾ 小澤 将直¹⁾ 河口 大介¹⁾
足立 裕紀¹⁾ 渡部 麻里¹⁾ 横山 貴優¹⁾
高橋 秀幸¹⁾ 林 伸次¹⁾ 西垣 洋一²⁾
林 秀樹²⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

消化器2 (肝臓)

15. 肝線維化診断における超音波検査 (FibroScan : Transient elastography) と MRI の比較検討

¹⁾ 岐阜市民病院 中央放射線部

²⁾ 同 消化器内科

河口 大介¹⁾ 橋本 駿介¹⁾ 足立 裕紀¹⁾
小澤 将直¹⁾ 渡邊 麻里¹⁾ 横山 貴優¹⁾
林 伸次¹⁾ 西垣 洋一²⁾ 林 秀樹²⁾
奥野 充²⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

消化器2 (肝臓)

16. 非アルコール性脂肪性肝疾患の診断における Controlled Attenuation Parameter の有用性

¹⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

²⁾ 同 放射線科

小林 立樹¹⁾ 西垣 洋一¹⁾ 林 秀樹¹⁾
河内 隆宏¹⁾ 奥野 充¹⁾ 小澤 将直²⁾
橋本 駿介²⁾ 河口 大介²⁾ 高橋 秀幸²⁾
林 伸次²⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

その他

28. 小児性急性巣状細菌性腎炎 / 膿瘍形成の一例

¹⁾ 岐阜市民病院 中央放射線部

²⁾ 同 消化器内科

小澤 将直¹⁾ 橋本 駿介¹⁾ 河口 大介¹⁾
足立 裕紀¹⁾ 渡部 麻里¹⁾ 横山 貴優¹⁾
高橋 秀幸¹⁾ 林 伸次¹⁾ 西垣 洋一²⁾

林 秀樹²⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

消化器5 (胆膵)

44. 胆嚢病変に対する造影ハーモニック EUS の有用性に関する検討

¹⁾ 岐阜県総合医療センター 消化器内科

²⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

³⁾ 岐阜大学医学部附属病院 第一内科

吉田 健作¹⁾ 丸田 明範¹⁾ 入谷 壮一¹⁾

清水 省吾¹⁾ 岩田 圭介²⁾ 岩下 拓司³⁾

清水 雅仁³⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

消化器5 (胆膵)

45. 自己免疫性膵炎における EUS-FNB の組織診断能の有用性の検討

¹⁾ 岐阜大学医学部附属病院 第一内科

²⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

岩田 翔太¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 千住 明彦¹⁾

手塚 隆一¹⁾ 上村 真也¹⁾ 岩佐 悠平²⁾

奥野 充²⁾ 岩田 圭介²⁾ 清水 雅仁¹⁾

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

消化器5 (胆膵)

46. EUS-FNA でのリンパ節生検における病理診断能と有害事象軽減を考慮した穿刺針 選択

岐阜市民病院 消化器内科

村山 由季 奥野 充 岩佐 悠平

岩田 圭介 河内 隆宏 小木曾富生

林 秀樹 杉山 昭彦 西垣 洋一

富田 栄一

日本超音波医学会第44回中部地方会学術集会

2023年9月10日 岐阜

シンポジウム1 「肝門部領域胆管癌に対する術前診断の最適化」

S1-1 Mapping biopsy での肝門部領域胆管癌水平方向進展度診断：現状と診断能改善法の検討

¹⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

²⁾ 岐阜大学医学部附属病院 第一内科

奥野 充¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介¹⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

シンポジウム2 「切除不能・再発胆道癌
 に対する治療戦略：ドレナージ・薬物療
 法・外科治療」
 S2-2 切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対
 する片葉・両葉胆管内 PS 留置比較：多
 施設共同傾向スコア分析結果

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
 奥野 充¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介¹⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

パネルディスカッション2 「胆嚢癌の術
 前診断：可能性と限界」
 PD2-8 胆嚢癌術前診断に対する造影ハー
 モニック EUS の有用性に関する検討

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
³⁾岐阜市民病院 消化器内科
 吉田 健作¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介³⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

ワークショップ4 「難治性胆汁漏に対す
 る治療」
 WS4-1 術後胆汁漏の重症化因子と内視
 鏡的胆道ドレナージの有用性

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
 下城 宏太¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介¹⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

デジタルポスター 43
 胆道ステント・ドレナージ (5)
 DP-257 非切除遠位悪性胆道狭窄に対す
 るinside SEMSの成績

¹⁾中濃厚生病院 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
³⁾岐阜市民病院 消化器内科
 三田 直樹¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 千住 明彦²⁾
 手塚 隆一²⁾ 岩佐 悠平³⁾ 奥野 充³⁾

上村 真也²⁾ 岩田 圭介³⁾ 戸田 勝久¹⁾
 清水 雅仁²⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

デジタルポスター49 胆管狭窄 (3)
 DP-291 術後良性胆管空腸吻合部狭窄に
 対する治療の検討

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
 岩佐 悠平¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 奥野 充¹⁾
 千住 明彦²⁾ 手塚 隆一²⁾ 上村 真也²⁾
 清水 雅仁²⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

デジタルポスター 61 胆管炎 (4)
 DP-360 DIC合併の重症総胆管結石性胆管
 炎に対するリコンビナントトロンボモジュ
 リンの有用性

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
²⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
³⁾岐阜市民病院 消化器内科
 丸田 明範¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介³⁾
 吉田 健作¹⁾ 清水 省吾¹⁾ 清水 雅仁²⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

デジタルポスター 69
 切除不能・再発腫瘍・Conversion surgery
 (5)
 DP-413 切除不能進行胆道癌に対するGC
 S療法の有用性, 安全性

¹⁾岐阜大学医学部附属病院 第一内科
²⁾岐阜市民病院 消化器内科
³⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科
 手塚 隆一¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 千住 明彦¹⁾
 上村 真也¹⁾ 岩佐 悠平²⁾ 奥野 充²⁾
 岩田 圭介²⁾ 吉田 健作³⁾ 丸田 明範³⁾
 清水 雅仁¹⁾
 第59回日本胆道学会学術集会
 2023年9月14日～15日 北海道

特別講演 『NAFLD/NASH診療における治
 療の実際 ～糖・脂質代謝の側面から～』
 岐阜市民病院

肝臓内科部長 林 秀樹
第205回高山市医師会学術講演会
2023年9月20日 岐阜

一般講演+ディスカッション 『同種造血幹細胞移植におけるベネクレ クスタの役割』

岐阜市民病院
血液内科副部長 北川 順一
AML Transplantation Expert Seminar
2023年9月26日 岐阜

ハイリスク患者に対する同種造血幹細胞 移植

岐阜市民病院
血液内科副部長 北川 順一
同種造血幹細胞移植webinar
2023年9月27日 Web

基調講演『クローン病の最新治療』

岐阜市民病院 消化器内科
消化器内視鏡部長 小木曾富生
第3回消化管疾患を考える若手医師の会 in 岐阜
2023年10月13日 岐阜

O1-pm1-11 MDS: Basic 1 O1-pm1-11#3 Mis-splicing due to somatic U2AF2 mutations in myeloid neoplasms

- ¹Department of Pathology and Tumor
²Biology, Kyoto University, Kyoto, Japan
²Institute for the Advanced Study of Human
Biology (WPI-ASHBi), Kyoto University,
Kyoto, Japan
³MLL, Munich Leukemia Laboratory, Munich,
Germany
⁴Department of Hematology, Gifu University,
Gifu, Japan
⁵Department of Hematology, Gifu Municipal
Hospital, Gifu, Japan
⁶Department of Hematology, Hyogo College of
Medicine Hospital, Hyogo, Japan
⁷Department of Hematology, Tazuke Kofukai
Medical Research Institute, Kitano Hospital,
Osaka, Japan
⁸Department of Hematology, Atomic Bomb
Disease and Hibakusha Medicine Unit, Atomic

Bomb Disease Institute, Nagasaki University,
Nagasaki, Japan

- ⁹Department of Molecular Medicine, University
of Pavia, Pavia, Italy
¹⁰Sasebo City General Hospital, Nagasaki, Japan
¹¹Sumitomo Hospital, Osaka, Japan
¹²Department of Medicine, Faculty of Medicine,
Chulalongkorn University, King Chulalongkorn
Memorial Hospital, Bangkok, Thailand
¹³Department of Hematology, Tokyo Medical
University, Tokyo, Japan
¹⁴Department of Medicine, Centre for Hematology and
Regenerative Medicine, Karolinska Institute,
Stockholm, Sweden

Xingxing Qi¹⁾²⁾ Testuichi Yoshizato¹⁾
Yasuhito Nannya¹⁾ Masahiro M Nakagawa¹⁾
Ayana Kon¹⁾ Takuto Mori¹⁾
Akinori Yoda¹⁾ Yotaro Ochi¹⁾
June Takeda¹⁾ Ryunosuke Saiki¹⁾
Lanying Zhao¹⁾ Torsten Haferlach³⁾
Nobuhiro Kanemura⁴⁾ Senji Kasahara⁵⁾
Satoshi Yoshihara⁶⁾ Toshiyuki Kitano⁷⁾
Eva Hellstrom Lindberg¹⁾
Yasushi Miyazaki⁸⁾ Luca Malcovati⁹⁾
Rena Kamijo¹⁰⁾ Yukiko Doi¹¹⁾
Chantana Polprasert¹²⁾
Kazuma Ohyashiki¹³⁾ HidekiMakishima¹⁾
Seishi Ogawa¹⁾²⁾¹⁴⁾

第85回日本血液学会学術集会
2023年10月13日～15日 東京

O1-pm1-11 MDS: Basic 1 O1-pm1-11#4 Characteristics and clonal structure of myeloid neoplasms with der (1;7) (q10;p10)

- ¹Department of Pathology and Tumor Biology,
Kyoto University, Kyoto, Japan
²Center for iPS Research and Application, Kyoto
University, Kyoto, Japan
³Department of Hematology and Oncology,
Graduate School of Medicine, Kyoto University,
Kyoto, Japan
⁴Department of Hematology, Kobe City Medical
Center General Hospital, Hyogo, Japan
⁵Department of Advanced Diagnosis, Clinical
Research Center, National Hospital
Organization Nagoya Medical Center, Nagoya,
Japan
⁶Department of Hematology, Gunma University

- Graduate School of Medicine, Gunma, Japan
- ⁷⁾ Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan
- ⁸⁾ Japan Adult Leukemia Study Group, Japan
- ⁹⁾ Department of Internal Medicine, Gifu University Graduate School of Medicine, Gifu, Japan
- ¹⁰⁾ Department of Hematology, Tazuke Kofukai, Medical Research Institute, Kitano Hospital, Japan
- ¹¹⁾ Laboratory of Sequence Data Analysis, Human Genome Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ¹²⁾ Department of Hematology, Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center, Hyogo, Japan
- ¹³⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan
- ¹⁴⁾ Department of Laboratory Medicine, Uji-Tokushukai Medical Center, Uji, Japan
- ¹⁵⁾ Department of Hematology, Institute of Medicine, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan
- ¹⁶⁾ Department of Hematology, Chugoku Central Hospital, Hiroshima, Japan
- ¹⁷⁾ Department of Hematology, Tokyo Medical University, Japan
- ¹⁸⁾ The Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Japan
- ¹⁹⁾ Department of Integrated Analytics, M&D Data Science Center, Tokyo Medical and Dental University, Japan
- ²⁰⁾ Department of Medicine, Center for Hematology and Regenerative Medicine, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden
- ²¹⁾ Institute for the Advanced Study of Human Biology (WPI-ASHBi), Kyoto University, Kyoto, Japan
- Rurika Okuda¹⁾ Yotaro Ochi¹⁾
 Ryunosuke Saiki¹⁾ Kazuhisa Chonabayashi²⁾³⁾
 Nobuhiro Hiramoto⁴⁾ Masashi Sanada¹⁾⁵⁾
 Hiroshi Handa⁶⁾ Senji Kasahara⁷⁾
 Shinya Sato⁸⁾ Nobuhiro Kanemura⁹⁾
 Toshiyuki Kitano¹⁰⁾ Mizuki Watanabe³⁾
 Yuichi Shiraishi¹¹⁾ Mitsumasa Watanabe¹²⁾
 Kensuke Usuki¹³⁾ Shinsaku Imashuku¹⁴⁾
 Shigeru Chiba¹⁵⁾ Nobuo Sezaki¹⁶⁾
 Yasushi Miyazaki⁸⁾ Yoshinori Yoshida²⁾
 Takayuki Ishikawa⁴⁾ Kazuma Ohyashiki¹⁷⁾
 Yoshiko Atsuta¹⁸⁾ Yusuke Shiozawa¹⁾
 Satoru Miyano¹⁹⁾ Hideki Makishima¹⁾

Yasuhito Nannya¹⁾ Seishi Ogawa¹⁾²⁰⁾²¹⁾
 第85回日本血液学会学術集会
 2023年10月13日～15日 東京

**ポスター 1-pm1-2 AML：層別化治療
 P1-pm1-2#6 Initial treatment for
 untreated elderly acute myeloid leukemia
 at a single institution**

Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

Tomohiro Aizaki Yuhei Shibata
 Takayuki Goto Tomomi Suzuki
 Kimihiro Yamaguchi Junichi Kitagawa,
 Senji Kasahara

第85回日本血液学会学術集会
 2023年10月13日～15日 東京

**ポスター 1-am1-4
 造血幹細胞移植：自家・同種移植 1
 P1-am1-4#6 Poor graft function after
 major ABO-incompatible unrelated BMT
 successfully treated with rituximab**

¹⁾ Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital

²⁾ Department of Hematology, Matsunami General Hospital

Taiki Watanabe¹⁾ Junichi Kitagawa¹⁾
 Daisuke Okamoto¹⁾ Tomohiro Aizaki¹⁾
 Toshiharu Kato¹⁾ Kimihiro Yamaguchi¹⁾
 Yuhei Sibata¹⁾ Senji Kasahara¹⁾
 Hisashi Tsurumi²⁾

第85回日本血液学会学術集会
 2023年10月13日～15日 東京

**O2-am1-12 MPN：臨床 3
 O2-am1-12#6 Distinct clinico-molecular
 features of CSF3R-mutated myeloid
 neoplasms based on mutation type**

¹⁾ Department of Hematology, Chiba University Hospital, Chiba

²⁾ Department of Transfusion Medicine and Cell Therapy, Chiba University Hospital

³⁾ Department of Hematology/Oncology, IMSUT Hospital, Tokyo

⁴⁾ Division of Stem Cell Molecular Medicine, IMSUT, University of Tokyo

⁵⁾ Department of Hematology, Kobe City Medical

Center General Hospital, Hyogo

⁶⁾ Department of Hematology, Tokyo Medical University, Tokyo

⁷⁾ Department of Hematology, Chugoku Central Hospital, Hiroshima

⁸⁾ Division of Diabetes, Endocrinology and Hematology, DMU Saitama Medical Center

⁹⁾ Department of Hematology, Gifu University, Gifu

¹⁰⁾ Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu

¹¹⁾ Department of Hematology & Oncology, Dokkyo Medical University, Tochigi

¹²⁾ Department of Molecular Medicine, University of Pavia, Pavia, Italy

¹³⁾ Division of Hematology, Karolinska University Hospital, Stockholm, Sweden

¹⁴⁾ Department of Pathology and Tumor Biology, Kyoto University

Nagisa Ohima Hasegawa¹⁾

Kazuaki Yokoyama³⁾ Motohiko Oshima⁴⁾

Nobuhiro Hiramoto⁵⁾ Kazuma Oyasiki⁶⁾

Toru Kiguchi⁷⁾ Nobuhiro Kanemura⁹⁾

Chihiro Ri¹⁾ Shinichiro Matsui¹²⁾

Arata Ishii¹⁾ Koji Takaishi¹⁾

Shokichi Tsukamoto¹⁾ Yusuke Takeda¹⁾

Naoya Mimura¹²⁾ Senji Kasahara¹⁰⁾

Kinuko Mitani¹¹⁾ Luca Malcovati¹²⁾

Eva HellstromLindberg¹³⁾

Atsushi Iwama⁴⁾ Seishi Ogawa¹⁴⁾

Emiko Sakaida¹²⁾ Yasuhito Nanya³⁾¹⁴⁾

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

O2-pm2-12

インドレント B 細胞 リンパ腫：臨床 4 O2-pm2-12#2 Activity of zanubrutinib in chronic lymphocytic leukemia/small lymphocytic lymphoma (CLL/SLL)

¹⁾ Aiiku Hospital, Sapporo, Japan

²⁾ Chiba-Ken Cancer Center, Chiba, Japan

³⁾ Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

⁴⁾ Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan

⁵⁾ Aomori Prefectural Central Hospital, Aomori, Japan

⁶⁾ National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, Sapporo, Japan

⁷⁾ Matsuyama Red Cross Hospital, Matsuyama,

Japan

⁸⁾ Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan

⁹⁾ Kurume University Hospital, Kurume, Japan

¹⁰⁾ Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan

¹¹⁾ Yokohama Municipal Citizen's Hospital, Yokohama, Japan

¹²⁾ National Hospital Organization Okayama Medical Center, Okayama, Japan

¹³⁾ Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

¹⁴⁾ BeiGene (Shanghai) Co., Ltd., Shanghai, China and BeiGene USA, Inc., San Mateo, CA, USA

¹⁵⁾ National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan

Takeshi Kondo¹⁾ Masahiro Takeuchi²⁾

Takayuki Ishikawa³⁾ Kazuyuki Shimada⁴⁾

Kohmei Kubo⁵⁾ Katsuya Fujimoto⁶⁾

Tomoaki Fujisaki⁷⁾ Shingo Kurahashi⁸⁾

Koji Nagafuji⁹⁾ Rika Sakai¹⁰⁾

Tomonori Nakazato¹¹⁾ Kazutaka Sunami¹²⁾

Senji Kasahara¹³⁾ Haiyi Guo¹⁴⁾

Chris Tankersley¹⁴⁾ Jinhua Zhong¹⁴⁾

Koji Izutsu¹⁵⁾

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

O2-pm2-12

インドレント B 細胞 リンパ腫：臨床 4 O2-pm2-12#3 Efficacy and safety of zanubrutinib (Zanu) in Japanese pa- tients (Pts) with B-cell malignancies

¹⁾ Aomori Prefectural Central Hospital, Aomori, Japan

²⁾ Chiba-Ken Cancer Center, Chiba, Japan

³⁾ Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

⁴⁾ Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan

⁵⁾ Aiiku Hospital, Sapporo, Japan

⁶⁾ National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, Sapporo, Japan

⁷⁾ Matsuyama Red Cross Hospital, Matsuyama, Japan

⁸⁾ Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan

⁹⁾ Kurume University Hospital, Kurume, Japan

¹⁰⁾ Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan

¹¹⁾ Yokohama Municipal Citizen's Hospital, Yokohama, Japan

¹²⁾ National Hospital Organization Okayama Medical Center, Okayama, Japan

¹³⁾ Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

¹⁴ BeiGene (Shanghai) Co., Ltd., Shanghai, China and BeiGene USA, Inc., San Mateo, CA, USA

¹⁵ National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan

Kohmei Kubo¹ Masahiro Takeuchi²
Takayuki Ishikawa³ Kazuyuki Shimada⁴
Takeshi Kondo⁵ Katsuya Fujimoto⁶
Tomoaki Fujisaki⁷ Shingo Kurahashi⁸
Koji Nagafuji⁹ Rika Sakai¹⁰
Tomonori Nakazato¹¹ Kazutaka Sunami¹²
Senji Kasahara¹³ Haiyi Guo¹⁴
Motohisa Takai¹⁴ Jinhua Zhong¹⁴
Koji Izutsu¹⁵

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

O2-pm2-12

インドレント B 細胞 リンパ腫：臨床 4 O2-pm2-12#4 Activity of zanubrutinib (Zanu) in Japanese patients with Waldenström macroglobulinemia (WM)

¹ Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan
² Chiba-Ken Cancer Center, Chiba, Japan
³ Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan
⁴ Aomori Prefectural Central Hospital, Aomori, Japan
⁵ Aiiiku Hospital, Sapporo, Japan
⁶ National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, Sapporo, Japan
⁷ Matsuyama Red Cross Hospital, Matsuyama, Japan
⁸ Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan
⁹ Kurume University Hospital, Kurume, Japan
¹⁰ Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan
¹¹ Yokohama Municipal Citizen's Hospital, Yokohama, Japan
¹² National Hospital Organization Okayama Medical Center, Okayama, Japan
¹³ Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan
¹⁴ BeiGene (Shanghai) Co., Ltd., Shanghai, China and BeiGene USA, Inc., San Mateo, CA, USA
¹⁵ National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan
Kazuyuki Shimada¹ Masahiro Takeuchi²
Takayuki Ishikawa³ Kohmei Kubo⁴
Takeshi Kondo⁵ Katsuya Fujimoto⁶
Tomoaki Fujisaki⁷ Shingo Kurahashi⁸
Koji Nagafuji⁹ Rika Sakai¹⁰

Tomonori Nakazato¹¹ Kazutaka Sunami¹²

Senji Kasahara¹³ Aileen Cohen¹⁴

Sheel Patel¹⁴ Jinhua Zhong¹⁴

Koji Izutsu¹⁵

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

O3-am1-12

アグレッシブ B 細胞 リンパ腫：臨床 O3-am1-12#1 Comparison of GCD-R and CHASER as second-line treatment for relapsed or refractory DLBCL

¹ Hematol. & Infect. Dis., Gifu Univ., Gifu, Japan

² Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

³ Department of Hematology, Takayama Red Cross Hospital, Gifu Japan

⁴ Department of Hematology, Gihoku Kosei Hospital, Gifu, Japan

⁵ Department of Hematology, Matsunami General Hospital, Gifu, Japan

⁶ Department of Hematology, Chuno Kosei Hospital, Gifu, Japan

⁷ Department of Hematology, Gifu Red Cross Hospital, Gifu, Japan

Yoshikazu Ikoma¹ Nobuhiko Nakamura¹

Junichi Kitagawa² Naoki Hayase³

Eri Takada⁴ Takuro Matsumoto¹

Yuhei Shibata² Hiroshi Nakamura¹

Kei Fujita⁵ Shin Lee⁵

Tetsuji Morishita⁵ Nobuhiro Kanemura¹

Senji Kasahara² Hideko Goto⁶

Kenji Fukuno³ Takeshi Hara⁵

Michio Sawada⁷ Hisashi Tsurumi^{1,5}

Masahito Shimizu¹

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

O3-am2-12

アグレッシブ B 細胞 リンパ腫/その他 O3-am2-12#4 Clinical features of cardiac lymphoma in our institute

¹ Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan

² Department of Hematology, Matsunami General Hospital, Gifu, Japan

Takayuki Goto¹ Junichi Kitagawa¹

Taiki Watanabe¹⁾ Tomohiro Aizaki¹⁾
 Tomomi Suzuki¹⁾ Kimihiro Yamaguchi¹⁾
 Yuhei Shibata¹⁾ Senji Kasahara¹⁾
 Hisashi Tsurumi²⁾

第85回日本血液学会学術集会
 2023年10月13日～15日 東京

Masanori Motomura¹⁾ Masahiro Nakagawa¹⁾
 Ryunosuke Saiki¹⁾ Akinori Yoda¹⁾
 Rurika Okuda¹⁾ Yuichi Shiraishi¹¹⁾
 Takayuki Ishikawa⁶⁾ Satoru Miyano¹²⁾
 Akifumi Takaori³⁾ Soren Lehmann¹⁴⁾¹⁵⁾
 Seishi Ogawa¹⁾²⁾¹³⁾

第85回日本血液学会学術集会
 2023年10月13日～15日 東京

O3-pm2-9 AML: Epigenetics 2

O3-pm2-9#2 Chromatin accessibility profiling demonstrates epigenetic heterogeneity in acute myeloid leukemia

¹⁾Department of Pathology and Tumor Biology, Kyoto University

²⁾WPI-ASHBi, Kyoto University

³⁾Department of Hematology and Oncology, Kyoto University

⁴⁾Institute of Medical Science, The University of Tokyo

⁵⁾Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital

⁶⁾Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital

⁷⁾Department of Hematology & Infectious Disease, Gifu University Hospital

⁸⁾Department of Hematology, Chugoku Central Hospital

⁹⁾Department of Hematology/ Oncology, Kurashiki Central Hospital

¹⁰⁾Department of Respiratory Medicine and Hematology, Hyogo Medical University

¹¹⁾Genome Analysis Platform Development, National Cancer Center Research Institute

¹²⁾M&D Data Science Center, Tokyo Medical and Dental University

¹³⁾Centre for Haematology and Regenerative Medicine, Karolinska Institute

¹⁴⁾Department of Medical Sciences, Hematology, Uppsala University

¹⁵⁾Department of Medicine Huddinge, Karolinska Institute

¹⁶⁾Division of Hematology, Department of Medicine, Orebro University

Yotaro Ochi¹⁾²⁾³⁾ Yasuhito Nannya¹⁾⁴⁾

Markus Liew-Littorin¹⁶⁾

Senji Kasahara⁵⁾ Nobuhiro Hiramoto⁶⁾

Nobuhiro Kanemura⁷⁾ Nobuo Sezaki⁸⁾

Maki Sakurada³⁾ Makoto Iwasaki³⁾

Junya Kanda³⁾ Yasunori Ueda⁹⁾

Satoshi Yoshihara¹⁰⁾ Albin Osterroos¹⁴⁾

O3-pm2-14 COVID-19

O3-pm2-14#5 Multicenter observational study for COVID-19 severity factors in hematological patients

¹⁾Department of Hematology, Fujita Health University Hospital

²⁾Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital

³⁾Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital

⁴⁾Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation

⁵⁾Department of Hematology, Hokkaido University Hospital

⁶⁾Department of Hematology and Oncology, Nagoya City University, Nagoya

⁷⁾Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Aichi Medical University

⁸⁾Department of Hematology/Oncology, Wakayama Medical University

⁹⁾Department of Hematology and Immunology, Kanazawa Medical University

¹⁰⁾Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center

¹¹⁾Hematology and Oncology, Iwate Medical University School of Medicine

¹²⁾Department of Hematology, Kawasaki Medical School

¹³⁾Division of Hematology/Oncology, Kameda Medical Center

¹⁴⁾Department of Hematology, National Hospital Organization Nagoya Medical Center

¹⁵⁾Department of Hematology, Toyota Kosei Hospital

¹⁶⁾Department of Hematology and Oncology, JA Aichi Konan Kosei Hospital

¹⁷⁾Department of Hematology and Oncology, Tosei General Hospital

¹⁸⁾Department of Hematology and Oncology, Toyohashi Municipal Hospital

¹⁹⁾ Division of Hematology, Ichinomiya Municipal Hospital

²⁰⁾ Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

²¹⁾ Blood Disorders Center, Aiku Hospital

²²⁾ Department of Hematology, Osaka City General Hospital

²³⁾ Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daini Hospital

²⁴⁾ Hematology and Oncology, Fujita Health University Okazaki Medical Center

Akinao Okamoto¹⁾ Senji Kasahara²⁾

Hitomi Sawa³⁾ Yoshiko Atsuta⁴⁾

Takahide Ara⁵⁾ Yoshiaki Marumo⁶⁾

Tomohiro Horio⁷⁾ Hiroki Hosoi⁸⁾

Yasufumi Masaki⁹⁾ Shunichi Kimura¹⁰⁾

Tatsuo Oyake¹¹⁾ Eisei Kondo¹²⁾

Daisuke Ikeda¹³⁾ Yasuhiro Suzuki¹⁴⁾

Junji Hiraga¹⁵⁾ Kazutaka Ozeki¹⁶⁾

Tamohiro Kajiguchi¹⁷⁾ Shingo Kurahashi¹⁸⁾

Takahiro Nishiyama¹⁹⁾ Takanobu Morishita²⁰⁾

Minoru Kanaya²¹⁾ Masahiro Yoshida²²⁾

Shigeki Saito²³⁾ Hideyuki Yamamoto¹⁾

Naoe Goto¹⁾ Chisako Iriyama¹⁾

Masataka Okamoto²⁴⁾ Akihiro Tomita¹⁾

第85回日本血液学会学術集会

2023年10月13日～15日 東京

一般演題 『当院における切除不能肝細胞癌の薬物療法 トレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法を中心に』

岐阜市民病院

肝臓内科部長 林 秀樹

岐阜STRiDEセミナー

2023年10月20日 ハイブリッド開催 (岐阜/Web)

講演(3) 肝癌の早期診断と治療

岐阜市民病院

肝臓内科部長 林 秀樹

令和5年度 岐阜県医師会 県民健康セミナー

ウイルス性肝炎の撲滅をめざして

2023年10月21日 岐阜

講演 I 『同種造血幹細胞移植におけるVenetoclaxの役割』

岐阜市民病院

血液内科副部長 北川 順一

AbbVie AML web seminar

2023年10月31日 Web

ワークショップ20 (消化器内視鏡学会・消化器病学会・消化器外科学会)

(JGES Core Session) 胆膵病変に対する内視鏡治療 新たな展開: 偶発症対策を含めて

内W20-2 内視鏡的Reinterventionを考慮した切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対する両葉SEMS・inside PS留置選択: 多施設共同傾向スコア分析結果

¹⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

²⁾ 岐阜大附属病院 1内科

奥野 充¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介¹⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション肝009 (肝臓学会)

NAFLD・NASH (病態・診断) 2

肝P-32 Agile scoreはNAFLD患者の肝関連合併症の予測に有用である～多施設共同研究

¹⁾ 自治医大 消化器内科

²⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

³⁾ 大阪大大学院 生体物理工学

三浦 光一¹⁾ 林 秀樹²⁾ 鎌田 佳宏³⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション肝018 (肝臓学会)

原発性肝癌 (薬物療法) 1

肝P-66 当科における高齢進行肝細胞癌患者に対する薬物療法の治療成績

¹⁾ 岐阜市民病院 消化器内科

²⁾ 岐阜市民病院 中央検査部

³⁾ 岐阜市民病院 病理検査

林 秀樹¹⁾ 西垣 洋一¹⁾ 富田 栄一¹⁾

日野 孝彬¹⁾ 高木 暁広¹⁾ 小居 幹太¹⁾

奥野 充¹⁾ 河内 隆宏¹⁾ 小木曾富生¹⁾

岩田 圭介¹⁾ 杉山 昭彦¹⁾ 内木 隆文²⁾

渡部 直樹³⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション内071 (消化器内視鏡学会)

胆道・胆管 (内視鏡下診断・治療) 1 内P-228 胆嚢結節に対する造影ハーモニックEUSの有用性に関する検討

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科

²⁾岐阜大 1内科

³⁾岐阜市民病院 消化器内科

吉田 健作¹⁾ 丸田 明範¹⁾ 清水 省吾¹⁾

岩下 拓司²⁾ 岩田 圭介³⁾ 清水 雅仁²⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション内074 (消化器内視鏡学会)

胆道・胆管 (結石) 2 内P-240 高齢者の総胆管結石性胆管炎に対する一期的内視鏡治療の有用性と課題

¹⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科

²⁾岐阜大附属病院 1内科

³⁾岐阜市民病院 消化器内科

丸田 明範¹⁾ 吉田 健作¹⁾ 岩下 拓司²⁾

岩田 圭介³⁾ 清水 省吾¹⁾ 清水 雅仁²⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション消075 (消化器病学会)

膵臓 (自己免疫性膵炎) 2 消P-364 自己免疫性膵炎に対するFransen針を用いたEUS-FNBの診断能の比較検討: 19G vs 22G

¹⁾岐阜大附属病院 1内科

²⁾岐阜市民病院 消化器内科

岩田 翔太¹⁾ 岩下 拓司¹⁾ 千住 明彦¹⁾

手塚 隆一¹⁾ 上村 真也¹⁾ 岩佐 悠平²⁾

奥野 充²⁾ 岩田 圭介²⁾ 清水 雅仁¹⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション内093 (消化器内視鏡学会)

胆道・胆管 (内視鏡下診断・治療) 14 内P-299 悪性胆道狭窄に伴う閉塞性黄疸に対するEUS-HGSによるメタリックス

テント留置の治療成績と予後

¹⁾岐阜市民病院 消化器内科

²⁾岐阜大附属病院 1内科

³⁾岐阜県総合医療センター 消化器内科

岩佐 悠平¹⁾ 岩田 圭介¹⁾ 奥野 充¹⁾

岩下 拓司²⁾ 丸田 明範³⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

デジタルポスターセッション内095 (消化器内視鏡学会)

胆道・胆管 (内視鏡下診断・治療) 16 内P-305 非切除遠位悪性胆道狭窄に対するinside SEMSの成績

¹⁾中濃厚生病院 消化器内科

²⁾岐阜大附属病院 1内科

³⁾岐阜市民病院 消化器内科

三田 直樹¹⁾ 岩下 拓司²⁾ 千住 明彦²⁾

手塚 隆一²⁾ 岩佐 悠平³⁾ 奥野 充³⁾

上村 真也²⁾ 岩田 圭介³⁾ 戸田 勝久¹⁾

清水 雅仁²⁾

JDDW2023

2023年11月2日～5日 兵庫

講演1「進行肝細胞癌に対する薬物療法」

岐阜市民病院

肝臓内科部長 林 秀樹

HCVフォーラム in 岐阜

2023年11月16日 岐阜

シンポジウム2『消化器疾患診療における医療安全ー各施設での取り組みー』 S2-9 リンパ節腫脹に対するEUS-FNAの有害事象軽減と病理診断能を考慮した穿刺針選択

岐阜市民病院 消化器内科

奥野 充 岩田 圭介 岩佐 悠平

下城 宏太 伊藤 有紀 河内 隆宏

小木曾富生 林 秀樹 杉山 昭彦

西垣 洋一

日本消化器病学会東海支部例会第139回例会

2023年11月18日 岐阜

講演1

『FLT3-ITD陽性AMLマネジメントの実際』

岐阜市民病院
副院長・血液内科部長 笠原 千嗣
AML Web Seminar
2023年11月22日 岐阜

シンポジウム2

S2-09 術後胆汁漏に対する内視鏡的胆管ドレナージの有効性

岐阜市民病院 消化器内科
下城 宏太 岩田 圭介 奥野 充
第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会
2023年12月2日 愛知

若手優秀演題 下部消化管④

Y-32 血便を契機に発見された直腸MAL Tリンパ腫の1例

¹岐阜市民病院 消化器内科
²岐阜市民病院 病理検査科部
³中部国際医療センター 病理診断科
小林 立樹¹ 小木曾富生¹ 河邊 昌平¹
村山 由季¹ 大西 拓海¹ 佐竹 勇哉¹
下城 宏太¹ 伊藤 有紀¹ 岩佐 悠平¹
奥野 充¹ 河内 隆宏¹ 岩田 圭介¹
林 秀樹¹ 杉山 昭彦¹ 西垣 洋一¹
渡部 直樹² 山田 鉄也³
第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会
2023年12月2日 愛知

若手優秀演題 肝胆膵④

Y-49 自己免疫性膵炎に合併した脾静脈閉塞による胃静脈瘤破裂の1例

岐阜市民病院 消化器内科
村山 由季 岩佐 悠平 佐竹 勇哉
小林 立樹 大西 拓海 下城 宏太
伊藤 有紀 奥野 充 河内 隆宏
小木曾富生 岩田 圭介 林 秀樹
杉山 昭彦 西垣 洋一
第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会
2023年12月2日 愛知

シンポジウム3

C型肝炎治癒後の長期マネージメント SY3-1. C型慢性肝疾患SVR後の肝発癌の検討

¹岐阜大学医学部医学系研究科 消化器内科学
²岐阜市民病院 中央検査部

末次 淳¹ 内木 隆文² 清水 雅仁¹
第45回日本肝臓学会西部会
2023年12月7日～8日 京都

若手セッション1 B型肝炎

OY1-4. HBV高ウイルス量の妊婦に対して核酸アナログ製剤併用による母子感染予防を図った1例

¹岐阜市民病院 消化器内科
²岐阜市民病院 病理診断科部
³岐阜市民病院 中央検査部
沼口 宜史¹ 林 秀樹¹ 下城 宏太¹
奥野 充¹ 河内 隆宏¹ 小木曾富生¹
岩田 圭介¹ 杉山 昭彦¹ 西垣 洋一¹
富田 栄一¹ 渡部 直樹² 内木 隆文³
第45回日本肝臓学会西部会
2023年12月7日～8日 京都

若手セッション3 脂肪性肝疾患・肝がん OY3-3. NAFLD合併高トリグリセリド血症患者に対するペマフィブラートの臨床効果についての検討

¹岐阜市民病院 消化器内科
²岐阜市民病院 病理診断部
³岐阜市民病院 中央検査部
佐竹 勇哉¹ 林 秀樹¹ 奥野 充¹
河内 隆宏¹ 小木曾富生¹ 岩田 圭介¹
杉山 昭彦¹ 西垣 洋一¹ 富田 栄一¹
渡部 直樹² 内木 隆文³
第45回日本肝臓学会西部会
2023年12月7日～8日 京都

若手セッション7 門脈圧亢進症

OY7-4. 胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術を行った重複下大静脈の1例

岐阜市民病院
小澤 直人 西垣 洋一 河内 隆宏
奥野 充 小木曾富生 岩田 圭介
林 秀樹 杉山 昭彦 渡部 直樹
内木 隆文

第45回日本肝臓学会西部会
2023年12月7日～8日 京都

若手セッション10 肝細胞がん③

OY10-3. 肝細胞癌に対してアテゾリズマ

ブ+ベバシズマブ投与後に自己免疫性脳炎を発症した1例

岐阜市民病院

小鳥 雄平 河内 隆宏 奥野 充
 小木曾富生 岩田 圭介 林 秀樹
 杉山 昭彦 西垣 洋一 渡部 直樹
 内木 隆文

第45回日本肝臓学会西部会

2023年12月7日～8日 京都

**若手セッション12 肝細胞がん⑤
OY12-3. 複合免疫療法が有用であった肉腫様変化を伴う進行肝細胞癌の1例**¹⁾岐阜市民病院 消化器内科²⁾岐阜市民病院 病理診断科部³⁾岐阜市民病院 中央検査部

近藤 晃矢¹⁾ 林 秀樹¹⁾ 下城 宏太¹⁾
 奥野 充¹⁾ 河内 隆宏¹⁾ 小木曾富生¹⁾
 岩田 圭介¹⁾ 杉山 昭彦¹⁾ 西垣 洋一¹⁾
 富田 栄一¹⁾ 渡部 直樹²⁾ 内木 隆文³⁾

第45回日本肝臓学会西部会

2023年12月7日～8日 京都

ディスカッション**テーマ：肝細胞癌の治療戦略を考える～薬物療法と局所療法をどう組み合わせるか～**

岐阜市民病院 消化器内科

肝臓内科部長 林 秀樹

岐阜大学医学部附属病院

消化器内科特任教授 高井 光治

岐阜県総合医療センター

消化器内科医長 入谷 壮一

大垣市民病院 消化器内科

腰山 裕一

HCC Clinical Conference In GIFU

2023年12月11日 岐阜

特別講演『移植非適応ALL治療 関連演題』

岐阜市民病院

副院長・血液内科部長 笠原 千嗣

Acute Lymphoblastic Leukemia Symposium in GIFU

2023年12月21日 Web

Web conference ～結石関連～ たかが

胆管結石されど胆管結石**「総論2 総胆管結石治療における採石デバイス選択」**

岐阜市民病院

岩田 圭介

Medicase Vol.45

呼吸器内科

＝講演＝

Lung Cancer Treatment Symposium

～検査・診断・治療・副作用マネジメント～

呼吸器内科医から見るirAEマネジメント

岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科

呼吸器病センター長 堀場あかね

2023年4月9日 岐阜

その息切れは心臓が悪いの？肺が悪いの？どっち？**呼吸器内科医が診る息切れとは**

岐阜市民病院 呼吸器内科

吉田 勉

2023年11月1日 岐阜

ガイドラインに基づく喘息の診断と治療

岐阜市民病院 呼吸器科

呼吸器センター長 堀場あかね

岐阜喘息診療パートナーリングの会

2023年11月9日

＝総会・地方会＝

乳がんと肺がんの重複がん患者の再発評価に再生検が有用であった1例

岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科

岩井 正道 小牧 千人 堀場あかね

石黒 崇 吉田 勉

第123回日本肺癌学会中部支部学術集会

2023年9月2日 静岡

ペングロズマブ併用化学療法中に器質化肺炎を伴うRAを発症した1例

岐阜市民病院 呼吸器・腫瘍内科

近藤 晃矢 岩井 正道 小牧 千人
堀場あかね 石黒 崇 吉田 勉

第124回日本呼吸器学会東海地方会
2023年11月11日 静岡

腎臓内科

＝講演＝

CKD治療におけるSGLT2阻害薬の適正使用に関するrecommendation』を受けた多職種連携・地域連携の重要性

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

岐阜県病院薬剤師会第147回西濃ブロック研修会
2023年2月3日

かかりつけ医との連携を目指したCKD診療～SGLT2阻害薬の適正使用に関するrecommendationを踏まえたダパグリフロジンの可能性～

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

もとす地区CKD診療・医療連携を考える会
2023年2月7日 岐阜

かかりつけ医との連携を目指したCKD診療と教育入院

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

CRA症候群を読み解く
2023年2月27日 Web

当院での腎生検の実績

岐阜市民病院 腎臓内科

河村 涼花

岐阜腎疾患セミナー
2023年3月16日 Web

腎臓内科医兼リウマチ内科医が考える、CKD合併RA患者の安全なマネジメント

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

RA Complication Seminar
2023年3月27日 Web

CKD診療へのSGLT2阻害薬の可能性と腎臓内科・泌尿器科の連携について

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

第30回岐阜泌尿器科病診連携カンファレンス
2023年4月6日 岐阜

当院におけるPD診療 院内連携+地域連携について

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

岐阜県腹膜透析地域連携セミナー
2023年5月18日 Web

かかりつけ医との病診連携を踏まえたCKD診療

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

かかりつけ医のためのCKDセミナー
2023年5月20日 岐阜

かかりつけ医との連携を目指したCKD診療～「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023」を読み解く～

岐阜市民病院 腎臓内科

木村 行宏

第195回下呂市医師会学術講演会
2023年10月19日 岐阜

＝学会発表＝

放置された高血圧により高度腎障害を呈したIgA腎症の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾愛知医科大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科

渡部 大輝¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 河村 涼花¹⁾²⁾

越路 崇玄¹⁾ 小堀ことの¹⁾ 久納美蓉子¹⁾

高橋 浩毅¹⁾ 野畑 宏信²⁾ 山口 真²⁾

石本 卓嗣²⁾

第249回内科学会東海地方会【腎臓】

2023年2月19日 愛知

水田への転落によりAeromonas属の誤嚥性肺炎と横紋筋融解症をきたした1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 呼吸器・腫瘍内科

加藤駿一郎¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 越路 崇玄¹⁾

小堀ことの¹⁾ 河村 涼花¹⁾ 久納美蓉子¹⁾

高橋 浩毅¹⁾ 吉田 勉²⁾

第249回内科学会東海地方会【感染症】

2023年2月19日 愛知

運動誘発性急性腎不全の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 消化器内科

³⁾ 同 放射線科

田中 裕介¹⁾ 河村 涼花¹⁾ 木村 行宏¹⁾

小木曾富生²⁾ 加藤亜希子³⁾ 高橋 浩毅¹⁾

第120回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023【腎臓】

2023年4月15日

ひきこもり状態で放置された2型糖尿病と高血圧が原因で末期腎不全に至った1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 心臓血管外科

³⁾ 同 脳神経外科

⁴⁾ 同 眼科

福岡孝太郎¹⁾ 河村 涼花¹⁾ 木村 行宏¹⁾

高橋 浩毅¹⁾ 加藤 尚能²⁾ 川崎 智弘³⁾

川上 秀昭⁴⁾

第120回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023【腎臓】

2023年4月15日

自己免疫性肝炎の長期治療中に発症したSLEの1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 循環器内科

³⁾ 同 糖尿病・内分泌内科

⁴⁾ 同 眼科

⁵⁾羽島市民病院 消化器内科

⁶⁾愛知医科大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科

杉山 裕美¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 河村 涼花¹⁾

美濃輪大介⁵⁾ 小牧 久晃²⁾ 安田 真智²⁾

幅 智教³⁾ 犬塚 将之⁴⁾ 高橋 浩毅¹⁾

坂野 章吾⁶⁾ 石本 卓嗣⁶⁾

第120回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023【膠原病】

2023年4月15日

血液浄化療法が奏功した急性カフェイン中毒の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 精神科

近藤 晃矢¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 河村 涼花¹⁾

小野 晶平²⁾ 高橋 浩毅¹⁾

第120回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023【中毒】

2023年4月15日

胸部不快感を主訴に来院した薬剤性間質性腎炎の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 循環器内科

³⁾ 同 糖尿病・内分泌内科

⁴⁾ 同 脳神経内科

⁵⁾ 同 泌尿器科

⁶⁾愛知医科大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科

椿 佳那子¹⁾ 渡部 大輝¹⁾ 木村 行宏¹⁾

馬場 慎也²⁾ 尾関咲耶子³⁾ 香村 彰宏⁴⁾

西脇 哲平⁵⁾ 越路 崇玄¹⁾ 中島 佑果¹⁾

河村 涼花¹⁾ 高橋 浩毅¹⁾ 小塩 信介²⁾

石本 卓嗣⁶⁾

第250回内科学会東海地方会【腎臓】

2023年6月25日 三重

腎機能増悪の精査でIgG4関連疾患と前立腺癌が同時発見された1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 泌尿器科

³⁾ 同 呼吸器・腫瘍内科

⁴⁾ 同 皮膚科

⁵⁾ 同 病理診断科

⁶⁾愛知医科大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科

田口 京華¹⁾ 河村 涼花¹⁾ 木村 行宏¹⁾

米田 尚生²⁾ 吉田 勉³⁾ 炭竈 晏奈⁴⁾

越路 崇玄¹⁾ 中島 佑果¹⁾ 高橋 浩毅¹⁾

渡部 直樹⁵⁾ 田中 卓二⁵⁾ 石本 卓嗣⁶⁾

第250回内科学会東海地方会【腎臓】

2023年6月25日 三重

アバタセプト初回投与直後に悪寒戦慄を伴う高熱を呈したが再投与を試みたRA合併維持血液透析患者の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾医療法人社団大誠会

越路 崇玄¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 中島 佑果¹⁾
河村 涼花¹⁾ 高橋 浩毅¹⁾ 山田 佳輝²⁾
松岡 哲平²⁾

第34回中部リウマチ学会

2023年9月15日 長野

虫垂炎併発の末期腎不全に対し腹膜透析 (PD) を導入した1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 外科

永木 鈴子¹⁾ 河村 涼花¹⁾ 木村 行宏¹⁾
鷹羽 律紀²⁾ 今井 健晴²⁾ 越路 崇玄¹⁾
中島 佑果¹⁾ 佐々木義之²⁾ 高橋 浩毅¹⁾

第29回日本腹膜透析医学会

2023年9月30日 東京

特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 加療中に穿孔性腹膜炎をきたした腹膜透析 (PD) 患者の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 外科

³⁾ 同 血液内科

⁴⁾ 同 消化器内科

⁵⁾ 医療法人社団大誠会

近藤 晃矢¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 河村 涼花¹⁾
池野 玄²⁾ 相崎 友宏³⁾ 小林 立樹⁴⁾
今井 健晴²⁾ 越路 崇玄¹⁾ 中島 佑果¹⁾
佐々木義之²⁾ 高橋 浩毅¹⁾ 山田 佳輝⁵⁾
松岡 哲平⁵⁾

第29回日本腹膜透析医学会

2023年9月30日 東京

特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を発症した腹膜透析 (PD) 患者の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 血液内科

³⁾ 医療法人社団大誠会

沼口 宜史¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 相崎 友宏²⁾
河村 涼花¹⁾ 越路 崇玄¹⁾ 中島 佑果¹⁾
山口 公大²⁾ 柴田 悠平²⁾ 北川 順一²⁾
笠原 千嗣²⁾ 高橋 浩毅¹⁾ 山田 佳輝³⁾
松岡 哲平³⁾

第29回日本腹膜透析医学会

2023年10月1日 東京

悪性リンパ腫と同時期に発症したループス腎炎の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾ 同 血液内科

中島 佑果¹⁾ 柴田 悠平²⁾ 木村 行宏¹⁾
河村 涼花¹⁾ 越路 崇玄¹⁾ 高橋 浩毅¹⁾

第53回日本腎臓学会西部学術大会

2023年10月8日 岡山

免疫性血小板減少症 (ITP) の治療中に発症したループス腎炎の1例

¹⁾岐阜市民病院 小児科

²⁾ 同 腎臓内科

³⁾ 同 総合診療・リウマチ膠原病センター

宮部亜里紗¹⁾²⁾ 平手 友章¹⁾ 木村 行宏²⁾
藤岡 圭³⁾ 中島 佑果²⁾ 越路 崇玄²⁾
河村 涼花²⁾ 神田 香織¹⁾ 篠田 邦大¹⁾
高橋 浩毅²⁾

第53回日本腎臓学会西部学術大会

2023年10月8日 岡山

検尿異常指摘も専門医受診に至らず通院自己中断により増悪したIgA腎症の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科

²⁾愛知医科大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科

³⁾ なかうずらクリニック

加納穂乃香¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 後藤 芳章³⁾
越路 崇玄¹⁾ 中島 佑果¹⁾ 河村 涼花¹⁾
高橋 浩毅¹⁾ 西村美の里²⁾ 山口 真²⁾
野畑 宏信²⁾ 石本 卓嗣²⁾

第251回内科学会東海地方会【腎臓】

2023年10月15日

加速型高血圧による腎不全・心不全をきたし意識消失で救急搬送された1例

岐阜市民病院 腎臓内科

日置 幸信 木村 行宏 河村 涼花
越路 崇玄 中島 佑果 高橋 浩毅

第251回内科学会東海地方会【腎臓】

2023年10月15日

帯状疱疹後疼痛を契機に低ナトリウム血症をきたした1例

岐阜市民病院 腎臓内科

阿形 操樹 木村 行宏 河村 涼花
越路 崇玄 中島 佑果 高橋 浩毅
第251回内科学会東海地方会【一般】
2023年10月15日

＝研究会・談話会など＝

特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を発症した腹膜透析患者の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科
²⁾ 同 血液内科
³⁾医療法人社団大誠会
沼口 宜史¹⁾ 木村 行宏¹⁾ 相崎 友宏²⁾
河村 涼花¹⁾ 山口 公大²⁾ 柴田 悠平²⁾
北川 順一²⁾ 笠原 千嗣²⁾ 高橋 浩毅¹⁾
山田 佳輝³⁾ 松岡 哲平³⁾

第31回東海腹膜透析研究会
2023年2月12日 愛知

当院での腎生検の実績

岐阜市民病院 腎臓内科
河村 涼花
岐阜腎疾患セミナー
2023年3月16日 Web

急性血液浄化後に非閉塞性腸管虚血症 (NOMI) を発症した大動脈解離の1例

¹⁾岐阜市民病院 腎臓内科
²⁾ 同 心臓血管外科
³⁾ 同 循環器内科
越路 崇玄¹⁾ 藤井 涼²⁾ 吉住 瞭³⁾
木村 行宏¹⁾ 中島 佑果¹⁾ 河村 涼花¹⁾
高橋 浩毅¹⁾ 村上 栄司²⁾ 東 健一郎²⁾

第41回岐阜県透析研究会
2023年10月29日 岐阜

乳腺外科

当院における乳癌化学療法時の循環器内科との連携の試み

岐阜市民病院 乳腺外科
中田 琢巳 細野 芳樹 大川 舞
第31回日本乳癌学会学術総会
2023年6月29日～7月1日 神奈川

COVID19流行下での乳癌術前化学療法中

に発症したニューモシスチス肺炎を疑われた1例

岐阜市民病院 乳腺外科
細野 芳樹 中田 琢巳 大川 舞
第31回日本乳癌学会学術総会
2023年6月29日～7月1日 神奈川

HER2陽性再発乳癌に対してトラスツズマブ長期投与中の1例

岐阜市民病院 乳腺外科
大川 舞 中田 琢巳 細野 芳樹
第31回日本乳癌学会学術総会
2023年6月29日～7月1日 神奈川

子宮内膜癌と両側乳癌の合併が疑われた子宮内膜癌乳房転移の1例

岐阜市民病院 乳腺外科
松田 佳奈
第304回東海外科学会
2023年10月1日 岐阜

診断までに長期間を要した検診発見乳癌症例の検討

岐阜市民病院 乳腺外科
中田 琢巳 森光 華澄 松田 佳奈
第33回乳癌検診学会学術総会
2023年11月24日?25日 福岡

整形外科

Expandable型椎間ケージを用いた腰椎側方侵入椎体間固定術 (LLIF)の短縮業績

¹⁾岐阜市民病院 整形外科
²⁾岐阜市民病院 形成外科
³⁾岐阜市民病院 リハビリテーション科
宮本 敬¹⁾ 宗宮 一貴¹⁾ 花井 雄貴¹⁾
白井 之尋¹⁾ 山本 孝敏¹⁾ 大野 義幸²⁾
佐々木裕介³⁾
第111回岐阜県整形外科集談会
2023年1月21日

LLIFに前彎角・高さ可変型椎体間ケージを導入した初期経験と今後の展望

岐阜市民病院 整形外科

宮本 敬
第9回日本脊椎前方側方進入手術学会
2024年2月4日

腰椎前側方手術の解剖と方法

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
AO Spine ORP Course
2023年2月18日

腰が曲がる病気に対する最新の治療

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
岐阜市民病院 整形外科WEB講座
2023年2月21日

頸椎診療の轍

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
佐賀県臨床整形外科医会
2023年3月4日

脊柱変形における私の失敗

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
第13回日本成人脊柱変形学会
2023年3月18日

圧迫性頸髄症に対する手術治療の満足度－術式別の影響の検討－

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
第52回日本脊椎脊髄病学会
2023年4月14日

Streptococcus intermedius による頸椎化膿性椎間板炎の1例

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬 沈 元 山本 恭介
花井 雄貴 白井 之尋 山本 孝敏
大野 義幸 佐々木裕介
中部国際医療センター 整形外科
増田 剛宏
平野総合病院 整形外科

細江 英夫
山内ホスピタル 整形外科
川島 健志
第98回東海脊椎脊髄病研究会
2023年6月10日

成人脊柱変形（後彎症）に対する私の手術の変遷、合併症からの学び

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
第38回日本脊髄外科学会
2023年6月15日

再び学ぶ腰椎側方進入椎体固定（LLIF）

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
第17回房総脊椎脊髄手術手技研究会
2023年7月29日

LLIFにおける expandable cage の導入の経験

岐阜市民病院 整形外科
宮本 敬
第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会
2023年11月16日

ラグビー男子高校日本代表アイルランド遠征に帯同して

岐阜市民病院 整形外科
白井 之尋
第9回岐阜スポーツ整形外科研究会
2023年9月9日

橈骨遠位端骨折患者と骨粗鬆症治療

岐阜市民病院（彦根市立病院） 整形外科
山本 恭介
金華山整形外科Meeting2023
2023年3月11日

当院での橈骨遠位端骨折手術患者における骨粗鬆症治療介入率改善への取り組み

¹岐阜市民病院（彦根市立病院） 整形外科
²彦根市民病院 整形外科
³岐阜大学 整形外科

山本 恭介¹⁾ 小川 貴大²⁾ 光石 尚史²⁾
 角田 恒²⁾ 堀 裕彦²⁾ 平川 弘明³⁾
 第66回日本手外科学会学術集会
 2023年4月7～8日

橈骨遠位端骨折手術患者における骨粗鬆症治療介入による治療成績への影響

¹⁾岐阜市民病院 (彦根市立病院) 整形外科
²⁾岐阜大学 整形外科
 山本 恭介¹⁾ 平川 弘明²⁾
 第66回日本手外科学会学術集会
 2023年4月20～21日

稀なサルモネラ菌による中足骨骨髓炎の一例

¹⁾岐阜市民病院 整形外科
²⁾岐阜市民病院 形成外科
 山本 恭介¹⁾ 大野 義幸²⁾
 第48回日本足の外科学会
 2023年10月26～27日

初期治療に難渋した第4、5指引き抜き損傷

岐阜市民病院 整形外科
 山本 恭介
 第2回岐阜県重度四肢外傷「初期治療」Peer Review Web Meeting
 2023年10月29日

形成外科

広背筋皮弁とヒンジ付き創外固定にて加療した開放性(重度)肘関節脱臼および尺骨骨幹部粉碎骨折の1例

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜県重度四肢外傷研究会
 2023年1月29日

Coronal shear fragmentを有する上腕骨遠位端骨折の治療経験

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜市民病院 整形外科
 白井 之尋

第35回日本肘関節学会
 2023年2月3日

手関節鏡下ガングリオン切除術の経験

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜市民病院 整形外科
 山本 恭介
 第67回日本手外科学会
 2023年4月17日

包括的高度慢性下肢虚血が疑われる趾節骨・中足骨、骨髓炎に対する足趾温存手術の試み

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜市民病院 整形外科
 山本 恭介
 第67回日本形成外科学会総会
 2023年4月26日

思春期以降も脛骨遠位部骨折を繰り返し、多数回手術を要した脛骨 Osteofibrous dysplasia の1症例

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜市民病院 整形外科
 山本 恭介 沈 元 平川 昭弘
 第48回日本足の外科学会
 2023年10月26日

感染した人工肘関節に対して遊離血管柄付腓骨移植併用にて肘関節固定術を行った1症例

岐阜市民病院 形成外科
 大野 義幸
 岐阜市民病院 整形外科
 山本 恭介
 第50回日本マイクロサージャリー学会
 2023年12月7日

重度足趾変形に合併した深部感染を伴う足趾腫瘍に対する極小創外固定 (Ichi-Fixator) を併用した足趾温存手術

岐阜市民病院 形成外科

大野 義幸

第4回日本フットケア・足病学会学術集会

2023年12月22日

リハビリテーション科

運動療法の魅力に迫る～作業療法士が知っておきたい疾患別の知識～

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

岐阜県作業療法士会勉強会

2023年6月9日 Web配信

Shoulder pain and abnormal ultrasound findings in wheelchair marashoners

Yusuke Sasaki

Mari Kakita

Takahiro Ogawa

Yukihide Nishimura

Yukio Mikami

Ryuji Shimoe

Ken Kouda

Fumihito Tajima

62nd ISCoS Annual Scientific Meeting

2023.10.8~10.11 Edinburgh,Scotland

パラアスリートのマイオカイン

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

2023年11月3日～11月5日 宮崎

代議員

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

日本リハビリテーション医学会

幹事

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

日本リハビリテーション医学会 中部東海地方会

世話人

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

岐阜県“食”種連携研究会

コアメンバー

岐阜市民病院 リハビリテーション科

佐々木裕介

岐阜地域の地域包括ケアシステム構築専門部(4)

「食べる」を支えるネットワーク

小児科

＝学会発表、講演＝

<国際学会：シンポジウム>

A case Study of BSP for Children in our Department. Symposium 5 A psychotherapy to cure childhood trauma called Brainspotting (BSP) .

Tatsuya Yamashita

The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions
May 26-28, 2023, Kyoto City, Kyoto, Japan

<国内学会・一般演題>

乱用薬物検査キットにて三環系抗うつ薬が偽陽性となったジフェンヒドラミンの多量服薬の2例

篠田 太郎

小児科学会東海地方会 (第287回)

2023年2月5日 愛知

剖検にて診断された新生児絞扼性イレウスの一例

福富 惇

日本小児科学会東海地方会 (第288回)

2023年7月2日 愛知

当院で経験したヒトパレコウイルス(HPeV) 髄膜炎の6例

加藤駿一郎

岐阜県小児科WEB懇話会.

2023年10月5日 オンライン開催

当院で経験したヒトパレコウイルス (HPeV) 髄膜炎の6例

加藤駿一郎

日本小児科学会東海地方会 (第289回)

2023年10月29日 岐阜

「Good Job Team」の活動報告.

篠田 邦大

全国自治体学会 (第61回)

2023年8月31日 北海道

**こどもたちの自立性を引き出す支援
～Smile Magnet Projectを通して～**

湊口 碧

中部小児がんトータルケア研究会 (第23回)

2023年10月21日 オンライン開催

**当科における急性リンパ性白血病型治療
後の骨壊死の検討**

横山 能文

日本血液学会学術集会 (第85回)

2023年10月16日 東京

**治療終了7年後に皮下腫瘍で再発した
BCP-ALLの1例**

横山 能文

日本小児血液・がん学会学術集会 (第65回)

2023年9月29日 北海道

**全身放射線照射を含む前処置で移植を行っ
たKMT2A-rALL**

横山 能文

東海小児造血幹細胞移植研究会 (第70回)

2023年11月17日 web

**一次性生着不全に対し、PTCyを用いた
HLA半合致移植を施行したWiskott-Aldrich
症候群の一例**

下澤 諒大

東海小児造血細胞移植研究会 (第69回)

2023年6月9日 オンライン

両側性Wilms腫瘍の乳児例

下澤 諒大

東海小児がん研究会 (第83回)

2023年9月2日 オンライン

**一次性生着不全に対し、PTCyを用いた
HLA半合致移植を施行したWiskott-Aldrich
症候群の一例**

下澤 諒大

日本小児血液がん学会学術集会 (第65回)

2023年9月30日 北海道

**HHV-6によるウイルス関連血球貪食症候
群を発症した乳児例**

下澤 諒大

日本小児科学会東海地方会 (第289回)

2023年10月29日 岐阜

**初発から9年後に皮下腫瘍として再発し
た急性骨髄性白血病の症例**

平手 友章

第91回東海小児血液懇話会

2023年5月16日 web

**初発から9年後に皮下腫瘍として再発し
た急性骨髄性白血病の1例**

平手 友章 福富 惇 安田 立

神田 香織 下澤 諒大 福富 久

横山 能文 森 真理 篠田 邦大

日本小児血液・がん学会学術集会 (第64回)

2023年9月29日～10月1日 北海道

**生後2ヶ月児に発症した免疫性血小板減
少症の一例**

宮部亜里紗 住吉 孝允 平手 友章

安田 立 神田 香織 下澤 諒大

福富 久 横山 能文 森 真理

篠田 邦大

日本小児血液・がん学会学術集会 (第64回)

2023年9月29日～10月1日 北海道

**免疫性血小板減少症 (ITP) の治療中に
発症した全身性エリテマトーデス (SLE)**

の1例

宮部亜里紗 平手 友章 木村 行宏
 藤岡 圭 中島 佑果 越路 崇玄
 河村 涼花 神田 香織 篠田 邦大
 高橋 浩毅

日本腎臓学会西部学術大会（第53回）
 2023年10月7日～8日 岡山

回復力と逆境的小児期体験（ACE）、HSC（Highly Sensitive Child）の関係性についての検討

山下 達也:

日本小児心身医学会学術集会（第41回）
 2023年9月15-17日 和歌山

長期入院を経験した思春期摂食障害患者に対する復学支援の取り組み ～復学支援会議～

山下 達也:

日本小児心身医学会学術集会（第41回）
 2023年9月15-17日 和歌山

当科における小児へのBSP実践事例

山下 達也

日本ブレインスポッティング研究大会（第4回）
 2023年11月26日 オンライン

寛解導入療法中にCOVID-19を発症しPCR検査陽性が持続した乳児ALLの1例

加藤駿一郎

日本小児血液・がん学会学術集会（第65回）
 2023年9月29日～10月1日 北海道

当院で経験したヒトパレコウイルス（HPeV）髄膜炎の6例

加藤駿一郎

日本小児科学会東海地方会（第289回）
 2023年10月29日 岐阜

剖検にて診断された新生児絞扼性イレウスの一例

福富 惇

日本小児科学会東海地方会（第288回）

2023年7月2日 愛知

剖検にて診断された新生児絞扼性イレウスの一例

福富 惇

日本小児救急医学会学術集会（第36回）
 2023年7月22～23日 千葉

COVID-19感染を契機に痙攣重積型（二相性）脳症（AESD）を発症した一例

福富 惇

日本小児救急医学会学術集会（第36回）
 2023年7月22～23日 千葉

診断に苦慮した抗NMDA受容体脳炎の一例

小林 桜子 福富 久 森 真理
 高橋 幸利 久保田一生 加藤駿一郎
 福富 惇 柄洞 早帆 下澤 諒大
 平手 友章 横山 能文 山下 達也
 神田 香織 篠田 邦大

岐阜県小児科懇話会（第193回）
 2023年12月21日 岐阜

＝＜講演＞＝

小児科医からみたCOVID-19

篠田 邦大

新型コロナ対応人材養成研修会
 2023年1月29日

小児科医からみたCOVID-19

篠田 邦大

いま、あらためてコロナを学ぶ会（第6回）羽島
 郡医師会・羽島市医師会
 2023年2月16日

小児がんリハ導入の道のり

篠田 邦大

JACLS支持療法勉強会
 2023年10月27日 オンライン開催

子どもたちの体を動かし心を満たすリハビリを目指して

横地 裕也

JACLS支持療法勉強会、

2023年10月27日 オンライン開催

一般小児科医のためのてんかん診療エビデンス

高橋 幸利

岐阜県小児科WEB懇話会

2023年10月5日 オンライン開催

医療の立場から不登校について ～子どもたちの外から見てくるもの

山下 達也

子どもたちのケア研修会

2023年11月5日大阪

＝学会招待講演、招待シンポジスト、座長＝**岐阜県小児科WEB懇話会**

座長 篠田 邦大

2023年10月5日 オンライン開催

岐阜県血液疾患研究会 (29回)

座長 篠田 邦大

2023年11月17日 岐阜

眼科**＝講演＝****人生100年時代！目から行うからだの健康対策**

第9回岐阜市民病院公開講座

2023年12月23日

＝学会発表＝**岐阜大学における真菌血症と眼科コンサルテーション**

宮瀬 太志 白木 育美 田中 大貴

米玉 利準 犬塚 将之 川上 秀昭

坂井 翔太 末森 晋典 望月 清文

馬場 尚志 坂口 裕和

第7回東海・北陸支部会深在性真菌症部会

2023年1月28日

初発から16年後にSAPHO症候群と診断された再燃を繰り返した上強膜炎の1例

川上 秀昭 犬塚 将之 望月 清文

第127回日本眼科学会

2023年4月6日～9日 東京

眼内SARS-CoV-2 S-抗体価の上昇がみられた内因性眼内炎の1例

中島 温代 井畑雄太郎 石澤 聡子

宮瀬 太志 川上 秀昭 望月 清文

坂口 裕和

第127回日本眼科学会

2023年4月6日～9日 東京

皮膚科**アトピー性皮膚炎：アトピー性皮膚炎の病態と鑑別疾患**

加納 宏行

日本アレルギー学会第9回総合アレルギー講習会

2023年3月18～19日 大阪+Web

褥瘡エキスパートが考えるDESIGN-R®以外の力：褥瘡を診る虫の目・鳥の目・魚の目

加納 宏行

第25回日本褥瘡学会学術集会シンポジウム8

2023年9月1～2日 兵庫

新時代のアトピー性皮膚炎治療・長期寛解を目指して

加納 宏行

第370回岐阜県病院薬剤師会研修・学術講演会

2023年2月4日 岐阜+Web

プライベートパーツの皮膚疾患

加納 宏行

第31回岐阜泌尿器科病診連携カンファレンス

10月19日 岐阜

皮膚疾患診療の病診連携について～アトピー性皮膚炎治療の例も含めて～

加納 宏行

第96回岐阜市皮膚科医会
10月25日 岐阜

アトピー性皮膚炎の病態と診断

加納 宏行
サイバインコ Web講演会 皮膚免疫と炎症 テーマ：アトピー性皮膚炎
2月3日 Web

新時代のアトピー性皮膚炎治療～長期寛解を目指して

加納 宏行
岐阜県アレルギー疾患セミナー
4月12日 岐阜+Web

アトピー性皮膚炎は克服できる～新時代の治療法～

加納 宏行
乾癬&アトピー性皮膚炎 市民公開講座in岐阜
8月20日 岐阜

高齢者の皮膚特性を考慮した褥瘡診療

加納 宏行
CAPE褥瘡対策セミナー
2023年10月18?26日 Web

成人のアトピー性皮膚炎治療戦略

加納 宏行
Atopic Dermatitis Forum in Gifu
11月29日 Web

Milium-like syringomaの1例

炭竈 晏奈 後藤 祐介 加納 宏行
小野木朱音 渡部 直樹 山崎 隆治
第145回岐阜皮膚科医会
2月16日 岐阜+Web

剖検を施行した進行大腸がんに伴発し Clostridium septicumによるガス壊疽の1例

炭竈 晏奈 加納 宏行 後藤 祐介
大野 義幸 大畠 博人 奥野 充
小野木朱音 渡部 直樹 田中 卓二
第146回岐阜皮膚科医会

5月18日 岐阜
第122回日本皮膚科学会総会
2023年6月1～4日 神奈川+Web

患者報告アウトカム(PRO)で評価した外用療法と全身療法

加納 宏行 後藤 祐介 炭竈 晏奈
第28回アトピー性皮膚炎治療研究会シンポジウム
2023年2月18～19日 北海道+Web
第72回日本アレルギー学会学術大会
2023年10月20～22日 東京+Web

抗癌剤により誘発されたと考えられた強皮症(様皮膚硬化)の2例

加納 宏行 後藤 祐介 炭竈 晏奈
丹菊真理子 平工 由香 小木曾友佑
石黒 崇 小野木朱音 渡部 直樹
田中 卓二
第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会
2023年12月8～10日 千葉+Web

多職種連携により褥瘡治癒とADL改善した一例

富崎 崇 佐々木裕介 今西 宣
武田 広美 佐藤 文則 榊原 浩次
加納 宏行
第18回日本褥瘡学会中部地方会学術集会
2023年6月11日 岐阜

乳児期に発症した抗MDA5抗体強陽性の若年性皮膚筋炎の1例

門脇 朋範 小林 桜子 住吉 孝允
葛西 涼介 尾崎 真人 三輪 友紀
門脇 紗織 白木真由香 久保田一生
山本 崇裕 川本美奈子 川本 典生
加納 宏行 大西 秀典
第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
2023年10月13～15日 埼玉

造影剤静脈注射講習会：血管外漏出(点滴漏れ)

加納 宏行
岐阜市民病院研修医ウェルカムセミナー
2023年4月7日 岐阜

救急外来で診る皮膚疾患

加納 宏行
岐阜市民病院研修医イブニングレクチャー
2023年4月27日 岐阜

実習③皮膚病理のみかた

加納 宏行
第1回皮膚科実習セミナー
2023年6月24日 岐阜

Round Table Discussion

神谷 秀喜 加納 宏行 永井 美貴
岐阜県ソーテックツ錠発売記念講演会
3月8日 岐阜+Web

麻酔科・集中治療部**ICU再入室が必要となった小児けいれん重積型(二相性)急性脳症の一症例**

岐阜市民病院 麻酔科・集中治療部
大島 博人 他
第50回日本集中治療医学会
2023年3月2～4日 京都

交通外傷時の頸部過伸展による頸部硬膜外血腫形成が心肺停止に関与したと考えられた一症例

岐阜市民病院 集中治療部
大島 博人 他
日本集中治療医学会 第7回東海北陸支部学術集会
2023年6月17日 石川

周術期に3%高張食塩水を積極的に使用した小児中大脳動脈瘤破裂の1症例

岐阜市民病院 麻酔科
小泉加奈恵 他
日本麻酔科学会東海・北陸支部第21回学術集会
2023年9月2日 静岡

著明な電解質異常の原因がアトピー性皮膚炎に対するステロイド治療忌避であったと考えられた乳児の一症例

岐阜市民病院 麻酔科・集中治療部
大島 博人 他
日本蘇生学会 第42回大会
2023年11月17～18日 埼玉

病理診断科**呼吸器悪性腫瘍の検体取り扱いについて**

岐阜市民病院 病理診断科部
渡部 直樹
肺がんゲノムセミナーin岐阜
2023年4月19日 岐阜

看護部**きょうだいドナー候補になるプロセスにおける親の葛藤
複線径路等至性アプローチ (TEA) による分析**

小川 丈二
第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会

A病院手術室看護師の手術看護記録に対する意識調査

太平 加与
第12回岐阜看護学会

災害時の病院事業継続計画 (BCP)の効果を高めるための看護の役割

早見 一輝
第25回災害看護学会

災害時における病院の事業継続計画 (BCP)の文献レビュー

早見 一輝
第27回看護管理学会学術集会

A病院初発小児がん患者を初めて受け持つ看護師が抱える困惑感 —reflectionを用いて関りを振り返る—

田中 麻美
第21回日本小児がん看護学会学術集会

妊孕性温存について悩むAYA世代患者への多職種連携チームによる支援活動

野浦 綾乃

第21回日本小児がん看護学会学術集会

当院におけるAYAサポートチームの院内活動の報告

野浦 綾乃

第28回日本緩和医療学会学術大会

A病院救急外来において帰宅となる高齢者を地域に「つなぐ」療養支援の実際と課題

今西 佳代

第25回日本救急看護学会学術集会

病院併設健康管理センターにおける受診率向上に向けた事業改善

中永 徳子

第61回全国自治体病院学会

職場研修の進め方の検討

神谷 里美

第61回全国自治体病院学会

急性期病院における重度意識障害者に実践されている看護の実態調査—看護経験年数別の意識回復看護—

日比野友美

第50回日本脳神経看護研究学会

薬剤部

岐阜市民病院の倫理審査体制再編における薬剤師の関わり

¹⁾岐阜市民病院 薬剤部

²⁾岐阜市民病院 治験・臨床研究管理センター

勝野 隼人¹⁾²⁾ 田中 和秀¹⁾²⁾ 宮川 伊代¹⁾²⁾

青山 智¹⁾²⁾ 安田 昌宏¹⁾ 水井 貴詞¹⁾

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023

2023年11月12日 愛知

GS1コードを利用した医薬品返品システムの構築

大野 佑城 梅田 道 甲田 明英

熊田 理恵 青山 智 安田 昌宏

第56回東海薬剤師学術大会

2023年12月3日 三重

診察前面談から得たS-1副作用マネジメントのポイント

岐阜市民病院 薬剤部

大澤 友裕

TAIHO Web Lecture on Breast Cancer in GIFU

2023年3月24日 岐阜

薬剤部における地域連携の方向性

岐阜市民病院 薬剤部

安田 昌宏

第14回地域連携における安心ながん化学療法を進める会

2023年9月14日 岐阜

外来化学療法センターにおける患者への説明の実際

岐阜市民病院 薬剤部

大澤 友裕

第14回地域連携における安心ながん化学療法を進める会

2023年9月14日 岐阜

アピアランスケアってなに？

岐阜市民病院 薬剤部

大澤 友裕

第43回肺がん医療向上委員会WEBセミナー

2023年9月22日 WEB

病院薬剤師を対象としたキャリアパスの作成—薬剤師のスキル向上を目指して—

岐阜市民病院 薬剤部

池上 遼 勝野 隼人 高井 彩乃

青山 智 安田 昌宏 水井 貴詞

第38回岐阜県病院協会医学会

2023年10月29日 岐阜

CADD-Legacy®ポンプを用いた blinatumomab在宅投与移行プログラムの 検討

- ¹岐阜市民病院 薬剤部
²岐阜市民病院 小児科
³岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室
⁴名古屋市立大学大学院 薬学研究科・臨床薬学分野
⁵岐阜市民病院 血液内科

藤井 祥矢¹ 大澤 友裕¹ 平手 友章²
 神田 香織² 舘 知也^{1,3,4} 水井 貴詞¹
 篠田 邦大² 笠原 千嗣^{3,5} 安田 昌宏^{1,3}

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海
 支部合同学術大会2023
 2023年11月12日 愛知

悪性リンパ腫患者におけるがん化学療法 の医療経済的検討

- ¹岐阜市民病院 薬剤部
²岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室
³岐阜薬科大学 病院薬学研究室
⁴岐阜市民病院 血液内科
- 田中 和秀^{1,2} 舘 知也^{1,2,3} 井上 誠二¹
 安田 昌宏^{1,2} 水井 貴詞¹ 笠原 千嗣^{2,4}

第61回 日本癌治療学会学術集会
 2023年10月19日～21日 神奈川

中央検査部

肝疾患に関する血液検査/肝がん診断と 治療

内木 隆文
 肝炎コーディネーター養成講習会
 2023年2月18日 岐阜

当院におけるB型慢性肝疾患の治療成績

内木 隆文
 ウイルス肝炎講習会
 2023年2月4日 岐阜

ウイルス肝炎の最新治療

内木 隆文
 ウイルス肝炎研修会

2023年6月3日 岐阜

症例検討 (SVR後発癌)

内木 隆文
 岐阜ウイルス性肝炎 エキスパートミーティング2023
 2023年6月10日 岐阜

中央放射線部

タスクシフトの現状

岐阜市民病院 中央放射線部
 野中健太郎
 第72回放射線治療技術研究会
 2023年6月3日 岐阜

COVID-19感染を契機に発症した痙攣重 積型二相性急性脳症の画像診断

岐阜市民病院 中央放射線部
 加藤 誠也
 第64回MR技術研究会
 2023年6月10日 岐阜

当院の陰囊エコーに関して —実際の症例を交えて—

岐阜市民病院 中央放射線部
 足立 裕紀
 第51回超音波研究会
 2023年7月8日 岐阜

FibroScan®630 expertの使用経験

岐阜市民病院 中央放射線部
 橋本 駿介
 日本超音波医学会第44回中部地方会
 2023年9月10日 岐阜

肝線維化診断における超音波検査 (Fibro Scan : Transient elastography) とMRIの 比較検討

岐阜市民病院 中央放射線部
 河口 大介
 日本超音波医学会第44回中部地方会
 2023年9月10日 岐阜

小児性急性巣状細菌性腎炎/膿瘍形成の一例

岐阜市民病院 中央放射線部

小澤 将直

日本超音波医学会第44回中部地方会

2023年9月10日 岐阜

FOVとマトリクスの関係

岐阜市民病院 中央放射線部

加納 暢貴

第38回岐阜県病院協会医学会

2023年10月29日 岐阜

新旧血管撮影装置間での被ばく線量比較

岐阜市民病院 中央放射線部

広瀬 茂樹

第38回岐阜県病院協会医学会

2023年10月29日 岐阜

トモシンセシスガイド下マンモトーム生検を安全に行うための取り組み～技師の立場から～

岐阜市民病院 中央放射線部

山田 裕子

第33回乳癌検診学会学術総会

2023年11月25日 福岡

当院における小児上部尿路感染症のMRI画像診断

岐阜市民病院 中央放射線部

横山 貴優

第65回MR技術研究会

2023年12月9日 岐阜

乳頭分泌物にてCEAが高値を示した一例

岐阜市民病院 中央放射線部

米津 奈保

第17回乳房画像カンファレンス

2023年12月10日 岐阜

塚原 勝克

第23回中部臨床工学会 若手BPA (30才以下) ②

2023年10月28～29日

地域連携部

AI問診導入と医師事務作業補助者による代行入力の中央化による業務効率化の取り組み

服部 佳朗 山田 誠 小森 美幸

柴田 悠平 篠田 邦大 笠原 千嗣

第25回日本医療マネジメント学会学術集会

2023年6月24日 神奈川

「AYAWEEK2023GIFU」県内4つのがん診療連携拠点病院が合同で開催したAYA世代がん患者支援イベント

服部 佳朗 野浦 綾乃 湊口 碧

青木 亮吾 仲田 明子 篠田 邦大

第61回全国自治体病院学会

2023年9月1日 北海道

災害拠点病院の役割を果たすために地域・住民との連携の試み

服部 佳朗 有賀 健二 後藤 朋子

八幡 和憲 村上 栄司

第61回全国自治体病院学会

2023年9月1日 北海道

臨床工学部

座長

活動記録 (誌上)

久納美蓉子 高橋 浩毅 東 健一郎
腎と透析Vol.95別冊 アクセス2023;326-328

腎臓内科/腎臓病・血液浄化センター

乳腺外科

<学会発表論文>

A case of 2,8-DHA crystalline nephropathy caused by adenine phosphoribosyltransferase deficiency: diagnosis and treatment.

Miyoko Kunou, Makoto Yamaguchi,
Hirotake Takahashi, Yukihiro Kimura,
Naoki Watanabe, Mayumi Ito,
Hirokazu Sugiyama, Shiho Iwagaitsu,
Hironobu Nobata, Hiroshi Kinashi,
Takayuki Katsuno, Shogo Banno,
Yasuhiko Ito, Takuji Ishimoto

CEN Case Reports 12(3);329-334,2023

かかりつけ医での腎機能未評価のまま末期腎不全に至った片麻痺患者に腹膜透析を導入した1例

菱田真里亜 河村 涼花 木村 行宏
今井 健晴 越路 崇玄 中島 佑果
小堀ことの 久納美蓉子 高橋 浩毅
洞口 岳 佐々木義之 孫 汀
石本 卓嗣 伊藤 恭彦

腎と透析Vol.95別冊 腹膜透析2023;99-100

腹膜透析導入1年後に横隔膜交通症が判明し, 99mTc-MAAシンチが診断に有用であった1例

亀山 千晶 京極 累 河村 涼花
木村 行宏 小島 寿久 栃洞 亮太
越路 崇玄 中島 佑果 小堀ことの
久納美蓉子 高橋 浩毅 西垣 和彦

腎と透析Vol.95別冊 腹膜透析2023;247-249

前胸部交叉シャント (ネックレスシャント) を造設した1例

加藤駿一郎 村上 栄司 木村 行宏
加藤 尚能 木股竜太郎 越路 崇玄
中島 佑果 小堀ことの 河村 涼花

<原著論文>

診断治療の工夫 乳房切除後のV-Y法を用いた皮膚緊張を低減した閉創法

細野 芳樹 中田 琢巳 大川 舞
乳癌の臨床 38巻1号 Page49-53(2023.02)

小児科

<英文論文>

Current methods of preventing infectious disease and managing febrile neutropenia in childhood cancer patients : a nationwide survey in Japan.

Shinya Osone, Kunihiko Shinoda,
Nobuyuki Yamamoto, Koji Suzuki,
Michihiro Yano, Yuji Ishida,
Yuya Saito, Akihisa Sawada,
Hirozumi Sano, Yoko Kato,
Yuichi Shinkoda, Mariko Kakazu,
Naoko Mori, Shuki Mizutani
& Keitaro Fukushima

International Journal of Clinical Oncology 28, 331-340 (2023)

Eculizumab treatment in paediatric patients diagnosed with aHUS after haematopoietic stem cell transplantation: a HSCT-TMA case series from Japanese aHUS post-marketing surveillance.

Ito S, Saito A, Sakurai A,
Watanabe K, Karakawa S,
Miyamura T, Yokosuka T,
Ueki H, Goto H,
Yagasaki H, Kinoshita M,
Ozeki M, Yokoyama N.
Teranishi H.

Bone Marrow Transplant. 2023 Dec 15

<和文著書>

全身型重症筋無力症の乳児例

西口 雅人 河瀬 彩希 宮崎 太地
大島 有美 平手 友章 大城 一航
福富 久 横山 能文 森 真理
山下 達也 神田 香織 篠田 邦大

小児科臨床別冊, 57-60 (2023)

わが国の小児白血病における腫瘍崩壊症候群への対応の現状

嘉数真理子 大曾根真也 篠田 邦大
矢野 道広 佐野 弘純 新小田雄一
森 尚子 加藤 陽子 足立 壮一
福島啓太郎

日本小児血液・がん学会雑誌, 143-148 (2023)

化学療法を要したNoonan症候群に伴うmyeloproliferative disorderの1例

横山 能文 宮崎 太地 大島 有美
平手 友章 森 真理 山下 達也
神田 香織 篠田 邦大

小児科臨床76巻4号, 553-558(2023)

急性骨髄性白血病患者に対する非血縁者間骨髄移植後に発症したトキソプラズマ脳症

平手 友章 北澤 宏展 坂口 大俊
秋田 直洋 長谷川千尋 山元 佳
忽那 賢志 三木田 馨 森 毅彦
濱 麻人 吉田 奈央

臨床血液 64 (10), 1275~1279 (2023)

皮膚科

<著書>

夏の細菌感染症：蜂窩織炎と粉瘤二次感染

外来で鑑別診断に困ったら 季節をヒントに皮膚を診る (編集：矢上晶子)

加納 宏行 (分担執筆)

2023年3月：メジカルビュー社：102-105

第3章 治療、A. 治療方針、2. 外用治療の方針 寛解導入期編

アトピー性皮膚炎のみかた、考えかた (編集：田中暁生・村上絵美)

加納 宏行 (分担執筆)

2023年10月：中外医学社：41-45

第5章 こんなときどうする、2. ステロイド外用薬が効かない/効かなくなった

アトピー性皮膚炎のみかた、考えかた (編集：田中暁生・村上絵美)

加納 宏行 (分担執筆)

2023年10月：中外医学社：167-170

<原著論文>

毛芽腫が併存した脂腺母斑

後藤 祐介 野田奈津美 加納 宏行

渡部 直樹 田中 卓二

皮膚病診療 45: 364-367, 2023

<総説>

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-1 創傷一般 (第3版)

茂木精一郎 有馬 豪 一木 稔生

植田 郁子 岡田 克之 金子 栄

加納 宏行 倉繁 祐太 清水 晶

澄川 靖之 高橋 秀典 玉城善史郎

徳山 道生 波部 幸司 藤田 英樹

浅野 善英 中西 健史 藤原 浩

前川 武雄 吉野雄一郎 長谷川 稔

藤本 学 立花 隆夫

日本皮膚科学会雑誌 2023; 133(11): 2519-2564

<その他>

病院皮膚科医は絶滅危惧種？持続可能な病院皮膚科のためにできること

加納 宏行

皮膚病診療 2023: 45: 193

第18回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 大会長総括

加納 宏行

日本褥瘡学会雑誌2023: 25 (4): 461?463

選択肢広がるアトピーの治療

加納 宏行

聖教新聞 医療 2023年9月18日、6面

働くあなたのクリニック・体中がかゆい です

加納 宏行

岐阜商工月報 2023: 870: 14-15

病理診断科

Potential Chemopreventive Effects of Dietary Combination of Phytochemicals against Cancer Development.

¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

²⁾ School of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido

³⁾ Advanced Research Promotion Center, Health Sciences University of Hokkaido

Takuji Tanaka¹⁾, Ryogo Aoki¹⁾, Masaru Terasaki²⁾³⁾

Abstract

Cancer remains a major cause of cancer-related death worldwide. Over 70% of epithelial malignancies are sporadic and are related to lifestyle. Epidemiological studies suggest an inverse correlation between cancer incidence and fruit and vegetable intake. Numerous preclinical studies using in vitro (cell lines) and in vivo animal models of oncogenesis have reported the chemopreventive effects of dietary phytochemical agents through alterations in different biomarkers and signaling pathways. However, there is contrasting evidence from preclinical studies and clinical trials. To date, the most studied compounds include curcumin, resveratrol, isoflavones, green tea extract (epigallocatechin gallate), black raspberry powder (anthocyanins and ellagitannins), bilberry extract (anthocyanins), ginger extract (gingerol derivatives), and pomegranate extract (ellagitannins and ellagic acid). Overall, the clinical evidence of the preventive effects of dietary phytochemicals against

cancer development is still weak, and the amount of these phytochemicals needed to exert chemopreventive effects largely exceeds the common dietary doses. Therefore, we propose a combination treatment of natural compounds that are used clinically for another purpose in order to obtain excess inhibitory efficacy via low-dose administration and discuss the possible reasons behind the gap between preclinical research and clinical trials.

Pharmaceuticals (Basel), 16(11):1591, 2023. PMID: 38004456.

Comparison of 19-gauge conventional and Franseen needles for the diagnosis of lymphadenopathy and classification of malignant lymphoma using endoscopic ultrasound fine-needle aspiration

¹⁾Department of Gastroenterology, Gifu Municipal Hospital

²⁾Department of Gastroenterological Endoscopy, Kanazawa Medical University

³⁾ Department of Pathology and Translational Research, Gifu University Graduate School of Medicine

⁴⁾ Department of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

⁵⁾ Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital

⁶⁾ First Department of Internal Medicine, Gifu University Hospital

Mitsuru Okuno¹⁾, Keisuke Iwata¹⁾,
Tsuyoshi Mukai¹⁾²⁾, Yusuke Kito³⁾,
Takuji Tanaka⁴⁾, Naoki Watanabe⁴⁾,
Senji Kasahara⁵⁾, Yuhei Iwasa¹⁾,
Akihiko Sugiyama¹⁾, Youichi Nishigaki¹⁾,
Yuhei Shibata⁵⁾, Junichi Kitagawa⁵⁾,
Takuji Iwashita⁶⁾, Eiichi Tomita¹⁾,
Masahito Shimizu⁶⁾

Abstract

Background/aims: Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration (EUS-FNA) using a 19-gauge needle is an efficient sampling method for the diagnosis of lymphadenopathy. This study compared 19-gauge conventional and Franseen needles for the diagnosis of lymphadenopathy and

classification of malignant lymphoma (ML).

Methods: Patient characteristics, number of needle passes, puncture route, sensitivity, specificity, and accuracy of cytology/histology for lymphadenopathy were analyzed in patients diagnosed with lymphadenopathy by EUS-FNA using conventional or Franseen needles.

Results: Between 2012 and 2022, 146 patients met the inclusion criteria (conventional [n=70] and Franseen [n=76]). The median number of needle passes was significantly lower in the conventional group than in the Franseen group (3 [1–6] vs. 4 [1–6], $p=0.02^3$). There were no significant differences in cytological/histological diagnoses between the two groups. For ML, the immunohistochemical evaluation rate, sensitivity of flow cytometry, and cytogenetic assessment were not significantly different in either group. Bleeding as adverse events (AEs) were observed in three patients in the Franseen group.

Conclusions: Both the 19-gauge conventional and Franseen needles showed high accuracy in lymphadenopathy and ML classification. Considering sufficient tissue collection and the avoidance of AEs, the use of 19-gauge conventional needles seems to be a good option for the diagnosis of lymphadenopathy.

Clin. Endosc., 2023 Sep 8. PMID: 37743067

Fucoxanthin Inhibits Development of Sigmoid Colorectal Cancer in a PDX Model With Alterations of Growth, Adhesion, and Cell Cycle Signals

¹ School of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido

² Advanced Research Promotion Center, Health Sciences University of Hokkaido

³ School of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido

⁴ Department of Diagnostic Pathology and Research Center of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

⁵ Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

⁶ Hokkaido Bunkyo University

⁷ Colorectal Surgery Division, National Cancer Center Hospital

⁸ Division of Diagnostic Pathology, National Cancer Center Hospital

⁹ Central Animal Division, National Cancer Center

¹⁰ Division of Molecular Pharmacology, National Cancer Center Research Institute

Masaru Terasaki¹⁾²⁾, Kirara Tsuruoka³⁾,
Takuji Tanaka⁴⁾, Hayato Maeda⁵⁾,
Masaki Shibata⁵⁾, Kazuo Miyashita⁶⁾,
Yukihide Kanemitsu⁷⁾, Shigeki Sekine⁸⁾,
Mami Takahashi⁹⁾, Shigehiro Yagishita¹⁰⁾,
Akinobu Hamada¹⁰⁾

Abstract

Background/aim: Fucoxanthin (Fx), a dietary marine xanthophyll, exerts potent anticancer effects in various colorectal cancer (CRC) animal models. However, therapeutic effects of Fx in human cancer tissues remain unclear. A patient-derived xenograft (PDX) mouse model transplanted with cancer tissues from patients is widely accepted as the best preclinical model for evaluating the anticancer potential of drug candidates.

Materials and methods: Herein, we investigated the anticancer effects of Fx in PDX mice transplanted with cancer tissues derived from a patient with CRC (CRC-PDX) using LC-MS/MS- and western blot-based proteome analysis.

Results: The tumor in the patient with CRC was a primary adenocarcinoma (T3N0M0, stage II) showing mutations of certain genes that were tumor protein p53 (TP53), AT-rich interaction domain 1A (ARID1A), neuroblastoma RAS viral oncogene homolog (NRAS), and PMS1 homolog 2 (PMS2). Administration of Fx significantly suppressed the tumor growth (0.6-fold) and tended to induce differentiation in CRC-PDX mice. Fx up-regulated glycanated-decorin (Gc-DCN) expression, and down-regulated Kinetochore-associated protein DSN1 homolog (DSN1), phospho(p) focal adhesion kinase (pFAK)(Tyr397), pPaxillin(Tyr31), and c-MYC involved in growth, adhesion, and/or cell cycle, in the tumors of CRC-PDX mice than in control mice. Alterations in the five proteins were consistent with those in human CRC HT-29 and HCT116 cells treated with fucoxanthinol (FxOH, a major metabolite of Fx).

Conclusion: Fx suppresses development of human-like CRC tissues, especially through growth, adhesion, and cell cycle signals.

Onco. 3, 217–236, 2023. PMID: 38035706.

A Novel Mouse Model of Intrahepatic Cholangiocarcinoma Induced by Azoxymethane

¹Department of Gastroenterology, Gifu University Graduate School of Medicine

²Department of Tumor Pathology, Gifu University Graduate School of Medicine

³ Department of Pathological Diagnosis, Gifu Municipal Hospital

Yohei Shirakami¹, Junichi Kato¹,
Masaya Ohnishi¹, Daisuke Taguchi¹,
Toshihide Maeda¹, Takayasu Ideta¹,
Masaya Kubota¹, Hiroyasu Sakai¹,
Hiroyuki Tomita², Takuji Tanaka³,
Masahito Shimizu¹

Abstract

Cholangiocarcinoma is the second most common primary cancer of the liver and has a poor prognosis. Various animal models, including carcinogen-induced and genetically engineered rodent models, have been established to clarify the mechanisms underlying cholangiocarcinoma development. In the present study, we developed a novel mouse model of malignant lesions in the biliary ducts induced by the administration of the carcinogen azoxymethane to obese C57BLKS/J-db/db mice. A histopathological analysis revealed that the biliary tract lesions in the liver appeared to be an intrahepatic cholangiocarcinoma with higher tumor incidence, shorter experimental duration, and a markedly increased incidence in obese mice. Molecular markers analyzed using a microarray and a qPCR indicated that the cancerous lesions originated from the cholangiocytes and developed in the inflamed livers. These findings indicated that this is a novel mouse model of intrahepatic cholangiocarcinoma in the context of steatohepatitis. This model can be used to provide a better understanding of the pathogenic mechanisms of cholangiocarcinoma and to develop novel therapeutic strategies for this malignancy.

Int. J. Mol. Sci., 24(19):14581, 2023. PMID: 37834032.

Induction of MYCN-amplified neuroblastoma differentiation through NMYC suppression using PPAR- γ antagonist

¹Department of Molecular-Targeting Prevention, Kyoto Prefectural University of Medicine

²Department of Diagnostic Pathology & Research Center of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

³Central Radioisotope Division, National Cancer Center Research Institute

⁴ Department of Human Immunology and Nutrition Science, Kyoto Prefectural University of Medicine

⁵Organ Transplantation Center, National Center for Child Health and Development

⁶ Laboratory of Biopharmaceutics and Pharmacokinetics, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Hiroshima International University
Yukako Nakao-Ise¹, Takumi Narita¹,
Shingo Miyamoto¹, Motoki Watanabe¹,
Takuji Tanaka², Yoshihiro Sowa¹,
Yosuke Iizumi¹, Mitsuharu Masuda¹,
Gen Fujii³, Yasuko Hirai⁴,
Toshimasa Nakao^{1,5}, Hideki Takakura^{1,6},
Michihiro Mutoh¹

Abstract

Neuroblastomas are the most common extracranial solid tumors in children and have a unique feature of neuronal differentiation. Peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR)- γ is reported to have neuroprotective effects in addition to having antitumor effects in various cancers. Thus, we aimed to clarify the role of PPAR- γ agonist and antagonist in malignant neuroblastomas, which also possess neuronal features. In MYCN-amplified neuroblastoma CHP212 cells, treatment with the PPAR- γ antagonist GW9662 induced growth inhibition in a dose-dependent manner. In addition, the PPAR- γ antagonist treatment changed cell morphology with increasing expression of the neuronal differentiation marker tubulin beta 3 (TUBB3)

and induced G1 phase arrest and apoptosis in MYCN-amplified neuroblastoma. Notably, the PPAR- γ antagonist treatment significantly decreased expression of NMYC, B-cell lymphoma 2 (BCL2) and bromodomain-containing protein 4 (BRD4). It is implied that BRD4, NMYC, BCL2 suppression by the PPAR- γ antagonist resulted in cell growth inhibition, differentiation, and apoptosis induction. In our in vivo study, the PPAR- γ antagonist treatment induced CHP212 cells differentiation and resultant tumor growth inhibition. Our results provide a deeper understanding of the mechanisms of tumor cell differentiation and suggest that PPAR- γ antagonist is a new therapeutic and prevention option for neuroblastomas.

J. Clin. Biochem.Nutr., 73 (3): 191-197, 2023. PMID: 37970556.

Fucoxanthin Inhibits Development of Sigmoid Colorectal Cancer in a PDX Model With Alterations of Growth, Adhesion, and Cell Cycle Signals

¹⁾ School of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido,

²⁾ Advanced Research Promotion Center, Health Sciences University of Hokkaido

³⁾ School of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido

⁴⁾ Department of Diagnostic Pathology and Research Center of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

⁵⁾ Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

⁶⁾ Hokkaido Bunkyo University

⁷⁾ Colorectal Surgery Division, National Cancer Center Hospital

⁸⁾ Division of Diagnostic Pathology, National Cancer Center Hospital

⁹⁾ Central Animal Division, National Cancer Center

¹⁰⁾ Division of Molecular Pharmacology, National Cancer Center Research Institute

Masaru Terasaki¹⁾²⁾, Kirara Tsuruoka³⁾,
Takuji Tanaka⁴⁾, Hayato Maeda⁵⁾,
Masaki Shibata⁵⁾, Kazuo Miyashita⁶⁾,
Yukihide Kanemitsu⁷⁾, Shigeki Sekine⁸⁾,
Mami Takahashi⁹⁾, Shigehiro Yagishita¹⁰⁾,

Akinobu Hamada¹⁰⁾

Abstract

Background/aim: Fucoxanthin (Fx), a dietary marine xanthophyll, exerts potent anticancer effects in various colorectal cancer (CRC) animal models. However, therapeutic effects of Fx in human cancer tissues remain unclear. A patient-derived xenograft (PDX) mouse model transplanted with cancer tissues from patients is widely accepted as the best preclinical model for evaluating the anticancer potential of drug candidates.

Materials and methods: Herein, we investigated the anticancer effects of Fx in PDX mice transplanted with cancer tissues derived from a patient with CRC (CRC-PDX) using LC-MS/MS- and western blot-based proteome analysis.

Results: The tumor in the patient with CRC was a primary adenocarcinoma (T3N0M0, stage II) showing mutations of certain genes that were tumor protein p53 (TP53), AT-rich interaction domain 1A (ARID1A), neuroblastoma RAS viral oncogene homolog (NRAS), and PMS1 homolog 2 (PMS2). Administration of Fx significantly suppressed the tumor growth (0.6-fold) and tended to induce differentiation in CRC-PDX mice. Fx up-regulated glycanated-decorin (Gc-DCN) expression, and down-regulated Kinetochores-associated protein DSN1 homolog (DSN1), phospho(p) focal adhesion kinase (pFAK)(Tyr³⁹⁷), pPaxillin(Tyr³¹), and c-MYC involved in growth, adhesion, and/or cell cycle, in the tumors of CRC-PDX mice than in control mice. Alterations in the five proteins were consistent with those in human CRC HT-29 and HCT116 cells treated with fucoxanthinol (FxOH, a major metabolite of Fx).

Conclusion: Fx suppresses development of human-like CRC tissues, especially through growth, adhesion, and cell cycle signals.

Cancer Genomics Proteomics, 20(6 suppl):686-705, 2023. PMID: 38035706

Pancreatic Metastases from Renal Cell Carcinoma Showing Atypical Imaging Findings.

¹⁾Department of Gastroenterology, Gifu Municipal Hospital

²⁾Department of Gastroenterological Endoscopy, Kanazawa Medical University

³⁾Department of Diagnostic Pathology, Gifu Municipal Hospital

⁴⁾First Department of Internal Medicine, Gifu University

Yosuke Ohashi¹⁾, Keisuke Iwata¹⁾,
Tsuyoshi Mukai¹⁾²⁾, Yuhei Iwasa¹⁾,
Mitsuru Okuno¹⁾, Akihiko Sugiyama¹⁾,
Youichi Nishigaki¹⁾, Takuji Tanaka³⁾,
Eiichi Tomita¹⁾, Takuji Iwashita⁴⁾,
Masahito Shimizu⁴⁾

Abstract

A 59-year-old man receiving sunitinib chemotherapy for postoperative recurrence of renal cell carcinoma (RCC) metastases was found to have multiple metastases on contrast-enhanced computed tomography (CECT). CECT revealed a typical hyperdense enhanced nodule in the arterial phase of the stomach and head and tail of the pancreas. However, in the uncinate process of the pancreas, CECT revealed an atypical image and a hypodense enhanced nodule in each phase. Both lesions were finally pathologically diagnosed as clear cell carcinoma. Treatment-modified pancreatic metastases from RCC may present with non-specific images; therefore, caution is required when deciding on treatment strategies.

A Case Report. Intern Med.,1783-1723, 2023. PMID: 371646.

仮性動脈瘤を伴う膵動静脈奇形に対し膵全摘術を施行した1例

¹⁾岐阜市民病院外科

²⁾同 病理診断科

松本 圭太¹⁾ 洞口 岳¹⁾ 今井 健晴¹⁾
棚橋 利行¹⁾ 八幡 和憲¹⁾ 佐々木義之¹⁾
山田 誠¹⁾ 渡部 直樹²⁾ 田中 卓二²⁾

内容要旨

症例は59歳の男性。心窩部痛が出現し改善しないため、当院受診した。腹部単純CTで膵体部に石灰化を伴う腫瘤性病変を認めた。EUSで腫瘤部は血管主体であり、脾動脈瘤破裂を疑う所見であった。造影CTを施行したところ膵全体に拡がる動静脈奇形と診断し、膵全摘が必要と判断した。手

術待機中に心窩部痛が再度出現し、CTで脾動脈瘤出血を認めたが、保存的治療で軽快し、待機的に膵全摘術、脾摘術を行った。膵周囲は炎症の影響が剥離に難渋し、異常血管の発達も認め剥離の際に出血量が多くなった。また、腫瘤は門脈とも一塊となっており門脈再建を要した。術後は胆管空腸吻合部狭窄、肝膿瘍のため治療を要したが、術後46日目に退院となった。病理組織学的検査では大小様々な血管の集簇を認め、周囲膵腺房は萎縮と線維化を認め、膵動静脈奇形として矛盾しない像であった。

日外科系連会誌 48 (1) : 71-76, 2023

薬剤部

Melphalan Febrile Neutropenia Risk Factors

¹⁾Dept. of Pharmacy, Gifu Municipal Hospital,

²⁾Laboratory of Pharmaceutical Health Care and Promotion, and

³⁾Laboratory of Clinical Pharmacy, Gifu Pharmaceutical University

⁴⁾Dept. of Hematology, Gifu Municipal Hospital
Masahiro Yasuda¹⁾²⁾³⁾, Tomoya Tachi¹⁾²⁾³⁾,
Tomohiro Osawa¹⁾, Shoya Fujii¹⁾,
Seiji Inoue¹⁾, Hisataka Watanabe¹⁾,
Teppei Makino¹⁾, Katsuhiko Nagaya¹⁾,
Miho Morita¹⁾, Kazuhide Tanaka¹⁾,
Yuka Tanaka¹⁾, Satoshi Aoyama¹⁾,
Hitomi Teramachi³⁾, Senji Kasahara²⁾⁴⁾,
Takashi Mizui¹⁾

癌と化学療法 50(6): 707-711, 2023.

<研究：原著>

医師および薬剤師の協働によるアミノレブリン酸塩酸塩使用患者への薬学的介入効果

¹⁾岐阜市民病院 薬剤部

²⁾岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室

³⁾岐阜市民病院 泌尿器科

田中 和秀¹⁾ 舘 知也¹⁾²⁾ 高井 彩乃¹⁾
青山 智¹⁾ 安田 昌宏¹⁾²⁾ 笠原 千嗣³⁾
米田 尚生³⁾ 水井 貴詞¹⁾

癌と化学療法50(11):1185-1189, 2023年

多施設共通のアファチニブ・ワークシート作成の取り組みとその副作用評価

岐阜市民病院 薬剤部

大澤 友裕 梅田 道 安田 昌宏

水井 貴詞

岐阜大学医学部附属病院 薬剤部

飯原 大稔

大垣市民病院 薬剤部

浅野 裕紀 吉村 知哲

名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター

長谷川貴昭

岐阜薬科大学 健康医療薬学研究室

館 知也

岐阜市民病院 がん診療分野

澤 祥幸

岐阜市民病院 血液内科

笠原 千嗣

日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 33, 10-16 (2023)

精神科入院患者における全薬剤による薬物有害事象の治療等に要した費用および精神神経用薬の適正使用による削減可能費用の評価

¹⁾岐阜市民病院 薬剤部

²⁾岐阜薬科大学病院薬学研究室

³⁾岐阜薬科大学健康医療薬学研究室

⁴⁾岐阜市民病院精神科

渡邊 繭子¹⁾ 久保 賢晃²⁾ 館 知也¹⁾²⁾³⁾

田中 和秀¹⁾ 青山 京介²⁾ 古山 愛紗²⁾

青山 智¹⁾ 野口 義紘²⁾ 安田 昌宏¹⁾²⁾³⁾

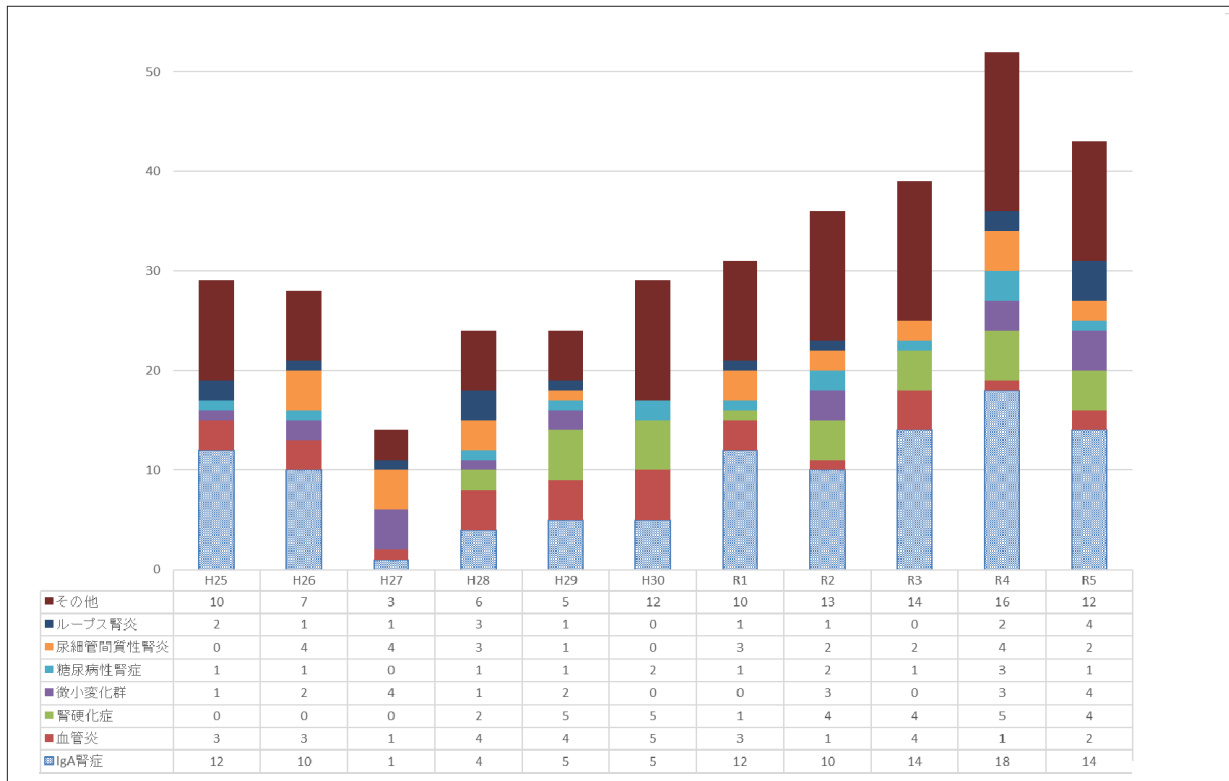
柴田 明彦⁴⁾ 水井 貴詞¹⁾ 寺町ひとみ²⁾

日本病院薬剤師会雑誌 Vol.59. No.6. 2023

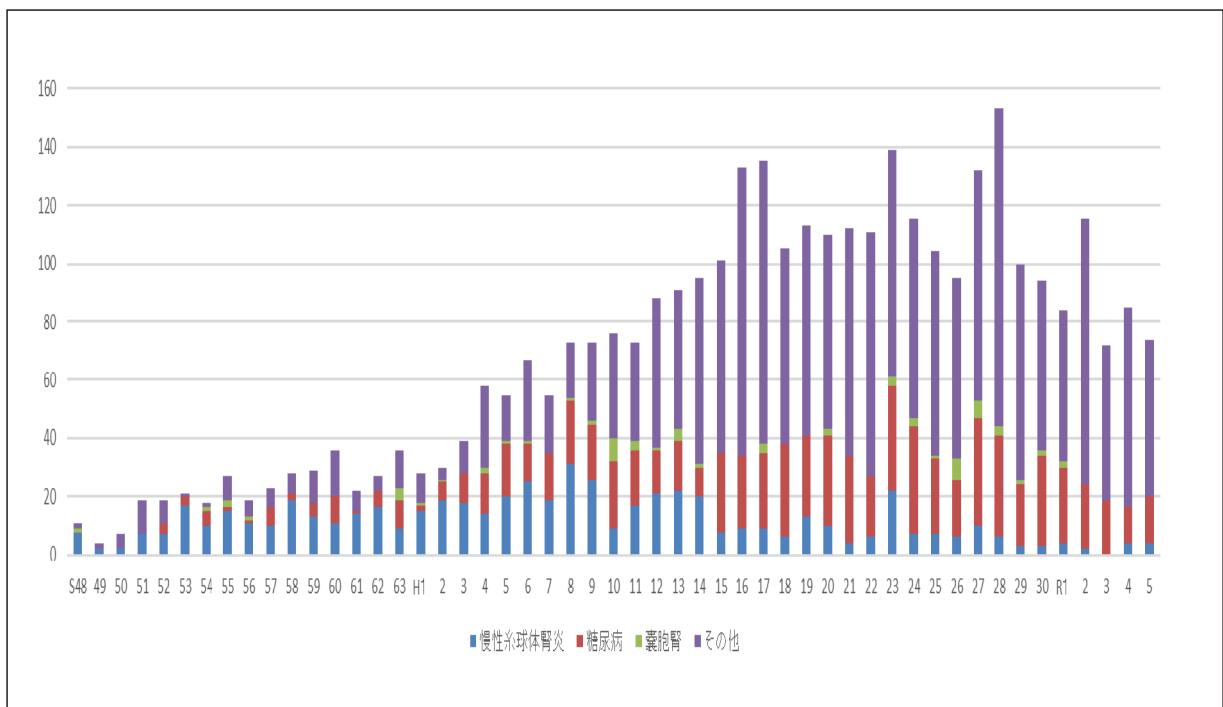
病院統計

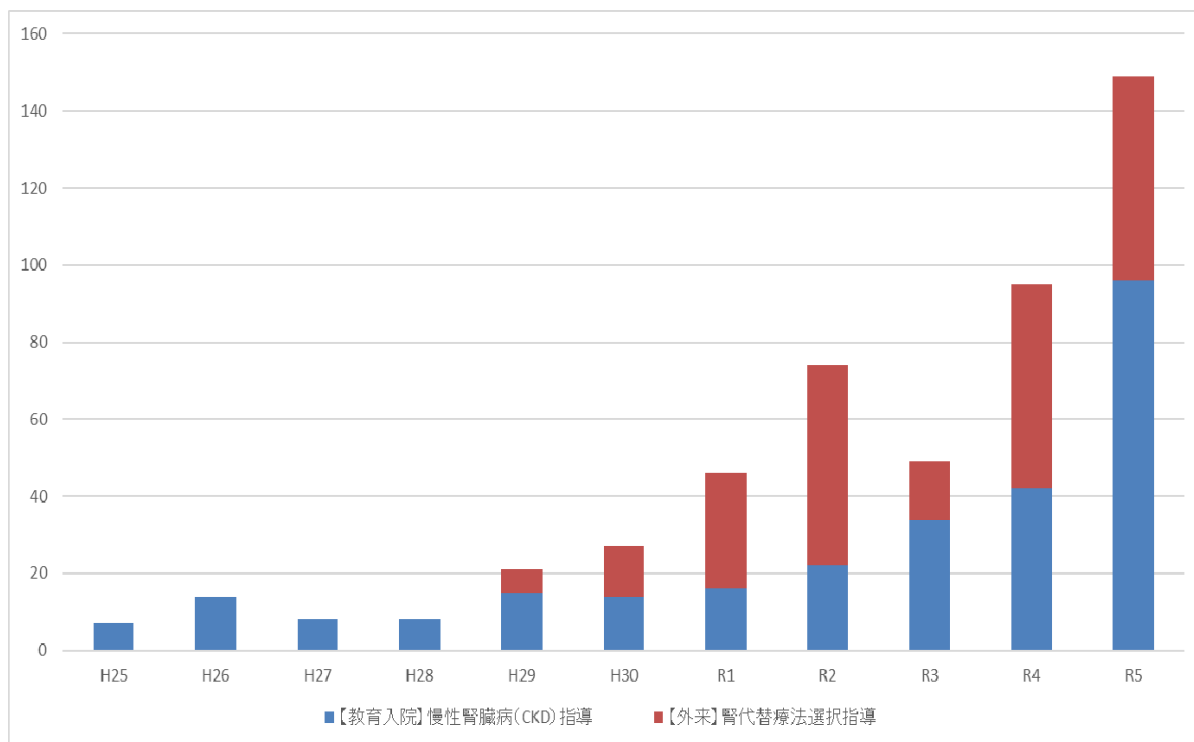
腎臓内科統計

腎生検診療実績



血液浄化新規導入患者とその原疾患





各種血液浄化療法（維持透析を除く）

※凡例：症例数(実施件数)

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
CHDF	2 (4)	8 (15)	9 (42)	8 (28)	12 (8)	8 (58)	18 (91)	14 (59)	10 (54)	11 (76)	15 (62)	21 (116)	21 (141)	23 (180)	25 (132)	26 (130)	21 (110)	19 (111)	25 (141)	20 (147)	30 (237)	29 (270)	36 (292)	19 (159)	25 (107)	35 (240)	25 (114)	7 (36)	11 (72)	
GL/CAP						3 (30)	6 (50)	3 (20)	3 (10)	4 (5)	6 (10)	12 (22)	8 (30)	16 (29)	17 (19)	16 (21)	20 (19)	15 (11)	8 (16)	6 (19)	6 (27)	11 (26)	10 (38)	9 (18)	4 (9)	10 (22)	4 (17)	5 (5)	4 (15)	
PMX	4 (8)	3 (6)	12 (24)	14 (28)	10 (20)	10 (18)	11 (20)	6 (10)	3 (5)	6 (10)	12 (22)	12 (20)	20 (30)	17 (29)	11 (19)	15 (21)	12 (19)	6 (11)	9 (16)	10 (19)	14 (27)	12 (26)	20 (38)	10 (18)	7 (9)	13 (22)	8 (17)	2 (5)	4 (6)	
ビリルビン吸着				1 (10)	2 (6)						1 (2)	1 (1)	3 (12)	4 (11)	4 (4)	1 (7)	2 (4)			1 (1)		1 (1)								
DHP	1 (1)	2 (4)			2 (2)				1 (1)		1 (1)			1 (2)	2 (3)			1 (5)		1 (1)		1 (1)				1 (1)		1 (1)		
PE	1 (1)	1 (7)		2 (11)	5 (19)	3 (38)	1 (2)					1 (19)	2 (14)	1 (1)	1 (1)	4 (31)	4 (13)	7 (19)	1 (1)	6 (42)	6 (19)	3 (4)	10 (50)	5 (21)	3 (15)	11 (35)	12 (59)	7 (39)	5 (24)	
DFPP		2 (16)	2 (10)		5 (25)					1 (3)	6 (20)	3 (7)	1 (3)	4 (20)	1 (2)	4 (17)		1 (12)												
IAPP						4 (24)	2 (5)	1 (7)		1 (5)	2 (13)		2 (7)	1 (7)						3 (11)	3 (12)	1 (5)								
LDL-A							1 (16)		1 (12)		1 (13)	1 (16)	1 (5)	1 (5)					2 (4)	1 (8)						1 (8)	1 (7)		1 (12)	
CART																							4 (4)	14 (25)	10 (16)	14 (27)	22 (22)	30 (30)	40 (40)	

- CHDF 持続的血液ろ過透析(持続的血液透析、持続的血液ろ過を含む)
- GL/CAP 白血球系細胞除去療法
- PMX エンドトキシン吸着法
- DHP 直接血液灌流
- PE 単純血漿交換療法
- DFPP 二重濾過血漿交換療法
- IAPP 免疫吸着療法
- LDL-A (V)LDL-コレステロール吸着法: R5より閉塞性動脈硬化症患者へのレオカーナ療法が当院でも実施され、それを含む
- CART 腹水濾過濃縮再静注法

消化器病センター統計

2023年 検査件数統計

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	月平均(件)	今年合計	前年合計	前年比(%)		
内視鏡	EGD	件(15) 418	件(9) 416	件(8) 436	件(10) 365	件(5) 353	件(5) 480	件(8) 417	件(13) 428	件(8) 442	件(5) 433	件(5) 406	件(7) 424	418	5018	5219	96%	
	ESD	件 8	件 10	件 5	件 9	件 7	件 10	件 7	件 10	件 7	件 11	件 9	件 7	8	100	103	97%	
	カプセル内視鏡	件 1	件 1	件 4	件 1	件 2	件 2	件 1	件 2	件 2	件 1	件 4	件 2	2	23	16	144%	
	小腸内視鏡	件 3	件 4	件 6	件 0	件 0	件 1	件 1	件 0	件 0	件 0	件 2	件 1	2	18	12	150%	
	CS	件(7) 232	件(5) 211	件(2) 255	件(8) 223	件(5) 194	件(7) 246	件(8) 208	件(5) 179	件(5) 215	件(5) 246	件(2) 203	件(2) 200	218	2612	2659	98%	
	EUS・胆膵	件 81	件 71	件 84	件 71	件 70	件 69	件 60	件 80	件 80	件 90	件 75	件 73	75	904	734	123%	
	EUS・消化管	件 5	件 5	件 2	件 3	件 5	件 8	件 5	件 8	件 8	件 8	件 8	件 8	6	70	55	127%	
	EUS計	件 86	件 76	件 86	件 74	件 75	件 77	件 65	件 85	件 88	件 98	件 83	件 81	81	974	789	123%	
	IDUS	件 4	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	0	4	11	36%	
	ERCP	件 62	件 39	件 42	件 50	件 26	件 48	件 35	件 53	件 50	件 38	件 43	件 32	43	518	563	92%	
	EIS・EVL	件 4	件 5	件 7	件 6	件 1	件 5	件 4	件 4	件 7	件 4	件 5	件 3	5	55	53	104%	
	PTCS	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	0	0	0	—	
	小計	件 818	件 762	件 841	件 728	件 658	件 869	件 738	件 761	件 811	件 831	件 755	件 750	777	9322	9425	99%	
	腹部超音波	PTCD	件 19	件 23	件 20	件 8	件 15	件 17	件 16	件 11	件 13	件 16	件 8	件 12	15	178	170	105%
		US・肝、胆、膵	件 35	件 23	件 37	件 37	件 33	件 41	件 29	件 16	件 21	件 37	件 33	件 29	31	371	429	86%
造影エコー		件 34	件 37	件 46	件 41	件 30	件 36	件 35	件 38	件 32	件 45	件 35	件 22	36	431	456	95%	
肝生検		件 8	件 3	件 7	件 10	件 2	件 6	件 7	件 6	件 6	件 11	件 9	件 6	7	81	77	105%	
PEIT		件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 1	件 4	件 0	件 0	0	5	10	50%	
RFA		件 10	件 6	件 14	件 8	件 4	件 9	件 7	件 11	件 0	件 4	件 7	件 2	7	82	76	108%	
マイクログラフ		件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 0	件 1	件 1	件 0	件 0	件 0	0	2	0	—	
その他(*1)		件 4	件 0	件 4	件 8	件 2	件 3	件 3	件 6	件 4	件 3	件 1	件 0	3	38	29	131%	
小計		件 110	件 92	件 128	件 112	件 86	件 112	件 97	件 89	件 78	件 120	件 93	件 71	99	1188	1247	95%	
ペグ交換		件 5	件 3	件 11	件 1	件 4	件 4	件 4	件 3	件 9	件 3	件 1	件 6	5	54	43	126%	
その他(*2)	件 0	件 0	件 2	件 0	件 0	件 5	件 0	件 1	件 4	件 2	件 3	件 0	1	17	13	131%		
合計	件 933	件 857	件 982	件 841	件 748	件 990	件 839	件 854	件 902	件 956	件 852	件 827	882	10581	10728	99%		

*1 腹水胸水穿刺・IVH挿入、金マーカー、肝のう胞硬化療法

*2 イレウス管挿入・リザーバー・ESWL・CVリザーバー留置・IVH挿入

注 胆膵造影超音波検査 < EUS→EUS・胆膵
体外式→造影エコー

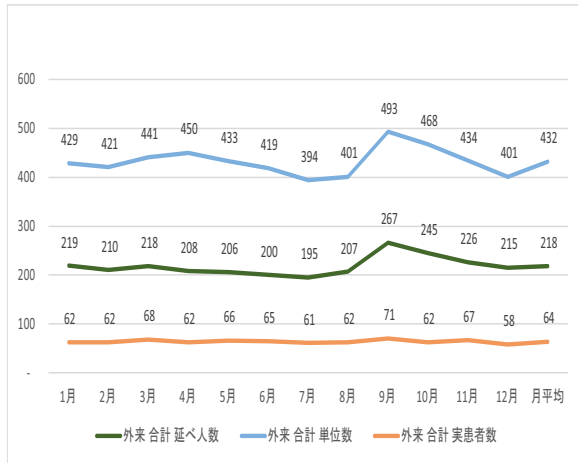
()は救急での施行件数

リハビリテーション科統計

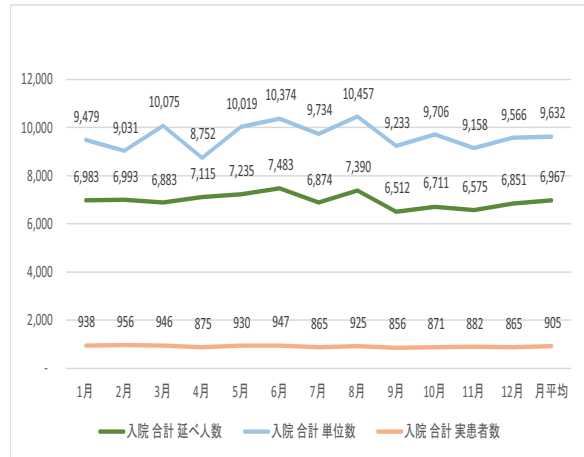
2023年 リハビリテーション科入院単位数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均	
治療日数		19	19	22	20	20	22	20	22	20	21	20	20	245		
外来	PT	延べ人数	102	118	126	113	119	114	105	109	132	117	119	107	1,381	115
		単位数	276	315	322	303	298	304	273	277	331	317	303	275	3,594	300
		実患者数	40	41	46	41	48	43	42	43	49	41	48	41	523	44
	OT	延べ人数	116	87	92	94	87	85	90	98	135	128	106	108	1,226	102
		単位数	152	100	119	146	135	114	121	124	162	151	130	126	1,580	132
		実患者数	21	18	22	20	18	21	19	19	22	21	18	17	236	20
	ST	延べ人数	1	5	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	9	1
		単位数	1	6	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	10	1
		実患者数	1	3	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	7	1
	合計	延べ人数	219	210	218	208	206	200	195	207	267	245	226	215	2,616	218
		単位数	429	421	441	450	433	419	394	401	493	468	434	401	5,184	432
		実患者数	62	62	68	62	66	65	61	62	71	62	67	58	766	64
入院	PT	延べ人数	4,347	4,346	4,286	4,596	4,710	4,835	4,571	4,998	4,344	4,415	4,379	4,514	54,341	4,528
		単位数	5,965	5,630	6,512	5,459	6,583	6,659	6,428	6,998	6,139	6,488	6,108	6,398	75,367	6,281
		実患者数	563	576	595	550	592	601	565	609	561	571	588	559	6,930	578
	OT	延べ人数	1,931	1,851	1,783	1,790	1,775	1,864	1,700	1,583	1,475	1,559	1,520	1,625	20,456	1,705
		単位数	2,634	2,437	2,493	2,346	2,503	2,680	2,422	2,443	2,189	2,250	2,153	2,226	28,776	2,398
		実患者数	251	262	244	221	230	239	204	200	186	192	195	198	2,622	219
	ST	延べ人数	705	796	814	729	750	784	603	809	693	737	676	712	8,808	734
		単位数	880	964	1,070	947	933	1,035	884	1,016	905	968	897	942	11,441	953
		実患者数	124	118	107	104	108	107	96	116	109	108	99	108	1,304	109
	合計	延べ人数	6,983	6,993	6,883	7,115	7,235	7,483	6,874	7,390	6,512	6,711	6,575	6,851	83,605	6,967
		単位数	9,479	9,031	10,075	8,752	10,019	10,374	9,734	10,457	9,233	9,706	9,158	9,566	115,584	9,632
		実患者数	938	956	946	875	930	947	865	925	856	871	882	865	10,856	905
合計	PT	延べ人数	4,449	4,464	4,412	4,709	4,829	4,949	4,676	5,107	4,476	4,532	4,498	4,621	55,722	4,644
		単位数	6,241	5,945	6,834	5,762	6,881	6,963	6,701	7,275	6,470	6,805	6,411	6,673	78,961	6,580
		実患者数	603	617	641	591	640	644	607	652	610	612	636	600	7,453	621
	OT	延べ人数	2,047	1,938	1,875	1,884	1,862	1,949	1,790	1,681	1,610	1,687	1,626	1,733	21,682	1,807
		単位数	2,786	2,537	2,612	2,492	2,638	2,794	2,543	2,567	2,351	2,401	2,283	2,352	30,356	2,530
		実患者数	272	280	266	241	248	260	223	219	208	213	213	215	2,858	238
	ST	延べ人数	706	801	814	730	750	785	603	809	693	737	677	712	8,817	735
		単位数	881	970	1,070	948	933	1,036	884	1,016	905	968	898	942	11,451	954
		実患者数	125	121	107	105	108	108	96	116	109	108	100	108	1,311	109
	合計	延べ人数	7,202	7,203	7,101	7,323	7,441	7,683	7,069	7,597	6,779	6,956	6,801	7,066	86,221	7,185
		単位数	9,908	9,452	10,516	9,202	10,452	10,793	10,128	10,858	9,726	10,174	9,592	9,967	120,768	10,064
		実患者数	1,000	1,018	1,014	937	996	1,012	926	987	927	933	949	923	11,622	969
1日平均単位数		521	497	478	460	523	491	506	494	486	484	480	498		493	
1日平均オーダー数		379.1	379.1	322.8	366.2	372.1	349.2	353.5	345.3	339.0	331.2	340.1	353.3		352.6	
1患者平均単位数(1日あたり)		1.9	1.8	1.9	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2	2.1		2.0	
入院から2日以内開始率		50.0%	52.8%	53.9%	56.7%	48.9%	52.3%	51.3%	54.5%	49.6%	50.1%	50.5%	43.8%		51.2%	
初期加算率		40.9%	38.4%	39.7%	44.9%	44.4%	47.2%	44.9%	47.3%	45.6%	49.4%	49.1%	45.9%		44.8%	
早期加算率		61.2%	63.8%	65.5%	66.7%	67.0%	70.0%	68.2%	68.6%	65.4%	70.7%	73.3%	70.3%		67.6%	
外来リハ率		3.0%	2.9%	3.1%	2.8%	2.8%	2.6%	2.8%	2.7%	3.9%	3.5%	3.3%	3.0%		3.0%	

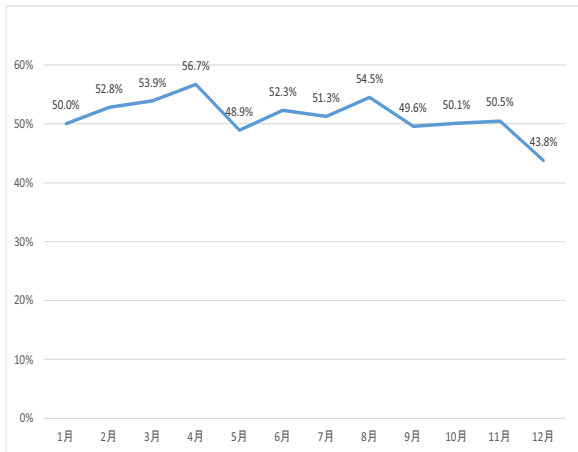
外来月別件数



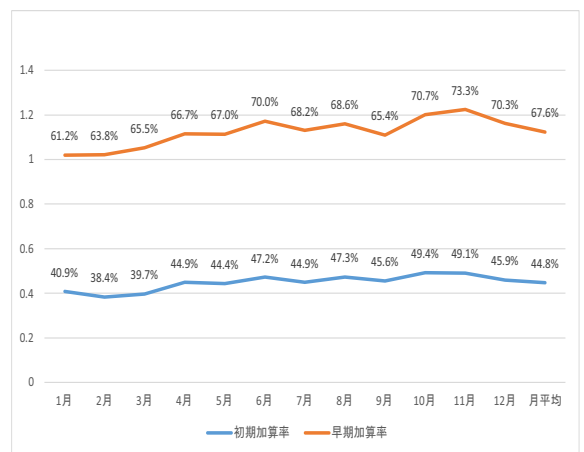
入院月別件数



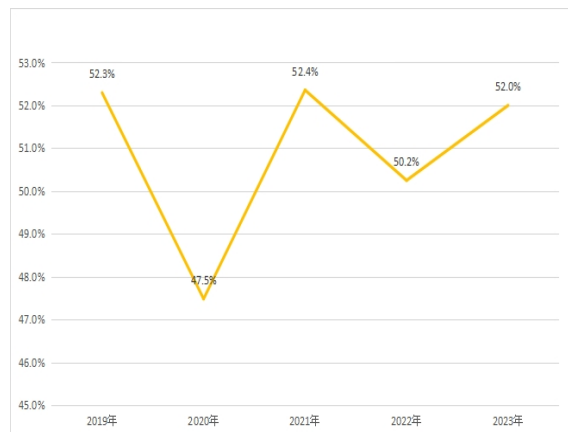
入院から2日以内開始率



初期・早期加算率



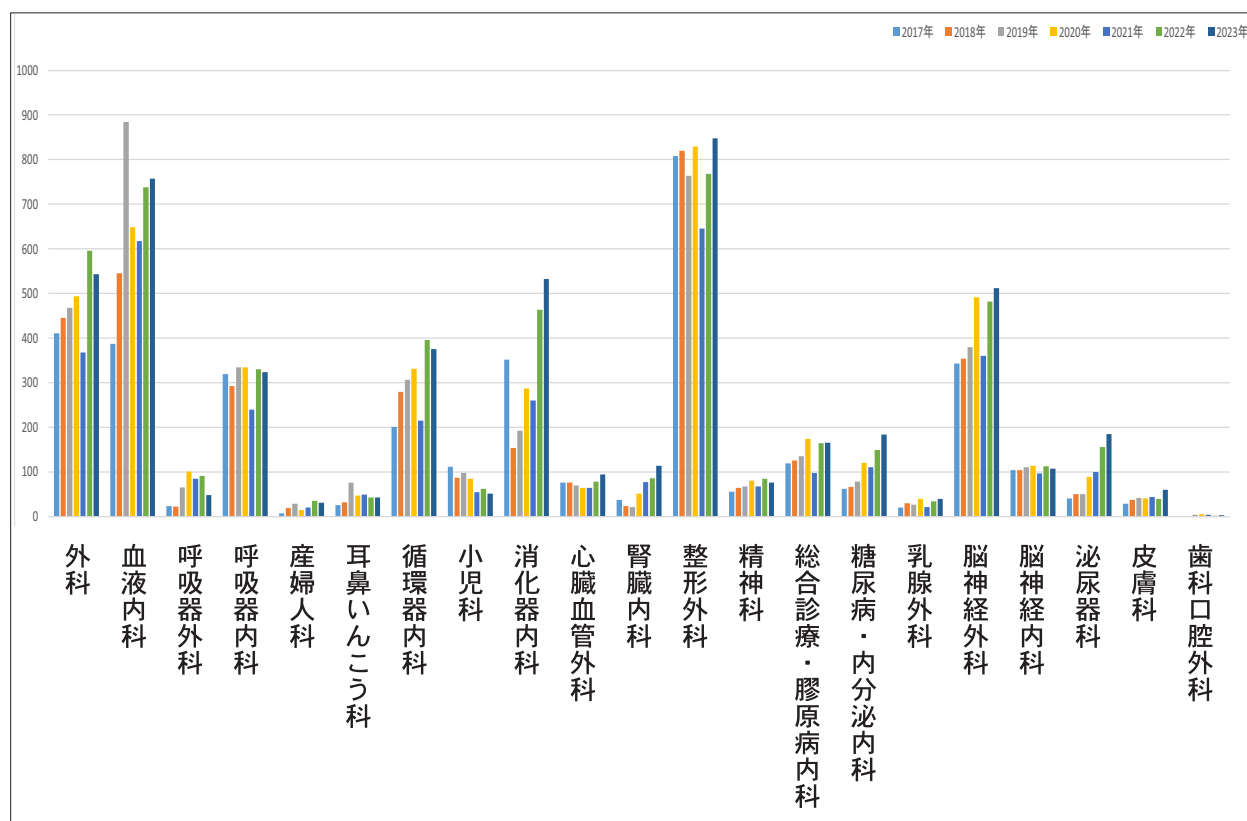
入院から2日以内開始率 (2019-2023)



診療科別実患者件数年推移

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
外科	411	445	468	494	368	596	543
血液内科	387	545	884	648	617	738	757
呼吸器外科	24	23	66	101	85	91	48
呼吸器内科	319	293	334	334	240	330	324
産婦人科	7	19	29	15	20	35	31
耳鼻いんこう科	26	32	76	47	49	43	43
循環器内科	201	280	307	331	215	396	375
小児科	112	87	98	85	55	62	52
消化器内科	352	154	193	287	260	463	532
心臓血管外科	76	76	70	65	65	78	95
腎臓内科	38	24	21	52	77	86	114
整形外科	808	820	764	829	645	768	848
精神科	56	64	68	81	68	85	76
総合診療・膠原病内科	119	126	135	174	98	165	166
糖尿病・内分泌内科	62	67	78	120	111	149	184
乳腺外科	20	30	27	40	22	34	40
脳神経外科	343	354	380	491	360	482	512
脳神経内科	104	104	111	114	97	113	108
泌尿器科	41	50	50	89	100	156	185
皮膚科	29	38	42	41	44	40	60
歯科口腔外科	1	1	4	5	4	2	3
外来	162	169	232	251	226	198	245
入院のみ合計	3536	3632	4205	4443	3600	4912	4988
合計	3698	3801	4437	4694	3826	5110	5233

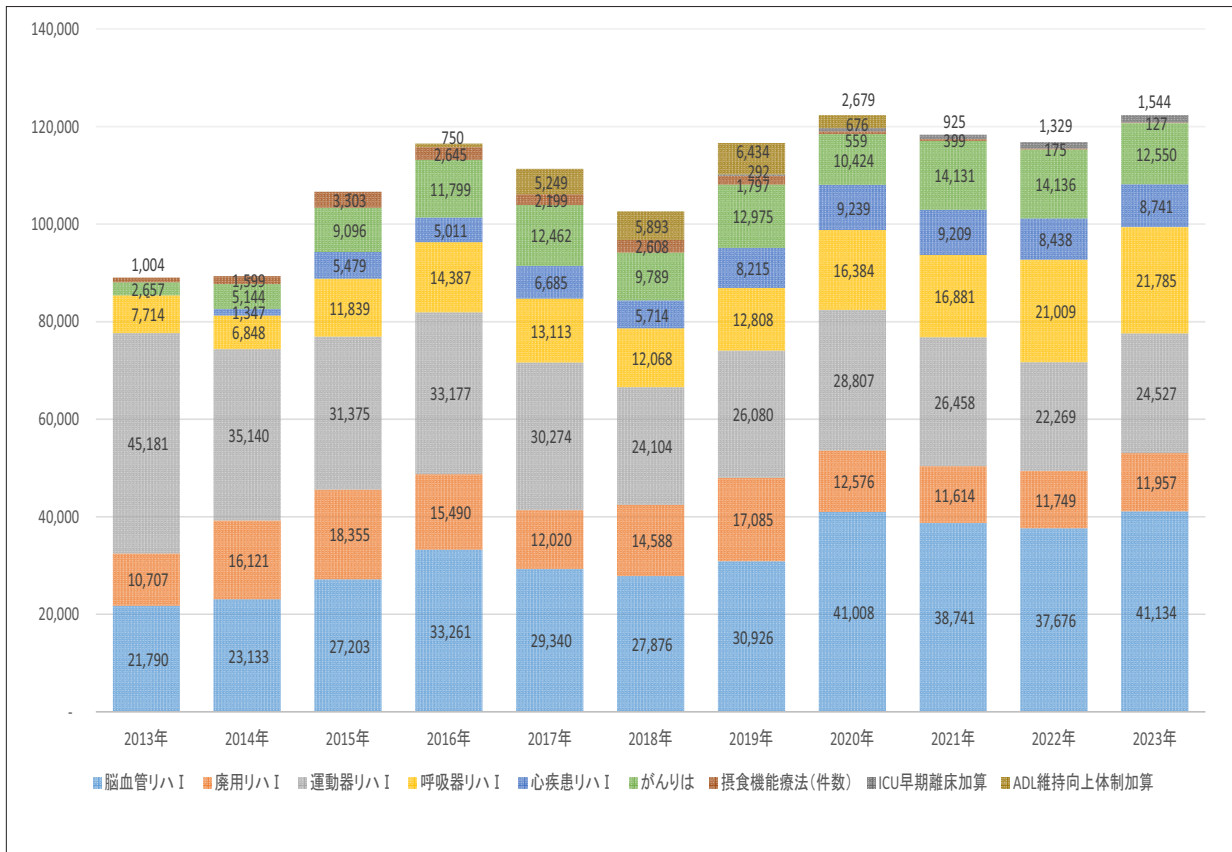
診療科別実患者件数年推移



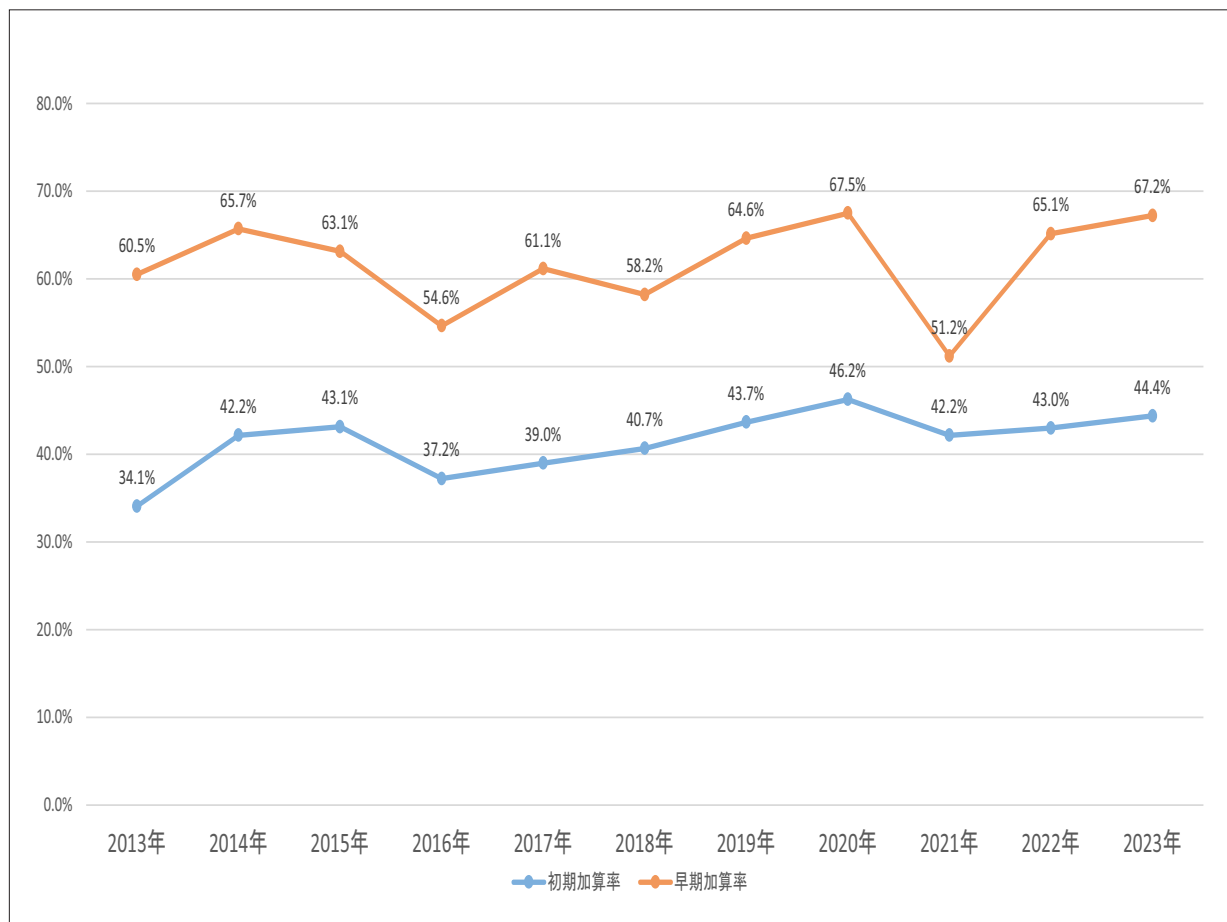
疾患別単位数 年推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
脳血管リハ I	21,790	23,133	27,203	33,261	29,340	27,876	30,926	41,008	38,741	37,676	41,134
廃用リハ I	10,707	16,121	18,355	15,490	12,020	14,588	17,085	12,576	11,614	11,749	11,957
運動器リハ I	45,181	35,140	31,375	33,177	30,274	24,104	26,080	28,807	26,458	22,269	24,527
呼吸器リハ I	7,714	6,848	11,839	14,387	13,113	12,068	12,808	16,384	16,881	21,009	21,785
心疾患リハ I	-	1,347	5,479	5,011	6,685	5,714	8,215	9,239	9,209	8,438	8,741
がんリハ	2,657	5,144	9,096	11,799	12,462	9,789	12,975	10,424	14,131	14,136	12,550
疾患別単位数合計	88,049	87,733	103,347	113,125	103,894	94,139	108,089	118,438	117,034	115,277	120,694
摂食機能療法(件数)	1,004	1,599	3,303	2,645	2,199	2,608	1,797	559	399	175	127
ICU早期離床加算	-	-	-	-	-	-	292	676	925	1,329	1,544
ADL維持向上体制加算	-	-	-	750	5,249	5,893	6,434	2,679	-	-	-
初期加算単位数	30,001	36,986	44,570	42,097	40,502	38,281	47,185	54,772	49,341	49,541	53,534
早期加算単位数	53,269	57,635	65,246	61,810	63,529	54,790	69,830	79,937	59,913	75,087	81,115
初期加算率	34.1%	42.2%	43.1%	37.2%	39.0%	40.7%	43.7%	46.2%	42.2%	43.0%	44.4%
早期加算率	60.5%	65.7%	63.1%	54.6%	61.1%	58.2%	64.6%	67.5%	51.2%	65.1%	67.2%
総合実施計画書 件数	2,657	2,670	3,811	4,718	4,373	4,585	5,678	6,234	7,170	6,709	6,655
退院時指導 件数	804	388	787	1,345	1,319	1,504	2,371	2,586	2,947	2,626	2,635

疾患別単位数 年推移



初期加算／早期加算率



中央検査部統計(部門別・月別)

丸め項目は単項目として点数計算

	令和5年												令和4年 計	前年比較 (△印減)	前年比 (%) (△印減)	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				計
生化学	件数	239,429	228,609	251,075	213,286	226,341	235,460	228,137	238,004	221,613	225,270	221,072	2,759,624	△ 155,912	△ 5.3%	
	点数	3,715,837	3,518,509	3,836,698	3,192,549	3,396,183	3,530,373	3,446,775	3,554,897	3,357,195	3,461,733	3,359,958	41,751,076	△ 3,296,395	△ 7.3%	
血清	件数	18,058	17,284	19,438	14,824	15,588	18,222	14,590	15,559	14,659	14,887	14,729	193,536	8,363	4.5%	
	点数	2,015,640	1,911,907	2,140,190	1,694,541	1,780,283	1,998,599	1,654,461	1,758,079	1,669,055	1,772,167	1,655,619	21,725,380	893,395	4.3%	
一般	件数	8,201	8,024	8,514	7,853	8,639	9,109	8,874	9,380	8,877	9,130	9,239	104,881	3,497	3.4%	
	点数	211,793	208,052	218,630	201,190	223,942	239,380	232,535	244,546	232,140	238,699	240,166	2,727,015	87,260	3.3%	
血液	件数	36,170	37,325	40,456	32,452	33,707	34,024	32,805	34,072	32,140	33,541	32,348	412,180	△ 19,526	△ 4.5%	
	内ワル/件数	65	55	65	59	57	63	53	61	59	78	66	748	△ 17	△ 2.2%	
細菌	件数	948,359	947,137	985,155	780,099	806,069	777,888	719,877	734,886	693,048	715,938	687,022	9,506,617	△ 1,841,007	△ 16.2%	
	点数	5,794	4,290	4,600	4,405	4,845	4,990	5,061	5,441	5,078	4,867	4,952	59,275	△ 2,347	△ 3.8%	
生理	件数	1,612,212	1,057,490	1,058,815	1,014,086	1,115,069	1,092,117	1,117,291	1,264,745	1,114,195	1,006,808	986,339	13,400,625	△ 4,230,903	△ 24.0%	
	点数	3,238	3,358	3,659	3,336	3,669	3,820	3,488	3,843	3,506	3,798	3,456	43,084	4,155	10.7%	
計	件数	987,550	1,027,210	1,159,400	1,029,705	1,127,820	1,095,510	996,975	1,141,130	1,016,190	1,148,090	1,009,290	12,854,310	969,580	8.2%	
	点数	310,890	298,890	327,742	276,156	292,789	305,625	292,955	306,299	285,873	298,477	285,796	3,572,580	△ 161,770	△ 4.3%	
計	件数	9,491,391	8,670,305	9,398,888	7,912,170	8,449,366	8,733,867	8,167,914	8,698,283	8,081,823	8,338,636	7,938,394	101,965,023	△ 7,418,070	△ 6.8%	
	点数	310,890	298,890	327,742	276,156	292,789	305,625	292,955	306,299	285,873	298,477	285,796	3,572,580	△ 161,770	△ 4.3%	
月合計	6,596	5,979	7,279	6,293	6,561	6,901	6,412	6,665	6,236	6,451	6,583	6,674	6,553	78,630	76,257	3.1%
日平均	347	315	364	300	328	317	305	351	283	293	329	333	322/日	244/日	294/日	

中央採血室 月別採血件数

	令和5年												令和4年 計	前年比		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			平均	
月合計	6,596	5,979	7,279	6,293	6,561	6,901	6,412	6,665	6,236	6,451	6,583	6,674	6,553	78,630	76,257	3.1%
日平均	347	315	364	300	328	317	305	351	283	293	329	333	322/日	244/日	294/日	

コロナが5類に分類され、細菌部門においては、検査件数の減少と検査方法の変更により件数、点数ともに減少が顕著になっている。その他の検査もコロナ患者減少の影響を受け、全体的に件数と点数の減少がみられた。

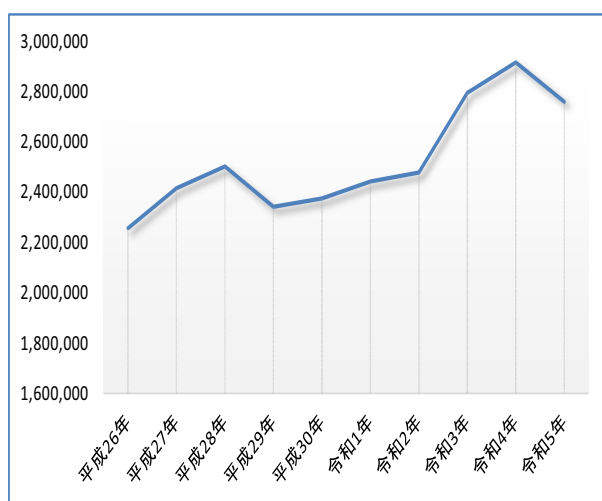
部門別依頼件数 年推移

(件)

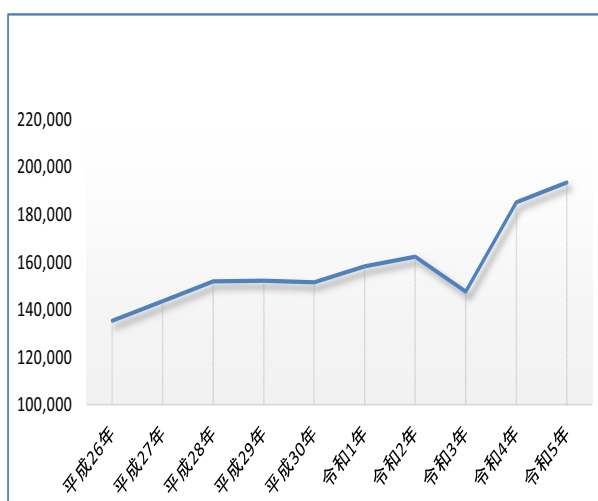
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
生化	2,256,481	2,416,645	2,502,118	2,342,858	2,374,774	2,442,525	2,478,442	2,794,838	2,915,536	2,759,624
血清	135,272	143,557	151,872	152,198	151,513	158,293	162,341	147,618	185,173	193,536
一般	723,643	756,214	814,865	95,687	89,925	92,486	93,838	103,338	101,384	104,881
血液	804,324	861,476	889,365	363,924	370,627	377,811	390,022	454,668	431,706	412,180
細菌	45,043	50,641	53,284	53,001	48,263	50,571	50,365	54,842	61,622	59,275
生理	38,297	39,999	43,194	40,381	40,632	41,496	38,489	44,457	38,929	43,084

新型コロナで増加していた検査も一時的に減少してきているが全体的には右肩上がりの傾向を示している。

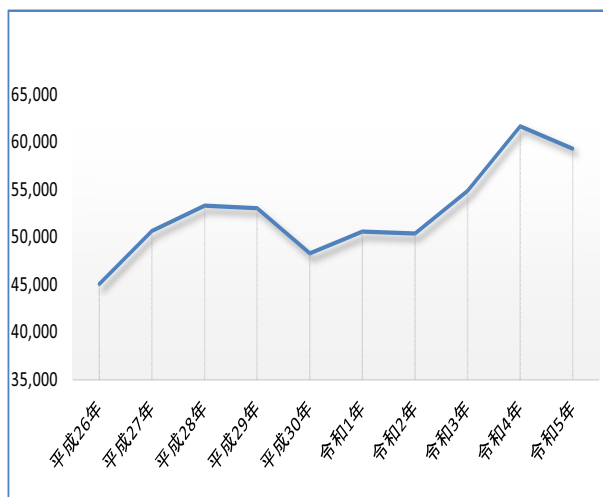
生化部門 件数推移



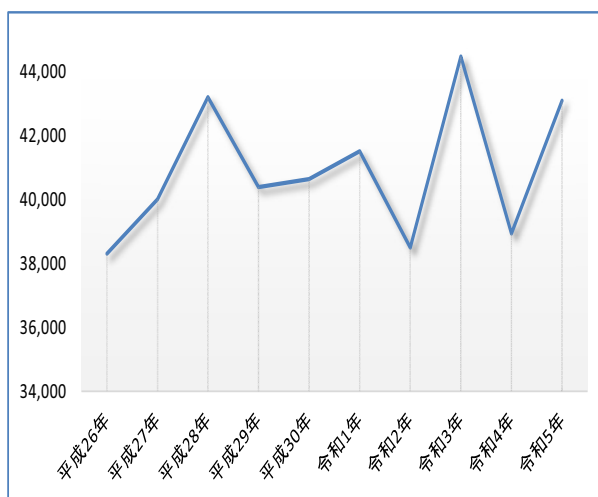
血清部門 件数推移



細菌部門 件数推移



生理部門 件数推移



時間外 緊急検査統計

(令和5年)

生化学検査関連									
	令和4年			令和5年			前年比較(△減)		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
AST(GOT)	6,988	12,866	19,854	6,854	11,724	18,578	△ 114	△ 1,142	△ 1,028
ALT(GPT)	6,964	12,786	19,750	6,854	11,692	18,546	△ 110	△ 1,094	△ 1,014
ALP	6,265	11,117	17,382	6,151	10,492	16,643	△ 114	△ 625	△ 509
CHE	616	3,862	4,478	320	3,440	3,760	△ 296	△ 422	△ 126
γ-GTP	6,640	10,881	17,521	6,569	10,287	16,856	△ 71	△ 594	△ 523
LDH	6,914	12,322	19,236	6,833	11,087	17,920	△ 81	△ 1,235	△ 1,154
T-BIL	6,929	12,307	19,236	6,821	11,386	18,207	△ 108	△ 921	△ 813
D-BIL	6,246	4,948	11,194	6,322	4,919	11,241	76	△ 29	△ 47
タンパク	6,854	11,458	18,312	6,797	10,622	17,419	△ 57	△ 836	△ 779
アルブミン	6,901	11,394	18,295	6,825	10,544	17,369	△ 76	△ 850	△ 774
BUN	6,990	13,148	20,138	6,860	11,989	18,849	△ 130	△ 1,159	△ 1,029
CRE	7,008	13,189	20,197	6,878	12,024	18,902	△ 130	△ 1,165	△ 1,035
尿酸	6,135	4,474	10,609	6,320	4,638	10,958	185	164	349
CPK	6,559	7,876	14,435	6,659	7,237	13,896	100	△ 639	△ 539
LAP	59	47	106	9	21	30	△ 50	△ 26	△ 24
血清AMY	3,439	4,444	7,883	3,670	4,785	8,455	231	341	612
T-CHO	748	679	1,427	779	583	1,362	31	△ 96	△ 65
中性脂肪	654	663	1,317	674	633	1,307	20	△ 30	△ 10
HDL-C	465	450	915	445	445	890	19	△ 5	△ 24
LDL-C	395	458	853	440	440	880	45	△ 15	△ 27
血清Na	6,996	13,203	20,199	6,874	12,085	18,959	△ 122	△ 1,118	△ 996
血清Cl	6,987	13,078	20,065	6,869	12,038	18,907	△ 118	△ 1,040	△ 922
血清K	6,999	13,206	20,205	6,873	12,076	18,949	△ 126	△ 1,130	△ 1,004
血清Ca	5,943	6,758	12,701	6,158	6,327	12,485	215	△ 431	△ 216
血清P	1,107	3,520	4,627	939	3,439	4,378	△ 168	△ 81	△ 87
血清Mg	841	2,414	3,255	640	2,350	2,990	△ 201	△ 64	△ 137
血清鉄	284	572	856	205	623	828	△ 79	51	△ 22
UIBC	123	287	410	116	414	530	△ 7	127	120
フェリチン	54	397	451	150	397	547	96	563	467
血中NH3	387	713	1,100	354	713	1,067	△ 33	864	831
CRP	6,937	12,287	19,224	6,848	12,287	19,135	△ 89	11,358	11,269
血中ケトン	896	157	1,053	664	157	821	△ 232	124	△ 108
血糖	6,359	7,099	13,458	6,374	7,099	13,473	15	6,411	6,426
BNP	1,367	799	2,166	1,304	799	2,103	△ 63	761	698
血液ガス	248	1,729	2,477	306	1,729	2,435	58	1,858	1,916
プロカルシトニン	758	854	1,612	619	854	1,473	△ 139	558	419
ミオグロビン	98	136	234	33	136	169	△ 65	147	82
トロポニンT	1,218	130	1,348	1,123	130	1,253	△ 95	136	41
HbS抗原	936	341	1,277	930	341	1,271	△ 6	1,306	1,300
HCV抗体	927	328	1,255	913	328	1,241	△ 14	294	280
HIV抗原・抗体	765	167	932	793	167	960	28	112	140

血液検査関連									
	令和4年			令和5年			前年比較(△減)		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
検血(CBC)	6,908	13,440	20,348	6,826	12,593	19,419	△ 82	△ 847	△ 929
網状赤血球	295	3,102	3,397	180	3,546	3,726	△ 115	444	329
血液像	5,215	7,573	12,788	6,294	7,509	13,803	1,079	△ 64	1,015
PT時間	4,375	4,651	9,026	3,935	3,765	7,700	△ 440	△ 886	△ 1,326
APTT	4,123	4,339	8,462	3,928	3,460	7,388	△ 435	△ 879	△ 1,314
フィブリノーゲン	4,165	3,164	7,329	4,031	2,569	6,600	△ 94	△ 595	△ 689
ATⅢ	96	1030	1,126	36	539	575	△ 60	△ 491	△ 551
血中FDP	4,117	3,351	7,468	2,332	2,450	4,782	△ 1,785	△ 901	△ 2,686
Dダイマー	4,249	2,950	7,199	3,796	2,051	5,847	△ 453	△ 899	△ 1,352
可溶性フィブリン	26	133	159	12	62	74	△ 14	△ 71	△ 85

一般検査関連									
	令和4年			令和5年			前年比較(△減)		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
検尿	1,647	2,069	3,716	1,629	2,117	3,746	△ 18	48	30
髄液検査	12	9	21	26	14	40	14	5	19

その他									
	令和4年			令和5年			前年比較(△減)		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
HCG-25	246	1	247	209	0	209	△ 37	△ 1	△ 38
インフルエンザ	235	9	244	329	18	347	94	9	103
RSウイルス	150	1	151	161	9	170	11	8	19
A群溶連菌迅速	76	2	78	87	0	87	11	△ 2	9
心電図	107	67	174	107	77	184	0	10	10

患者数減少のため、全体を通して検体件数の減少がみられた。

病理診断科統計

剖検記録

剖検番号 1485

72歳 男性 出所：血液内科 (主治医：生駒良和 研修医：なし)

臨床診断：低ナトリウム血症難治性CD30陽性末梢性T細胞リンパ腫

主剖検診断：

- #1. 末梢性T細胞リンパ腫、非特定型 (PTCL-NOS)、化学療法後状態
臓器浸潤：皮膚・骨髄・胃・上行結腸・両腎130g, 120g・左副腎4.5g
- #1-1. [毛細血管漏出症候群]
 - #1-1-1. 腔水症 (胸水1500mL, 700mL+腹水3000mL+心嚢水150mL)
 - #1-1-2. 上行結腸出血性潰瘍 + 胃前庭部点状出血
 - #1-1-3. 間質性腎炎 (130; 120g)

副病変：

- #1. 臓器うつ血 (肺; 左300g, 右410g + 肝 1000g + 脾 150g)
- #2. ヘモジデロシス (肝 + 脾)
- #3. 腎硬化症
- #4. 動脈粥状硬化症 (大動脈高度)
- #5. [左無気肺]

直接死因：循環不全

剖検番号 1486

87歳 男性 出所：血液内科 (主治医：後藤貴之 研修医：齋藤 回・日比野有依)

臨床診断：再発性急性骨髄性白血病

主病診断：再発性急性骨髄性白血病

同浸潤・転移：脾臓、心臓、肺、膀胱、皮下、副腎、大腸、肝臓、胆嚢、胸椎、[大脳]、
リンパ節：傍大動脈

副病変：

1. [菌血症]：臀部皮下膿瘍+肺内小細菌塊
2. 諸臓器の出血：右肺中葉、左肺下葉、心臓、膀胱、気管、前立腺
3. 胸水(120; 250 mL 血性)
4. 陳旧性心筋梗塞(410 g)
5. 左腎臓 乳頭状腺腫(180 g)
6. 前立腺過形成+前立腺炎
7. 胃 壁細胞過形成
8. 甲状腺嚢胞(18 g)
9. 肝嚢胞(1610 g)
10. 軟性線維種
11. 粥状動脈硬化症 (高度)+左総腸骨動脈瘤+大動脈ステントグラフト術後

直接死因：小脳・脳幹出血による脳ヘルニア

剖検番号 1487

79歳 男性 出所：血液内科 (主治医：柴田悠平、早瀬直輝 研修医：加藤駿一郎)

臨床診断：リンパ形質細胞性リンパ腫

主剖検診断：

- #1. 血管内大細胞型B細胞リンパ腫 (IVLBCL)
 - #1-1. 浸潤：骨髄 + 肝 (1370g) + 脾 (140g) + 両腎 (210g, 200g)
+ 心 (710g) + 両肺 (240g, 280g) + 右副腎周囲脂肪組織
- #2. 超急性期心筋梗塞 (前壁) (左大伏在静脈バイパス血管) (710 g)

#2-1. 致死性不整脈（心室細動）

副病変：

- #1. 動脈粥状硬化症（大動脈高度+冠動脈高度：冠動脈バイパスグラフト術後状態前下行枝-左大伏在静脈）
- #2. 腺腫様甲状腺腫（両葉）（15g）
- #3. 前立腺結節性過形成
- #4. 腎嚢胞（210g, 200g）
- #5. 副脾（1.3g）
- #6. 胆嚢結石
- #7. S状結腸多発憩室
- #8. [鉄欠乏性貧血]
- #9. [心房細動]
- #10. [頸椎後縦靱帯骨化症]

直接死因：超急性期心筋梗塞による致死性不整脈

剖検番号 1488

88歳 男性 出所：糖尿病・内分泌内科（主治医：幅 智教 研修医：小澤直人・田口京華）

臨床診断：窒息

主病診断：誤嚥性肺炎（360; 330g）

副病変：

1. アルツハイマー型認知症+虚血性脳症+微小出血（1210 g）
2. 心嚢水（50 ml）+心外膜炎+心虚血性変化（270 g）
3. 全身諸臓器のうつ血傾向（肺、肝760 g、脾32.7 g）
4. 肺骨化症+骨髓塞栓
5. 食道固有筋層の萎縮
6. S状結腸軸捻転+虚血性腸炎
7. 良性腎硬化症+間質性腎炎（110; 100g）
8. 前立腺肥大症+前立腺炎
9. 動脈粥状硬化症+限局性大動脈解離+動脈血栓閉塞症
10. [左大腿骨頸部骨折術後]

直接死因：心停止後の循環不全および誤嚥性肺炎による呼吸不全

剖検番号 1489

87歳 男性 出所：血液内科（主治医：柴田悠平 研修医：阿形操樹、小鳥雄平）

臨床診断：悪性リンパ腫の疑い

主剖検診断：

- #1. びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫（気管周囲リンパ節 + 腓周囲リンパ節）
浸潤：骨髓 + 腓周囲脂肪織
- #2. 気管支肺炎 + 肺膿瘍（左下葉+右下葉）（260g, 390g）
 - #2-1. 敗血症
 - #2-1-1. 遷延性胆管炎（740g）
 - #2-1-2. 脾炎（110g）
 - #2-1-3. 播種性血管内凝固症候群
 - #2-2. 肺うつ血水腫 + 肺胞出血（左下葉+右下葉）

副病変：

- #1. 心外膜炎 + 胸膜炎（壁側胸膜 + 臓側胸膜）
- #2. 慢性間質性腎炎 + 腎嚢胞（80g, 110g）
- #3. 肝硬化型血管腫 + 肝被膜の偽脂肪腫
- #4. 胸膜プラーク
- #5. 動脈粥状硬化症（大動脈：軽度）

#6. 食道乳頭腫

#7. [発作性心房細動]

直接死因：肺炎に随伴する敗血症及び播種性血管内凝固症候群

剖検番号 1490

74歳 男性 出所：血液内科 (主治医：柴田悠平 研修医：なし)

臨床診断：芽球増加を伴う不応性貧血-2

主病診断：

1. 骨髓異形成症候群
2. 肺ムコール症(680；1000g)
 - 2-1. 出血性肺梗塞(左上葉) +びまん性肺胞障害+胸膜炎+胸水貯留(350ml；少量)
3. 心筋梗塞(530g)
 - 3-1. 真菌性心筋炎+線維素性心外膜炎+心嚢水貯留(250ml・血性)

副病変：

1. ショック肝(小葉中心性の凝固壊死)(1530g)
2. 急性尿細管壊死(190；160g)
3. 動脈粥状硬化症(大動脈、冠動脈)
4. 全身のうっ血傾向(肺、肝、腎、脾：90g)
5. ヘモジデロシス(肝、脾、骨髓)
6. 結腸管状腺腫(2個)
7. 十二指腸異所性腺

直接死因：肺ムコール症およびそれに続発する敗血症・びまん性肺胞障害・心筋梗塞による呼吸・循環不全

剖検番号 1491

85歳 男性 出所：整形外科 (主治医：大野義幸 研修医：川崎理瑚、杉山裕美)

臨床診断：多臓器不全 横行結腸癌 肝膿瘍

主病診断：

1. 上行結腸癌 (tub2>tub1)

同転移：肝 リンパ節：なし

 - 1-1. 肝転移巣ガス壊疽+遷延性胆管炎(1,110g)
2. 左上肢(~胸部)ガス壊疽+左肩関節離断術後状態

副病変：

1. 侵襲性肺アスペルギルス症+気管支肺炎+肺出血+胸膜炎(580；820g)+胸水貯留(300ml；200ml)
2. 化膿性腹膜炎
3. [敗血症]
4. 急性尿細管壊死+貯留?胞(130；110g)
5. 播種性血管内凝固症候群(フィブリン血栓：肺、腎、S状結腸)
6. 虚血性腸炎
7. [糖尿病](膝ラ氏島硝子化)
8. 胃消化管間質腫瘍+幽門側胃切除術後状態
9. 胆嚢結石症+慢性胆嚢炎
10. 食道びらん
11. 膀胱びらん
12. 諸臓器のうっ血
13. 動脈粥状硬化症+左内腸骨動脈瘤

直接死因：進行結腸癌に関連したC.septicum感染症

剖検番号 1492

69歳 男性 出所：呼吸器内科 (主治医：吉田 勉 研修医：なし)

臨床診断：特発性肺線維症

<病理解剖学的診断>

主病診断：

1. 石綿肺+肺高血圧症+骨髓塞栓 (520; 510g)
2. 左室後壁・乳頭筋虚血性変化+肺性心 (350g)

副病変：

1. ショック肝 +慢性B型肝炎 (1020g)
2. 腔水症 (胸水100; 100 ml, 心嚢水40 ml, 腹水60 ml)
3. [糖尿病]腓ラ氏島硝子化 (80 g) +糖尿病性腎症 (130; 150 g)
4. 良性腎硬化症
5. 十二指腸異所性腺 (Heinlich分類III型)
6. 腺腫様甲状腺腫 (13 g)
7. 前立腺炎
8. 全身のうっ血傾向 (肺, 肝, 腎, 脾: 90 g)
9. 動脈粥状硬化症 (大動脈, 冠動脈)
10. るいそう (BMI: 16)
11. [左精巣摘出術後状態]

直接死因：石綿肺による慢性呼吸不全の増悪, 肺高血圧症と心筋虚血による循環不全

剖検番号1493

74歳 男性 出所：脳神経内科 (主治医：原田斉子 研修医：なし)

臨床診断：敗血症性ショック

主病診断：

1. 肺血栓塞栓症+出血性梗塞(右下葉, 770g)
2. 急性心筋梗塞(後壁～側壁, 480g)

副病変：

1. 誤嚥性肺炎(740; 770g)
2. 副腎皮質過形成(AIMAH/PMAH, 13.1; 12.9g)
3. [糖尿病] 腓ラ氏島硝子化+糖尿病性腎症
4. 良性腎硬化症+急性尿細管壊死(200; 210g)
5. ショック肝(1210g)
6. 異所性腺(十二指腸Heinlich分類II型+回腸Heinlich分類III型)
7. 回腸リンパ管腫
8. 上行結腸管状腺腫(高異型度+低異型度)
9. 結腸憩室症
10. 胆嚢結石症
11. びらん性胃炎
12. 前立腺肥大症+前立腺炎
13. 膀胱結石+膀胱炎
14. 動脈粥状硬化症(大動脈, 冠動脈, Willis動脈輪)
15. 諸臓器のうっ血 (肝・脾・肺)
16. [陳旧性脳梗塞](1400g)
17. [慢性副鼻腔炎]

直接死因：肺血栓塞栓症および急性心筋梗塞による循環不全

剖検番号 1494

94歳 女性 出所：循環器内科 (主治医：高井 瑞貴 研修医：椿 佳那子、永木鈴子)

臨床診断：蘇生に成功した心停止

主病診断：

1. 右下肺置換型腺癌 (200;310g) 同浸潤・転移およびリンパ節転移無し

2. 肥大型心筋症 (390g)

副病変：

1. 心肺停止状態 (無脈性電気活動PEA→心拍再開ROSC)
心肺蘇生術後・気管挿管状態
肋骨変形・骨折+胸腔・腹腔内出血・血性胸水 (20;70ml) ・血性腹水 (70ml) +肺脂肪塞栓
低酸素脳症
2. 骨髓血球貪食症候群
3. るいそう+背部・仙骨部褥瘡及びびらん+経管栄養管理状態
4. 右室壁脂肪浸潤 (不整脈原性右室心筋症・疑) +心筋血管周囲炎・軽度好中球浸潤 (中隔)
5. 全身のうっ血傾向 (肝・腎・脾)
うっ血肝+肝東洋溝 (680g)
肺水腫・肺出血 (200;310g) +両側胸水 (20;70ml)
6. 左右冠動脈主幹部・起始部石灰化
7. 大動脈粥状硬化症
8. 消化管粘膜びらん (胃・食道接合部、下部消化管)
9. 回腸憩室
10. 上行結腸ポリープ (低異型度管状腺腫)
11. 慢性胆嚢炎+胆石症
12. 膵尾部の石灰化脾動脈瘤 (55g)
13. 両側副腎周囲脂肪壊死 (5.7 ; 5.8 g)
14. 腎近位尿細管障害・腎多発貯留嚢胞 (95;80g)
15. 子宮・付属器摘出後
16. 椎体圧迫骨折+ [変形性脊椎症]

直接死因：肥大型心筋症による致死性不整脈・心不全

剖検番号 1495

71歳 男性 出所：血液内科 (主治医：後藤 貴之 研修医：沼口 宜史、福岡 孝太郎)

臨床診断：再発性濾胞性リンパ腫・グレード3 a

主病変：

主病診断：

1. 濾胞性リンパ腫 化学療法後
同浸潤：骨髓 リンパ節：なし
2. 血球貪食症候群 (骨髓, 肝臓, 脾臓)
2-1. 播種性血管内凝固

副病変：

1. 限局性心筋変性・線維化 (360 g)
2. ヘモジデロシス (骨髓, 肝 1180 g, 脾 160 g)
3. 急性尿細管壊死+良性腎硬化症+右腎髓質線維腫 (160 ; 150 g)
4. 小葉中心性肺気腫+左肺尖部ブレブ (280 ; 280 g)
5. 胆嚢腺筋腫症+コレステロールポリープ
6. 十二指腸異所性膵 (Heinlich分類II型)
7. Meckel憩室
8. 前立腺肥大症
9. 萎縮性胃炎
10. 膀胱びらん
11. 諸臓器のうっ血 (肺, 腎, 肝)
12. 外陰部皮膚の変性・壊死

直接死因：血球貪食症候群に伴う多臓器不全

剖検番号 1496

66歳 男性 出所：血液内科 (主治医：北川 順一 研修医：日置 幸信、宮部亜里紗)

臨床診断：急性骨髄性白血病

主病診断：

1. 急性骨髄性白血病 臍帯血移植後
同浸潤・転移：なし
 2. 播種性Lomentospora prolificans感染症：気管，右肺，心，腎，胆嚢，甲状腺
- 2-1. 敗血症
- 2-1-1. びまん性肺胞傷害 (580; 560 g)
 - 2-1-2. 肝内胆汁うっ滞 (canalicular cholestasis)
 - 2-1-3. 急性尿細管壊死 (230; 210 g)

副病変：

1. ヘモクロマトーシス：肝 (1130 g) ，脾 (170 g) ，膵 (70 g) ，副腎 (5.7 ; 5.2 g) ，骨髓
2. 虚血性腸炎+リポマトーシス
3. 脾出血+髄外造血+副脾
4. 限局性心筋変性・線維化 (薬剤誘発性心筋症疑い) (460 g)
5. 肺線維症+脂肪塞栓
6. 腔水症：胸水 (50; 150 mL) ，心嚢水 (80 mL) ，腹水 (800 mL)
7. 食道グリコーゲンアカントーシス
8. びらん性胃炎
9. 膀胱びらん
10. 諸臓器のうっ血 (肺，肝，脾，腎)
11. 動脈粥状硬化症
12. 仙骨部褥瘡
13. 虫垂切除術後状態

直接死因：播種性Lomentospora prolificans感染症に伴う敗血症

平成25年～令和5年 各検査別件数の年推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 (令和元年)	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
病理組織検査	5,862	6,168	6,409	6,802	6,598	6,978	7,593	6,701	7,388	7,446	7,326
免疫染色	244	404	630	890	897	1,001	1,092	1,075	1,241	1,327	1,276
細胞診	6,563	6,006	5,217	5,151	4,759	4,757	5,070	4,870	5,070	5,702	5,751
OSNA検査	6	38	65	40	53	57	60	70	64	70	65
剖検	11	11	11	22	18	14	13	10	15	12	19

病理組織検査件数は生検や手術の増加に伴い年々増加していたが、令和2年は新型コロナ感染拡大のため減少した。しかし、令和3年からは新型コロナ感染の影響が少なくなって、病理組織検査件数が増加してきたが、令和5年は少し減少した。

免疫染色は平成25年3月に自動免疫染色装置を導入し、平成26年より運用を開始した。それ以前は外部委託であった。免疫染色の院内化により、件数が年々増加していたが令和5年は微減した。特に、肺癌や血液疾患の診断確定に利用されている。

OSNA検査（遺伝子検査）は平成25年9月に導入され、同年11月より運用を開始した。SNA検査の導入により、乳癌におけるセンチネルリンパ節への転移の診断が正確で容易となり臨床に貢献できている。導入以前は、迅速凍結切片を作製して鏡検にて診断していた。

令和5年（2023年） OSNA検査（乳腺外科）月別・件数・点数 統計表

診療科名	集計区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
乳腺外科	件数	7	4	2	5	8	6	5	7	5	3	9	4	65
乳腺外科	点数	16,800	9,600	4,800	12,000	19,200	14,400	12,000	16,800	12,000	7,200	21,600	9,600	156,000

令和5年（2023年） 細胞診 検査項目別・月別・件数 統計表

検査項目	1月件数	2月件数	3月件数	4月件数	5月件数	6月件数	7月件数	8月件数	9月件数	10月件数	11月件数	12月件数	合計件数
一般材料1材料	234	231	276	243	217	308	261	240	252	242	240	236	2,980
婦人科材料1材料	214	201	251	179	223	261	245	196	238	265	206	267	2,746
術中迅速	3	2	1	1	0	0	1	3	4	5	4	1	25
月合計	451	434	528	423	440	569	507	439	494	512	450	504	5,751

令和5年（2023年） 細胞診 検査項目別・月別・点数 統計表

検査項目	1月件数	2月件数	3月件数	4月件数	5月件数	6月件数	7月件数	8月件数	9月件数	10月件数	11月件数	12月件数	合計件数
一般材料1材料	44,460	43,890	52,440	46,170	41,230	58,520	49,590	45,600	47,880	45,980	45,600	44,840	566,200
婦人科材料1材料	32,100	30,150	37,650	26,850	33,450	39,150	36,750	29,400	35,700	39,750	30,900	40,050	41,1900
術中迅速	1350	900	450	450	0	0	450	1,350	1,800	2,250	1,800	450	11,250
月合計	77,910	74,940	90,540	73,470	74,680	97,670	86,790	76,350	85,380	87,980	78,300	85,340	989,350

令和5年（2023年） 細胞診検査 診療科別・月別 統計表

診療科名	1月件数	2月件数	3月件数	4月件数	5月件数	6月件数	7月件数	8月件数	9月件数	10月件数	11月件数	12月件数	合計件数
外科	10	5	9	12	4	9	7	8	16	11	20	2	113
小児科	9	9	14	6	12	7	6	8	6	11	10	10	108
産婦人科	185	182	233	180	198	218	212	159	189	224	166	240	2,386
耳鼻いんこう科	20	18	24	17	19	39	18	16	22	25	24	29	271
泌尿器科	59	80	90	77	53	89	86	74	95	76	81	75	935
呼吸器内科	51	54	45	55	53	63	57	60	49	51	43	56	637
脳神経外科	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	5
呼吸器外科	1	0	0	2	4	5	4	7	5	5	4	5	42
人間ドック	44	27	33	14	38	53	49	53	59	48	48	43	509
歯科口腔外科	11	8	9	10	14	13	15	9	8	14	11	9	131
循環器内科	0	2	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	8
消化器内科	28	18	36	29	20	42	23	25	25	25	24	15	310
腎臓内科	4	4	8	4	5	2	2	0	0	3	5	3	40
血液内科	14	9	12	8	10	12	15	4	4	7	7	6	108
乳腺外科	12	13	14	6	9	14	10	11	13	9	6	7	124
糖尿病・内分泌内科	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4
脳神経内科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
総合診療・膠原病内科	3	2	0	2	0	0	2	5	1	1	0	2	18
月合計	451	434	528	423	440	569	507	439	494	512	450	504	5,751

令和5年（2023年） 病理組織検査 診療科別・月別 統計表

診療科名	1月件数	2月件数	3月件数	4月件数	5月件数	6月件数	7月件数	8月件数	9月件数	10月件数	11月件数	12月件数	合計件数
外科	53	43	64	47	48	53	42	67	43	61	54	56	631
整形外科	6	7	14	6	13	13	11	14	7	7	11	11	120
小児科	1	1	0	1	2	0	5	4	7	7	5	3	36
産婦人科	104	107	127	99	112	95	98	99	87	110	106	105	1,249
眼科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
耳鼻いんこう科	34	27	33	23	35	37	27	31	29	35	32	14	357
皮膚科	41	37	43	46	44	51	42	54	43	43	41	46	531
泌尿器科	30	30	41	41	39	31	40	43	29	30	31	41	426
呼吸器内科	15	13	15	11	12	20	20	19	18	14	12	15	184
脳神経外科	1	2	4	5	2	3	5	7	3	7	0	2	41
呼吸器外科	2	0	0	5	10	11	11	16	12	10	11	12	100
歯科口腔外科	3	7	6	7	5	6	3	7	8	7	7	2	68
循環器内科	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4
消化器内科	11	6	10	13	2	8	11	7	9	12	9	8	106
腎臓内科	4	3	6	4	5	4	3	5	1	3	2	3	43
血液内科	50	35	46	42	42	52	44	37	41	58	58	39	544
乳腺外科	26	22	26	27	18	20	27	28	18	34	31	35	312
心臓血管外科	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	7
総合診療・膠原病内科	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
麻酔科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
消化器病センター	209	215	263	195	179	236	216	208	227	230	206	179	2,563
月合計	591	556	699	572	568	642	609	648	582	669	618	572	7,326

令和5年（2023年）剖検 科別・月別 統計

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
総合診療・膠原病内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
糖尿病・内分泌内科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
血液内科	1	1	2	0	0	2	1	1	0	1	2	2	13
呼吸器内科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
腎臓内科	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
小児科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月合計	2	3	3	0	1	2	1	2	0	1	2	2	19

令和5年(2023年) 病理組織検査 検査項目別・月別・件数 統計表

検査項目	令和5年												前年比較 (△印減)	前年比 増減(%) (△印減)				
	1月件数	2月件数	3月件数	4月件数	5月件数	6月件数	7月件数	8月件数	9月件数	10月件数	11月件数	12月件数			合計件数			
普通標本1臓器	466	444	554	444	454	502	480	514	456	533	495	454	5796	5854	△58	△0.99%		
普通標本2臓器	78	72	92	79	58	89	81	74	75	79	71	55	903	964	△61	△6.93%		
普通標本3臓器以上	38	34	45	31	47	39	34	41	36	43	33	51	472	466	6	1.29%		
迅速診断	6	4	6	11	8	8	9	15	12	12	14	7	112	131	△19	△14.50%		
診断のみ(借用標本)	3	2	2	7	1	4	5	3	3	2	5	5	42	31	11	35.48%		
necropsy	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	***	***	
心筋生検(外注)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.00%	0.00%	
電子顕微鏡検査(臓器につき)	4	3	6	4	5	4	3	5	1	3	2	3	43	52	△9	△17.31%		
蛍光抗体法	4	3	6	4	5	4	4	2	5	1	3	2	42	51	△9	△17.65%		
免疫抗体法1(免疫染色1)	71	60	89	77	61	77	82	75	75	97	99	71	934	972	△38	△3.91%		
ER/Pgr検査	13	10	5	12	6	10	12	15	7	10	14	16	130	134	△4	△2.99%		
HER2/neu蛋白検査	12	9	6	12	4	1	1	0	0	0	0	1	47	126	△79	△62.70%		
EGFR遺伝子変異解析	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0.00%	0.00%	
免疫抗体法2(免疫染色2)	27	21	24	20	24	36	35	19	31	38	41	26	342	355	△13	△3.66%		
乳癌HER2遺伝子(FISH)	0	0	1	0	1	0	0	1	0	2	0	1	6	8	△2	△25.00%		
胃癌HER2遺伝子(FISH)	3	8	7	2	7	9	7	7	6	6	2	2	66	73	△7	△9.59%		
ALK遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	100.00%	100.00%	
CCR4遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	***	***	
肺癌ALK遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	3	△1	△33.33%		
EGFR遺伝子変異解析(v2.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	△3	△60.00%		
c-kit遺伝子変異解析(GIST)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	***	***	
肺癌PD-L1遺伝子検査	2	1	3	5	7	8	6	7	5	4	3	4	55	68	△13	△19.12%	△13	△33.33%
ROS1融合遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	3	△1	△33.33%	△1	△33.33%
頭頸部癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	***	***	
悪性腫瘍病理組織標本加算	50	40	40	52	39	38	42	51	36	41	48	36	513	591	△78	△13.20%		
RAS/BRAF遺伝子変異解析	8	11	12	5	6	18	17	8	9	8	9	12	123	140	△17	△12.14%		
オンコメイン Dx Target Test Cdx システム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	***	***	
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査	10	12	14	7	6	17	15	9	11	12	10	12	135	163	△28	△17.18%		
乳癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	***	***	
AmoyDX Target Test マルチ CDx システム	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	***	***	
FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル	4	2	3	1	0	2	2	2	0	4	1	1	22	9	13	144.44%	144.44%	
NCC オンコパネルシステム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	***	***	
食道癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3	0	***	***	
オンコメイン Dx Target Test マルチ CDx システム	1	1	2	2	1	2	1	2	1	0	1	0	13	20	△7	△35.00%	△7	△35.00%
ArcherME Tex14 スキッピング検査	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	***	***	
乳癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	4	3	1	33.33%	33.33%	
胃癌PD-L1遺伝子検査	2	5	5	1	2	2	4	3	3	2	2	2	32	27	5	18.52%	18.52%	
myChoice 診断システム	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	6	4	2	50.00%	50.00%	
AmoyDX 肺癌 マルチパネル研究用(3ヶ月以下)	2	1	2	2	6	5	6	4	3	3	3	3	40	39	1	2.56%	2.56%	
大腸癌HER2遺伝子検査	9	8	12	4	5	13	11	5	3	3	4	9	86	42	44	104.76%	104.76%	
胃癌HER2遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	300.00%	300.00%	
食道癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0.00%	0.00%	
乳癌HER2遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	***	***	
向意有り(肺癌DB) オンコメイン Dx Target Test マルチ6遺伝子研究46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	***	***	
GenMine TOP がんゲノムプロファイル システム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	***	***	
肺癌PD-L1遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	***	***	
オンコメイン Dx Target Test マルチ CDx システム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	***	***	
BRAF V600E 遺伝子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	***	***	
月合計	815	752	938	786	758	899	869	887	787	928	875	796	10090	10058	32	0.32%	0.32%	

令和5年(2023年) 病理組織検査 検査項目別・月別・点数 統計表

検査項目	令和5年												令和4年 合計点数	前年比較 (△印減)	前年比 増減(%) (△印減)	
	1月点数	2月点数	3月点数	4月点数	5月点数	6月点数	7月点数	8月点数	9月点数	10月点数	11月点数	12月点数				合計点数
検査項目	400760	381840	476440	381840	390440	431720	412800	442040	425700	458380	425700	390440	4984560	5034440	△ 49880	△ 0.99%
普通標本1臓器	134160	123840	158240	135880	99760	153080	139320	127280	129000	135880	122120	94600	1553160	1658080	△ 104920	△ 6.33%
普通標本2臓器	98040	87720	116100	79880	121260	100820	87720	105780	92880	110940	85140	131580	1217760	1202280	△ 15480	1.29%
普通標本3臓器以上	11940	7960	11940	21890	15920	15920	17910	29850	23880	23880	27860	222880	260690	△ 37810	△ 14.50%	
迅速診断	1500	1000	1000	3500	500	2000	2500	1500	1500	1000	2500	2500	15500	5500	5500	35.48%
診断のみ(借用標本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	****
necropsy	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	****
心臓生検(外注)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
電子顕微鏡検査(臓器につき)	8000	6000	12000	8000	10000	8000	6000	10000	2000	6000	4000	6000	86000	104000	△ 18000	△ 17.31%
蛍光抗体法	1600	1200	2400	2400	2000	1600	800	2000	400	1200	800	1200	16800	20400	△ 3600	△ 17.65%
免疫抗体法1(免疫染色1)	28400	24000	35600	30800	30800	30800	32800	30000	30000	38800	39600	28400	373600	388800	△ 15200	△ 3.91%
ER/PR検査	11700	9000	4300	10800	5400	9000	10800	13500	6300	9000	12600	14400	120600	120600	△ 3600	△ 2.99%
HER2/neu産白検査	8280	6210	4140	8280	2760	690	690	690	0	0	690	690	32430	86940	△ 54510	△ 62.70%
EGR遺伝子変異解析	0	0	0	0	0	0	0	2100	2100	0	0	0	4200	4200	0	0.00%
免疫抗体法2(免疫染色2)	43200	33600	38400	32000	38400	57600	56000	30400	49600	60800	65600	41600	547200	568000	△ 20800	△ 3.66%
乳癌HER2遺伝子(FISH)	0	0	2700	0	2700	0	2700	0	0	5400	0	2700	16200	21600	△ 5400	△ 25.00%
胃腸HER2遺伝子(IHC)	2070	5520	4830	1380	4830	6210	4830	4830	4140	4140	1380	1380	45540	50370	△ 4830	△ 9.59%
ALK遺伝子(IHC)	0	0	0	0	0	400	0	0	0	0	0	0	800	400	400	100.00%
COR44遺伝子(IHC)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20000	20000	0	****
肺癌ALK遺伝子(AEP法)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5400	8100	△ 2700	△ 33.33%
EGR遺伝子変異解析(v2.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000	12500	△ 7500	△ 60.00%
G-kit遺伝子変異解析(GST)	2100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2100	2100	0	****
肺癌PD-L1遺伝子(IHC)抗体22C3	5400	2700	8100	13500	18900	21600	16200	18900	13500	10800	8100	10800	148500	183600	△ 35100	△ 19.12%
ROS1融合遺伝子定性(RT-PCR)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000	7500	△ 2500	△ 33.33%
頭頸部癌PD-L1遺伝子(IHC):抗体28-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5400	5400	0	****
悪性腫瘍病理組織標本加算	7500	6000	6000	7800	5850	5700	6300	7650	5400	6150	7200	5400	76950	88650	△ 11700	△ 13.20%
RAS・BRAF遺伝子変異解析	32000	44000	48000	20000	24000	72000	68000	32000	36000	32000	36000	48000	492000	560000	△ 68000	△ 12.14%
オンコメイン Dx Target Test システム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000	5000	0	0.00%
マイクロアレイ不安定性(MSI)検査	25000	30000	35000	17500	15000	42500	37500	22500	27500	30000	25000	30000	337500	407500	△ 70000	△ 17.18%
乳癌PD-L1遺伝子(IHC):SP142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8100	8100	0	****
オンコメイン Dx Target Test マルチ GDxシステム	0	0	0	14000	0	0	0	14000	0	0	0	0	28000	28000	0	0.00%
FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
NGC オンコパネルシステム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	****
食道癌PD-L1遺伝子(IHC):28-8	0	0	0	2700	0	0	0	0	0	2700	0	0	8100	8100	0	0.00%
オンコメイン Dx Target Test マルチ研究用46遺伝子解析	14000	14000	28000	28000	14000	28000	0	28000	14000	0	14000	0	182000	280000	△ 98000	△ 35.00%
ArcherME14スキッピング検査	0	0	0	0	0	5000	0	0	0	0	0	0	5000	5000	0	0.00%
乳癌PD-L1遺伝子(IHC):22C3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10800	8100	2700	33.33%
胃腸PD-L1遺伝子(IHC):28-8	5400	13500	13500	2700	5400	5400	10800	8100	8100	5400	2700	2700	10800	13500	2700	33.33%
myChoice診断システム	32200	0	0	32200	32200	32200	0	0	0	32200	0	32200	193200	128800	64400	50.00%
AmoyDX肺癌マルチパネル研究用(3ヶ月以下)	20000	10000	20000	20000	60000	50000	60000	40000	30000	30000	30000	30000	400000	390000	10000	2.56%
大腸癌HER2遺伝子	6210	5520	8280	2760	3450	8970	7590	3450	2070	2070	2760	6210	59340	28980	30360	104.76%
胃腸HER2遺伝子(FISH)	0	2700	0	0	2700	0	0	2700	0	2700	0	0	10800	2700	8100	300.00%
食道癌PD-L1遺伝子(IHC):28-8	0	0	2700	0	0	0	2700	0	0	2700	0	0	10800	10800	0	0.00%
乳癌HER2遺伝子(IHC):4B5	0	0	0	0	1380	5520	6900	10350	4140	6900	8280	9660	53130	53130	0	****
同意有り(肺癌DB)オンコメインDx Target Test マルチ6遺伝子研46	0	0	0	0	0	0	0	0	18000	18000	18000	36000	90000	90000	0	****
GenMine TOP がんゲノムプロファイルシステム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56000	112000	0	168000	168000	0	****
肺癌PD-L1遺伝子(IHC):SP263	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2700	0	2700	5400	5400	0	****
オンコメインDx乳がん再発スコアプログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43500	43500	43500	0	****
BRAF V600E遺伝子解析(rSSO)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5000	5000	5000	0	****
月合計	899460	816310	1037870	879810	901650	1096630	1011720	1000430	959270	1167140	988930	951190	11710410	12360890	△ 650480	△ 5.26%

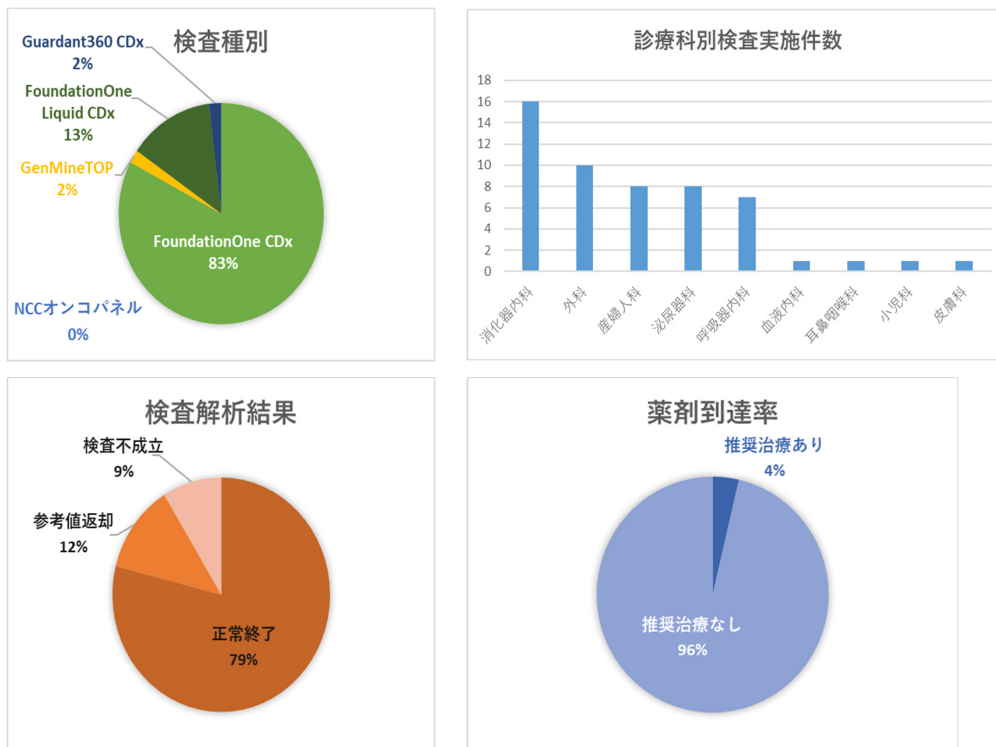
ゲノム医療センター統計

がん遺伝子パネル検査

2023年12月現在、保険診療として実施できるがん遺伝子パネル検査は、OncoGuide NCC オンコパネル、FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル検査、GenMineTOP、FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル検査、Guardant360CDx の5種類である。2023年7月にGuardant360 CDx、2023年8月にGenMineTOPがそれぞれ保険収載され、検査開始となった。

2023年のがん遺伝子パネル検査のための組織評価件数は72件で、そのうち、院内ゲノムボードで承認され、検査が実施された件数は55件。検査の結果、推奨治療が提示されたのは2症例。昨年と比較し、がん遺伝子パネル検査の組織評価件数は約1.7倍、検査実施件数は約1.6倍となった。

検査内訳



コンパニオン診断実施件数

	2023年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
BRCA1/2遺伝子検査（乳癌）	0	2	2	0	2	3	3	1	1	3	1	2	20
BRCA1/2遺伝子検査（膵癌）	1	2	2	3	4	2	0	1	2	1	0	0	18
BRCA1/2遺伝子検査（卵巣癌）	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
BRCA1/2遺伝子検査（前立腺癌）	2	2	0	2	2	0	0	0	1	0	2	2	13
myChoice診断システム	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0	5
オンコマインDx	3	0	2	3	2	3	1	0	4	3	4	2	27
AmoyDx	4	0	1	3	3	8	6	3	6	2	3	3	42
ArcherMETex14スキッピング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
オンコタイプDX乳がん再発スコアプログラム	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	1	1

オンコタイプ DX 乳がん再発スコアプログラムは2023年9月保険収載され、検査開始となった。

看護部統計

看護職員配置職員数

令和5年4月1日時点

	正職			非常勤		配置数
	常勤	育短	部分休	パートA	パートB	
中4階	25	2		3		30
中5階	29		1			30
中6階	27	2	1	1	1	32
中7階	26	2	1	1		30
中8階	22	2	1	1		26
中9階	21		2		2	25
中10階	28		1	2		31
西7階	21	1		1		23
西8階	29		1	1	2	33
西9階	26	2		4	1	33
西10階	21					21
ICU	25	1	1			27
中3HCU	32	1				33
中5HCU	21	1				22
手術室	33	3		3		39
救急外来	24	2				26
腎センター	5		1	1		7
消化器病センター	6		2	2		10
外来化学療法センター	4	2	2	3	1	12
外来診療部	31	6	9	45	3	94
入退院支援センター	11		1	2		14
地域連携	1					1
医療安全推進室	2					2
感染対策室	1					1
認知症ケア	1					1
緩和ケア	1					1
研修センター	1					1
医事・診療録・がん登録	3					3
認定看護師専従	2					2
看護部長室	8				2	10
合計	487	27	24	70	12	620

産前産後休暇	9
育児休暇	45
休職	4

令和5年度 専門看護師・認定看護師・特定看護師数

専門看護師			特定看護師
がん看護	精神看護	慢性疾患看護	4
2	1	1	

認定看護師					
がん性疼痛看護	摂食・嚥下障害看護	小児救急看護	がん化学療法看護	集中ケア	がん放射線療法看護
1	1	1	3	1	1
皮膚・排泄ケア	糖尿病看護	手術看護	救急看護	慢性心不全看護	透析看護
2	1	1	2	1	2
認知症看護	慢性呼吸器疾患看護	脳卒中リハビリテーション	緩和ケア	感染管理	クリティカルケア
1	1	1	1	1	2

令和5年4月1日時点

看護補助者数

令和5年4月1日時点

職種	採用区分	人数
介護福祉士	フルタイム	
	パートA	1
	合計	1
看護助手	正職員	2
	フルタイム	
	パートAA	15
	パートB	65
	合計	82

令和5年度 退職者数 (正職員)

他の職場への興味	10
精神的理由	8
適性能力の不安	6
看護職以外の職場への興味	6
転居	5
役職定年・自己都合	4
定年・再任用満了	4
疲弊	3
夜勤が負担	3
結婚	3
子育て	2
分娩を経験したい	1
身体的理由	1
合計	56

健康管理センター統計

(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

健診成績表(男性) 年代別・機能別分類

年代別	39歳以下						40～59歳						60歳以上						合計					
	93						788						683						1564					
受診者数	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未
1 身体測定	27	28	38	0	0	0	237	146	390	0	0	15	165	147	357	0	0	14	429	321	785	0	0	29
2 肺機能	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	788	0	0	0	0	0	683	0	0	0	0	0	1564
3 循環器	47	31	8	6	1	0	284	213	103	59	114	15	120	102	94	58	293	16	451	346	205	123	408	31
4 大腸	77	0	0	8	0	8	663	0	0	43	0	82	551	0	0	53	1	78	1291	0	0	104	1	168
5 肝臓・胆のう・膵臓	46	24	3	16	0	4	342	225	78	98	4	41	260	205	92	62	12	52	648	454	173	176	16	97
6 糖代謝	40	45	3	1	0	4	255	320	99	31	42	41	100	227	171	50	83	52	395	592	273	82	125	97
7 脂質代謝	11	32	26	17	3	4	46	332	209	73	83	45	41	259	109	43	170	61	98	623	344	133	256	110
8 腎臓・泌尿器	53	31	4	1	0	4	493	163	63	17	7	45	329	106	149	33	5	61	875	300	216	51	12	110
9 尿酸	67	12	2	5	3	4	532	117	48	11	35	45	444	70	28	7	73	61	1043	199	78	23	111	110
10 血液	58	21	5	5	0	4	489	186	33	36	2	42	402	117	66	39	5	54	949	324	104	80	7	100
11 炎症反応	48	5	0	2	0	38	388	25	0	6	0	369	420	17	0	5	0	241	856	47	0	13	0	648
12 眼科	38	0	24	25	1	5	250	0	210	269	11	48	110	0	160	261	81	71	398	0	394	555	93	124
13 耳鼻科	84	0	0	3	0	6	627	0	26	86	1	48	283	0	55	272	2	71	994	0	81	361	3	125
14 胸部	78	4	0	2	1	8	576	115	13	11	4	69	359	167	21	39	9	88	1013	286	34	52	14	165
15 上部消化管	57	18	3	3	0	12	280	243	52	82	2	129	111	238	65	100	5	164	448	499	120	185	7	305
16 腹部超音波	26	11	19	0	0	37	97	179	226	17	5	264	43	195	209	36	14	186	166	385	454	53	19	487

A:異常なし B:軽度異常 C:要再検査、または生活改善を様子 D:要精密検査、または要治療を要す E:現在治療中 未:未実施

※「2肺機能」「11炎症反応」「16腹部超音波」は、行わないコースがあります。

健診成績表(女性) 年代別・機能別分類

年代別	39歳以下						40～59歳						60歳以上						合計					
	78						771						508						1357					
受診者数	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未	A	B	C	D	E	未
1 身体測定	5	46	27	0	0	15	38	468	254	0	0	28	14	318	157	0	1	193	57	832	438	0	1	236
2 肺機能	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	788	0	0	0	0	0	683	0	0	0	0	0	1564
3 循環器	36	26	13	2	1	15	375	187	102	53	43	28	151	103	74	48	114	193	562	316	189	103	158	236
4 大腸	69	0	0	6	0	18	640	0	0	53	0	95	403	0	0	39	0	241	1112	0	0	98	0	354
5 肝臓・胆のう・膵臓	50	17	8	2	0	16	437	198	69	29	4	51	226	168	43	29	4	213	713	383	120	60	8	280
6 糖代謝	55	19	1	2	0	16	358	277	79	12	11	51	100	197	127	18	28	213	513	493	207	32	39	280
7 脂質代謝	22	40	9	6	0	16	101	355	158	58	56	60	17	167	111	24	140	224	140	562	278	88	196	300
8 腎臓・泌尿器	28	35	9	5	0	16	314	276	114	21	3	60	197	136	106	20	0	224	539	447	229	46	3	300
9 尿酸	76	1	0	0	0	16	708	9	9	0	2	60	451	5	2	0	1	224	1235	15	11	0	3	300
10 血液	37	13	14	12	1	16	421	135	76	96	8	52	295	94	43	34	2	215	753	242	133	142	11	283
11 炎症反応	38	5	0	1	0	49	423	23	0	2	0	340	304	16	0	7	0	356	765	44	0	10	0	745
12 眼科	31	0	25	20	1	16	206	0	234	257	28	63	87	0	129	194	41	232	324	0	388	471	70	311
13 耳鼻科	75	0	0	2	0	16	684	0	13	28	1	62	311	0	42	96	1	233	1070	0	55	126	2	311
14 胸部	68	4	0	1	0	20	527	148	14	24	3	72	236	145	19	30	13	240	831	297	33	55	16	332
15 上部消化管	45	16	2	2	0	28	213	280	27	41	0	227	67	201	35	40	0	340	325	497	64	83	0	595
16 腹部超音波	26	11	6	1	0	49	144	181	167	18	7	271	41	142	132	27	9	332	211	334	305	46	16	652

A:異常なし B:軽度異常 C:生活習慣改善、または経過観察を要す D1:要治療 D2:要精密検査 E:現在治療中 未:未実施

※「2肺機能」「11炎症反応」「16腹部超音波」は、行わないコースがあります。

脳ドック成績表

受診者数	167					
	A	B	C	D	E	未
1 血圧	88	15	14	4	44	2
2 動脈硬化検査	124	14	27	0	0	2
3 頸動脈超音波	56	64	44	0	0	3
4 神経学的検査	0	0	0	0	0	167
5 頭部MRI	71	84	6	0	0	6
6 頭部MRA	140	14	6	0	0	7
7 認知機能	159	0	0	0	0	8

A:異常なし B:軽度異常 C:生活習慣改善、または経過観察を要す D1:要治療 D2:要精密検査 E:現在治療中 未:未実施

受診者数は男性前年1492人→1568人、女性前年1271人→1357人と男女ともに増加した。2022年の受診者が少なかったのに対して男性は2021年と同レベル、女性は2021年以上にまで増加した。例年と同様40歳～59歳が最も多く、男女はほぼ同数であった。60歳以上では女性が男性の73%と少ないものの近年では最も多い割合となっており、女性受診者が増加していることは好ましい結果と考える。退職などにより健診受診に際しての補助が減ることが、高齢層での受診者数減少に影響していると推定する。

60歳以上の年齢層で健診受診者が減り、特に女性の受診者数がまだ少ないことは憂慮すべき問題である。健康成績表では年齢が高い群ほど、A(異常なし)が減り、C、D、Eなど課題を持つ受診者が増える傾向にあることから、高齢層こそ、積極的な健診受診が望まれる。60歳以上は特定健診など別の健診に移行された可能性があり、また、何らかの疾患で医療機関を受診する者が増える年齢層でもあることから、何らかの方法で健康評価を受けておられることに期待する。

当院は、特定健診に比し多項目の健診を実施している。健診の検査項目の汎用性や内容が健康維持に実際に有用であるかの評価は必要であるが、健康寿命を保ち、活気のある高齢社会を目指す視点からは、60歳以上の者、特に女性に対して啓蒙を促し、健診を受診しやすい仕組みの構築が望まれる。

中央放射線部統計

1. 令和5年 部門別検査人数

2. 部門別・撮影部位別統計

- (1) 一般撮影
- (2) CT
- (3) MRI
- (4) 放射線治療
- (5) 核医学
- (6) 血管造影
- (7) TV使用検査
- (8) 超音波検査
- (9) マンモグラフィ・骨塩定量検査

3. 当直帯検査人数

4. 画像入出力件数

1. 令和5年 部門別検査人数

月	一般撮影	CT		MRI		放射線治療			核医学		血管造影	
		単純	造影	単純	造影	人数	門数	計画CT	RI	PET	消化器・ 脳外・他	循環器
1	3,969	2,059	491	698	134	562	1,201	51	75	128	30	65
2	3,855	2,121	488	702	139	659	1,653	45	68	137	35	54
3	4,252	2,354	554	847	127	819	1,932	50	82	135	32	93
4	3,986	2,090	485	747	149	774	1,699	49	90	129	28	68
5	4,325	2,178	487	783	123	712	1,588	44	78	125	22	102
6	4,166	2,180	534	807	153	609	1,321	36	100	139	32	99
7	4,124	2,096	502	733	142	622	1,124	55	78	128	20	60
8	4,299	2,261	507	798	135	712	1,238	41	78	144	22	54
9	3,920	2,078	493	723	144	527	1,177	33	73	130	32	55
10	4,171	2,153	491	747	148	498	965	41	84	137	32	77
11	4,001	2,079	535	716	142	640	1,173	34	80	131	46	72
12	3,903	2,031	516	737	120	451	970	23	63	126	30	63
小計		25,680	6,083	9,038	1,656				949	1,589	361	862
合計	48,971	31,763		10,694		7,585	16,041	502	2,538		1,223	

月	TV使用検査		結石破碎	超音波	マンモ グラフィ	骨塩定量	健康診断				
	放射線科	泌尿器科					胸部	消化管	超音波	マンモグラフィ	骨塩定量
1	89	44	4	889	92	71	155	58	127	30	10
2	80	43	2	874	121	86	176	63	103	22	6
3	75	52	4	988	141	108	118	39	97	26	11
4	77	41	2	937	124	82	112	39	93	13	5
5	70	38	3	949	104	87	163	73	129	26	6
6	82	58	3	1,006	139	76	305	137	249	47	9
7	91	52	5	944	130	95	265	121	192	51	6
8	91	50	6	1,005	137	109	279	121	239	59	19
9	77	39	8	934	154	76	265	108	213	56	10
10	79	53	10	993	195	96	282	115	219	64	11
11	84	53	6	932	182	94	271	112	172	45	15
12	88	56	3	919	156	88	240	89	155	45	12
小計	983	579									
合計	1,562		56	11,370	1,675	1,068	2,631	1,075	1,988	484	120

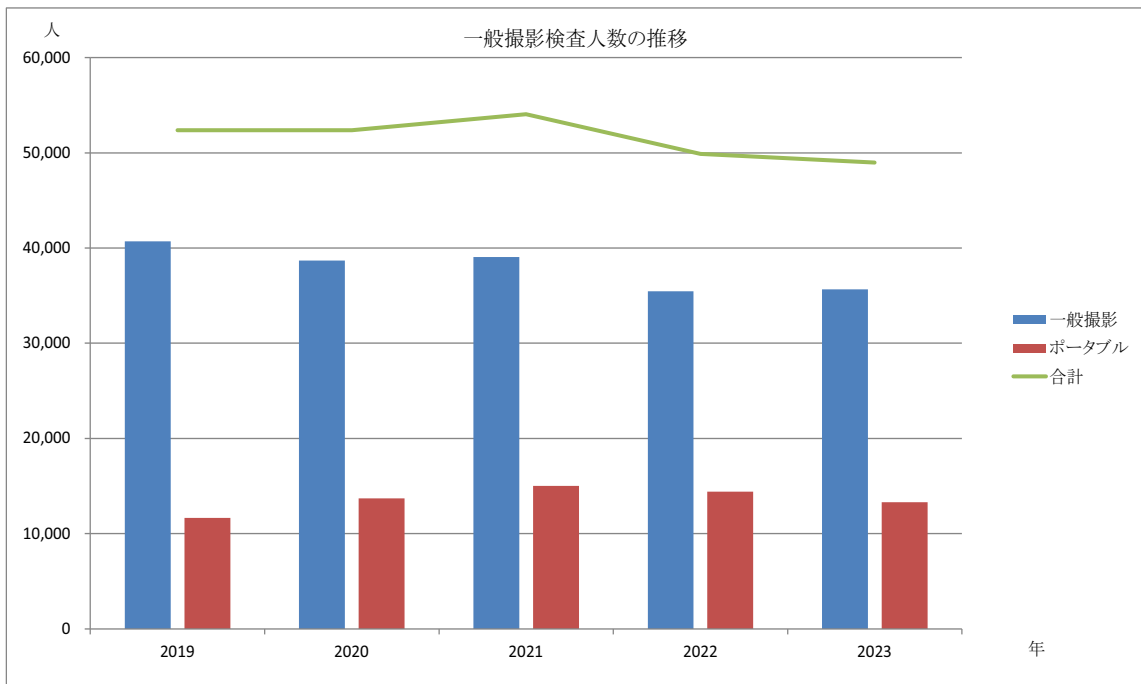
2. 部門別・撮影部位別統計

(1) 一般撮影

月	一般撮影	ポータブル	合計
1	2,712	1,257	3,969
2	2,753	1,102	3,855
3	3,134	1,118	4,252
4	2,946	1,040	3,986
5	3,184	1,141	4,325
6	3,088	1,078	4,166
7	3,051	1,073	4,124
8	3,074	1,225	4,299
9	2,816	1,104	3,920
10	3,095	1,076	4,171
11	2,948	1,053	4,001
12	2,870	1,033	3,903
合計	35,671	13,300	48,971

一般撮影検査人数の推移(2019~2023)

年	一般撮影	ポータブル	合計	前年比 (%)
2019	40,707	11,655	52,362	97.5
2020	38,671	13,709	52,380	100.0
2021	39,052	15,000	54,052	103.2
2022	35,473	14,401	49,874	92.3
2023	35,671	13,300	48,971	98.2

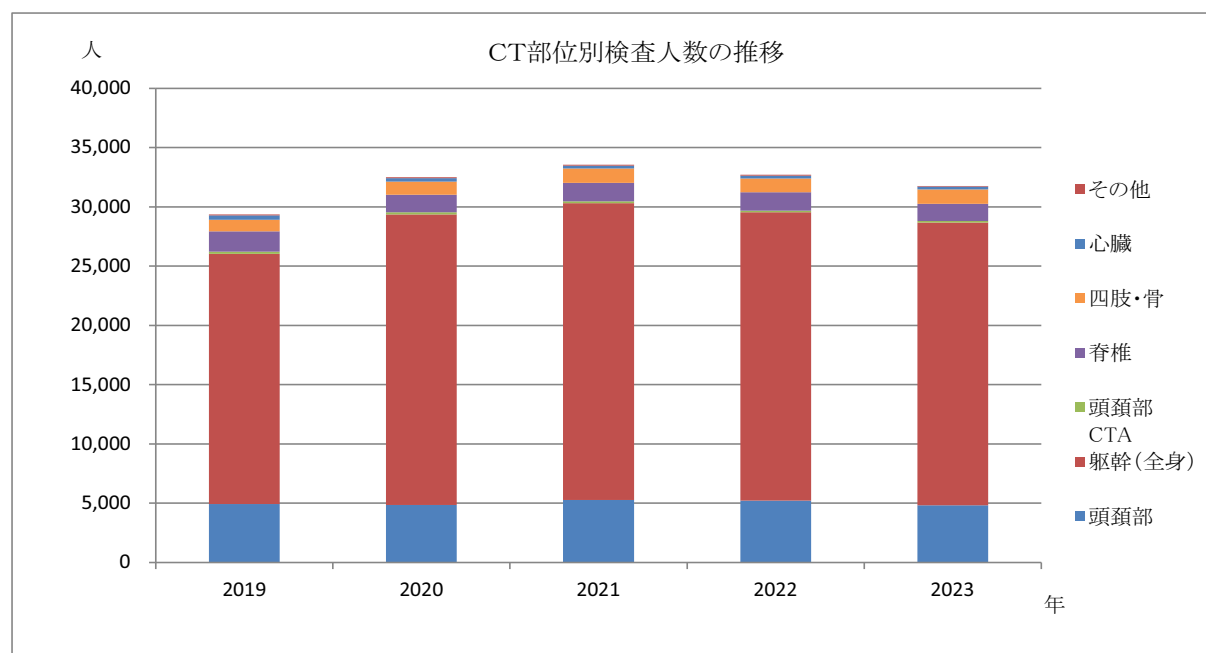


(2)CT

月	頭頸部		頭頸部 CTA	躯幹(全身)		脊椎		四肢・骨		心臓	その他	合計
	単純	造影	造影	単純	造影	単純	造影	単純	造影	造影		
1	367	12	8	1,494	444	114	0	80	1	21	9	2,550
2	415	6	12	1,483	447	126	0	88	4	19	9	2,609
3	400	9	11	1,727	502	122	0	101	7	22	8	2,909
4	405	14	11	1,488	427	119	0	79	4	23	5	2,575
5	379	13	12	1,580	440	126	0	92	6	14	3	2,665
6	375	11	9	1,587	478	113	0	108	7	23	4	2,715
7	350	13	9	1,535	443	115	0	93	6	26	8	2,598
8	409	14	9	1,621	468	148	0	97	2	15	4	2,787
9	372	26	9	1,490	453	106	0	95	3	18	2	2,574
10	388	33	6	1,521	455	115	0	101	3	14	8	2,644
11	409	25	15	1,417	479	136	0	111	3	16	6	2,617
12	357	19	13	1,433	445	113	0	108	2	24	6	2,520
小計	4,626	195	124	18,376	5,481	1,453	0	1,153	48	235	72	
合計	4,821		124	23,857		1,453		1,201		235	72	31,763

CT部位別検査人数の推移(2019~2023)

年	頭頸部	頭頸部 CTA	躯幹(全身)	脊椎	四肢・骨	心臓	その他	合計	前年比 (%)
2019	4,939	184	21,097	1,700	998	350	73	29,341	100.5
2020	4,855	178	24,501	1,472	1,119	279	85	32,489	110.7
2021	5,282	164	25,024	1,549	1,216	240	80	33,555	103.3
2022	5,206	135	24,326	1,553	1,163	253	75	32,711	97.5
2023	4,821	124	23,857	1,453	1,201	235	72	31,763	97.1

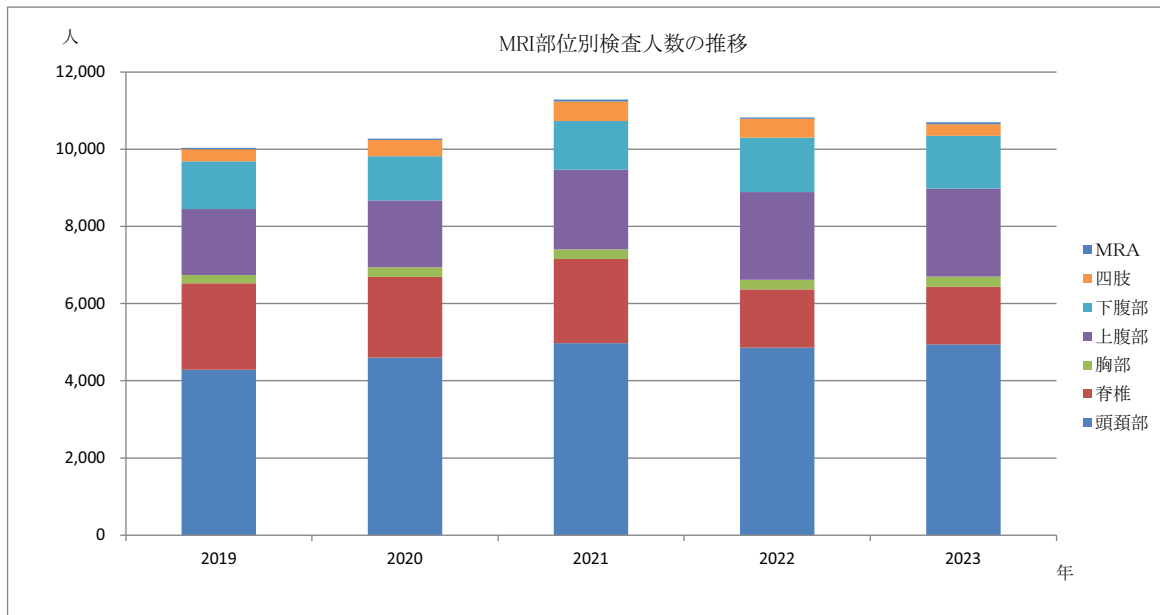


(3)MRI

月	頭頸部		脊椎		胸部		上腹部		下腹部		四肢		MRA		合計
	単純	造影	単純	造影	単純	造影	単純	造影	単純	造影	単純	造影	単純	造影	
1	340	46	106	1	3	10	129	56	98	21	18	0	4	0	832
2	319	50	123	5	12	9	133	53	100	19	13	3	2	0	841
3	411	40	118	1	9	11	153	57	127	17	23	1	6	0	974
4	391	59	116	0	6	14	120	57	94	17	17	2	3	0	896
5	398	55	133	1	6	12	132	42	85	13	26	0	3	0	906
6	395	59	143	2	5	20	144	58	94	11	23	3	3	0	960
7	361	44	121	3	4	20	127	55	94	19	26	1	0	0	875
8	362	58	139	1	12	14	149	49	97	12	33	1	6	0	933
9	310	53	117	0	9	18	151	64	102	7	28	2	6	0	867
10	345	58	127	3	5	20	147	53	89	14	30	0	4	0	895
11	340	63	116	1	3	22	133	42	91	13	28	1	5	0	858
12	340	45	109	2	8	17	130	46	123	10	21	0	6	0	857
小計	4,312	630	1,468	20	82	187	1,648	632	1,194	173	286	14	48	0	
合計	4,942		1,488		269		2,280		1,367		300		48		10,694

MRI部位別検査人数の推移(2019~2023)

年	頭頸部	脊椎	胸部	上腹部	下腹部	四肢	MRA	合計	前年比(%)
2019	4,289	2,238	215	1,703	1,241	310	38	10,034	95.2
2020	4,600	2,090	248	1,732	1,146	420	39	10,275	102.4
2021	4,976	2,182	241	2,071	1,259	504	52	11,285	109.8
2022	4,861	1,507	247	2,269	1,409	489	35	10,817	95.9
2023	4,942	1,488	269	2,280	1,367	300	48	10,694	98.9

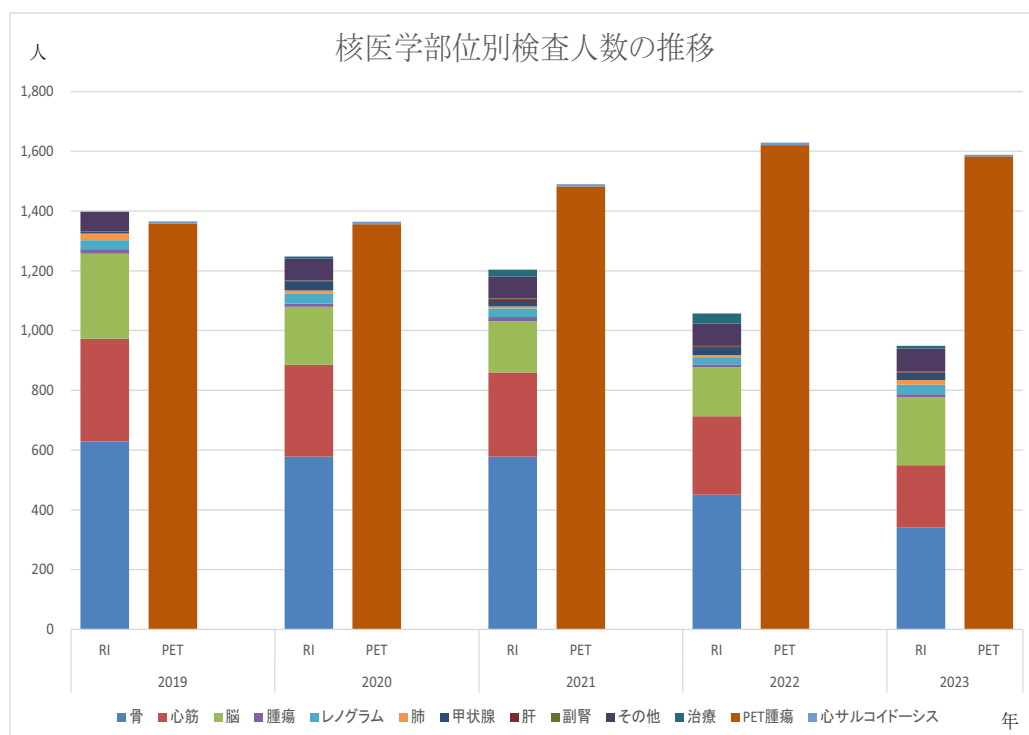


(5)核医学

月	RI												PET			合計
	骨	心筋	脳	腫瘍	レノグラム	肺	甲状腺	肝	副腎	その他	治療	計	腫瘍	心サルコイドーシス	計	
1	23	20	17	0	2	1	4	0	0	8	0	75	125	3	128	203
2	27	16	12	1	2	0	2	0	1	6	1	68	137	0	137	205
3	39	15	18	3	2	0	2	0	0	2	1	82	133	2	135	217
4	38	17	20	0	4	2	1	0	1	7	0	90	129	0	129	219
5	24	21	18	0	3	1	0	1	1	9	0	78	125	0	125	203
6	37	25	20	0	4	4	3	1	0	6	0	100	139	0	139	239
7	29	21	18	0	2	1	0	0	0	7	0	78	128	0	128	206
8	30	11	25	1	4	0	1	0	0	6	0	78	144	0	144	222
9	23	18	17	2	2	2	4	0	0	5	0	73	130	0	130	203
10	28	19	24	1	3	0	2	0	0	5	2	84	136	1	137	221
11	27	8	21	2	5	2	3	0	0	10	2	80	131	0	131	211
12	17	17	17	0	0	1	3	0	0	6	2	63	126	0	126	189
計	342	208	227	10	33	14	25	2	3	77	8	949	1,583	6	1,589	2,538

核医学部位別検査人数の推移(2019~2023)

年	RI												PET				合計	前年比(%)	
	骨	心筋	脳	腫瘍	レノグラム	肺	甲状腺	肝	副腎	その他	治療	計	前年比(%)	腫瘍	心サルコイドーシス	計			前年比(%)
2019	629	344	285	15	30	22	5	0	2	66	0	1,398	106.9	1,357	9	1,366	121	2,764	113
2020	578	308	194	11	34	9	31	2	1	72	8	1,248	89.3	1,356	9	1,365	100	2,613	95
2021	579	281	172	13	29	7	18	6	3	73	23	1,204	96.5	1,482	8	1,490	109	2,694	103
2022	451	262	164	10	21	10	27	3	1	75	33	1,057	87.8	1,621	8	1,629	109.3	2,686	99.7
2023	342	208	227	10	33	14	25	2	3	77	8	949	89.8	1,583	6	1,589	97.5	2,538	94.5



(4)放射線治療

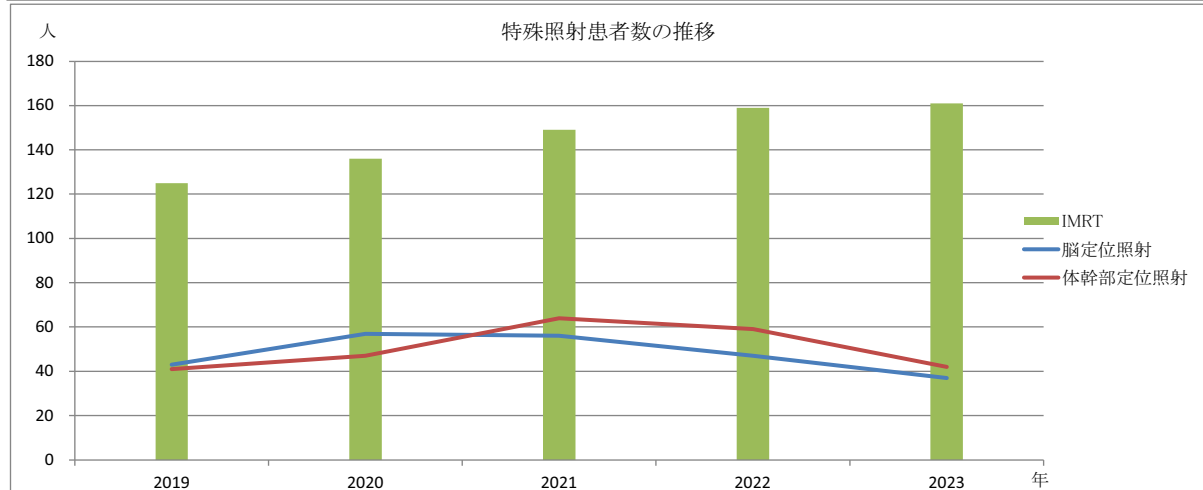
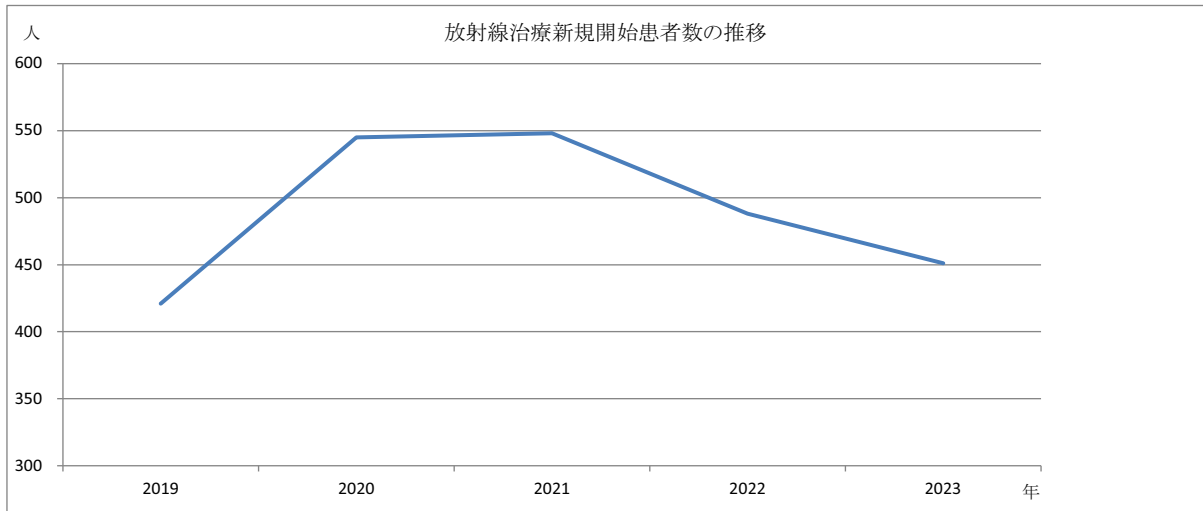
原発	2019	2020	2021	2022	2023
脳・脊髄	1	10	8	8	7
口腔	5	5	4	4	3
咽頭	7	7	6	5	4
喉頭	10	2	8	2	4
頭頸部その他	3	5	4	3	10
食道	5	10	14	19	24
肺・気管支・縦隔	139	190	152	123	115
乳腺	83	97	105	84	64
肝・胆・膵	29	30	41	30	36
胃・腸	16	35	31	37	33
婦人科	17	15	30	39	24
前立腺	45	54	56	67	56
泌尿器(前立腺を除く)	10	12	13	16	17
造血器リンパ系	30	31	36	21	26
皮膚・筋・骨	17	6	15	9	6
悪性リンパ腫	1	28	20	18	20
原発不明	3	8	5	3	2
合計	421	545	548	488	451

放射線治療新規開始患者数の推移(2019~2023)

照射部位	2019	2020	2021	2022	2023
脳・脊髄	67	86	78	61	67
口腔	3	5	5	2	1
咽頭	5	4	6	2	4
喉頭	10	1	8	2	4
頭頸部その他	9	20	10	14	25
食道	4	7	8	15	8
肺・気管支・縦隔	71	74	64	56	54
乳腺	42	52	59	48	43
胸部その他	11	19	24	15	14
肝・胆・膵	19	23	24	21	28
胃・腸	5	17	14	13	15
腹部その他	8	10	16	22	7
婦人科	9	11	24	21	16
前立腺	36	39	35	48	51
泌尿器(前立腺を除く)	5	5	1	5	4
皮膚・筋・軟部	8	3	14	10	22
全身照射	20	22	25	17	24
骨	86	140	131	109	64
その他	3	7	2	7	0
合計	421	545	548	488	451

特殊照射患者数の推移(2019~2023)

特殊照射	2019	2020	2021	2022	2023
脳定位照射	43	57	56	47	37
体幹部定位照射	41	47	64	59	42
IMRT	125	136	149	159	161

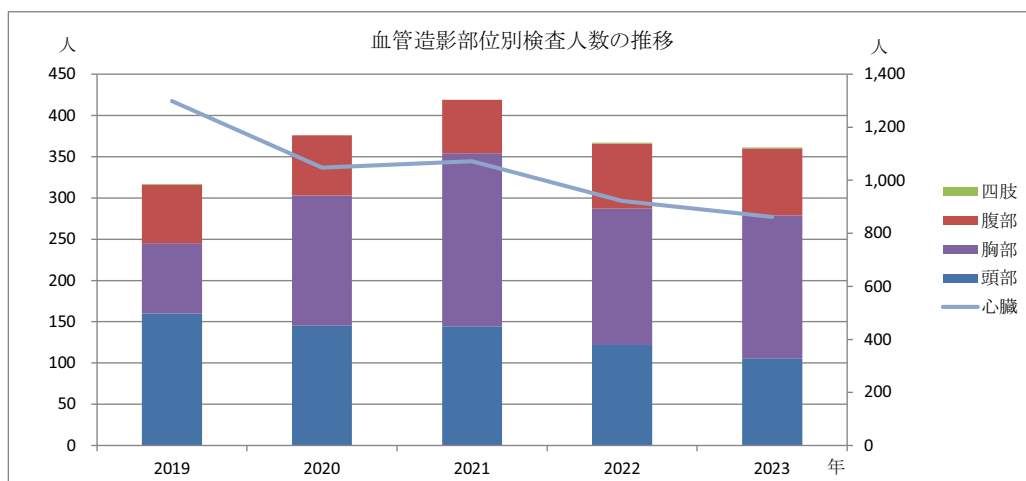


(6) 血管造影

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
頭部	9	10	9	13	10	10	7	4	5	6	14	8	105
胸部	16	17	14	9	10	14	9	12	20	19	19	15	174
腹部	5	8	9	6	2	8	4	6	7	6	13	7	81
四肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
心臓	65	54	93	68	102	99	60	54	55	77	73	63	862
合計	95	89	125	96	124	131	80	76	87	109	119	93	1,223

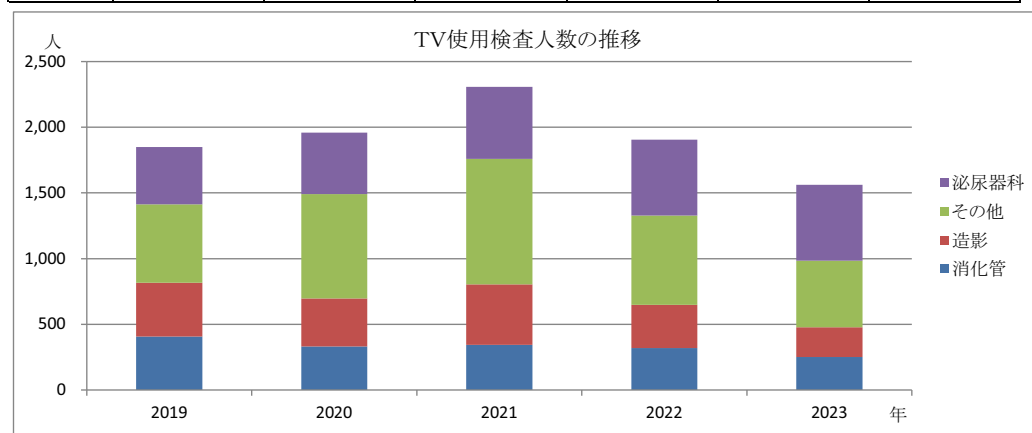
血管造影部位別検査人数の推移(2019~2023)

年	消化器・脳外・その他					循環器		
	頭部	胸部	腹部	四肢	合計	前年比(%)	心臓	前年比(%)
2019	160	85	71	1	317	96.6	1,299	113.8
2020	145	158	73	0	376	118.6	1,047	80.6
2021	144	210	65	0	419	111.4	1,072	102.4
2022	122	165	79	1	367	87.6	922	86.0
2023	105	174	81	1	361	98.4	862	93.6



(7) TV使用検査人数の推移(2019~2023)

年	TV使用検査					前年比(%)
	消化管	造影	その他	泌尿器科	合計	
2019	406	410	597	436	1,849	110.7
2020	332	364	795	469	1,960	106.0
2021	343	460	956	549	2,308	117.8
2022	319	330	679	578	1,906	82.6
2023	251	226	506	579	1,562	82.0



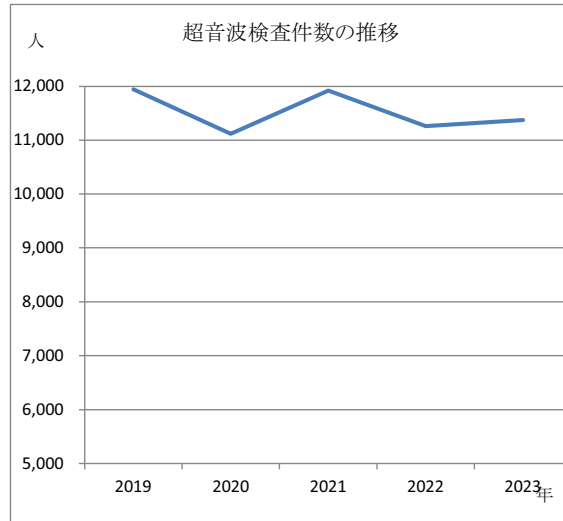
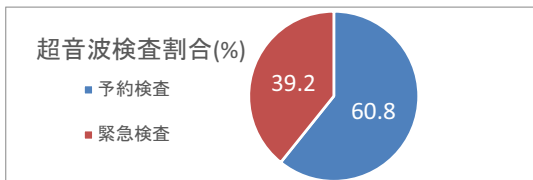
(8)超音波検査

超音波検査 予約緊急別件数

月	予約検査	緊急検査	合計
1	560	329	889
2	522	352	874
3	607	381	988
4	587	350	937
5	562	387	949
6	604	402	1,006
7	554	390	944
8	619	386	1,005
9	543	391	934
10	613	380	993
11	580	352	932
12	558	361	919
合計(件)	6,909	4,461	11,370
割合(%)	60.8	39.2	100.0

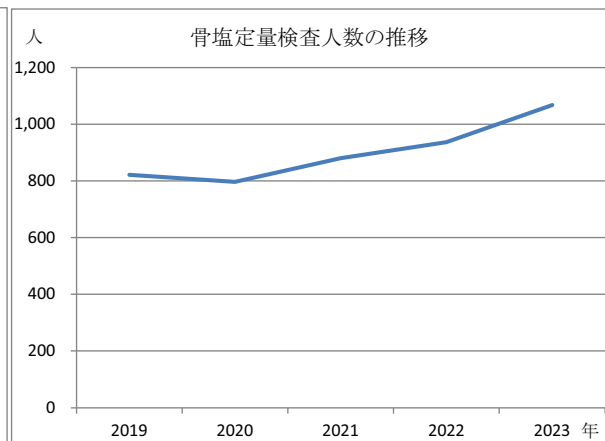
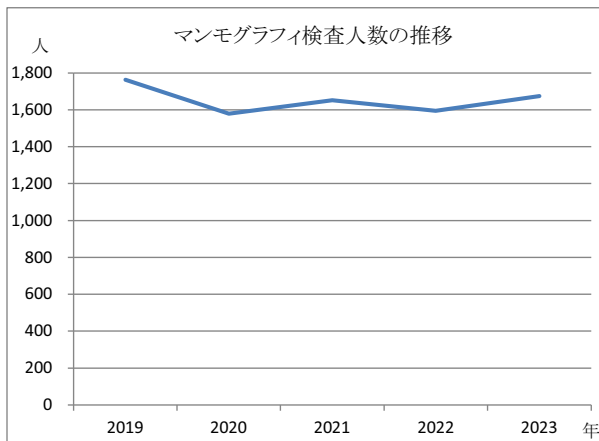
検査件数の推移(2019~2023)

年	件数	前年比(%)
2019	11,945	109.5
2020	11,119	93.1
2021	11,919	107.2
2022	11,260	94.5
2023	11,370	101.0



(9)マンモグラフィ・骨塩定量検査人数の推移(2019~2023)

年	マンモグラフィ	前年比(%)	骨塩定量	前年比(%)
2019	1,764	101.1	822	103.0
2020	1,579	89.5	797	97.0
2021	1,652	104.6	881	110.5
2022	1,594	96.5	937	106.4
2023	1,675	105.1	1,068	114.0

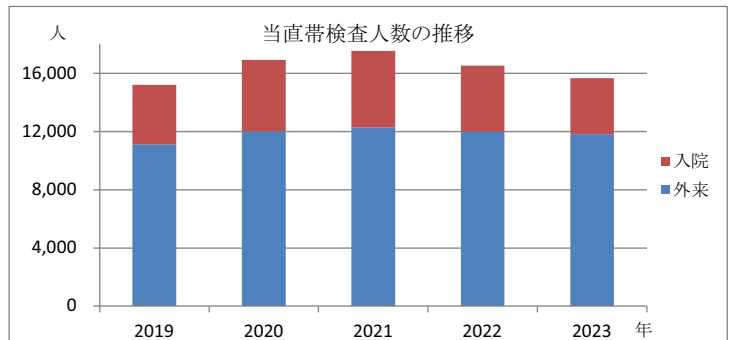


3. 当直帯検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	895	859	957	954	1,185	975	1,079	1,065	1,032	1,041	905	890	11,837
入院	418	273	274	277	396	276	345	323	319	303	345	301	3,850
合計	1,313	1,132	1,231	1,231	1,581	1,251	1,424	1,388	1,351	1,344	1,250	1,191	15,687

当直帯検査人数の推移(2019～2023)

年	外来	入院	合計	前年比(%)
2019	11,120	4,091	15,211	98.2
2020	12,039	4,907	16,946	111.4
2021	12,282	5,271	17,553	103.6
2022	11,996	4,546	16,542	94.2
2023	11,837	3,850	15,687	94.8

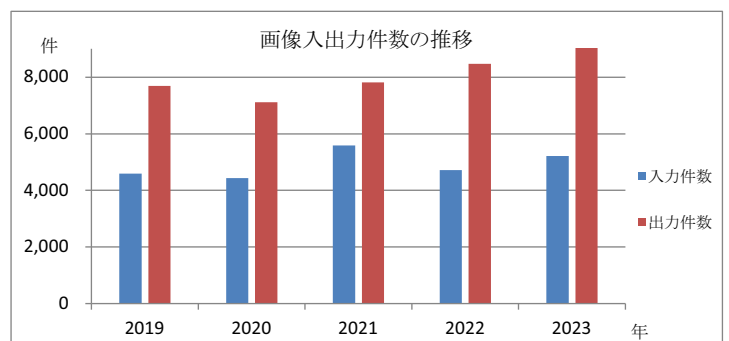


4. 画像入出力件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
画像入力	361	384	446	430	415	496	450	471	408	469	478	411	5,219
画像出力	682	678	867	661	744	763	741	818	726	825	824	781	9,110

画像入出力件数の推移(2019～2023)

年	入力件数	前年比(%)	出力件数	前年比(%)
2019	4,592	100.0	7,698	103.1
2020	4,435	96.6	7,114	92.4
2021	5,588	126.0	7,816	109.9
2022	4,721		8,476	108.4
2023	5,219	110.5	9,110	107.5



【業務実績・評価】

画像検査部門の令和5年の総検査件数（健診部門を除く）は、118,505件実施し、前年比約1.7%（令和4年120,576件）の減少であった。

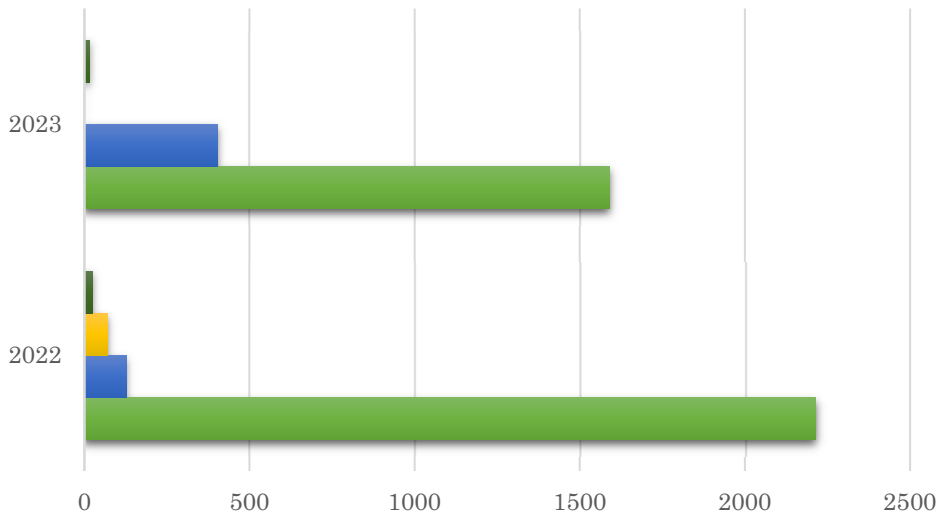
部門別の前年比はCT検査（約2.9%減）、MRI検査（約1.1%減）、超音波検査（約1.0%増）、血管造影検査は、部位別に見ると頭部と心臓が減少傾向である。X線TV使用検査も7.7%減少している。また、核医学検査は5.5%減少した。マンモグラフィ検査は5.1%増、骨塩定量検査は14%増加であった。

放射線治療部門については、令和元年、2年と新規患者数が増加していたが、令和4年度から減少傾向で、前年比は約1.1%減である。照射部位別に見ると、変動の大きいところでは骨が41.3%減少している。頭頸部その他は78%増であった。また特殊照射のIMRTの件数は毎年増加している。IMRTは、回転原体照射に強度変調機能を加えたVMAT照射を行うことで照射時間の短縮を図り、スルーットの向上につなげている。

臨床工学部統計

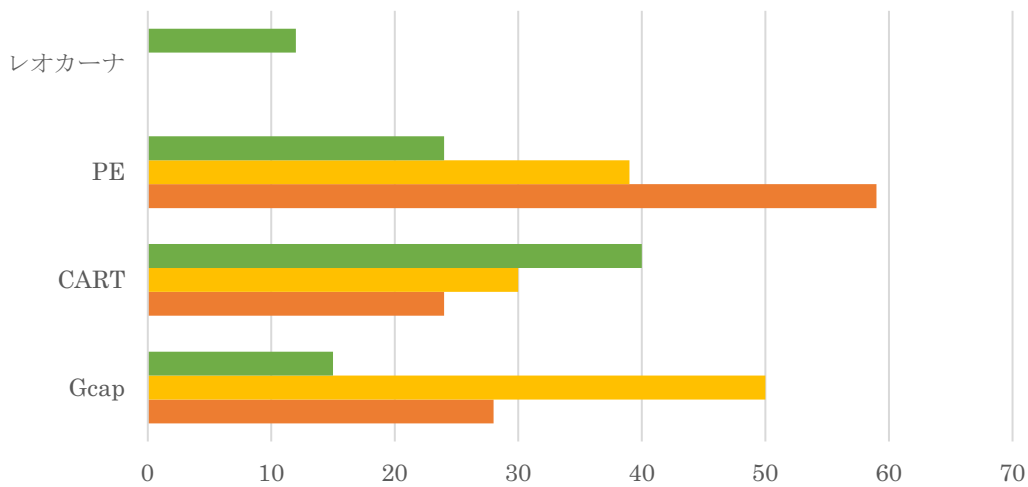
血液浄化部門

透析件数前年比較



	2022	2023
IHDF	24	15
offlineHDF	70	0
OHDF	126	403
HD	2213	1589

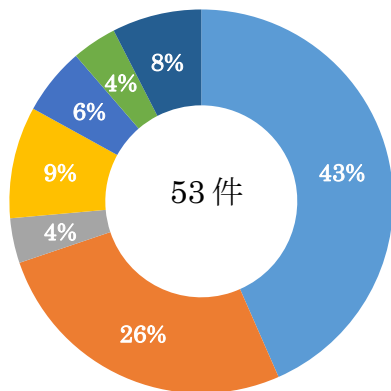
血液浄化部門年間比較



	Gcap	CART	PE	レオカーナ
2023	15	40	24	12
2022	50	30	39	0
2021	28	24	59	0

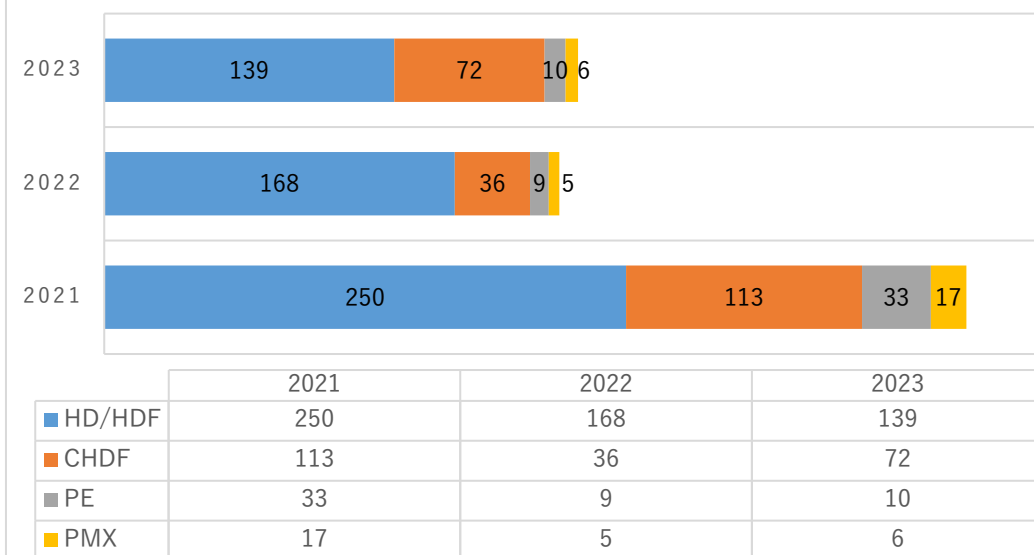
ハーベスト

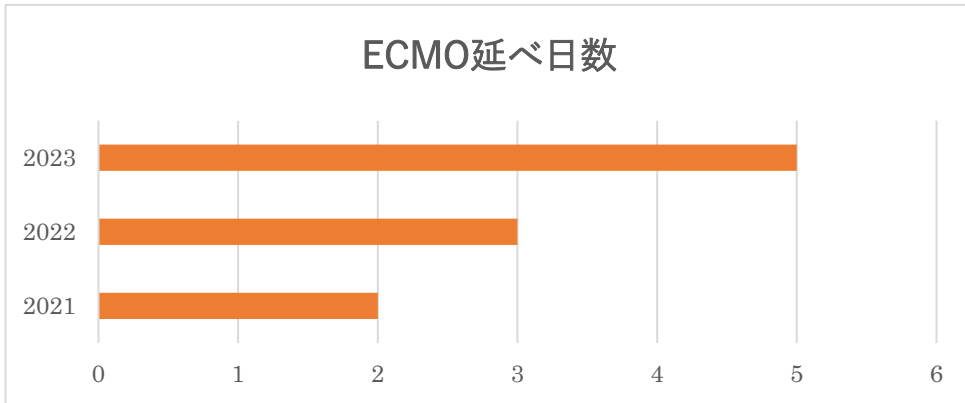
- 自家採種 ■ 同種採取 ■ バンクドナー ■ 骨髄採取
- 血漿交換 ■ 白血球除去 ■ 顆粒球採取



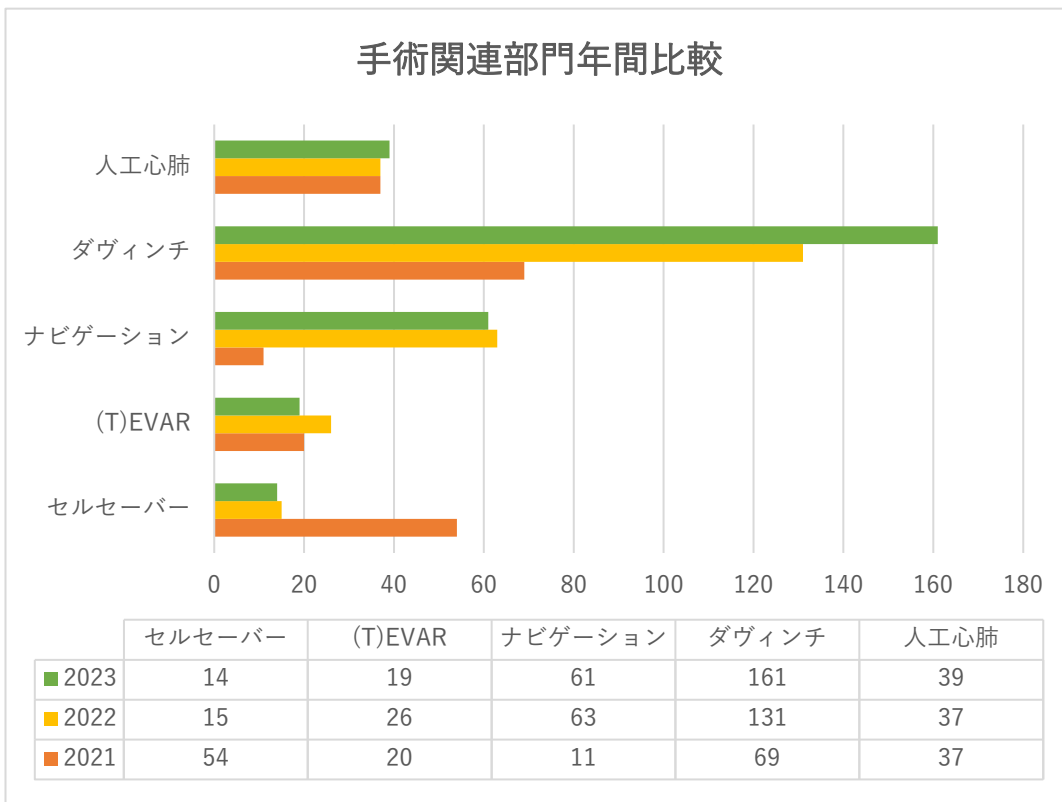
集中治療部門

集中治療領域における血液浄化件数

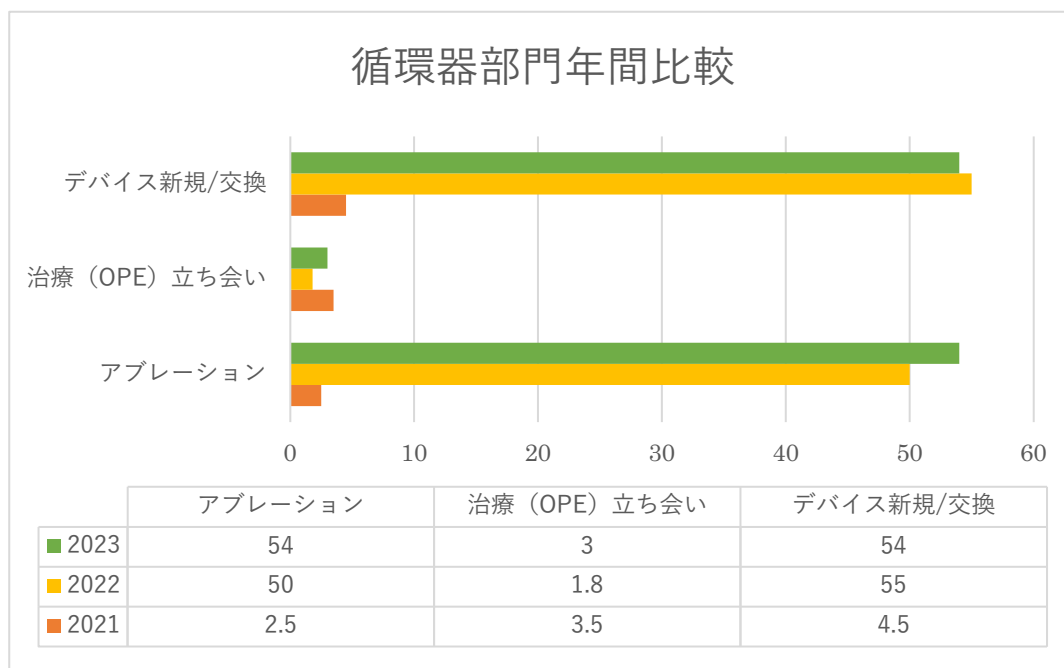




手術関連部門



循環器部門



ペースメーカー外来	398
遠隔モニタリング	2838
臨時チェック	22

中央機器管理部門

2023 年機器点検台数

輸液ポンプ	シリンジポンプ	フットポンプ	サキューム
10214	3102	1234	308

薬剂部統計
2023年注射処方箋枚数統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院合計	枚数 31,470	26,954	27,776	26,700	26,543	27,471	28,024	30,216	28,617	28,366	29,514	27,267	338,918
入院	件数 52,407	44,727	45,870	44,254	44,742	46,095	46,938	51,586	48,594	47,757	48,981	45,311	567,262
一日平均	1,015.2	962.6	896.0	890.0	856.2	915.7	904.0	974.7	953.9	915.0	983.8	879.6	928.5
外来合計	1,690.5	1,597.4	1,479.7	1,475.1	1,443.3	1,536.5	1,514.1	1,664.1	1,619.8	1,540.5	1,632.7	1,461.6	1,554.1
外来	枚数 4,206	4,021	4,541	4,226	4,617	4,751	4,582	4,795	4,349	4,403	4,232	4,270	52,993
外来	件数 6,842	6,489	7,502	6,927	7,544	7,816	7,371	7,892	6,974	7,155	6,951	6,929	86,392
一日平均	210.3	211.6	206.4	211.3	230.9	216.0	229.1	218.0	217.5	209.7	211.6	203.3	214.5
合計	342.1	341.5	341.0	346.4	377.2	355.3	368.6	358.7	348.7	340.7	347.6	330.0	349.8
合計	枚数 35,676	30,975	32,317	30,926	31,160	32,222	32,606	35,011	32,966	32,769	33,746	31,537	391,911
合計	件数 59,249	51,216	53,372	51,181	52,286	53,911	54,309	59,478	55,568	54,912	55,932	52,240	653,654

2023年抗がん剤調製件数統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院合計	患者数 502	409	452	418	502	481	428	427	386	449	454	472	5,380
入院	件数 688	584	640	576	734	712	619	634	556	626	624	623	7,616
一日平均	16.2	14.6	14.6	13.9	16.2	16.0	13.8	13.8	12.9	14.5	15.1	15.2	14.7
外来合計	22.2	20.9	20.6	19.2	23.7	23.7	20.0	20.5	18.5	20.2	20.8	20.1	20.9
外来	患者数 563	526	651	585	643	692	611	699	597	644	613	605	7,429
外来	件数 1,045	965	1,148	1,047	1,129	1,191	1,044	1,214	1,038	1,104	1,029	1,008	12,962
一日平均	28.2	27.7	29.6	29.3	32.2	31.5	30.6	31.8	29.9	30.7	30.7	28.8	30.1
合計	52.3	50.8	52.2	52.4	56.5	54.1	52.2	55.2	51.9	52.6	51.5	48.0	52.5
合計	患者数 1,065	935	1,103	1,003	1,145	1,173	1,039	1,126	983	1,093	1,067	1,077	12,809
合計	件数 1,733	1,549	1,788	1,623	1,863	1,903	1,663	1,848	1,594	1,730	1,653	1,631	20,578

2023年TPN調製件数統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院合計	患者数 45	68	106	36	85	92	63	85	103	47	59	75	864
入院	件数 46	76	106	38	89	98	65	86	114	53	67	92	930
一日平均	1.5	2.4	3.4	1.2	2.7	3.1	2.0	2.7	3.4	1.5	2.0	2.4	2.4
合計	1.5	2.7	3.4	1.3	2.9	3.3	2.1	2.8	3.8	1.7	2.2	3.0	2.5

2023年調剤統計

月	外 来 (院 内)			入 院		
	処方箋枚数	件数	剤数	処方箋枚数	件数	剤数
1月	1,681	3,719	28,024	6,517	16,074	96,077
2月	1,040	2,661	22,682	6,151	15,136	92,031
3月	1,124	2,924	25,216	6,969	17,687	104,509
4月	1,120	2,894	24,497	6,317	15,296	95,206
5月	1,499	3,770	27,805	6,929	16,860	103,504
6月	1,215	2,844	23,586	7,156	17,850	102,618
7月	1,417	3,184	25,430	6,630	16,012	98,881
8月	1,386	3,183	26,567	6,890	16,713	93,969
9月	1,386	3,183	24,411	6,167	14,347	89,897
10月	1,288	2,837	20,992	6,386	15,261	91,311
11月	1,251	2,700	17,853	6,717	16,722	92,232
12月	1,411	2,980	20,866	6,648	16,633	109,480
合計	15,818	36,879	287,929	79,477	194,591	1,169,715
月平均	1,318	3,073	23,994	6,623	16,216	97,476

	外来(院内)	入院	年合計
処方箋枚数	15,818	79,477	95,295
注射箋枚数	52,993	338,918	391,911
調剤件数	36,879	194,591	231,470
調剤剤数	287,929	1,169,715	1,457,644
一日平均	一日合計(診察日)		
処方箋枚数	64.0	217.7	281.8
注射箋枚数	214.5	928.5	1143.1
調剤件数	149.3	533.1	682.4
調剤剤数	1165.7	3204.7	4370.4

H26/6/16～院外処方推奨にて院外処方へ切り替え。(診療局長会議にて通達あり)

2023年院外処方箋枚数統計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
循内科	635	617	718	630	646	626	639	641	623	653	654	624
腎臓内	184	188	217	191	193	196	192	188	175	192	190	206
消化器	1006	1007	1206	1015	1000	1062	958	1098	943	971	933	989
血内科	480	458	513	478	461	507	456	526	496	585	553	607
糖内科	622	616	639	630	639	680	656	669	601	657	659	646
総合診	749	745	840	763	848	789	834	862	801	837	839	819
神内科	465	455	520	464	521	511	496	535	502	480	500	505
呼吸内	662	649	746	664	706	694	698	725	666	700	680	683
小児科	331	345	451	405	476	559	470	466	414	485	446	460
小児二	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	359	377	414	378	423	404	385	419	351	414	395	367
乳腺外科	201	180	234	216	211	225	236	261	189	227	199	223
整形外科	152	151	152	154	209	156	194	183	158	151	139	147
リハ科	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	346	340	429	337	397	402	309	376	334	321	315	356
眼科	81	72	84	71	93	96	100	91	102	91	94	98
耳鼻科	239	259	311	246	272	296	267	282	251	334	263	282
皮膚科	641	538	712	587	636	592	611	352	597	607	573	642
泌尿器科	415	378	428	389	380	416	421	417	449	447	325	434
心臓外	64	55	65	67	64	61	62	83	48	64	71	78
呼吸外	5	2	0	1	5	4	7	5	11	8	9	10
脳外科	208	210	223	233	217	192	233	204	208	199	188	194
放射診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射治	17	26	43	26	31	21	23	18	19	15	18	20
歯口外	107	87	125	115	131	130	88	144	113	115	155	133
精神科	1,261	1,191	1,443	1,270	1,288	1,337	1,285	1,372	1,220	1,349	1,218	1,301
小児夜	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0
休成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	9,230	8,946	10,513	9,331	9,849	9,956	9,621	9,917	9,272	9,903	9,416	9,824

院内	休小児夜間	36	53	55	37	63	76	87	53	50	62	69	80
	休小児	91	51	33	75	130	52	83	51	72	70	85	61
	休成人	381	64	39	76	114	67	144	135	176	113	153	151
	休日歯科	26	8	4	13	23	2	10	15	9	9	7	26

H26/4/6より 休日急病センターは院内処方に変更(県薬剤師会の派遣により)

2023年麻薬処方統計

処方箋枚数

月	火	水	木
1月	164	2	166
2月	75	1	76
3月	110	0	110
4月	92	6	98
5月	115	19	134
6月	119	8	127
7月	116	4	120
8月	128	0	128
9月	115	2	117
10月	83	0	83
11月	77	1	78
12月	83	2	85
合計	1,277	45	1322
月平均	106.4	3.8	110.2
日平均	3.5	0.1	3.6

注射箋枚数

月	火	水	木
1月	578	0	578
2月	581	1	582
3月	618	0	618
4月	611	3	614
5月	647	0	647
6月	703	1	704
7月	648	0	648
8月	653	1	654
9月	611	0	611
10月	595	1	596
11月	646	0	646
12月	541	0	541
合計	7,432	7	7439
月平均	619.3	0.6	619.9
日平均	20.4	0.0	20.4

H29より新システムにて集計

外来注射は予約注射及び当日注射にて、病棟が確定していないものを外来として集計

2023年製剤統計

製剤名	製剤単位	製剤総量
内服散剤		
10% 塩酸モルヒネ散	50g	50 g
0.5% BDP散	50g	900 g
BDPカプセル	10個	1000 個
外用液剤		
2%塩化第二鉄グリセリン液	100mL	2500 mL
10%硝酸銀液	100mL	520 mL
染色用ルゴール液	100mL	1300 mL
2%チオ硫酸ナトリウム液	100mL	1300 mL
3%酢酸水溶液	100mL	7000 mL
20%塩化アルミニウムエタノール液	100mL	50 mL
ポラプレジック含嗽薬	300mL	43.8 L
1%ピオクタニンプルー液	3mL	0 mL
SADBE液	50mL	200 mL
DPCP液	50mL	0 mL
0.5%アトロピン点眼液	5mL	0 mL

製剤名	製剤単位	製剤総量
軟膏剤		
モーズ軟膏	50g	0 g
内服液剤		
内服用ルゴール液	50mL	200 mL
注射剤		
5%塩化ナトリウム液	100mL	0 mL
坐剤		
ウリナスタチン膾坐剤	1個	140 個
その他		
骨セメント用パニマイシン500mg	10V	340 V

2023年 薬剤管理指導統計 病棟別内訳

月	ICU	中3HCU	中5HCU	中4	中5	中6	中7	中8	中9	中10	西7	西8	西9	西10	合計
1月	9	17	1	50	66	57	31	52	0	39	15	44	51	22	454
2月	6	18	0	46	56	25	27	58	16	69	24	40	43	21	449
3月	0	11	0	77	67	58	30	67	37	56	30	36	49	22	540
4月	2	23	1	111	57	74	62	98	73	74	40	54	71	52	792
5月	3	18	2	118	81	66	56	72	76	67	35	76	62	37	769
6月	13	23	4	108	79	69	59	95	76	63	50	75	67	55	836
7月	13	16	5	89	77	68	65	79	71	68	41	77	49	56	774
8月	18	30	2	108	125	95	70	98	72	88	51	93	83	78	1011
9月	17	30	4	122	99	104	73	89	84	87	52	72	84	66	983
10月	11	33	11	128	123	117	82	103	60	107	46	98	100	92	1111
11月	1	31	3	114	106	117	93	102	93	107	46	113	102	91	1119
12月	3	32	15	96	97	85	82	93	71	84	25	80	59	60	882

2023年 夜間・休日・業務統計

日 勤

月	処方箋枚数			調剤数		注射処方箋		麻薬枚数	その他件数	小児件数
	外来	入院	合計	件数	剤数	枚数	処方数			
1月	489	665	1,154	1,879	8,874	23	48	69	14	67
2月	176	417	593	938	4,053	20	133	22	10	40
3月	133	370	503	740	3,230	122	295	23	1	34
4月	194	405	599	869	3,504	112	396	22	9	66
5月	312	532	844	1,355	5,960	139	300	49	26	101
6月	167	365	532	818	3,620	106	298	50	0	66
7月	259	501	760	1,285	5,746	114	262	51	20	97
8月	195	341	536	902	4,321	57	130	29	1	47
9月	344	432	776	1,215	6,011	90	181	42	15	65
10月	201	384	585	1,021	4,562	141	384	36	14	83
11月	186	463	649	1,167	5,497	125	271	48	8	88
12月	252	516	768	1,315	6,079	96	187	34	7	86
年合計	2,908	5,391	8,299	13,504	61,457	1,145	2,885	475	125	840
1日平均	24.6	45.7	70.3	114.4	520.8	9.7	24.4	4.0	1.1	7.1

夜 勤

月	処方箋枚数			調剤数		注射処方箋		麻薬枚数	その他件数	小児件数
	外来	入院	合計	件数	剤数	枚数	処方数			
1月	745	953	1,698	2,867	14,517	761	1,748	22	27	215
2月	442	650	1,092	1,827	8,904	599	1,181	21	12	154
3月	514	802	1,316	2,165	9,998	754	1,549	26	21	204
4月	314	658	972	1,768	8,581	689	1,370	33	3	180
5月	769	1,010	1,779	3,166	15,285	931	2,254	35	2	317
6月	647	862	1,509	2,374	11,308	708	1,351	84	23	298
7月	692	1,051	1,743	2,609	12,441	656	1,294	37	14	278
8月	724	841	1,565	2,520	12,673	813	1,679	47	0	216
9月	635	687	1,322	2,168	11,116	681	1,404	50	1	200
10月	425	851	1,276	2,441	12,114	746	1,547	42	1	257
11月	580	730	1,310	2,225	9,379	727	1,591	50	2	236
12月	683	746	1,429	2,466	12,113	529	1,081	33	4	240
年合計	7,170	9,841	17,011	28,596	138,429	8,594	18,049	480	110	2,795
1日平均	19.6	27.0	46.6	78.3	379.3	23.5	49.4	1.3	0.3	7.7

「1日平均」は、年合計をそれぞれ日勤日118、夜勤日数365で除した値である。

注射当番

月	注射処方箋		合計
	夜勤*1	日勤*2	
1月	1544	11060	12604
2月	1362	7722	9084
3月	1547	6705	8252
4月	1593	5935	7528
5月	1257	8195	9452
6月	1431	6373	7804
7月	1500	8139	9639
8月	1533	7747	9280
9月	1373	8195	9568
10月	1503	7928	9431
11月	1711	8510	10221
12月	1421	8713	10134
合計	17775	95222	112997
1日平均	60.1	807.0	

夜勤*1	
平日	17:00～18:00
土曜日	17:30
日勤*2	
土曜日	8:30～11:30
日・祝日	8:30～11:30 17:00

日直＝日直業務
夜直＝夜直業務

「1日平均」は、年合計をそれぞれ日勤日数118、夜勤日数296で除した値である。

平成29年1月より新システム導入により、注射は処方数を記載

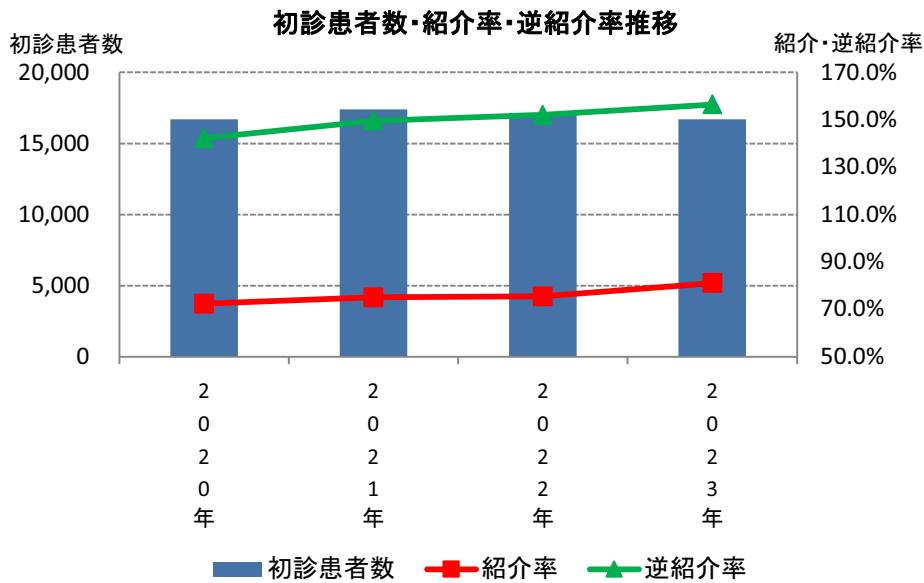
地域連携部統計

地域連携室

1. 紹介患者数、紹介率、逆紹介率

(休日・夜間を除く)

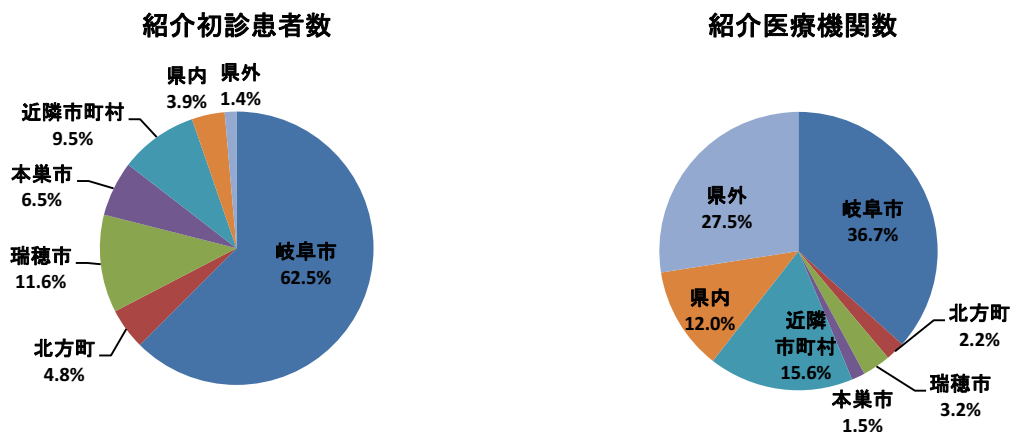
年	患者数	初診患者数	初診紹介患者数	逆紹介患者数	紹介率	逆紹介率
2020年		16,710	12,100	23,758	72.4%	142.2%
2021年		17,402	13,061	26,030	75.1%	149.6%
2022年		17,145	12,943	26,069	75.5%	152.1%
2023年		16,703	13,546	26,136	81.1%	156.5%



2. 2023年紹介初診患者分布状況

	岐阜市	北方町	瑞穂市	本巣市	羽島郡	各務原市	山県市	関市	羽島市	揖斐郡	県内	県外	合計
紹介初診患者数	12,497	969	2,312	1,303	318	369	177	130	368	484	780	278	19,985
分布率	62.5%	4.8%	11.6%	6.5%	1.6%	1.8%	0.9%	0.7%	1.8%	2.4%	3.9%	1.4%	100.0%
紹介医療機関数	474	29	42	20	42	68	15	20	34	39	155	355	1,293
分布率	36.7%	2.2%	3.2%	1.5%	3.2%	5.3%	1.2%	1.5%	2.6%	3.0%	12.0%	27.5%	100.0%

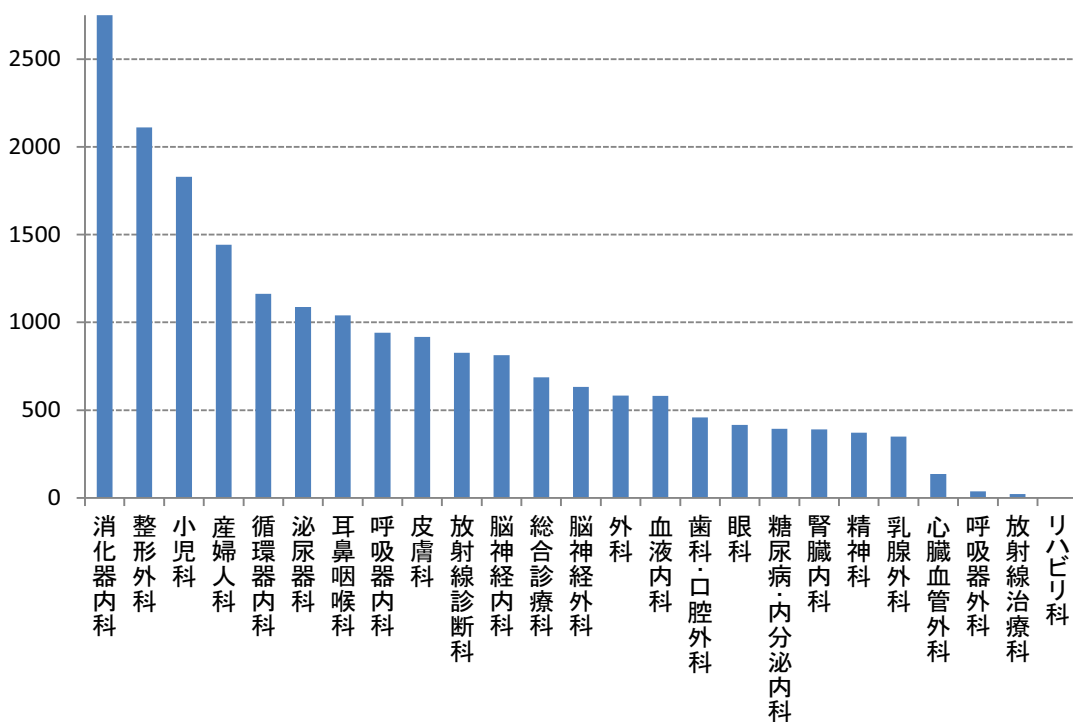
※塗り潰し部分は、下記グラフの近隣市町村に含まれる。



3.2023年診療科別紹介初診患者数

診療科	患者数
消化器内科	2750
整形外科	2111
小児科	1830
産婦人科	1443
循環器内科	1162
泌尿器科	1087
耳鼻咽喉科	1040
呼吸器内科	941
皮膚科	918
放射線診断科	827
脳神経内科	814
総合診療科	687
脳神経外科	633
外科	583
血液内科	581
歯科・口腔外科	459
眼科	416
糖尿病・内分泌内科	393
腎臓内科	391
精神科	372
乳腺外科	350
心臓血管外科	136
呼吸器外科	38
放射線治療科	22
リハビリ科	1
総計	19,985

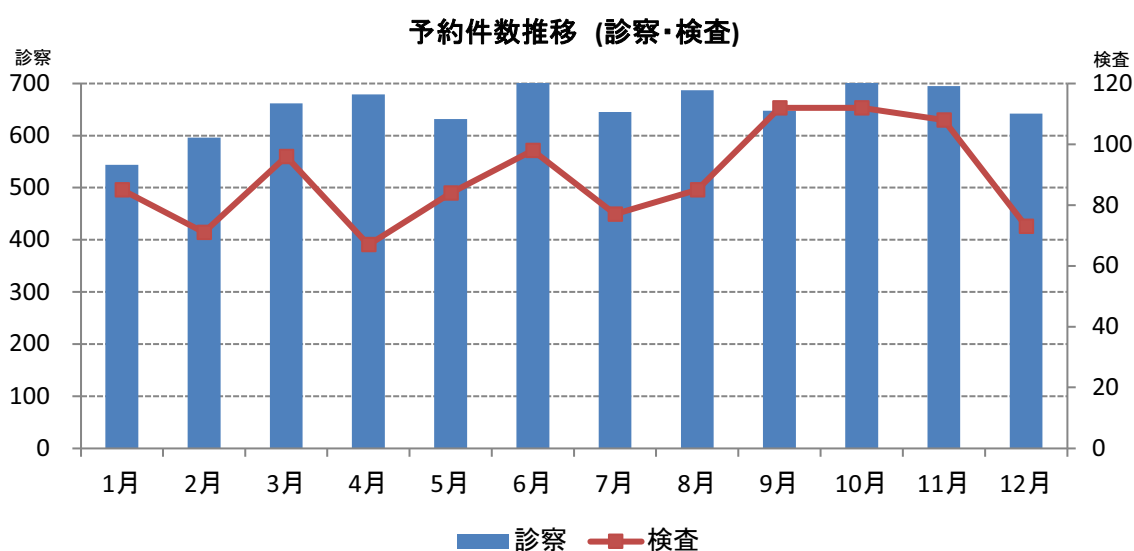
診療科別紹介患者数



4.2023年FAX紹介件数（診察・検査予約）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
診察	544	596	662	679	632	734	645	687	648	707	695	642	7,871
検査合計	85	71	96	67	84	98	77	85	112	112	108	73	1,068
C T	19	18	23	19	28	26	25	24	34	36	33	15	300
M R I	25	19	24	12	19	13	15	22	22	25	22	21	239
PET-CT	23	17	25	20	18	22	19	20	19	16	29	19	247
内視鏡	14	15	16	13	11	30	10	8	13	17	19	11	177
超音波	1	2	5	1	6	2	4	10	15	14	4	3	67
シンチ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	3	0	3	2	2	5	4	1	9	4	1	4	38
合計	629	667	758	746	716	832	722	772	760	819	803	715	8,939

※その他に含まれる項目：胃ろう交換・脳波



5.2023年開放型病床共同利用状況

医科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
消化器内科							1	1	1				3
脳神経内科				1	1								2
呼吸器内科				1	1			1					3
整形外科								1					1
糖尿病・内分泌内科					1								1
合計	0	0	0	2	3	0	1	3	1	0	0	0	10
利用率	0.00%	0.00%	0.00%	6.43%	7.14%	0.00%	1.61%	10.14%	1.67%	0.00%	0.00%	0.00%	2.25%

※ 開放病床 14床

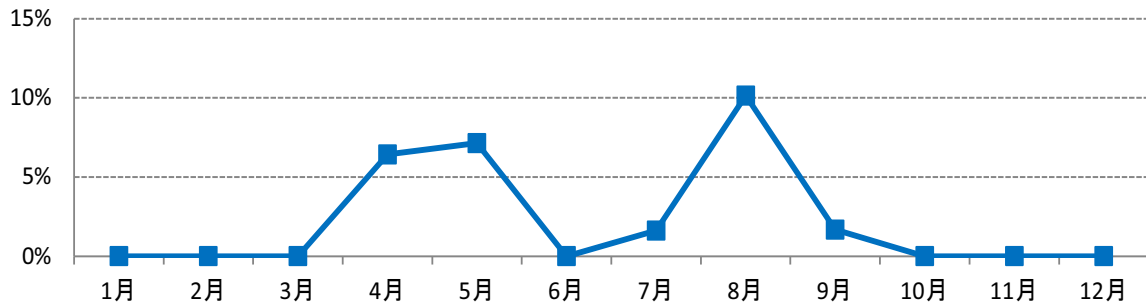
利用率の合計は平均値

歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

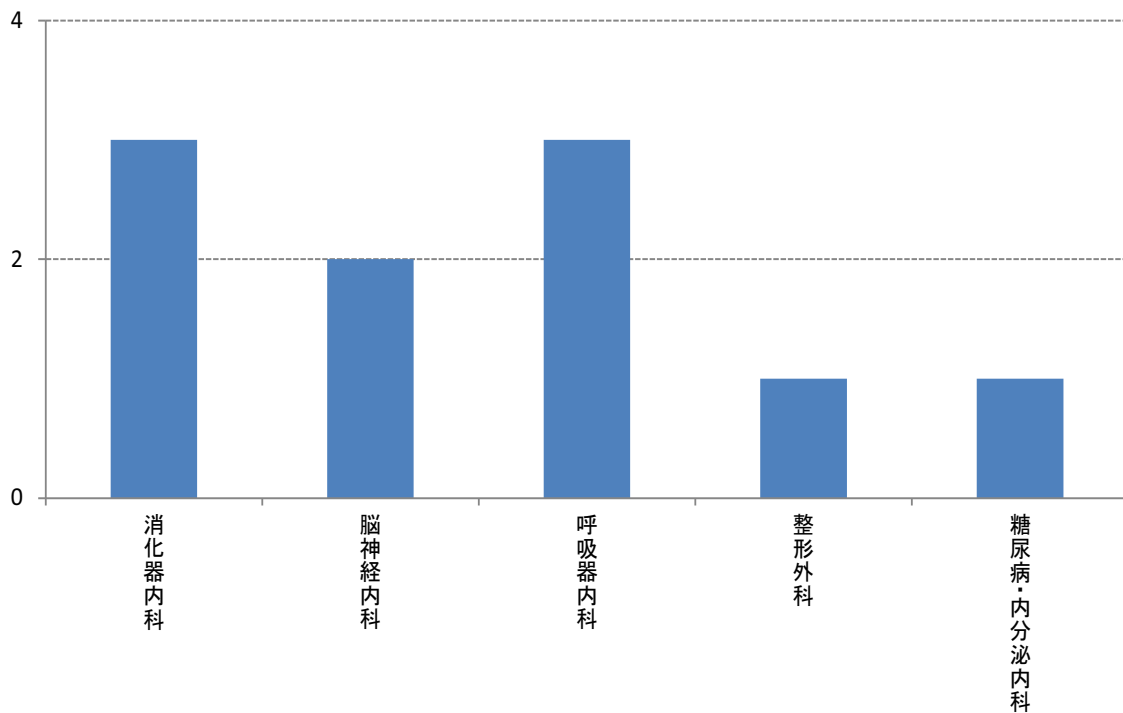
※ 開放病床 2床

利用率の合計は平均値

開放型病床共同利用状況 (利用率推移)



開放型病床共同利用状況 (診療科別件数)



患者総合支援センター(入院支援係・後方連携係)

6. 2023年入院時支援加算1・2、入退院支援加算1 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院時支援加算1(230点)	167	211	238	214	188	213	205	197	211	228	226	255	2553
入院時支援加算2(200点)	51	53	44	18	20	22	29	39	23	19	16	22	356
入退院支援加算1(700点)	333	419	459	374	386	432	407	431	410	434	401	490	4976
小児加算(+200点)	1	5	2	1	0	0	2	3	2	0	1	2	19
地域連携診療計画加算(+300点)	12	19	27	22	21	22	17	15	15	17	17	12	216

患者総合支援センター(入院支援係)

7. 入院支援件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
支援件数	545	523	625	563	587	565	512	558	507	564	530	539	6618
支援件数(2022年)	558	417	506	537	548	618	549	530	482	501	568	527	6341

8. 2023年入院時支援加算1・2、入退院支援加算1 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
循環器内科	56	51	66	63	67	61	36	35	48	52	57	59	651
腎臓内科	8	8	14	3	10	5	10	4	7	4	9	15	97
消化器内科	66	69	76	73	70	65	66	69	52	65	62	49	782
血液内科	47	40	41	33	49	51	37	44	41	46	36	47	512
糖尿病・内分泌内科	10	10	17	18	8	10	6	11	10	9	9	3	121
総合診療・膠原病内科	3	3	5	4	2	6	5	4	3	1	7	2	45
脳神経内科	4	4	0	1	4	4	4	5	3	7	5	3	44
外科	67	53	65	58	50	55	48	70	56	63	65	68	718
乳腺外科	8	10	11	8	9	10	10	7	10	13	9	11	116
整形外科	36	37	42	39	40	42	36	42	35	45	38	40	472
小児科	8	12	13	14	10	13	12	11	19	15	10	16	153
産婦人科	84	78	113	90	91	79	75	80	74	81	75	75	995
眼科	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	2	6
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	22	24	22	27	27	16	20	19	21	24	9	22	253
皮膚科	11	4	4	11	8	5	8	9	6	8	5	8	87
泌尿器科	64	73	55	67	59	64	69	66	59	61	57	61	755
呼吸器・腫瘍内科	39	37	53	34	60	57	48	51	44	43	39	42	547
呼吸器外科	1	0	1	3	4	5	3	6	4	4	7	4	42
心臓血管外科	2	1	1	3	6	2	1	2	4	3	3	0	28
脳神経外科	5	2	12	8	6	5	6	10	5	7	14	4	84
歯科・口腔外科	4	7	13	6	7	9	12	13	6	11	14	8	110
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	545	523	625	563	587	565	512	558	507	564	530	539	6618

9. 2023年1日の平均支援件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平均	26.7	27.5	28.4	28.2	29.4	25.7	25.6	18.6	25.4	26.9	26.5	27	26.325
最大	38	42	41	37	42	39	44	41	34	41	41	43	40.25
最小	19	16	17	12	19	18	14	13	11	17	18	12	15.5

患者総合支援センター(後方連携係)

10. 2023年退院支援件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
退院先 内訳	自宅退院等	62	91	100	75	91	114	89	123	116	112	91	160	1224
	転院	75	82	109	86	89	109	98	90	85	104	98	98	1123
	死亡・施設等	16	15	24	13	21	19	19	17	13	20	17	11	205
退院支援合計数	153	188	233	174	201	242	206	230	214	236	206	269	2552	
総退院患者数	1006	1012	1230	1143	1171	1272	1160	1217	1118	1179	1113	1207	13828	

11. 2023年退院前カンファレンス数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
退院時共同指導	7	8	12	4	8	10	4	8	13	12	6	22	114
介護支援等連携指導	5	9	14	11	13	27	16	23	24	19	11	23	195

12. 2023年退院時共同指導料2、介護支援等連携指導料 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
退院時共同指導料(400点)	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	2	1	8
退院時共同指導料(700点)	0	0	0	0	0	0	1	4	0	4	5	6	20
退院時共同指導料(2400点)	6	9	13	4	8	11	3	9	10	11	5	20	109
介護支援等連携指導料(400点)	5	11	16	10	18	27	26	21	25	19	17	23	218

13. 2023年外来相談件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
在宅調整	7	13	10	7	5	6	15	18	11	18	10	8	128
入院先案内	1	3	1	2	4	4	11	12	10	6	9	8	71
緩和ケア予約・調整	2	1	1	2	1	5	4	4	6	2	3	6	37
かかりつけ医調整	0	1	1	1	2	8	5	6	1	2	5	3	35
施設との連携	0	0	0	1	2	1	0	1	2	1	0	2	10
他病院紹介	1	2	1	0	1	0	2	3	0	0	0	1	11
その他	1	4	1	0	0	3	3	5	3	3	5	3	31
合計	12	24	15	13	15	27	40	49	33	32	32	31	323

患者総合支援センター(医療相談係)

14. 2023年医療相談受付件数

分類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福祉一般相談	心身障害	12	2	14	13	13	16	14	12	11	6	13	3	129
	身体障害	8	3	15	12	10	26	10	16	7	10	9	15	141
	生保申請	6	2	11	5	7	6	3	9	3	10	5	2	69
	特定疾患・指定難病	22	14	34	29	34	32	40	33	36	25	40	26	365
小計		48	21	74	59	64	80	67	70	57	51	67	46	704
医療費相談	限度額適用認定証	28	27	36	45	37	31	35	49	33	43	41	35	440
	高齢者医療	23	27	19	8	26	27	22	19	19	19	20	18	247
	高額委任・貸付	3	5	6	11	3	5	9		9	3	3	5	62
	高額医療費	54	45	65	46	48	67	50	59	55	52	54	56	651
	分割払	25	28	23	33	25	33	26	31	32	38	28	40	362
	支払困難	18	27	38	36	40	32	21	27	33	31	31	35	369
	医療費内訳・概算	5	2		4	4	7	3		3		2	1	31
小計		156	161	187	183	183	202	166	185	184	186	179	190	2,162
受診・受療相談		38	8	19	21	14	22	32	13	19	24	12	6	228
小計		38	8	19	21	14	22	32	13	19	24	12	6	228
退院・社会復帰	転院・退院	3	4	4	3	1	3	1	7	7	5	3	2	43
	介護・施設	5	7	6	6	4	4	3	5	5	6	8	2	61
小計		8	11	10	9	5	7	4	12	12	11	11	4	104
母子サポ・特定妊婦		14	17	31	5	6	6	6	16	43	46	13	22	225
小計		14	17	31	5	6	6	6	16	43	46	13	22	225
その他	諸制度説明・肝炎	14	10	21	10	16	24	22	24	19	25	18	18	221
	クレーム	4	7	10	6	3	6	1	3	6	4	5		55
	救急対応	2	5	8	4	2	5	4	7	5	3	6	7	58
	その他	34	56	53	36	36	50	43	43	36	27	28	32	474
小計		54	78	92	56	57	85	70	77	66	59	57	57	808
合計		318	296	413	333	329	402	345	373	381	377	339	325	4,231

(参考 前年件数)	434	358	406	409	391	500	348	364	354	343	345	354	4,606
(参考 対前年比)	73.3%	82.7%	101.7%	81.4%	84.1%	80.4%	99.1%	102.5%	107.6%	109.9%	98.3%	91.8%	91.9%

15. 2023年がん相談件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談	81	91	77	149	162	214	159	195	183	191	167	177	1,846

患者総合支援センター(パス室)

16. 2023年岐阜地域医師会連携パス新規登録件数

パス疾患名	パスコード	種類	件数
急性心筋梗塞(一方向型) CRG Net	BB-001		0
ウイルス性慢性肝炎(循環型)	BB-002	B型3ヶ月	0
	BB-003	B型6ヶ月	0
	BB-004	C型3ヶ月	0
	BB-005	C型6ヶ月	0
大腿骨頸部骨折(一方向型)	BB-006		91
脳卒中(一方向型)	BB-007		196
泌尿器疾患(一方向型)	BB-008	PSA検査	48
	BB-010	尿路上皮腫瘍	0
	BB-011	BPH・排尿障害	26
糖尿病(循環型)	BB-012		1
肺がん(循環型)	BB-013		2
胃がん(循環型)	BB-014		38
肝がん(循環型)	BB-016		1
大腸がん(循環型)	BB-017		50
乳がん(循環型)	BB-018		96
前立腺がん(循環型)	BB-009		11
COPD(循環型)	BB-019		0
C型インターフェロン治療(循環型)	BB-020		0
ウイルス性慢性肝炎(循環型)	BB-022	B2型4ヶ月	3
	BB-023	B2型6ヶ月	2
	BB-024	C2型4ヶ月	1
	BB-025	C2型6ヶ月	2
NASH(脂肪肝炎)(循環型)2-4	BB-026	2-4ヶ月	1
NASH(脂肪肝炎)(循環型)2-6	BB-027	2-6ヶ月	0
がんサポート	BB-050		0
CKD	BB-051		0
合計			569

認知症疾患医療センター統計

認知症疾患の専門医療、医療相談、関係機関との連携

①身体合併症急性期で入院した認知症の方に対する専門的な医療支援

・認知症病名のある新規患者入院数 (R5年)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
総人数	24	28	31	17	24	25	25	27	25	23	20	21	290
その内 紹介患者	8	9	2	7	12	7	6	7	5	4	5	4	76

認知症病名のある新規入院患者の 約 26 %が紹介患者である。

・認知症ケアチームの活動 (対象 当院入院患者)

多職種の視点から、スタッフに対して適切な助言を行い、必要に応じ患者の看護を行う。
→身体疾病の治療や看護業務を円滑に実施し、せん妄や認知症の発症や悪化を防ぐ

メンバー 脳神経内科医師 1名 認知症看護認定看護師 (専従) 1名
精神保健福祉士 1名 公認心理師 1名 薬剤師 1名 計5名

介入実績 (R5年)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
人数	22	19	18	20	21	24	18	25	28	22	15	14	246

活動内容

- 1) 見当識を高めるようなコミュニケーション (会話の工夫、カレンダーや時計の設置など)
- 2) 日常生活リズムを整える (歯磨き、洗顔、髭剃りや口腔ケア、離床、日光浴など)
- 3) 身体抑制の軽減、中止に向けた提言
- 4) 上記1, 2, 3が各病棟で自発的にできるように啓発

認知症ケア加算 算定件数 3452 件 (2023年1月～12月)

<せん妄対策>

- 1) せん妄ハイリスク患者ケア加算設定に伴うせん妄チェックリストの運用
- 2) 認知症看護認定看護師によるせん妄対策の実践・指導
- 3) 薬剤師による介入症例の薬剤チェック
- 4) 医師による介入症例の「不眠時・不穏時」指示簿の確認およびせん妄リスクの確認を行い主治医宛コメントを記入
- 5) 家族向けせん妄啓発資料が完成し運用 (入院案内)
- 6) 電子カルテ上に「経過表のテンプレート欄の当チーム記録(ワンクリック表示)」を実装
- 7) 講演やセミナーによる啓発

せん妄ハイリスク患者ケア加算 算定件数 6801 件 (2023.1～2022.12)

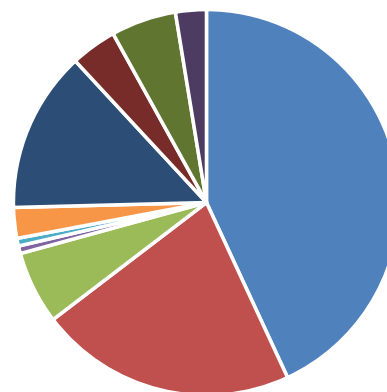
⑨認知症の診断（もの忘れ外来）

・認知症診断件数（脳神経内科外来でのもの忘れ精査例を含む）（R5年）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
人数	23	23	24	21	19	25	23	22	39	33	32	31	317

・脳神経内科 鑑別診断結果（病名）

病名	人数	割合
アルツハイマー型認知症 (G30,F00)	134	43%
軽度認知障害 (MCI)	67	22%
正常または健常	19	6%
血管性認知症 (F01)	2	1%
前頭側頭型認知症（行動障害型・言語障害型を含む G31,F02）	2	1%
レビー小体型認知症 (G31,F02)	8	3%
複数の病因による認知症 (F02)	42	14%
その他の認知症	12	4%
上記に含まれない疾患	17	4%
その他（通院中断等）	8	2%
計	311	100%



- アルツハイマー型認知症 (G30,F00)
- 軽度認知障害 (MCI)
- 正常または健常
- 血管性認知症 (F01)
- 前頭側頭型認知症（行動障害型・言語障害型を含む G31,F02）
- レビー小体型認知症 (G31,F02)
- 複数の病因による認知症 (F02)
- その他の認知症
- 上記に含まれない疾患
- その他（通院中断等）

全国的なデータと同様、アルツハイマー型認知症が最多であった。MCIが多かったのは昨年と変わらず、総合病院という性格によるものと思われる。

- ・臨時適性検査（75歳以上の高齢者の運転免許更新時等における専門医の受診）年間 31件
- ・認知症診断管理料1（700点）
認知症の鑑別診断の結果に基づき認知症療養計画書を作成（本人、紹介元）へ送付 年間 54件

◎認知症の医療相談

専門の相談員が認知症の方や家族から不安や悩みの相談に応じる。専用電話(251-5871)が設置されている。

もの忘れ外来の受診予約は地域連携部で行っている。

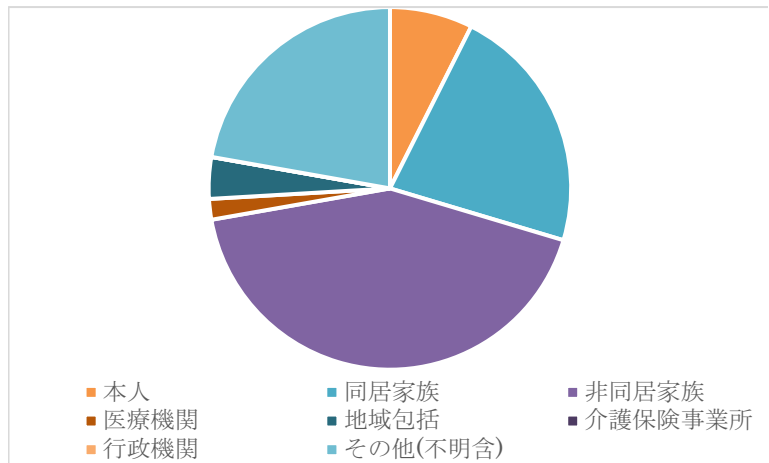
・相談件数推移 (R5年)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	5	12	5	3	6	6	3	2	4	1	3	4	54

毎月ばらつきはあるものの、月に平均4,5件の相談あり。

・相談者内訳 (相談者複数の場合あり)

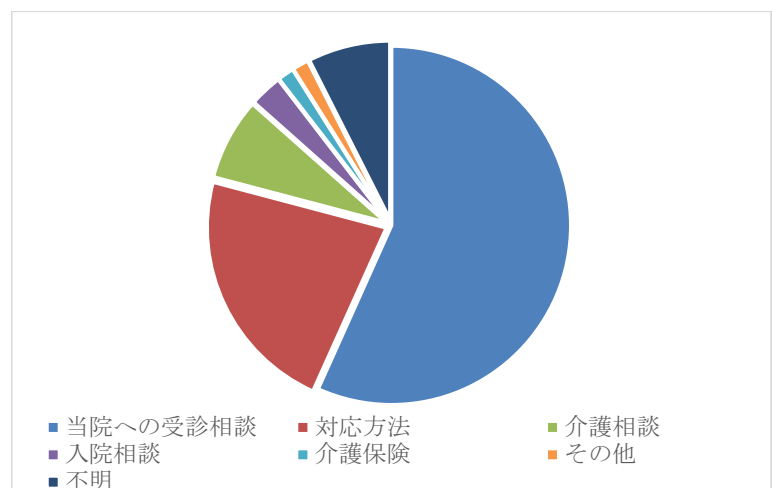
相談者	人数
本人	4
同居家族	12
非同居家族	23
医療機関	1
地域包括	2
介護保険事業所	0
行政機関	0
その他(不明含)	12
計	54



相談者は患者家族からの相談が中心。

・相談内容 (複数選択あり)

内容	件数
当院への受診相談	38
対応方法	15
介護相談	5
入院相談	2
介護保険	1
その他	1
不明	5
計	67



引き続き、当院への受診方法の問い合わせに相談内容が集中している。

看護専門学校統計

受験者合格者入学者の状況

入学年度(期生)	定員	応募者数		受験者数	合格者数	入学者数		競争率(倍)	充足率
		推薦	一般			推薦	一般		
平成26年度(43)	35	推薦	24	24	12	12	37	2.0	105.7%
		一般	128	123	46	25		2.7	
平成27年度(44)	35	推薦	32	32	13	13	35	2.5	100.0%
		一般	124	120	35	22		3.4	
平成28年度(45)	35	推薦	36	36	13	13	33	2.8	94.2%
		一般	120	116	28	20		4.1	
平成29年度(46)	35	推薦	27	27	8	8	34	3.4	97.1%
		一般	107	104	40	26		2.6	
平成30年度(47)	35	推薦	22	22	13	13	35	1.7	100.0%
		一般	86	83	40	22		2.1	
平成31年度(48)	35	推薦	30	30	11	11	35	2.7	100.0%
		一般	60	56	37	24		1.5	
令和2年度(49)	35	推薦	28	28	10	10	35	2.8	100.0%
		一般	83	79	40	25		2.0	
令和3年度(50)	35	推薦	26	26	14	14	35	1.9	100.0%
		一般	51	49	31	21		1.6	
令和4年度(51)	35	推薦	22	22	16	16	37	1.4	105.7%
		一般	54	53	30	21		1.8	
令和5年度(52)	35	推薦	29	29	18	18	37	1.6	105.7%
		一般	52	51	30	19		1.7	
令和6年度(53)	35	推薦	36	35	17	17	35	2.1	100.0%
		一般	54	51	24	18		2.1	

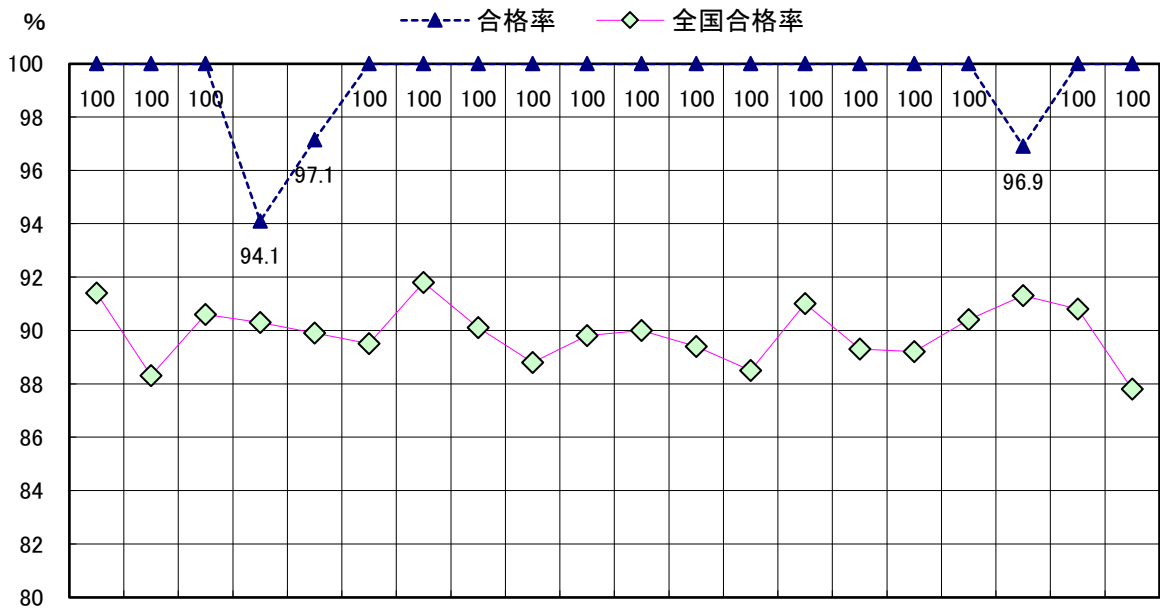
1) 競争率: 受験者数 ÷ 合格者数

2) 充足率: 入学者数 ÷ 定員 × 100

3) 推薦: 推薦入学試験。岐阜県内の高等学校を対象とする。

令和6年度推薦入学者選考試験の受験者数は、前年度に比し増加したが、一般入学者選考試験の受験者数は、前年度に比し大きな変動はない。大学進学を希望する学生が増えている現状で、コロナ禍による収入の減少や、早い時期に進路を決めたいという考えが一因と考える。今後は、対面での広報活動を継続し、少人数制できめ細かい指導体制や実践力の強化など専門学校の魅力を伝えられるよう努めていく。

国家試験合格率の推移



	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
卒業年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5	6
国家試験回数	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113
受験者数	33	35	32	34	35	37	39	35	35	33	32	32	30	36	27	29	34	33	32	34
合格者数	33	35	32	32	34	37	39	35	35	33	32	32	30	36	27	29	34	32	32	34
合格率	100	100	100	94.1	97.1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	96.9	100	100
全国合格率	91.4	88	90.6	90.3	89.9	89.5	91.8	90.1	88.8	89.8	90.0	89.4	88.5	91.0	89.3	89.2	90.4	91.3	90.8	87.8

第113回看護師国家試験対策として、模擬試験結果に応じて個々に合わせた丁寧な支援を行ったことで合格率は100%であった。

卒業生の進学先

	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
信州大学医学部保健学科		1					
富山大学医学部看護学科		1		1			
滋賀県立大学人間看護学部			1			1	
岐阜県立衛生専門学校助産学科	2		2	1	2	1	3
浜松医科大学医学部看護学科		2					
名古屋医専 保健学科	1				1		1
名古屋医専 助産学科	1	1					
ユマニテク看護助産専門学校 助産専攻科							1
進学者合計	4	5	3	2	3	2	5

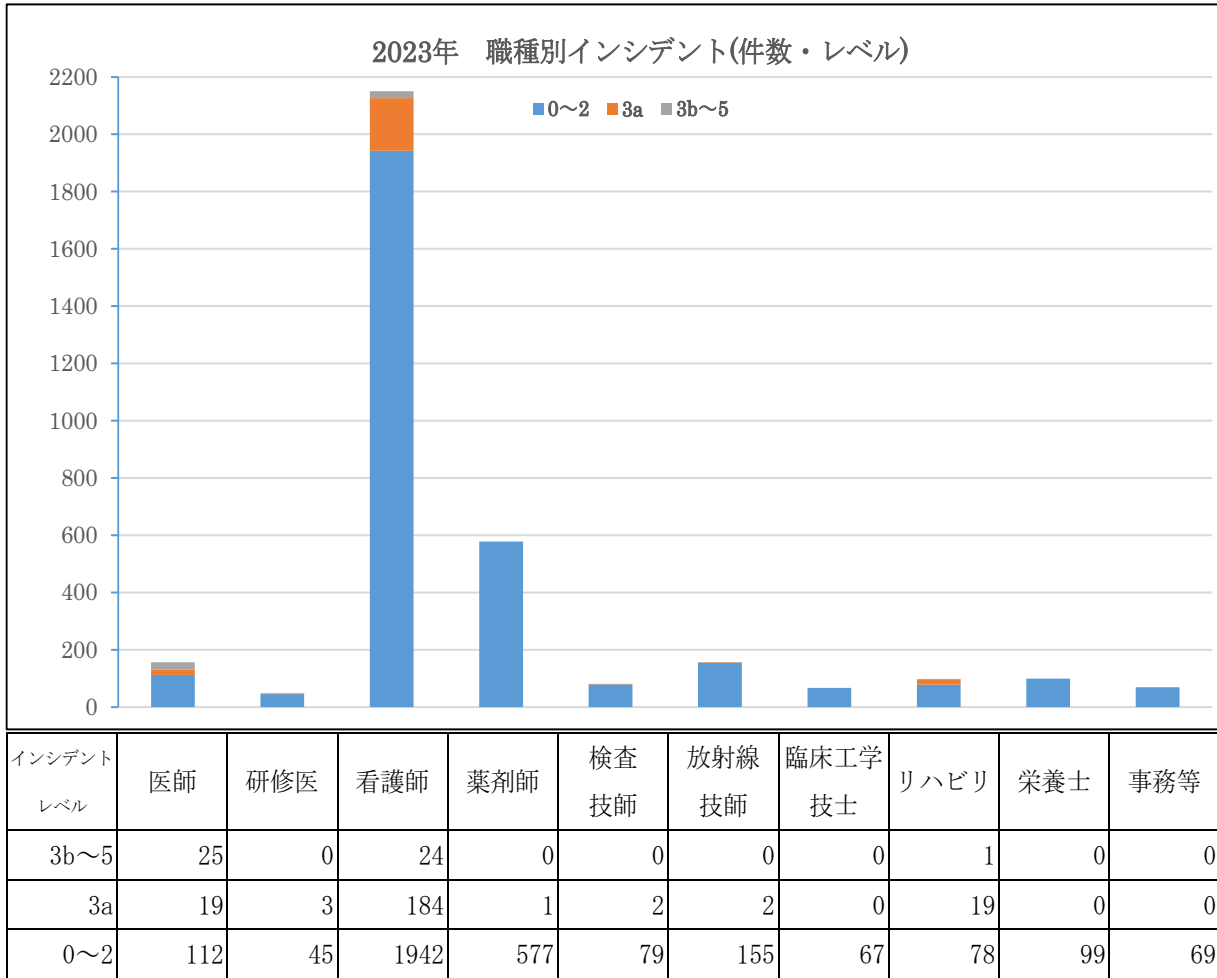
3年次編入を募集する大学が減少傾向にあり、年々3年次編入を実現することが難しくなっている。
進学希望者には1年次からの学習支援の充実を図っていく。

卒業生の就業・進学状況

卒業年度	卒業生数	就 業				進 学	そ の 他
		岐阜県内			県外の病院		
		岐阜市民病院	他の病院	その他			
平成28年度	29	17	5		4	3	
平成29年度	36	17	6		9	4	
平成30年度	27	20	1		1	5	
令和元年度	30	15	8		3	3	1
令和2年度	34	10	13	1	8	2	
令和3年度	33	13	11		5	3	1
令和4年度	32	13	14		3	2	
令和5年度	34	15	5		9	5	

医療安全推進室統計

1. インシデント集計



2. 医療安全研修

2023年6月	医療安全講演会 『インシデントレポート』について 『Safety I . Safety II』の考え方	Comedix お知らせ回覧板による配信型研修 医療安全推進室
2023年10月	みんなで考える病院の安全と感染 病棟再開とともに始めた内服管理 みんなで I:医療の安全 S:進める O:押し活 病理診断報告書管理体制について 周産期医療における感染予防策 抗菌薬適正使用支援チームの取り組み 2023	Comedix バリテスによる配信型研修 中9階 山田 真琴 中央検査部 宮前 里奈 病理診断科部 渡部 直樹 中4階 助産師 市川 祐三子 薬剤部・感染対策部

3. ラウンド・カンファレンスほか

	2023年
医療安全ラウンド	40回
危機ラウンド	随時
早朝カンファレンス	49回
医療安全管理専門委員会	4症例
医療事故調査委員会	
医療相談窓口カンファレンス	11回

4. 通信一覧表(安全・緊急・ナイスレポート)

〈安全通信 No. 154～155〉

No.	発行日	掲示内容
No.154	R 5. 1. 5	署名とは、文書に本人が氏名を書き記すことです
No.155	R 5. 9. 6	アレルギー情報を得たら、速やかに患者プロフィールに入力しましょう

〈緊急通信 No. 74～76〉

No.	発行日	掲示内容
No.74	R 5. 2. 3	異常値見落としていませんか？
No.75	R 5. 6. 21	ビーフリードの血管外漏出に注意！
No.76	R 5. 9. 14	個人情報の取扱いに注意！

〈ナイスレポート通信 No. 17～27〉

No.	発行日	掲示内容
No.17	R 5. 2 上	投与指示再確認 無断離院を止めた
No.18	R 5. 2 下	書類渡し忘れ 金属装置の確認
No.19	R 5. 3	薬剤師さんたちのナイス！
No.20	R5. 4	2019～2022 年度インシデント報告件数 食札の表記変更
No.21	R5. 6	外来の椅子 三方活栓使用方法
No.22	R5. 7	患者運搬依頼 アレルギーに気が付いた
No.23	R5. 8	MRI 室受付横の注意喚起
No.24	R5. 9	患者さんを支えた 法令研修受講率 100%
No.25	R5. 10	気付けた。戻れた。 持参薬切り替え
No.26	R5. 11	KYT に 200 名以上が参加
No.27	R5. 12	ファントルくんへの報告件数総計、2 万件超え！

医療安全推進室

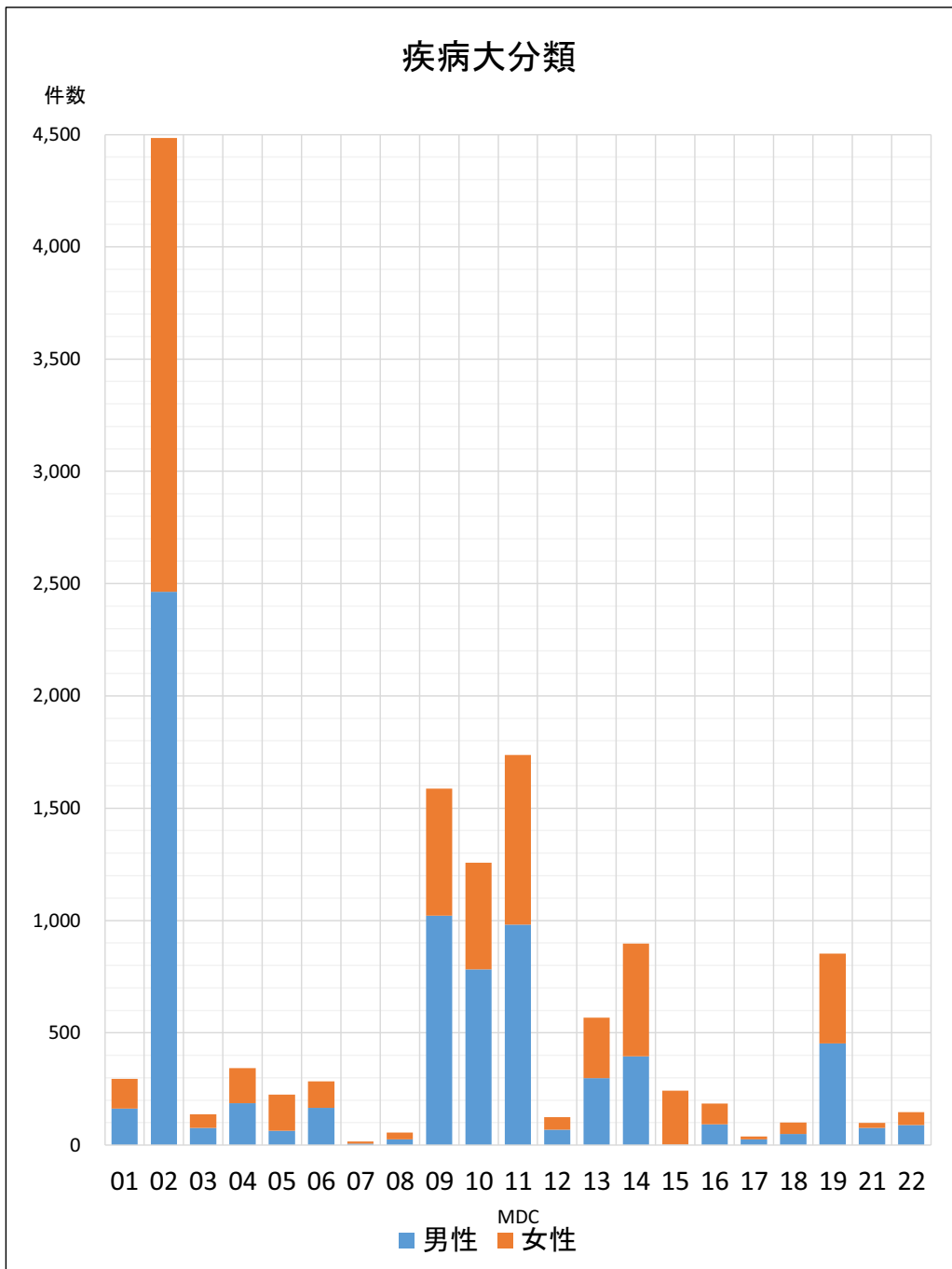
2023 年度 谷川原徹哉 林 秀樹 葛谷 命 八幡 和憲 堀場あかね 馬場 慎也
 竹中 幸男 南谷 美朱 林 昌代 山田 哲也 服部 佳朗 安藤 潤一
 塚原 勝克 梅田 道 14 名

診療情報管理室統計

疾病大分類別・退院患者数(主病名)

期間: 2023年1月1日～2023年12月31日

大分類	ICD	男	女	総数	構成比
01 感染症及び寄生虫症	A00-B99	163	132	295	2.16%
02 新生物<腫瘍>	C00-D48	2,463	2,021	4,484	32.78%
03 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	76	61	137	1.00%
04 内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	186	156	342	2.50%
05 精神及び行動の障害	F00-F99	64	161	225	1.64%
06 神経系の疾患	G00-G99	166	118	284	2.08%
07 眼及び付属器の疾患	H00-H59	7	9	16	0.12%
08 耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	26	30	56	0.41%
09 循環器系の疾患	I00-I99	1,021	567	1,588	11.61%
10 呼吸器系の疾患	J00-J99	783	475	1,258	9.20%
11 消化器系の疾患	K00-K93	982	755	1,737	12.70%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	69	56	125	0.91%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	298	270	568	4.15%
14 腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	395	502	897	6.56%
15 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	000-099	1	242	243	1.78%
16 周産期に発生した病態	P00-P96	92	93	185	1.35%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	25	14	39	0.29%
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	49	52	101	0.74%
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	452	401	853	6.24%
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	77	22	99	0.72%
22 特殊目的用コード	U	89	58	147	1.07%
合計		7,484	6,195	13,679	



ICD別・退院患者数 上位10疾患(主病名)

期間 2023年1月1日～2023年12月31日

	主病名 コード	大分類	主な分類名	男	女	総数	構成比
1	C341	02:新生物<腫瘍>	上葉、気管支または肺	245	90	335	2.45%
2	I500	09:循環器系の疾患	うっ血性心不全	126	109	235	1.72%
3	C343	02:新生物<腫瘍>	下葉、気管支または肺	161	70	231	1.69%
4	J690	10:呼吸器系の疾患	食物および吐物による肺臓炎	127	98	225	1.64%
5	J180	10:呼吸器系の疾患	気管支肺炎、詳細不明	121	79	200	1.46%
6	C61	02:新生物<腫瘍>	前立腺の悪性新生物	187	0	187	1.37%
7	C220	02:新生物<腫瘍>	肝細胞癌	146	37	183	1.34%
8	N201	14:腎尿路生殖器系の疾患	尿管結石	95	78	173	1.26%
9	C920	02:新生物<腫瘍>	急性骨髄性白血病	116	53	169	1.24%
10	C833	02:新生物<腫瘍>	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	85	81	166	1.21%
合計				1,409	695	2,104	

上位10疾患 ICD別・男

	主病名 ICDコード	大分類	主な分類名	計	構成比
1	C341	02:新生物<腫瘍>	上葉、気管支または肺	245	3.27%
2	C61	02:新生物<腫瘍>	前立腺の悪性新生物	187	2.50%
3	C343	02:新生物<腫瘍>	下葉、気管支または肺	161	2.15%
4	C220	02:新生物<腫瘍>	肝細胞癌	146	1.95%
5	I252	09:循環器系の疾患	陳旧性心筋梗塞	139	1.86%
6	J690	10:呼吸器系の疾患	食物および吐物による肺臓炎	127	1.70%
7	I500	09:循環器系の疾患	うっ血性心不全	126	1.68%
8	J180	10:呼吸器系の疾患	気管支肺炎、詳細不明	121	1.62%
9	C920	02:新生物<腫瘍>	急性骨髄性白血病	116	1.55%
10	I208	09:循環器系の疾患	その他の型の狭心症	112	1.50%
合計				1,480	

上位10疾患 ICD別・女

	主病名 ICDコード	大分類	主な分類名	計	構成比
1	C541	02:新生物<腫瘍>	子宮内膜悪性腫瘍	162	2.62%
2	C56	02:新生物<腫瘍>	卵巣の悪性腫瘍	141	2.28%
3	I500	09:循環器系の疾患	うっ血性心不全	109	1.76%
4	C531	02:新生物<腫瘍>	子宮頸外部の悪性新生物	108	1.74%
5	D251	02:新生物<腫瘍>	壁内子宮平滑筋腫	108	1.74%
6	J690	10:呼吸器系の疾患	食物および吐物による肺臓炎	98	1.58%
7	C341	02:新生物<腫瘍>	上葉、気管支または肺	90	1.45%
8	D27	02:新生物<腫瘍>	卵巣の良性新生物	87	1.40%
9	S7200	19:損傷、中毒及びその他の外因の影響	閉鎖性大腿骨頸部骨折	82	1.32%
10	C833	02:新生物<腫瘍>	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	81	1.31%
合計				1066	

- ・総数上位1.2疾患については、例年と変化はないが、それ以外の疾患については大きく変動があった。「10：食物および吐物による肺臓炎」や「02：前立腺の悪性新生物」、「14：尿管結石」、「02：急性骨髄性白血病」、「02：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫」などが増加している。
- ・男女別による疾患上位数については、男性は例年と同様に「上葉、気管支または肺 新生物」が最多であったが、女性については変化が見られ「子宮内悪性腫瘍」が最多であった。
- ・男女ともに「うっ血性心不全」「新生物（上葉・気管支または肺）」「食物および吐物による肺臓炎」が疾患の上位を占める割合が多く見られた。

2021年～2023年 入院紙カルテ貸し出し業務統計

入院紙カルテについて

保存方法：1患者1入院ごとに1冊作成

貸し出しについて『岐阜市民病院診療録等管理規定』に基づく

貸し出し可能者：岐阜市民病院に勤務する医療従事者及び事務職員

貸し出し依頼：「診療録(紙媒体)閲覧・借用申込書」を診療情報管理室に提出

貸し出し期間：1ヶ月

外来診療：外来診療を行うため

研究：臨床研究、学会発表のため

治験：治験の際に使用

書類：書類（各種診断書、学会への報告書、保健所への報告書等）作成のため

病棟：入院診療を行うため

面談：患者面談のため

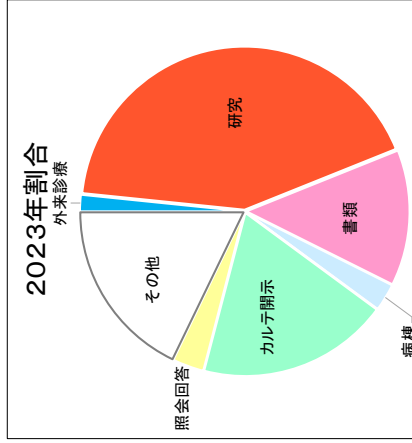
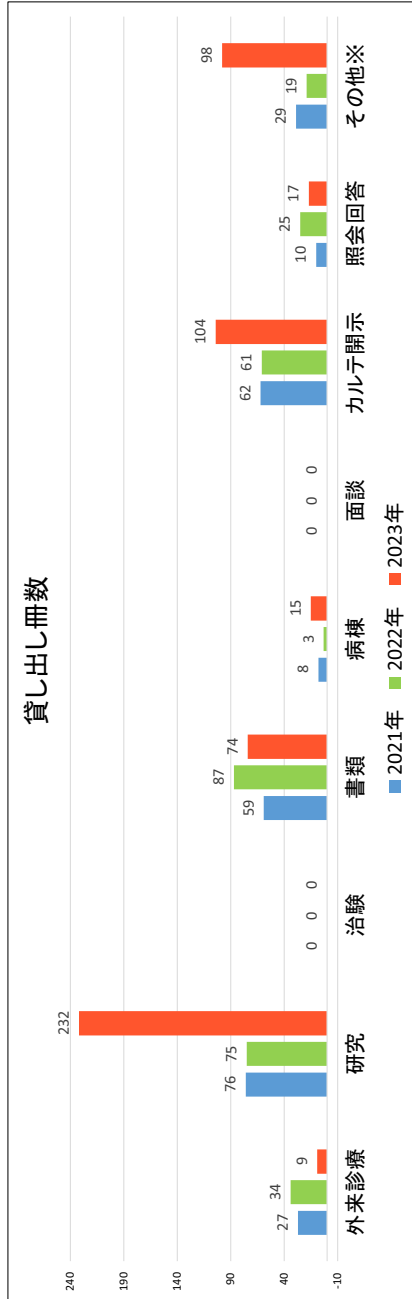
カルテ開示：患者本人もしくは保険会社からの開示依頼のため

照会回答：警察、弁護士事務所等からの法律に基づいた開示依頼のため

その他：入院歴・形態の確認、検査内容の確認、二重カルテ（1患者に2以上の患者番号を付与）の確認、がん登録時の確認、他院紹介、事務的確認等

利用目的別貸し出し冊数及び割合

	外来診療	研究	治験	書類	病棟	面談	カルテ開示	照会回答	その他	合計
2023年	冊数 9冊 割合 1.6%	冊数 232冊 割合 42.3%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 74冊 割合 13.5%	冊数 15冊 割合 2.7%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 104冊 割合 18.9%	冊数 17冊 割合 3.1%	冊数 98冊 割合 17.9%	冊数 549冊
2022年	冊数 34冊 割合 11.2%	冊数 75冊 割合 24.7%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 87冊 割合 28.6%	冊数 3冊 割合 1.0%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 61冊 割合 20.1%	冊数 25冊 割合 8.2%	冊数 19冊 割合 6.3%	冊数 304冊
2021年	冊数 27冊 割合 8.9%	冊数 76冊 割合 25.0%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 59冊 割合 19.4%	冊数 8冊 割合 2.6%	冊数 0冊 割合 0.0%	冊数 62冊 割合 20.4%	冊数 10冊 割合 3.3%	冊数 29冊 割合 9.5%	冊数 351冊



研究目的が伸びているが、貸出先は3口で例年と変わらない。
カルテ開示の伸びは、過去に遡った肝炎訴訟のための依頼が増えているため。
その他の伸びは、1口の貸出冊数が多いため。

岐阜市民病院年報投稿規定（2021年6月9日改訂）

業績提出規定

1. 前年（1月～12月）に発表した研究（著書、原著（査読のあるもの、症例報告を含む）、総説（専門雑誌からの依頼原稿を含む）、学会発表（論文投稿以外の抄録）、院内外研究会（座長、司会は除く）などを各診療科、各部門毎にまとめ、Microsoft Wordで作成したファイルで集める。開催期間のあるものは発表日ではなく開催期間を明記すること。
2. 簡単に記載された各診療科・各部門の近況や、症例数などの各種統計が分かる原稿を各診療科・各部門で作成する。

その他疑問点は、編集委員にお尋ねください。

投稿原稿は、編集委員庶務に提出ください。

岐阜市民病院年報編集委員(令和6年度、7年度)

委員長	黒田英嗣	(R6、7)
委員	葛谷命	(R6、7)
	藤岡圭	(R6、7)
	安田真智	(R6、7)
	北川順一	(R6、7)
	横山能文	(R6、7)
	八幡和憲	(R6、7)
	村瀬泰介	(R6)
	仲陽香	(R7)
	松波あかね	(R6、7)
	丹羽晴美	(R6、7)
	伊藤生恵	(R6)
	高橋美嘉	(R7)
庶務	神谷里美	(R6、7)
	中野克哉	(R7)
	今井智美	(R6、7)
	畠山恭子	(R6、7)
	安江みちる	(R6、7)
	小野島恵子	(R6、7)
	山本直生	(R6)
	石川大	(R7)

(順不同)

岐阜市民病院年報

第44号

令和8年3月

発刊 岐阜市民病院
岐阜市鹿島町7丁目1番地
TEL(058)251-1101(代)
FAX(058)252-1335

印刷 株式会社タカダ印刷
羽島郡岐南町みやまち3丁目13番地
TEL(058)272-2528
FAX(058)274-4852
